

平成28年度
独立行政法人国立女性教育会館
自己点検・評価及び外部評価報告書

平成29年12月

独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会
独立行政法人国立女性教育会館

目 次

1. 外部評価について	1
(1) 外部評価の目的	1
(2) 外部評価の対象	1
(3) 外部評価の方法	1
(4) 審議過程	1
2. 評価	1
3. 平成28年度事業全体に対する評価・指摘事項等	7
4. 事業別評価	
1. 地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉	9
2. 学習オーガナイザー養成研修	11
3. 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	13
4. 男女共同参画推進フォーラム	15
5. 女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～	18
6. 女子大学生キャリア形成セミナー	20
7. 女性関連施設相談員研修	22
8. 大学等における男女共同参画推進セミナー	24
9. 男女共同参画統計に関する調査研究	26
10. 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究	28
11. 女性教員の活躍推進に関する調査研究	30
12. eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究	32
13. 情報資料の収集・整理・提供	34
14. ポータルとデータベースの整備充実	36
15. 図書のパッケージ貸出	38
16. 女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化	40
17. アーカイブ保存修復研修（基礎コース）＋（実技コース）	42
18. 広報活動の充実・強化	44

19. アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	47
20. NWE Cグローバルセミナー	49
21. 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」	51
22. 国際会議等で得た情報の発信	54
23. 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施	56
24. eラーニングによる教育・学習支援の推進	59
25. 組織体制の見直し、業務改革の取組の徹底	61
26. 人件費・管理費等の適正化	63
27. 取引関係の適正化	65
28. 間接業務の共同実施	67
29. 予算執行の効率化	69
30. 自己収入の拡大	71
31. 適切な法人運営体制の充実	73
32. PFI事業の適切な実施のための監視・協力	76
33. 情報セキュリティ体制の充実	78
34. 長期的視野に立った施設・設備の整備	80
5. 外部評価の観点	83
6. 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画 (平成28年度)	84
7. 平成29年度 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会委員一覧	97
8. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程	98
9. 「第4期中期目標期間(平成28～32年度)」の評価基準について	99

参考資料編

事業シートのN0で分類している。

1. 地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉	
(1) 開催要項	103
(2) 参加者概況	110
(3) アンケート集計結果	111
(4) フォローアップアンケート集計結果	114
2. 学習オーガナイザー養成研修	
(1) 実施要項	115
(2) 参加者概況	119
(3) アンケート集計結果	120
3. 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	
(1) 実施要項	123
(2) 参加者概況	127
(3) アンケート集計結果	128
(4) モニター調査集計結果	129
4. 男女共同参画推進フォーラム	
(1) 実施要項	130
(2) 参加者概況	134
(3) アンケート集計結果（参加者）	136
(4) アンケート集計結果（募集ワークショップ運営者）	140
(5) フォローアップアンケート集計結果（募集ワークショップ運営者）	143
5. 女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～	
(1) 実施要綱	146
(2) 参加者概況	151
(3) アンケート集計結果（女子中高生用）	152
(4) アンケート集計結果（教員用）	157
(5) アンケート集計結果（保護者用）	162
(6) フォローアップアンケート集計結果	167
6. 女子大学生キャリア形成セミナー	
(1) 実施要項	170
(2) 参加者概況	173
(3) アンケート集計結果	174
7. 女性関連施設相談員研修	
(1) 実施要項	177
(2) 参加者概況	181
(3) アンケート集計結果	182
(4) フォローアップアンケート集計結果	185

8. 大学等における男女共同参画推進セミナー	
(1) 実施要項	186
(2) 参加者概況	190
(3) アンケート集計結果	191
(4) モニター調査集計結果	194
10. 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究	
・ 調査結果	195
13. 情報資料の収集・整理・提供	
・ 女性教育情報センターの運営	203
14. ポータルとデータベースの整備充実	
・ 女性情報ポータルの整備充実	204
17. アーカイブ保存修復研修（基礎コース）＋（実技コース）	
(1) 実施要項	205
(2) アンケート集計結果	208
19. アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	
(1) 実施要項	210
(2) アンケート集計結果	214
20. NWE Cグローバルセミナー	
(1) 実施要項	216
(2) アンケート集計結果	218
21. 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」	
(1) 実施要項	220
(2) アンケート集計結果	222
32. 利用状況	
(1) 延べ利用者数の推移（平成16～28年度）	223
(2) 利用率の推移（平成27～28年度）	223

1 外部評価について

(1) 外部評価の目的

外部評価委員会では、NWE Cが実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うとともに、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行うことを役割としている。

(2) 外部評価の対象

NWE Cでは、独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程に基づき「会館が実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うと共に、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行う。」としている。

これを受け、第4期中期目標期間の初年度である平成28事業年度の評価を実施した。

(3) 外部評価の方法

評価方法については、外部評価委員会においてNWE Cから各事業の内容、成果等のヒアリングを実施し、平成19年度に外部評価委員会で作成した外部評価の観点別に評価意見等を取りまとめた。

(4) 審議過程

平成29年度は計2回の委員会を以下のとおり開催。

第1回では、年度計画にある5つの観点毎に評価の対象となっている各事業の実施概要について確認を行い、第2回では、各委員から出た評価について意見交換を行い、総論及び全体的な意見交換を行い、外部評価報告書を取りまとめる。

平成29年5月29日（月） 第1回外部評価委員会

- ・平成28事業年度外部評価の進め方
- ・平成28事業年度実施事業の概要説明

平成29年9月12日（火） 第2回外部評価委員会

- ・5本の観点毎の評価について
- ・平成28事業年度外部評価報告書総論について

2 評価

(1) 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施

(全体をとおして)

- ① 男女共同参画社会の実現に向けて、企業、大学、自治体、女性関連施設等の多様なアクターと連携しながら人材の育成・研修に取り組む、というNWE Cの基幹的業務とし

ての特色が個々の事業内容によく表れている。すべての事業で定員を上回る応募があったという事実から、各事業が時代のニーズを的確にとらえた適時性の高いテーマ設定であったことをうかがわせる。

- ② 8つの事業はそれぞれの趣旨に合致する対象者を決めて、効率的なプログラムを作成している。現状の問題に対応できるように「男性の働き方改革」といった事柄も取り込みながら、人材育成の幅を広げている。どの事業も満足度は高いことに加え、さらにフォローアップ調査も行われており、効果を見極める努力をしていることも良い。
- ③ 多彩な講師陣を揃えているとともに、これらの事業の多くが座学で終わることなく、ワークショップと組み合わせたアクションラーニングを取り入れていることは、参加者の理解を深め実践へ結びつけられるように計画されていることの表れであり、大変魅力的な内容である。
- ④ 各事業とも、時宜にあったテーマと講師を揃えており、受講者の満足度も大変高いことに感心した。今後も、さらに内容を吟味し、必要とされる研修を提供してほしい。
- ⑤ 各事業プログラムのテーマや講師陣が多様になり内容も深くなってきている。

(地域における男女共同参画推進リーダー研修)

「男性中心型労働慣行の変革」をテーマの中心に含めたことにより、女性活躍推進に向けた最新の課題についての理解が深まった。

(学習オーガナイザー養成研修)

過去の試行的な取組を踏まえつつ今回から本格的に実施したことで、非常にレベルの高い企画能力の修得に到達している点が高く評価できる。

(男女共同参画推進フォーラム)

男女共同参画に関わる多方面の関係者が一堂に会する貴重な機会である「男女共同参画推進フォーラム」はこの分野の代表的事業であるが、今後はさらにその貴重な機会を活かして、様々な参加者・参加団体による交流事業の効果的な展開などフォローアップ活動に期待したい。

(女子大学生キャリア形成セミナー)

- ① これまでの地道な事業継続の努力が実を結び、参加者数が定員を超えるに至ったことを評価したい。例えば、フェイスブックを活用してきめ細かな情報発信を行うなど新しい工夫がなされ、参加者に高い達成感をもたらしているなど、事業効果の高さが見て取れる。
- ② 「女子中高生夏の学校」が継続することによりプログラムの質の向上と評価が高まっているように、女子大学生キャリア形成セミナー等も継続し進化させることで、より価値のあるプログラムに発展させることが期待される。

(女性関連施設相談員研修)

ニーズの高まりを受けて男性相談も取り上げるなど喫緊の課題を適切に扱った結果として、参加者の満足度100%を達成していることは注目に価する。

(大学等における男女共同参画推進セミナー)

新しい視点が示された事業として、特に「大学等における男女共同参画推進セミナー」において、今回から教員のみならず入試担当者や就職担当者、総務人事担当者といった大学職員をも対象としたプログラムを設定するなど、女性職員の活躍を広く支援する方向を打ち出したことは、事業の発展性という点から高く評価できる。

(2) 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施

(全体をととして)

的確なテーマ設定に基づきつつ、豊富な資料・情報収集能力をフルに活かしたNWE Cの高度な調査研究能力が十分に発揮された事業分野であり、総合的に見て、個々の調査研究の水準は、男女共同参画研究の専門的見地から見ても高いものと評価できる。

＜男女共同参画統計に関する調査研究＞

新しい視点が示された事業として、特に、男女共同参画統計に関する調査研究に関しては計画的に進められており、併せて、統計を利用した講義・ワークショップ等が開催され、調査研究の普及がなされていることは高く評価できる。

(男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究)

- ① パネル調査の強みを存分に活かし、企業における初期キャリア形成期の男女の意識の変化とその要因に関して非常に精緻で実証的な分析を行っており、しかもその成果をマスメディアの効果的な活用によって広く情報発信するなど、研究成果の社会的活用に向けた展望を拓く可能性を示した事業として高く評価できる。
- ② 有意義な調査であると思うが、大企業ではなく中小零細企業等で働いている若者や公務員に対する同様な調査にも、是非取り組んでいただきたい。

(女性教員の活躍推進に関する調査研究)

- ① 「初等中等教育における女性教員の低い管理職登用の改善」という目的意識を明確に据えた実践的研究としての取組姿勢が注目される。
- ② 教員のワーク・ライフ・バランスを検討することが重要であることを明らかにしており、次年度以降の研究に期待したい。

(eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究)

- ① 教育・学習支援における最新の動向を着実に捉えた取組としても重要であるが、放送大学との協定に基づきオンライン講座の開発に結びつけることによって、NWECのこれまで蓄積してきた資料の広範な提供の可能性を拓いたことは、特に発展性という点においてこの事業の大きな成果といえる。
- ② eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究は、放送大学講座として提供され、一般の学習者が男女共同参画に触れる機会を提供している。このような取組はNWECならではのものであり、高く評価したい。
- ③ eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究は、今後の発展の可能性が高く興味深い。誰でもどこでも学び気づきを得られるインフラとしてぜひ継続的に検討いただきたい。

(3) 男女共同参画推進のための広報・情報発信

(全体をととして)

NWECの最大の特色である、男女共同参画に関する国内最大規模の資料・情報収集機能と情報発信機能をフルに発揮している点が、この分野のすべての事業に共通しており、今年度もそうしたナショナル・センターとしての役割期待に十分応えた事業展開が示されていると評価できる。

(ポータルとデータベースの整備充実)

- ① 利便性の高いポータルサイトの充実をめざした取組が着実に効果を挙げ、アクセス件数が年度目標を大きく上回って目標達成率が134%を示すなど、顕著な成果が現れている。
- ② W i n e t のデータ更新作業など順調に行われており、利用しやすく、わかりやすい情報提示になっている。データベース化件数、アクセス数ともに目標を達成している。

(図書のパッケージ貸出)

目標を達成しているが、さらに貸出先を拡大できるように広報活動が必要である。

(女性アーカイブ機能の充実と全国的女性アーカイブとのネットワークの強化)

NWECのアーカイブは大変に貴重である。

(アーカイブ保存修復研修(基礎コース) + (実技コース))

- ① NWECならではの事業として重要な「アーカイブ保存修復研修(基礎コース) + (実技コース)」では、参加者の増加をめざして研修名の改称やコースの増設を行うなど事業の改善に向けた努力の結果、参加者総数も目標を上回り満足度も100%に達しており、独自性の高い会館事業の将来的な展望につながる成果が示されたことは重要であ

る。

- ② 多くの参加者を集め、満足度も高く、魅力的な研修を行っている。
- ③ 原資料の保存は絶対に必須であり、この取組が多くの機関に波及することで、女性情報アーキビストが多く養成されることを期待している。

(広報活動の充実・強化)

メールマガジンが読みやすく内容もいいので活用している。ホームページも改修されて非常に使いやすくなった。また、主催事業の報告書については、女性活躍推進の担当者が熟読している。このように、NWE Cは事業についてデータベースや冊子にして、きちんと学術的にまとめて発信しているので、いろいろな問題を考えるときの基本情報として活用しやすい。こうした情報発信はますます重要になると思うので、多くの人たちに使われるようにさらに発信の仕方を工夫してほしい。

(4) 男女共同参画の推進に向けた国際貢献

(全体をとおして)

- ① NWE Cのナショナル・センターとしての対外的機能の発揮が最も期待されるのが、この国際貢献・連携協力の推進に関わる分野であり、今年度も時代の要請に応える適時性の高い事業がそろっている。
- ② 国際的な役割をいかに果たしていくかは重要な課題である。今後も積極的に展開していただきたい。
- ③ テーマが非常に興味深く、社会がこうしたテーマに関心を持つ以前から取り組んでいたことがすばらしい。

(アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー)

- ① 若年女性のキャリア形成という、我が国にとっても極めて重要な現代的課題がテーマとして設定されていること、研修の満足度、有用度ともに100%という高い評価が参加者からも得られている点は十分な意義が認められる事業といえる。さらに研修生が研修から学んだ知見を基に国別に報告をまとめ日本語と英語で公表するなど、単に研修の場だけで終わっていない事業の発展性が注目される。
- ② 5か国10人が参加し、満足度の高いセミナーを実施している。女性就労支援の現場視察や内閣府男女共同参画局での意見交換といった活動は、各国を代表するリーダーにとって貴重な時間となったと考える。今後ともこのような取組を続けてほしい。

(課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」)

- ① 問題解決のために不可欠な受入国と送出国の間での多分野連携協働というテーマに即して見た場合、今回メコン地域からアセアン諸国にまで参加国が拡大したことは、送出国における移住労働といった新たな課題を取り上げる契機にもなっており、事業の発展性に関して大いに評価すべき動きといえる。
- ② アセアン諸国での被害状況を考えると、我が国がこの問題を取り上げ、アセアン諸国の行政官を招くことは極めて重要な意味を持っている。

(5) 横断的に取り組む事項

(国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築)

- ① NWE Cが全国的なスケールで男女共同参画の推進に資する事業展開を行う上で欠かさないのが、官公庁から独立行政法人、教育団体、大学関係、NPOなど多様な連携先の開拓と連携強化による横断的取組の充実である。協働実績機関数が目標を下回る結果にはなったが、各協働実績についてはそれぞれ大変充実した内容となっており、今後は、年度中に実績機関数のカウントを着実に行いつつ、状況に応じて協働実績機関の拡大を計画的に図るなどの取組が重要である。
- ② 国内外の関係諸機関の連携強化は、NWE Cにしかできないことである。NWE Cの存在をアピールし、より多くの機関と協力体制を構築してほしい。
- ③ 女子大学生キャリア形成セミナーが大学向け事業としてあるが、大学との連携がもっとあってもいい。今注目されているテーマとして「働き方改革」があるが、女性は今の働き方を変える大きな集団になり得ると考える。そこに何らかの形でNWE Cが関わり、将来の方向性について議論や調査、情報発信をしてほしい。
- ④ 男性の働き方が変わらないと女性の働き方も変わらないと思うので、その意味では女子大だけではなく共学の大学を相手に、女性が働き続けてリーダーとなり得る社会をどのようにつくるのかという点について、NWE Cでも取り組んでほしい。

(eラーニングによる教育・学習支援の推進)

- ① 特に、放送大学との連携による「eラーニングによる教育・学習支援の推進」に関して、多様化・高度化した学習需要に応えつつ学習者の利便性の向上を図るという近年の動向に速やかに対応した取組が実践的に行われている点が評価できる。とりわけ、配信動画数が年間目標200%を超える実績を示すなど顕著な成果のアウトプットにつながっている点が重要である。

3 平成28年度事業全体に対する評価・指摘事項等

ナショナル・センターとして基本的役割を、トップから末端の職員に至るまでしっかりと認識し、新規事業の積極的な開拓、既存事業の内容充実に向けた創意工夫、効率的な業務運営のための諸々の取組、といった各種の努力が全体にわたって顕著に行われているというNWE Cの特徴は、平成28年度においても、全体として着実に維持されており、高く評価したい。

また、時代の動向を常に敏感にキャッチして社会の要請に応え得る新たな事業に果敢にチャレンジしていく積極的な姿勢を保ち、多くの機関・団体との連携協力関係を随所に構築しながら効率的な業務運営を行っているとともに、女性のみならず男性にも焦点を当てた事業をはじめ社会の必要性に即した取組を、そうした様々なネットワークを通じて、多方面に広げていこうとする中核的拠点としての活動は、明確にNWE Cの存在意義を高めるものとなっている。こうした方向で多くの重要な事業を拡充していくことへの期待はますます高まると予想され、今後は、これらの点をしっかり自覚し、各事業のさらなる発展に取り組むことが極めて重要である。

さらに、働き方改革が極めて重要な社会的課題になっている中で、女性が自らのキャリアを形成し社会づくりに参画していくためには、男性とのパートナーシップを確立し、女性の働き方をめぐる環境を整備することが何よりも大切であり、その点に着目したNWE Cとしての取組が望まれている。

他方、長らくNWE Cの業務全体にかかる評価に関しそのあり方が議論されてきた「効率的な施設運営」という課題について、PFI化によって事業モニタリングが主たるNWE Cの業務へと変更されたことは、NWE Cが、本来求められている事業により専念しやすい体制を構築するためにも、意義のある業務転換であったと考える。今後は、事業モニタリング等を通じて効率的運営への努力は継続しつつも、あらためて上記に示されたような本来的業務にかかる取組を、格段に充実させていくことを強く望みたい。

4 事業別評価

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成
年度計画の項目 (I-1-(1)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成 ①地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉

事業名	地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員、係員 計3名

年度実績概要

1. 趣旨

地域における男女共同参画の推進を図るため、女性関連施設、地方自治体、民間団体の職員を対象とした学習の場を提供する。男女共同参画の推進リーダーとして必要な知見、マネジメント能力、ネットワーク構築力を向上させるための高度で実践的な研修を実施する。

2. 実施概要

「一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して～女性活躍推進と男性中心型労働慣行の変革～」をテーマとし、研修の前半では、基調講演及び講義、4府省の施策説明などから、女性活躍推進に向けた最新の施策や喫緊の課題などについて理解を深めた。後半では、男女共同参画の視点に立った女性活躍の課題、男女共同参画の視点で課題を解決する事業検討等、全国の好事例による報告を基にテーマ別、コース別で2日にわたりグループワークを実施。情報交換等により参加者相互のネットワークづくりを図った。

3. 開催日時（場所）

平成28年5月25日（水）～5月27日（金）2泊3日 NWEC

4. 課題の厳選

第3次男女共同参画基本計画までの振り返りを踏まえた第4次計画策定の経緯やポイント、第4次計画での重要点としての男性中心型労働慣行の改革と女性活躍推進を中心課題とし、そのアプローチとして企業の取組や非正規労働女性の実態などを分科会のテーマとして設定した。

5. 研修対象者の厳選と地域バランス

全コースにおいて、参加者の決定にあたっては実際の業務・活動内容の確認を行うなど、基幹的な指導者を厳選した。なお、地方自治体職員コース参加者はほとんどが新規参加者であった。地域バランスについては全国幅広く参加を得たが、熊本地震の影響から九州からの参加が少し減少した。

6. 参加者同士のネットワークの形成

行政・センター・団体など、所属が異なる参加者が同じテーマで課題の解決に向けたワークを行った。分科会の後に実施する全体会において課題と成果の共有を行い、幅広い知見を得る場とフィードバックの場を提供した。参加者は研修後も、講座の内容や講師情報を交換しあい、研修成果を役立てている。

実績を表付けるデータ

1. 参加者の概況

(1)参加者：159名（女性126名、男性33名）・定員120名・応募倍率：138.3%

(2)コース別：女性関連施設管理職コース60名、地方自治体コース59名、団体リーダーコース40名

(3)年代別：20代8名（5.0%）、30代18名（11.3%）、40代40名（25.2%）、50代40名（25.2%）、60代27名（17.0%）、70代14名（8.8%）、無回答12名（7.5%）

2. 主な意見・感想等

・改めて第4次男女共同参画基本計画を学び、取り組むべき方向性が見えてきた。

・施策の動向から具体的事例まで、総合的に理解を進めることができた。

・基本的事項から現状の課題まで、幅広く習得することができ大変有意義だった。

3. 地域バランス

			(人)	(%)	
北海道・東北	16	10.1	近畿	13	8.2
関東	62	38.9	中国・四国	16	10.1
甲信越	11	6.9	九州・沖縄	17	10.7
北陸・東海	24	15.1			

事業実績

指標	H28
満足度（%）	93.8
高い満足度（%）	43.0
フォローアップ調査（有用度）（%）	100.0

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	B	B	B	

適時性：第4次男女共同参画基本計画策定後最初の開催であり、今回強調されている「男性中心型労働慣行の改革」と「女性活躍推進」を中心テーマに据え、男女共同参画の視点から多角的に捉えた内容としている。

独創性：ナショナルセンターとして、地域において男女共同参画を推進する主体である女性関連施設・地方自治体・民間団体の三者が全国規模で一堂に会する研修として貴重な機会である。

発展性：講師は第4次男女共同参画資本計画策定や働き方改革を実践している企業の実践者から選出し、事例報告者は、各組織・機関にとって有用と思われる事例を各地域ブロックから選出した。各地域での事業において講師依頼や事業展開に繋がる。また、全国からの参加者との情報交換や交流を支援することで、多様な地域及び主体からなる協働関係を構築するきっかけとなり得る。

効率性：「女性関連施設管理職コース」について、特定非営利活動法人全国女性会館協議会との共催で実施したことは、NVECと全国女性会館協議会双方の人的ネットワークの活用や女性関連施設のニーズや先進事例の収集についての効率性向上につながった。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	フォローアップ調査			
判 定	B	A			

○プログラムの満足度
全体の満足度 93.8%（非常に満足 43.0%、満足 50.8%）【97.0%（非常に満足 44.3%、満足 52.7%）】
全体の満足度は 93.8%と高い評価を得ており、高い満足の評価においては目標値の 45%にわずかに満たないが、評価を B とした。

○フォローアップ調査
6か月後のフォローアップ調査：有用度 100.0%（非常に役立った 52.3%、役立った 47.7%）
特に「大いに役立っている」との回答が平成 26 年度の 44.6%、平成 27 年度の 46.8%、平成 28 年度は 52.3%とその割合が増加。研修の成果を普及・活用した方法は「研修内容の報告・説明」84.6%と最も多く、続いて「具体的な事業の企画・運営への指導・助言」41.5%、「来年度事業・予算への反映」26.9%、「所属組織・団体の体制づくり・整備への提言」20%と、研修によって得た知識や情報を幅広く積極的に活用している。肯定的な回答は 100%を得て、目標値の 80%を 120%達成しているため、評価を A とした。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	女性関連施設・地方自治体・民間団体などを地域で男女共同参画を推進する主体と位置付け、その基幹的指導者に対し、高度で専門的な研修と情報交換の場を継続的に提供している。 平成 27 年 12 月に決定した第 4 次男女共同参画基本計画の重点理解と重要課題である「男性中心型労働慣行の改革と女性活躍推進」をテーマに据え、企業や研究者、策定委員など多様な講師を招聘したことで、参加者から有用であったとの高い評価を得た。フォローアップ調査においては、100%の有用度を得ており、研修成果を現場に持ち帰り、実際に広く活用していることが伺える。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○女性活躍推進のためのリーダーの育成を目的として、引き続き男女共同参画の基本理念をしっかりと学習できる場としてだけでなく、国内外の最新動向や喫緊の課題に対する取組事例など、現場での課題解決に資するプログラムを作っていく。
○参加者同士の情報交換や交流などネットワーク構築をさらに強化するための新たな仕組みを工夫する。
○適時性も踏まえ、講演や府省説明については多様な講師を招聘、研修内容の幅を広げ積極的に連携を図る。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成
年度計画の項目 (I-1-(1)) ②)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成 ②学習オーガナイザー養成研修

事業名	学習オーガナイザー養成研修
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員、客員研究員(2)、係員 計5名

年度実績概要

1. 趣旨

男女共同参画の基本理念や取組の意義、社会状況や現代的課題について理解を深めるとともに、学習方法や評価など事業運営に関する必要な理論と実務を学ぶ。

2. 実施概要

1日目は課題解決のための学習プログラム実施に向けた「プログラムデザイン」作成の意義、男女共同参画の理解とキャリア開発上の課題の講義のあと、参加者自身が現在抱えている課題意識をグループ討議で共有した。2日目は事例報告をもとにしたワークショップにより、キャリア開発に必要な資源と力量について把握し、講義ではジェンダー統計や事業企画のポイントについて情報・知識を得た。研修後半では学習プログラム対象者の年代・課題別の班に分かれ、実際の事業展開を想定した「プログラムデザイン」を作成した。最終日は成人学習及び協働型学習に関する講義の後、作成した成果物を全体で共有した。

3. 開催日時(場所) 平成28年12月14日(水)～16日(金)2泊3日 NVEC

4. 研修内容の分析<先駆的・参加型・実践的であったか>

NVECが開発した「プログラムデザイン」について講義とワークショップを組み合わせることで学ぶことにより、男女共同参画とキャリア開発双方の視点からブレのない事業を実施するために必要な理論と実践について学ぶ機会を提供することができた。

5. 研修対象者及び課題の厳選

参加対象者は男女共同参画推進にかかる事業の企画・実施経験を有する職員等とし、きめ細やかな学習支援ができるよう定員数を絞った。「男女共同参画」、「キャリア開発」を中心テーマに据え、参加者の抱える共通課題に沿って研修を進めることができた。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

(1) 参加者：30名(女性：27名、男性：3名)、定員：30名、応募者数：33名、応募倍率：110.0%

(2) 地域別：北海道・東北5名(16.7%)、関東11名(36.6%)、甲信越2名(6.7%)、北陸・東海2名(6.7%)、近畿1名(3.3%)、中国・四国4名(13.3%)、九州・沖縄5名(16.7%)

2. 主な意見・感想等

- ・業務のなかでの漠然とした考えなどを体系化し意味づけすることができた。
- ・他の分野の事業企画にも活用できる。
- ・企画担当者同士、同じ悩みを持つ仲間として役立つ情報が得られた。

事業実績

指標	H28
満足度(%)	96.3
高い満足度(%)	77.8
フォローアップ調査(%)	未実施

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	B	B	B	B	
適時性：働き方改革、女性活躍推進など新しいキャリア観への転換が求められる中、男女共同参画視点からのキャリアをテーマとした学習に対するニーズは高まっており、これらの事業を企画・実施できる人材の育成は急務である。女性関連施設はもとより、大学なども対象に据え、男女共同参画学習の専門機関として、学習（授業）プログラムに対する指導・支援を行うことは時宜になっている。 独創性：これまで NVEC が行った調査研究の知見や研修事業での成果をもとに構築したプログラムであり、「学習オーガナイザー」という新たな提案は、NVEC ならではの取組として評価できる。 発展性：研修実施に先立ち、「男女共同参画推進フォーラム」の会館提供プログラムとして、本事業の概要説明と過去参加者による実践報告を行った。研修修了生の事業への参画の場を設けることで学習人材育成の循環と同時に、本事業の成果の普及の場となっている。また試行的実施の段階から研修修了生有志の世話人による Facebook グループが立ち上がっており、自発的な情報交換の場となっている。年度を超えた参加者同士のネットワーク構築であり、発展的な取組として評価できる。 効率性：2 回の試行的実施によりプログラム内容と研修の趣旨・方向性が整った。企画委員会での検討事項も精査されてきたため、外部で行う会議回数を集約（H27：7 回、H28：3 回）したことで、時間的及び予算的にも効率よくすすめることができた。					

2. 定量的評価

観 点 判 定	プログラムの満足度	フォローアップ調査			
	A	未実施			
○プログラムの満足度：＜参加者の 90% 以上からの満足の評価、45% 以上からの高い満足の評価を得られたか＞ 満足度 96.3%（非常に満足 77.8%、満足 18.5%）【100.0%（非常に満足 78.8%、満足 21.2%）】 「非常に満足」が目標値 45% を 120% 達成しているため A 評価。 ○フォローアップ調査 研修 6 ヶ月後（平成 29 年 6 月頃）をめどに実施予定					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	女性関連施設において研修を企画・実施する職員の資質向上の機会がほしいという要望に応え、男女共同参画を推進するための喫緊の課題に対する学習プログラムの開発に努め、今年度より本格的実施となった。対象を初学者ではなく事業の企画・実施経験を有する職員等としたことで、より中核的な役割を担う人材向け研修としてプログラムを提供することができた。参加者からの直接の評価である満足度が高いことに加え、過去の試行的段階より毎回職員を派遣している女性関連施設・団体もあることから、この研修に対する社会的な期待及び認知度も高まっていると判断できる。参加者同士のネットワークづくりなど、研修成果のアウトカムについては今後のフォローアップ調査によりさらに明らかにするところであるが、本プログラムは適切なものであり、ねらいを十分に達成できているといえる。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今後、研修 6 ヶ月後をめどに研修修了生が実際にプログラムデザインを活用し事業を行ったのか、今後の事業で報告者や学習支援者として協力可能かどうかを尋ねるフォローアップ調査を行う。調査の結果に応じて、修了生が実際に企画・実施する事業の視察やヒアリングなど、今後も年間を通じて情報収集を行う。また 2 泊 3 日では時間が不足して十分に盛り込めなかった内容については e ラーニングで補うなどの手法も検討したい。さらに今後は開発したプログラムの活用・普及に向けて、ホームページ等において使用教材を公開するなどの、成果の発信も進める必要がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成
年度計画の項目 (I-1-(1)) ③	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成 ③企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

事業名	企業を成長に導く女性活躍促進セミナー
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員、係員、客員研究員(2) 計5名

年度実績概要	
1. 趣旨 企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティや女性の活躍促進の推進者、管理職、リーダーを対象とした学習の場を提供した。 2. 実施概要(テーマ・対象・共催機関等) 1日目は、女性活躍推進には男性の働き方改革が両輪として不可欠であることから、「男女ともに活躍できるこれからの働き方」と題して、立命館大学産業社会学部現代社会学科の筒井淳也教授による基調講演を行った。社会学の視点から、両立支援の有用性、長時間労働の是正とエリア限定正社員制度などの必要性、働き方改革は地域創生や共生社会にもつながることについて解説された。また、一部の女性が就労を継続しないことから、全ての女性が就労継続や管理職登用に消極的であるという一見合理的であるようにみえる考え方が実は「統計的差別」であることについて鋭く指摘した。続く NVEC からの情報提供では、昨年度より実施している新入社員のワーク・ライフ・バランスやキャリアに関するパネル調査の初年度の結果報告し、現場で人事や育成を担当している参加者のニーズに対応した内容の提供を心掛けた。パネルディスカッションでは、多様な働き方を受け入れ、社員の能力を引き出している3社を招き、仕組みや風土づくりまでの経緯などについて触れながら先進事例の紹介を行った。各社ともトップからのメッセージの重要性、女性活躍と男性の働き方改革の両輪の取組、新しいフレックス制度の導入や評価制度などについて話され、継続したダイバーシティの推進こそが重要であることが述べられた。 2日目は NVEC に会場を移し、リーダーシップに実効性があり、参加型実践型ワークである「アクションラーニング」についてじっくり学び、その手法を用いたグループワークを2セッション行い、参加者自身が現場で抱える問題を出し合い、多様な視点から解決策を探る実践的で参加型の研修を行った。 3. 開催日時(会場) 平成28年10月18日(火)放送大学東京文京学習センター、10月19日(水)NVEC 1泊2日 4. 研修対象者の厳選 主に企業の管理職、現場で活躍する女性リーダーなど女性人材活用の推進者を対象とした。また、女性活躍推進法の施行に伴い、企業の取組に学びたいという大学や地方自治体、独立行政法人等にも門戸を広げ研修対象とした。 5. 影響評価 参加者から無作為にモニターとして10名を抽出し、研修後の活用や普及について調査した。	
実績を裏付けるデータ	
1. 参加者の概況 (1) 参加者:106名(女性:89名、男性:17名)・定員:80名・応募倍率:147.5% (2) 地域別:北海道・東北2名(1.9%)、関東88名(83.0%)、北陸・東海8名(7.5%)、近畿6名(5.7%)、中国・四国2名(1.9%) 2. 主な意見・感想等 ・1日目で知識のインプット、2日目で実用的な手法を学び、知識と実践というセミナーの形式で良かった ・各社からの発表は、非常に実践的な話で参考になり、大変有意義だった ・アクションラーニングについて深く理解でき、持ち帰れるものがたくさんあった	
事業実績	
指標	H28
満足度(%)	93.8
高い満足度(%)	43.3
モニター調査(有用度)(%)	100

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	B	B	B	B	

適時性：国の経済戦略として位置付けられるダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスを含めた具体的な方策を提供する時宜を得た取組である。

独創性：男女共同参画の視点を正面に据えた上での女性活躍推進プログラムは独創的といえる。NVECの調査研究の活用や提供、座学のみでなく参加型のグループワークを取り入れることで、知識のインプットから、それらを活用して実践体験をし、現場においてアウトプットするといった一連の学びを提供しているという意味においても独自性がある。

発展性：企業の担当者が主対象者ではあるが、社会全体において女性活躍推進が進められる中、地方自治体、独立行政法人等の他業種からの積極的な参加が見られ、これまでの研修の成果が参加者によって拡散され、広く参加者を得る結果となっている。

効率性：1日目を東京会場とすることにより、講演、パネルディスカッションだけでも受講したいという参加者には利便性が図られている。その成果として参加者が増加しており、集客の効率性を高め、放送大学の協力により、会場使用料を負担することなく事業を実施できた。

2. 定量的評価

観点	プログラムの満足度	モニター調査		
判定	B	A		

○プログラムの満足度：
満足度 93.8%（非常に満足 43.3%、満足 50.5%）【満足度 97.6%（非常に満足 53.0%、満足 44.6%）】
満足度は目標値の90%を越え、93.8%と高い評価を得ており、高い満足が目標である45%にわずかに満たないが、評価をBとした。

○モニター調査：
有用度 100%（非常に役立った 66.7%、役立った 33.3%）。目標値 45%を 120%達成
「セミナー参加を通じて人脈を築くことができた」「同じグループだったメンバーと連絡を取り、情報交換している」など参加者のネットワーク構築に役立っていることがわかった。本セミナーを参考に自社研修を企画開催したとの報告もあり、今後も継続した開催を望む声も多かった。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	企業セミナーを立ち上げ当初苦心していた集客について、今回は応募倍率 147.5%と定員を大きく上回った。平成 25 年度から実施し、平成 28 年度で 4 回目となる本セミナーの認知度や、女性活躍推進法の施行により内容へのニーズが高まったためと思われる。ホームページや企業に対する一般的な広報に加え、これまでの参加者に電話やメールで案内を行うとともに、ダイバーシティ経営企業 100 選をはじめ、熱心に取り組んでいる企業に対し、ピンポイントできめ細やかな広報を行った。 さらに、本セミナーの特徴である、男女共同参画の視点を持った内容とアクションラーニングに特化した実践的グループワークをメインにしたプログラムが評価された結果と思われる。 毎年参加がみられる企業もあり、本セミナーの有用度が伺われるなど、十分に狙いを達成できたと思われる。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○参加者は年々増加しているが、広報をこれまで行ってきたダイバーシティ 100 選企業、ポジティブアクション認定企業にとどまらず、えるぼし認定企業、イクボス宣言企業等、他の認定企業に宛てて広報した結果であり、今後も引き続き広報の努力を続ける。 ○アクションラーニングについては、参加者から即効性があると大きな反響があり、今後も丁寧な講義と、グループワーク体験を提供できるようにする。質の高いグループワークを提供する上で、会館職員によるファシリテーションは不可欠であり、アクションラーニングコーチ（ファシリテーター）研修を実施していく必要がある。 ○満足度の目標値 90%は達成しているが、高い満足度の目標値 45%については、43.3%とわずかに下回った。講師の選定などさらに情報収集し、時宜に見合った内容を検討していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成
年度計画の項目 (I-1-(1) ④)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成 ④男女共同参画推進フォーラム

事業名	男女共同参画推進フォーラム
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員、係員(2) 計4名

年度実績概要

1. 趣旨

男女共同参画を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティ、女性の活躍を推進する担当者等が一同に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修。組織分野を超え、連携・共同して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成も図る。

2. 実施概要

1日目は赤松良子氏による特別講演「均等法から30年、あらたな明日へ～女性の活躍について考える～」を開催。男女雇用機会均等法制定までの道程を振り返り、これからの女性が多様な場面で参画していくための視点の必要性が語られた。2日目のシンポジウム「男もつらいよ！～男性の働き方改革とワーク・ライフ・バランス再考～」では、3人のパネリストは、「男らしさ」が生む生きづらさ、社会のゆがみ、単身世帯の孤立などについて言及され、これからは男女共に暮らしやすい社会を作ることが大切と結んだ。最終日は、女性講師を招き、「鉄砲のお熊」で会場を沸かせた。また期間中、一般公募団体及び個人によるワークショップ43件、パネル展示8件を実施。日頃の研究成果や実践活動報告、質疑応答、交流が行われた。この他NVEC提供プログラムとしてワークショップ1件、NVECボランティアによる交流プログラムなどを実施した。全国各地から様々な分野・活動・年代の参加者が集い、情報の共有と交換を行った。

3. 開催日時(場所) 平成28年8月26日(金)～8月28日(日)2泊3日 NVEC

4. 研修対象者の厳選および課題の厳選

一般公募による募集ワークショップのテーマ設定を第4次男女共同参画基本計画に沿った内容とし、実施団体の選定については外部有識者を交えた「ワークショップ選定委員会」を開催した上で厳選した。

5. 内容評価(90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得られたか)

全体の満足度 92.3%(とても満足した 45.5%、満足した 46.8%)

6. 影響評価(ワークショップ参加者の85%以上からプラス評価を得られたか)

全体の満足度 94.1%(とても満足した 66.6%、満足した 27.5%)

7. 参加者の地域バランス

参加者の約7割が関東。約3割弱の他地域からは、北海道から沖縄県まで全国からの参加者を得た。

8. 全国フォーラムにおける交流機会の充実

期間中は全国からの募集ワークショップの他にも、フェアトレード製品や地元の女性起業家、障害者の自立支援に取り組むNPOによるブースを設置し、参加者同士の交流を促した。またNVECボランティアに対して、このフォーラムへの参画を研修の機会と位置づけ、参加者との交流、参加者同士の交流の促進、ボランティア自身の学習とエンパワーメントに資する機会とした。

9. 大学や企業等からの参加促進状況

参加者全体に対する「研究者・大学教員」の割合は、6.2%(H27年度4.4%)「会社員・企業関係者」の割合は、3.5%(H27年度2.6%)と少ない割合であるが、募集ワークショップやパネル展示にも出展し、大学やダイバーシティ先進企業などにおける男女共同参画推進の成果報告の場として活用されている。次世代リーダーとなる学生へのアプローチとして、女子学生がGSWへのインターンシップの成果発表でワークショップに登壇した団体に継続的な参加を依頼。フォーラムにゼミの研修として学生と参加した同志社女子大学は、来年度のワークショップ募集への参加を現在検討している。教育現場との連携の可能性も少しずつ広がっている。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

- (1)参加者：1,084名(女性890名、男性174名、無回答20名) 定員1,000名、応募倍率108.4%
 (2)年代別：10代 2名(0.2%)、20代 59名(5.4%)、30代 57名(5.3%)、40代 133名(12.3%)、
 50代 226名(20.8%)、60代以上524名(48.3%)、無回答83名(7.7%)
 (3)地域別：北海道・東北 81名(7.5%)、関東 739名(68.2%)、甲信越 113名(10.4%)、
 北陸・東海 40名(3.7%)、近畿 50名(4.6%)、中国・四国 21名(1.9%)、
 九州・沖縄 37名(3.4%)、※無回答3名(0.3)を除く

2. アンケート結果

- (1)特別講演「均等法から30年、あらたな明日へ～女性の活躍について考える～」
 満足度89.3%（とてもよかった52.0%、よかった37.3%）
 (2)シンポジウム「男もつらいよ！男性の働き方改革とワーク・ライフ・バランス再考」
 満足度96.3%（とてもよかった61.7%、よかった34.6%）
 (3)ワークショップ運営者満足度94.1%（とてもよかった66.6%、よかった27.5%）

3. 主な意見・感想等

- ・常に刺激があり、発見や気づき、活動のヒントを得られる機会である。
- ・初めて参加したが、男女共同参画の推進は女性だけでなく男性も巻き込んで社会で考えるものだと痛感した。地域に帰り、地域とともに歩んでいきたい。
- ・毎回、元気や勇気をもらい、全国の仲間と交流を深めることができる。

4. 参加者内訳

	H28
参加者数（人）	1,084
企業	38
大学	67
学生	24

事業実績

指標	H28
満足度（%）	92.3
高い満足度（%）	45.5
フォローアップ調査(有用度)（%）	100.0

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	B	B	B	
適時性：男女雇用機会均等法施行から30年の節目として、法制定尽力者である赤松良子氏の特別講演を行ったこと、第4次男女共同参画基本計画が今年度より施行され、重要課題である「男性中心型労働慣行等の変革」について、男性側から視点を当てシンポジウムで取り上げた点は、時宜を得ており、両日とも600人定員の会場が満員になったのはその証でもある。 独創性：男女共同参画に取り組む女性団体や研究者、女性センター職員をはじめ、女性活躍やワーク・ライフ・バランス、キャリア教育等に興味をもつ行政・企業・大学・団体など、幅広い分野から1,000名を超える関係者が全国規模で一堂に会する機会である。平成8年度から長年にわたって実施されている事業は全国でも数少なく、夏の風物詩として男女共同参画リーダーの間で認知されている。 発展性：会館提供ワークショップをはじめとし、男女共同参画に関する様々な分野・テーマのワークショップやパネル展示が展開され、幅広い手法での情報収集・交換が行われた。地域に戻った学習者の活動の幅を広げることが期待される。フォローアップアンケートでも示されるように、全国の仲間とのネットワークづくりや、次への活動へと発展している。また、大学ゼミの参加や学生のインターンシップ後の発表が行われるなど、今後の若い層の掘り起しの可能性を広げている。 効率性：参加者の動線に配慮し各会場、展示・受付場所等の配置を検討した。講演・シンポジウムを研修等講堂で行うため、本館に受付と情報交換コーナーを、パネル展示は研修棟2階に移動し、ワークショップへと向かう動線を確保し、人の流れを作り、過集中をおさえた。東武鉄道株式会社の協力を得て東武東上線各駅へのポスター配布を行い、近隣へはボランティアの方がちらし配布を行い、効率的な広報を行うこともできた。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	フォローアップ調査		
判 定	B	A		
○プログラムの満足度：参加者：92.3%（とても満足した45.5%、満足した46.8%） ○フォローアップ調査：有用度100.0%（非常に役に立っている47.1%、役に立っている52.9%） 目標値45%を120%達成				

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
B	プログラムの満足度、フォローアップ調査ともに目標を達成した。また事業実施にあたり関係機関・団体など多様な分野からの協力及び参画があったことは、NVECが培ったネットワークの成果である。プログラム内容も、今年ならではのトピックスを取り上げることで、参加者にこれまでの男女共同参画の歩みを伝え、新たな課題を提示した。 また、今年度から実施の第4次男女共同参画基本計画に即したワークショップの募集も行い、シンポジウムの男性視点からの働き方改革をとらえた企画は適時性があり、高評価を得た。分野を越えての情報共有や参加者同士の日頃の実践・情報交換・ネットワークの構築の場としての機能も果たし、参加者からの評価も高く、数値目標をクリアしており、よって本研修のねらいは十分達成することができた。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○分野横断的に課題を共有し、ネットワークを構築する研修の場として、今後も継続して実施する。 ○男女共同参画推進の次世代リーダーとなる学生や若手研究者等の参加を得られるようアプローチを工夫し、同時に新規ワークショップ参加者の開拓などへも引き続き力を注いでいく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (2) 次代を担う女性人材の育成
年度計画の項目 (I-1-(2)①)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (2) 次代を担う女性人材の育成 ①女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～

事業名	女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員、係員 計3名

年度実績概要	
1. 趣旨	女子中高生及び身近な支援者である保護者・教員に科学技術の楽しさと多様な分野で活躍する女性たちの姿に触れる機会を提供し、理系進路選択の魅力を伝える。
2. 実施概要	女子中高生プログラムでは、理系分野で活躍している先輩からのキャリア講演や、実験・実習、各学会・企業等によるポスター展示・キャリア相談、留学生との国際交流などを行った。また、学生企画として、理系大学への進学を想定した際の理系人生を疑似体験する「i future～理系人生を体験しよう～」やクイズ形式で理系分野を学ぶ「サイエンスバトル!」などを行った。 保護者・教員プログラムでは、学会、大学、企業等の研究者・技術者、大学生（大学院生）との座談会を開催し、活発に話し合いが行われた。
3. 開催日時・場所	平成28年8月6日（土）～8月8日（月） 2泊3日 NVEC
4. 研修内容の分析	この事業は、単に講演を聴き、実験・実習をするだけでなく、女子中高生と学生ティーチング・アシスタント(TA)、研究者・技術者とのキャリア相談や、天体観望会など、夜遅くまで多くの交流を図ることができ、宿泊施設を活用した2泊3日ならではのプログラムとなっている。また、2泊3日のプログラムで終わるのではなく、参加者が学校、地域に帰って本事業の体験を伝えるアンバサダー活動を実施することにより、参加者以外にも理系進路選択の意義を普及させることや、メンター制による参加者への相談活動、ロールモデル集の作成と配付など、理系進路選択への継続した支援を行っている。宿泊形式、理系の社会人女性による講演や座談会、実験プログラムなど、NVECのプログラムは多くの機関の先進的事例となっており、今後も内容を進化させ、継続して実施する。
5. 影響評価	本事業の成果が、実際の進路選択決定にどのような影響を与えているのか、現在高校3年生となっている過去の参加者を対象に、その進路先についてアンケート調査を実施している。回答者の56.4%が進路決定にあたり「本事業が影響した」と回答している。また、進路先の学系統は、87.3%が理系である。
6. 同様の事業を行う他機関への影響	本事業は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が行う「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の受託事業である。「宿泊型研修」「キャリア講演」「実験・実習プログラム」「理系進路を選択した女性の先輩との交流」など、JSTの同事業を受託する後発の他機関でも同様のプログラムが見られ、本事業が与える影響は大きい。
実績を裏付けるデータ	
1. 参加者の概況	(1)学年別：中学3年生36名、高校1年生33名、高校2年生37名、高校3年生9名、保護者16名、教員11名 応募倍率：女子中高生129.0%、保護者・教員50.0% (2)地域別：北海道・東北14名(12.2%)、関東51名(44.4%)、甲信越4名(3.5%)、北陸・東海16名(13.9%)、近畿5名(4.3%)、中国・四国15名(13.0%)、九州・沖縄10名(8.7%)
事業実績	
指標	H28
満足度(%)	99.1
高い満足度(%)	83.2
有用度(%)	95.1

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	B	B	B		

適時性：理工系の女性人材の不足に対応し、理系女性人材が求められる中において、女子中高生の理系進路選択への支援となるよう、キャリア講演、実験・実習やポスター展示・キャリア相談、国際交流、学生企画など充実したプログラムを実施、提供している。

独創性：単に理系の面白さを伝えるだけではなく、女性研究者・技術者や女子大学生・大学院生・社会人といったロールモデルとの交流や、ロールモデル集の作成、配付を通じ、女性のキャリア形成をいかに進めるかという視点が盛り込まれたプログラムを提供している。全国からの参加者が2泊3日をともにする研修は他に類を見ない。

発展性：参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性研究者・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動キャリアを積み上げていくつながりが生まれており、今後もそれが期待できる。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	プログラムの有用度			
判 定	B	B			

○満足度：女子中高生 99.1%（非常に満足 83.2% 満足 15.9%）
保護者 100.0%（非常に満足 86.7% 満足 13.3%）・教員 100.0%（非常に満足 70.0% 満足 30.0%）

○有用度：女子中高生 95.1%、保護者 98.4%、教員 98.6%

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性研究者・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動キャリアを上げていくつながりが生まれており、今後もそれが期待できる。参加学生の満足度も99.1%と極めて高く、研修実施状況は順調である。 本事業は平成17年度から開催し、平成28年度で11回目となる。ボランティアベースで活動している企画委員をはじめとする人的資産と並び、研修内容についても、継続によるノウハウの積み上げが脈々と活用されている。参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性研究者・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動の循環が実現した点は、息の長い取り組みの成果である。寄附金を募ることを検討する委員会も設置され、将来的にはJSTの受託に頼らず長く継続できる事業として確立するための取組も検討が進められている。香川県からも同種の事業を実施する上での助言を求められプログラム相談にのっているところでもあり、女性のキャリア形成の視点をもった理工系女子育成プログラムのオピニオンリーダーとしての地位を確立している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○JSTからの受託経費が平成30年度以降の獲得が不明なので、プログラムを精査させつつ、事業実施資金について具体的に検討する必要がある。 ○大人数のスタッフが関わる事業運営について、効果的な事務の進め方を更に工夫していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (1-1-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (2) 次代を担う女性人材の育成
年度計画の項目 (1-1-(2)②)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (2) 次代を担う女性人材の育成 ②女子大学生キャリア形成セミナー

事業名	女子大学生キャリア形成セミナー
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員、係員、客員研究員 計4名

年度実績概要	
1. 趣旨 自らのキャリアを模索する女子大学生を対象に、①仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること（自主自立）、②女性の人生設計に関わる様々な出来事をあらかじめ知っておくこと（ライフ・プランニング）、③キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながること（社会を変える・支える志）の3つを学ぶ機会を提供することで、将来、社会や組織を支える女性リーダーを育成し、我が国の男女共同参画の推進を図る。 2. 実施概要 「キャリアを考えることは、人生を考えること」を主題に、1泊2日の合宿形式で実施した。これまでNMECが実施した調査研究の成果やプログラム開発の実績を活用し、ノウハウ型の就活セミナーとは一線を画し、人生を俯瞰した長期的視点でプログラムを構成した。 今年度新たなプログラムとして、世界を舞台に活躍する石倉洋子氏と、女性が活躍できる新しい働き方を提案する木下紫乃氏との対談を組み込み、急激に変化していく世界に出ていくために必要とされる視点、踏み出す勇氣、今できることは何かを伝えた。続くパネルディスカッションでは、パネリストのキャリアトークから企業等で働く女性の現状や課題、女性の人生設計に関わる様々な出来事について学んだ。夜の「パネリスト、OG企画委員等との交流会」では、参加者がパネリスト等とより近く、親しく会話することで女性のキャリア形成への理解を深めるとともに、学生同士お互いのネットワークを広げた。 2日目の講義では、会館で実施した「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査」の結果から浮かび上がった就労直後の女性の意識に触れながら、女性の就労継続と管理職登用について解説することで、働く女性が直面する課題や問題を明確化し、自分の問題としてとらえる意識を醸成した。ここまでの内容を踏まえ、「グループワーク①・②」を実施。「グループワーク①」では、これまでの気づきの整理と共有をし、社会との主体的な関わりについて「ワールド・カフェ」の手法を交え参加型で討議した。「グループワーク②」では、今後の各自のキャリアを見据えながらワークシートに記入、明日からのアクションプランの作成と発表をし、自分の思いや考えを見える化し明日からの実践につなげた。毎年修了したOGが企画委員として準備に運営にと参画していることは、「学びの循環」を生み出している。 3. 開催日時(場所) 平成29年2月18日(土)～2月19日(日) 18日(土) 霞が関ナレッジスクエア(東京都千代田区)、19日(日) 会館 4. 共催：リーダーシップ111 5. 内容評価＜参加者の95%以上からの満足の評価、80%以上からの高い満足の評価を得られたか＞ ・満足度95.0%（非常に満足75.0% 満足20.0%） ・有用度81.5%（「グループワーク」の満足度で評価） 6. 広報の工夫 広報先を例年関東甲信地方のみとしているが、今年度は福島・宮城にも広げて配布したことで福島から3名の参加者を得た。図書館、就職支援課以外にも新たに生協や食堂にポスターを貼ってもらえるよう依頼し、昨年度の内容がわかる冊子を作成し同封した。また、OG企画委員の口コミや、母校でゼミの先生を通じ拡散したこと、会館のHP、Facebook、講師がSNSなどを通じて拡散したことが結果につながった。今後とも広報の工夫を図り募集していく。	
実績を裏付けるデータ	
1. 参加者概況 (1)参加者：35名、定員30名、応募者数43名、応募倍率143.3% (2)所属別：国立大学8名(23.0%)、公立大学3名(8.5%)、私立大学24名(68.5%) (3)学年別：1年11名(31.4%)、2年9名(25.7%)、3年11名(31.4%)、4年3名(8.6%)、博士課程1名(2.9%)	
事業実績	
指標	H28
満足度(%)	95.0
高い満足度(%)	75.0
有用度(%)	81.5

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	B	B	A	B	

適時性：働く女性及び担当者レベルでの女性リーダーは増えてきているものの、組織において意思決定に関わる女性の割合はまだ低い状況である。急激に変化し不確実な社会における自主自立に伴う就業継続のメリットを伝え、将来の社会や組織を支える女性リーダーを育成することは時宜に合っている。

独創性：ライフイベントを踏まえた長期的なスパンで、男女共同参画の視点をもって就業継続を促すプログラムを構成している。宿泊を伴う研修の利点を活かし、夜間には参加者と講師等がより親しく会話する交流会を開催することで、女性のキャリア形成に関する理解をさらに深め、自己理解・他者理解をすすめるとともに、参加者同士のネットワークを広げる機会を設けている。

発展性：これまでに蓄積した会館の知見をベースにプログラムを組み、更に平成 27・28 年度に研究国際室が行った「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究」から女子大学生の就職前と就業後の意識についての講義も盛り込んだ。平成 28 年 11 月には青森県立保健大学でこのプログラムの一部を活用したキャリア支援セミナーが開催され、会館からはプログラム相談やコーディネーターの派遣を行った。同大学では来年度も継続した事業の実施が決定しており、事業の波及効果がみられる。今年度も北海道大学、中部大学のキャリア教育担当から視察が来ており、さらなる広がりが期待される。

効率性：パネリストは共催団体と会館職員で構成され、一泊二日参加者に寄り添うことで、短い期間と最小限のスタッフで最大の効果と変容を与え効率的なセミナーであった。OG 企画委員 5 名が、チラシ作りや企画、当日の運営に参画するなど参加者の学習を支援し、本事業は学びの循環にもなっている。

2. 定量的評価

観点	プログラムの満足度	プログラムの有用度			
判定	B	B			

○プログラムの満足度：95.0%（非常に満足 75.0% 満足 20.0%）
「非常に満足」の割合は 75%とわずかに目標値に満たないが、全体としての肯定的評価は 95%と極めて高い水準にあるため B 評価とした。

○プログラムの有用度：有用度 81.5%（キャリア形成をテーマに実施したグループワークの満足度で評価）

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	広報の仕方の検討や 1 日目を東京会場に移したことなどにより、過去 3 年間の課題であった定員の充足を平成 28 年度は満たすことができた。今年度は新たに「対談」のプログラムを取り入れ、インプットからアウトプットへとつなげる会館独自のプログラムを展開し、参加者は自己理解、他者理解を深め、働く、生きる価値観（内的キャリア）を高めることができた。参加者同士のネットワークづくりの構築や、学びの循環にもつながっている。今後は、会館で実施しているセミナーが、大学において実施されるような方向へ向けていきたいと考えている。平成 27 年度にオブザーバー参加した大学からこのプログラムの一部を活用して平成 28 年 11 月 19 日に学生向けのキャリア支援セミナーが行われ、NMEC はプログラム相談を行うとともに、コーディネーターを派遣した。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
①引き続き広報の仕方などを工夫し、定員獲得に向けて努めていく。 ②人数が増えるに従い、時間的・人的な余裕も必要になってくるため日程やプログラムの内容を精査し、会館ならではのプログラム開発や検討を進めていきたい。 ③将来的には、会館で実施しているセミナーが、大学において実施されるような方向へ向けていきたいと考える。今年度は昨年このセミナーを見学した先生が、このプログラムの一部を使用したセミナー（青森県立保健大学、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業キャリア支援セミナー）を開催し、会館はプログラム相談を行うとともに、コーディネーターを派遣した。今年度も北海道大学、中部大学の職員の参加があり、女子学生を対象としたキャリア形成セミナーに対する関心の高まりが感じられる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (3) 困難な状況に置かれている女性を支援するための人材の育成
年度計画の項目 (I-1-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (3) 困難な状況に置かれている女性を支援するための人材の育成

事業名	女性関連施設相談員研修
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員、係員 計3名

年度実績概要	1. 趣旨 女性に対する暴力などの喫緊の課題解決を目指して、相談者への理解を深め、必要な知識・技能を習得するとともに、関係機関との連携促進を図るため、相談員の育成と業務の質の向上に向けた専門的・実践的研修を実施した。 2. 実施概要 女性相談の意義と役割、法知識、トラウマ・ケアなど、相談業務の基盤となる内容のほか、SNSトラブルの実態、ストーカー事案の防止ポイントなどの最新情報について、講義や情報提供により学んだ。分科会1では人間関係の悩みやDV被害などの課題を抱えた相談者への対応について、グループ討議で課題を整理、相談場面を想定したロールプレイなど、実践に即した内容と手法で理解を深めた。分科会2では、男性相談、学校現場との連携、自助・当事者グループの3つのテーマに分かれ、相談業務のあり方や組織としての対応など、今直面している課題と解決に向けた意見交換を行った。 3. 開催日時(場所) 平成28年6月22日(水)～6月24日(金)2泊3日 NWECC 4. 研究内容の分析<先駆的・参加型・実践的であったか> 分科会では、実際の相談場面を想定したロールプレイなどの実践的なグループワークを行うことで、参加者の相談技術の向上を図った。さらに女性関連施設からの実践報告をもとにした分科会では先進事例を共有すると共に、参加者同士、日頃の相互の情報共有を行うことができた。またトラウマを受けた後の心的成長や相談員自身の心のケア、男性相談、ストーカー被害、SNSに関するトラブルへの実際の対応の方法など、現代的かつ社会的な問題も組み込んだ。 5. 研修対象者の厳選 専門的かつ実践的な内容であるため、女性関連施設、NPO・民間団体、配偶者暴力相談支援センターに所属する現職の相談員(または支援員などの同等職)を対象者とした。さらに申込期間を段階的に設定し、初回参加者を優先して受け付けたことで、人数も適正な規模で実施することができた。								
実績を裏付けるデータ	1. 参加者の概況 (1) 参加者：105名(女性105名)、定員80名、応募者数115名、応募倍率：143.8% (2) 施設区分：公設公営76名(72.4%)、公設民営23名(21.9%)、民設民営3名(2.9%)、その他(行政担当者など)2名(1.9%)、無回答1名(0.9%) (3) 地域別：北海道・東北12名(11.5%)、関東33名(31.4%)、甲信越8名(7.6%)、北陸・東海17名(16.2%)、近畿7名(6.7%)、中国・四国14名(13.3%)、九州・沖縄14名(13.3%) 事業実績 <table> <tr> <td>指標</td><td>H28</td></tr> <tr> <td>満足度(%)</td><td>100</td></tr> <tr> <td>高い満足度(%)</td><td>64.1</td></tr> <tr> <td>フォローアップ調査(有用度)(%)</td><td>99.0</td></tr> </table>	指標	H28	満足度(%)	100	高い満足度(%)	64.1	フォローアップ調査(有用度)(%)	99.0
指標	H28								
満足度(%)	100								
高い満足度(%)	64.1								
フォローアップ調査(有用度)(%)	99.0								

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	B	B	B	
適時性：ストーリーや SNS トラブルへの対応に関する情報提供のほか、分科会では近年ニーズが高まっている男性相談に関する内容を取り上げた。講義やグループワークを通して、参加者の持つ課題意識に応えることができた。 独創性：NWEC の機能を活用した情報提供や男女共同参画の視点からの相談の意義と役割を考える講義、各地のセンターにおける実際の取組事例を基にした分科会を展開した。全国的なネットワークを活用して開催した本事業は、相談者をエンパワーメントするための力量を高める機会となり、相談者への総合的な視点を持つ独創性のある取組として評価できる。 発展性：支援に役立つ法知識や関係機関との連携の方策と重要性、相談業務における実際の対応を想定した事例検討、相談員の技能・力量の向上と多岐にわたる相談事業への実践的な反映が期待できる点など、発展性のある取組である。また講師の所属は弁護士、教育委員会、県警察など多岐にわたっているため、今後参加者自身が連携する相手のモデルを示すことができた。 効率性：あらかじめ対象者を絞っていることで、広報・周知にかかるコストを抑えることができた。またフォローアップ調査を WEB 上での回答としたことで、通知から集計にかかる作業が簡便にできた。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	フォローアップ調査			
判 定	A	A			
○プログラムの満足度：＜回答者の 95%以上から満足の、45%以上から高い満足の評価を得られたか＞ 満足度 100.0%（非常に満足 64.1%、満足 35.9%）【満足度 96.6%（非常に満足 61.8%、満足 34.8%）】 「高い満足」の目標値 45%を 120%達成しているため A 評価。 ○フォローアップ調査：＜回答者の 80%以上からプラス評価を得られたか＞ 有用度 99.0%（非常に役立った 59.2%、役立った 39.8%） 目標値 80%を 120%達成しているため A 評価。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
A	女性相談における意義と役割について、その背景と実際を学ぶプログラムを設けるとともに、「SNS に関するトラブル」「男性相談」について取り上げた。課題へのアプローチに際しては、その社会的構造の理解や実際の支援に至るまで幅広く学べるような切り口となっている。 守秘義務を伴う業務に就く相談員にとって、全国的な規模で同じ立場の者同士が集まり共に学び語り合える本研修は、非常に貴重な情報交換とネットワークづくりの機会である。第一線で活躍している全国からの講師陣による女性相談の総合的な視点を網羅する研修（講義とグループワーク）と全国からの参加者のネットワークづくりが可能な NWEC の研修は高く評価されている。以上より、本プログラムは適切なものであり、ねらいを十分に達成できたといえる。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
講師や先進事例の選定にあたっては、実際の相談ニーズの多様化・複雑化を受け、今後は関連する分野（家族心理学、社会心理学、社会福祉など）の内容を盛り込むことも必要と思われる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(4))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (4) 教育分野における女性参画拡大に向けた取組
年度計画の項目 (I-1-(4))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (4) 教育分野における女性参画拡大に向けた取組

事業名	大学等における男女共同参画推進セミナー
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員、係員 計3名

年度実績概要	
1. 趣旨	大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に向け、学内の教職員を対象とした専門的、実践的な研修を行う。
2. 実施概要	1泊2日で実施。1日目は、東京会場において鼎談を実施。「経営戦略としてダイバーシティ&インクルージョン」をテーマに学内の女性の活躍と働きからの改革が喫緊の課題であり、男女共同参画を経営戦略の柱にすることの意義について伝えた。続くパネルディスカッションでは、テーマを「女性も活躍できる職場風土を考える」として学内組織で管理職あるいはその候補者である女性職員4名が登壇し、現状と女性が活躍できる風土づくりについて本音とリアルを会場の参加者と共有した。その後の情報交換では、参加者同士が、講義を聞いた感想や各々の職場における課題と取り組みの工夫などについて語り合い知見を深めた。 2日目は、「ジェンダーに敏感な視座に立ったキャリア支援の必要性」についての講義の後、分科会を実施し、大学における男女共同参画の主要な課題について、事例報告をもとにディスカッションを行った。長時間残業を是正するための具体的な取り組みの工夫や、ジェンダーの視点にたった学生へのキャリア教育の在り方、中小企業の社長による「優秀な女子学生を採用することでいかに企業が伸びているか」といった報告などを通じ、明日からの具体的な取組みにつながる知見を培った。
3. 開催日時・場所	平成28年11月29日(火)放送大学東京文京学習センター、11月30日(水)NVEC 1泊2日
4. 研修内容の分析	本セミナーでは、大学が進むべき方向についての基調講演や講義、これまで各大学が取り組んできた女性活躍推進についての具体的な好事例の紹介や男女共同参画推進をとりまく状況についての豊富なデータ分析を通じ、学内で男女共同参画に携わる教職員を対象とした、専門的、実践的なプログラムを組んでいる。 大学側の視点のみならず、学生や職員、企業など多角的な視点を企画に盛り込むことで、課題を総合的にとらえてもらうこと、管理職や総務課・入試、就職課等の大学経営に携わる大学職員等にも広く関心を持ってもらい、大学における男女共同参画推進の重要性に気付いてもらうことを狙った。 会場は、初日を放送大東京校舎(茗荷谷)で行うことで、アクセスの良さを集客につなげた。
5. 研修対象者の厳選	対象者を「大学・短期大学・高等専門学校の男女共同参画に携わる教職員」のみならず「大学・短期大学・高等専門学校の男女共同参画に携わる教職員及び女性の採用、就労入学、キャリア教育、就職に関わる総務・人事・入試・就職部門の教職員」に広げ、学内において男女共同参画推進を実質的に担う方々に研修の場を提供するようにした。
実績を裏付けるデータ	
1. 参加者の概況	(1)参加者：84名(女性66名、男性18名) 定員80名、応募者94人、応募倍率117.5% (2)所属別：国公立大学45名、私立大学13名、高等専門学校12名、その他14名(企業、官庁等) (3)職種別：教員系22名、職員系41名、その他21名 (4)地域別：北海道・東北12名(14.3%)、関東44名(52.4%)、甲信越1名(1.2%)、北陸・東海8名(9.5%)、近畿4名(4.8%)、中国・四国7名(8.3%)、九州・沖縄地区8名(9.5%) ○満足度：<90%以上の満足、40%以上の高い満足を得る>100.0% (非常に満足56.1%、満足43.9%) ○有用度：1日目100.0% (非常に有用50.0%、有用50.0%) 2日目100.0% (非常に有用64.7%、有用35.3%)
事業実績	
指標	H28
満足度(%)	100.0
高い満足度(%)	56.1
モニター調査(有用度)(%)	100.0

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	B	B	B	

適時性：少子高齢化の進行や大学間競争の高まりを背景に、大学にも経営改革が求められている。このような近年の高等教育機関をとりまく状況をふまえ、男女共同参画を大学の「経営戦略」に位置づけてプログラムを展開したことは、時宜を得たアプローチである。

独創性：国公立の大学、高等専門学校の高等教育機関を対象とし、男女共同参画の視点から組まれた学習プログラムは、学内全体への男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制の整備・継続がまだ十分とはいえない状況の中で、課題解決に向けて先進的・積極的な取組を展開している。宿泊施設を活用したプログラムは、全国各地から集まった参加者同士のネットワークを広げ、他校の取組を通して自校の課題を把握し、解決のヒントにつながる情報を得る機会を提供している。

発展性：各課題に即した講義やテーマ別分科会での各大学等での事例報告やグループ討議などを通して、自校の課題を把握し、課題解決に向けた実践力を養うことにより、各校での取組の発展性を期待することができる。

効率性：分科会の事例の選定は、研究国際室が実施した「大学等における男女共同参画に関する調査研究」のヒアリング調査先や調査研究の成果としてまとめた「実践ガイドブック」掲載事例からも選定することによって、調査研究の成果と研修事業の循環を意識しながら、効率よく人選を進めた。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	モニター調査			
判 定	A	A			

○プログラムの満足度：＜90%以上の満足、40%以上の高い満足を得る＞
100.0%（非常に満足 56.1%、満足 43.9%）。「非常に満足」が目標値 40%を 120%達成しているので A 評価。

○モニター調査
9 名に調査依頼。有用度 100%。目標値 80%を 120%達成しているので A 評価。
※主に研修報告等で職場の意識改革を図ったという内容が多かった。事務職員の大学運営への参画についてや事務職員のセミナーへの参加を増やす等の意見が多かった。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	プログラムの満足度、モニター調査の有用度ともに 100%の評価を得、目標を 120%達成することができた。 国公立の大学、高等専門学校の高等教育機関を対象とし、学内全体への男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制の整備・継続がまだ十分とはいえない状況の中で、課題解決に向けて先進的・積極的な取組を展開している。大学等の事例報告や分科会でのグループ討議、情報交換などを通して、全体の動向や他校の取組状況について、宿泊型で参加者同士がインターネット等ではなく、面と向かって、直接多くの情報を得ることができる本研修の意義は大きい。 今回初めて試みた、女性職員の本音とリアルをきくパネルディスカッションは反響も大きく、女性職員は男性職員に比べてキャリアパスが示されていないこと、少数派であることが管理職へのモチベーションの低さにつながっていることが伺えた。今後、学内にあってはこうした現状を踏まえ対応が求められる。 今年で 7 年目の実施となる本研修は、高等教育機関の男女共同参画推進という目的のもと、大学等で男女共同参画を担当している教職員を対象に、各機関の課題に応じた内容の充実を図ってきた。毎年、ニーズに合った企画で参加者からの評価も高く、ねらいを充分達成したと言える。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○当該事業も定着し、定員を超える応募を得ることができた。 学内における男女共同参画課題を取り上げ、様々な角度から視覚化し、学内担当者に当事者意識をもって取り組んでもらえるようアプローチを工夫していく。そのためには、長時間労働の是正やワークライフバランスが女性活躍支援のみならず男性職員の生活を豊かにするものであること明確なメッセージとして打ち出したい。 より先進的・効果的な取り組みを行っている大学等の掘り起こしも課題である。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施
年度計画の項目 (I-2-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (1) 男女共同参画統計に関する調査研究

事業名	男女共同参画統計に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長、情報課長、研究員、専門職員(2)、係員 計6名

年度実績概要							
1. 趣旨 女性の活躍、男女共同参画を推進していくためには、男女の置かれている状況を客観的に把握することが必要であるとされている。そこで男女の置かれている状況を客観的に把握するための統計の充実を目指し、分野ごとの内容とデータの提供方法について検討する。 2. 実施概要 (1) 「女性と男性に関する統計データベース」全11分野のうち、初年度は、「人口」「世帯・家族」「労働」「教育・学習」分野の収集データの内容を見直し、更新されていないデータの削除、新たなデータの追加によってデータベースの充実を図った。 (2) 男女共同参画に関する基本的なデータを収集し、A4版三つ折りのリーフレット「国立女性教育会館ミニ統計集日本の女性と男性2016年」（日本語版、英語版）を作成した。 (3) 男女共同参画統計学習パネル（2017年版）を作成し、館内に展示した。 3. 成果の活用 NWECの主催事業で男女共同参画統計データを活用した講義やワークショップを実施した。また、行政機関等で企画されている研修事業等においても男女共同参画統計データを活用した講義やワークショップが実施された。 放送大学と連携して作成したオンライン講座のプログラムや書籍『地域連携による女性活躍推進の実践』に男女共同参画統計データを活用した図表を掲載した。							
実績を裏付けるデータ							
事業実績 1 成果の活用 「学習オーガナイザー養成研修」での有用度 <table border="1"> <tr> <td>指標</td><td>H28</td></tr> <tr> <td>有用度 (%)</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>高い有用度 (%)</td><td>57.1</td></tr> </table> 2. 男女共同参画統計データを活用した講義、ワークショップ等 (1) 主催事業：女子大学生キャリア形成セミナー、教職員を対象とした男女共同参画研修、学習オーガナイザー養成研修、4 法人女性活躍男女共同参画推進研修、埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携プログラム (2) 地方公共団体、女性団体等の研修 茨城県男女共同参画推進セミナー、北九州市女性リーダー国内研修、結城市男女共同参画推進セミナー、佐野市地域指導者研修、東松山市共生セミナー (3) その他 国立教育政策研究所「社会主事講習」		指標	H28	有用度 (%)	100.0	高い有用度 (%)	57.1
指標	H28						
有用度 (%)	100.0						
高い有用度 (%)	57.1						

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性			
判定	B	B			
適時性：男女共同参画政策を推進する上で男女共同参画の現状をデータで示すことは重要であり、第4次男女共同参画基本計画の「推進体制の整備・強化」に挙げられている「ジェンダー統計の充実」に対応するものである。また GSW でもジェンダー統計の重要性が増しており、国際的動きにも対応しているといえる。 独創性：男女共同参画統計に関する調査研究はデータベースのデータを見直す、データを収集してリーフレットや展示パネルを作成するだけでなく NWEC の主催事業や各地で実施されている研修事業の講義やワークショップ、オンライン講座のプログラム、書籍の作成にデータを活用するなど、総合的に事業を展開している。					

2. 定量的評価

観点	調査研究を活用した研修資料の作成				
判定	A				
平成 28 年度「学習オーガナイザー養成研修」において、男女共同参画統計データを活用した講義とワークショップを実施した。参加者の評価は「非常に有用」57.1%、「有用」42.9%であった。 「非常に有用」57.1%が目標値 40%を 120%以上達しているので A 評価とする。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	統計データベースの検討は計画的に進められており、男女共同参画統計を活用した講義やワークショップについては、幅広い対象者に講義やワークショップを実施することによって男女共同参画統計データの普及に努めた。 中期計画の評価項目である「調査研究を活用した研修資料等を作成し、研修参加者の 85%以上の有用の評価、40%以上からの高い有用の評価にも達している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
統計データベースの充実のために、残りの分野の掲載データの妥当性に関する検討を計画的に進めると共に、わかりやすい図表を HP に掲載する等データの提供方法も工夫する。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (2) 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究
年度計画の項目 (I-2-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (2) 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究

事業名	男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長、研究員(2) 計3名

年度実績概要							
1. 趣 旨	企業における若年層の初期キャリアに関して、女性が直面する問題について実証的に検討する。平成 28 年度は、平成 27 年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を 5 年間追跡するパネル調査の第二回調査を実施する。						
2. 実施概要	平成 27 年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を 5 年間追跡するパネル調査の第二回調査（「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」）を実施するため、以下を行った。 (1) 「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究」検討委員会を 3 回開催し（平成 28 年 7 月 11 日、平成 28 年 8 月 10 日、平成 29 年 3 月 10 日）、調査票を策定した。 (2) 調査参加企業（17 社）の担当者に、調査実施の手順などについて説明した（平成 28 年 8 月～9 月）。 (3) 第一回調査結果の概要を報告するニュースレターを作成し、調査対象者に配布した。 (4) 初期キャリア期男女のキャリア形成に関する意識について理解を深めるため、平成 28 年 11 月～平成 29 年 2 月に、平成 26 年度に就職先が決定した女子大学生に対する追跡ヒアリング調査を実施した。						
3. 得られた知見	パネル調査の第二回調査では、入社 2 年目になって男女差が生じた項目や、入社 1 年目から 2 年目にかけ男女どちらか一方に大きな変化が生じた項目があることが明らかにされた。						
4. 成果の活用	(1) パネル調査の第二回調査結果について、第一回調査結果と合わせて、全調査項目の回答結果を男女別に集計した報告書を作成し、調査参加企業、各省庁・省庁所管機関、学会などに広く配布した。 (2) 各調査参加企業から得たテーマに即して分析した報告書を作成し、当該企業に配布した（10 社）。 (3) 平成 28 年 6 月に記者説明会を開催した。その結果、平成 28 年 6 月に NHK 報道局遊軍プロジェクト生活情報チームの取材を受け、NHK ニュースで調査結果の一部が紹介された。また平成 28 年 7 月 25 日に、日本経済新聞など 16 の全国紙・地方紙に調査結果が掲載された。平成 28 年 8 月～9 月には、「厚生福祉」（時事通信社）特集に調査結果が掲載された。 (4) パネル調査の第一回調査データを用いた分析結果を『NVEC 実践研究 第 7 号』に掲載した。 高見具広「総合職女性における”リアリティ・ショック”：そのキャリア形成にとっての意味」 島 直子「女性新入社員の管理職志向を高める要因：仕事満足度を高める要因との比較」 (5) 平成 28 年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」及び「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」において、パネル調査の第一回調査結果の一部を紹介した。 (6) 平成 28 年度「女子大学生キャリア形成セミナー」において、女子大学生に対する追跡ヒアリング調査から得られた知見を紹介した。						
実績を裏付けるデータ	・平成 28 年 10 月に、パネル調査の第二回調査を実施した（回答数 979 名、回答率 50.7%）。 成果の活用：平成 28 年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」の有用度 <table border="1"> <tr> <td>指標</td><td>H28</td></tr> <tr> <td>有用度（%）</td><td>100</td></tr> <tr> <td>高い有用度（%）</td><td>42.3</td></tr> </table>	指標	H28	有用度（%）	100	高い有用度（%）	42.3
指標	H28						
有用度（%）	100						
高い有用度（%）	42.3						

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性			
判 定	B	B			

独創性：従来、管理職志向や就業継続志向に関する研究は、一時点データによる分析に限定されがちであった。そこで同一個人を追跡するパネル調査を実施した結果、初期キャリア期男女の意識の変化と変化の原因について、精緻に検証することが可能になった。昨年度に実施したパネル調査の第一回調査において、すでに入社1年目からキャリアをめぐる意識に男女差があることが明らかにされたが、第二回調査を行った結果、入社2年目になって男女差が生じる項目や、入社1年目から2年目にかけての変化に男女差がみられる項目があることがわかった。

発展性：「初期キャリア期」男女の意識及び実態については、十分なデータが蓄積されていない。さらに、本調査研究では同一の初期キャリア期男女を追跡することから、初期キャリア期男女の意識と実態について、より明らかにすることが期待される。たとえば平成28年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」において、第一回調査結果の一部を紹介したところ、「新入社員の2年目以降の変化が知りたい」などの感想を得た。また平成28年6月に記者説明会を行ったところ、NHK報道局遊軍プロジェクト生活情報チームの取材を受け、NHKニュースで調査結果の一部が紹介された。また平成28年7月25日に、日本経済新聞など16の全国紙・地方紙に調査結果が掲載され、平成28年8月～9月には、「厚生福祉」（時事通信社）特集に調査結果が掲載された。

2. 定量的評価

観 点	調査研究を活用した研修資料の評価				
判 定	B				

研修資料の評価：＜研修参加者の85%以上からの有用の評価、40%以上からの高い有用の評価を得られたか＞

平成28年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」において、パネル調査の第一回調査結果の一部を紹介した。本セミナーに対する参加者の評価は「非常に有用であった」42.3%、「有用であった」57.7%であった。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
B	平成27年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を5年間追跡するパネル調査の第二回調査と、平成26年度に就職先が決定した女子大学生に対する追跡ヒアリング調査を実施し、企業における若年層の初期キャリアに関して、男女間の意識の差や女性が直面する問題について実証的に検証するためのデータを得た。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成29年度は、パネル調査の第三回調査を実施し、調査結果をふまえて報告書を作成する。さらに第一回調査・第二回調査・第三回調査データを分析し、初期キャリア期男女の意識の変化と変化の要因について知見を得る。分析結果については、NVECが有するネットワークを通じて、全国の企業・大学にフィードバックする。また、NVECが実施する大学や企業を対象とする各種研修プログラムやキャリア教育プログラムの企画・実施にも研究成果を生かす。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (3) 女性教員の活躍推進に関する調査研究
年度計画の項目 (I-2-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (3) 女性教員の活躍推進に関する調査研究

事業名	女性教員の活躍推進に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長、研究員(2) 計3名

実績概要	
1. 趣 旨	初等中等教育の分野における政策・方針決定過程への女性の参画の拡大についての取組を進めるため、女性の管理職の登用状況等を明らかにする調査研究を3年計画で実施する。女性教員の管理職登用にに向けた課題分析及び教員を対象とする男女共同参画・女性活躍の視点を踏まえた研修プログラム開発に資する調査研究を実施する。1年次である平成28年度は、先行研究から課題を明らかにし、調査票を作成する。
2. 実施概要	①初等中等教育における女性教員の管理職登用や男女共同参画の推進にかかわる先行研究等について情報収集・分析を行った。 ②初等中等教育における女性管理職率について、学校基本調査のデータをもとに現状や経緯を整理し、都道府県別の比較、分析を行った。 ③学校における女性管理職登用や男女共同参画の推進を専門分野とする研究者、都道府県教育委員会等、学校関係者を対象としたヒアリング調査票を作成、調査を実施し、女性の活躍推進の現状・課題を把握した。 ④①～③の結果を踏まえ、質問紙調査の実施に向けた論点整理、調査票案の作成、適切な対象、内容、方法等について検討を行った。 ⑤研修プログラムの開発に向けて、調査結果の共有や課題把握を目的とした事業課と研究国際室の関係者による検討会を実施した。
3. 得られた知見	①初等中等教育においては、女性教員割合は低くはない（小学校 65.5%、中学校 43.2%、高校 32.5%）。しかし、女性管理職率は、特に中学校、高校においてかなり低い（女性校長率：小学校 19.1%、中学校 6.1%、高校 7.1%）（平成27年度「学校基本調査」）。 ②先行研究によって、初等中等教育における女性管理職登用にかかわる課題は、ある程度明らかにされている。それらはおおまかには、①管理職になることの負担（長時間労働、子育てとの両立の困難）、②管理職になることの魅力の低さ（マネジメントより子どもとかわることを望む等）、③管理職に登用されにくい慣習・評価システム（主任経験率の低さ、昇進ルートに乗りにくい、上司からの声がけが少ない）に分けることができる。 ③女性管理職登用が比較的進んでいる教育委員会においても、女性管理職率を高めることに対する関心は薄い。調査票の設計や成果普及の方法等にはかなり工夫が必要である。 ④各都道府県の教育委員会では、多忙化解消等、業務改善の取組を行っている。これらの目的は、「子どものため」であることが共通の認識とされている。教員のワーク・ライフ・バランスや女性の意思決定過程への参画のためという認識はほとんどない。
4. 成果の活用	本調査研究において今年度および来年度以降得た知見や成果は、事業課の担当者と共有し、事業課が実施する教員を対象とした研修のプログラムを共同で開発していく。また、外部での講師の機会等を活用し、普及に努める。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性			
判 定	B	B			
適時性：あらゆる分野における女性の活躍推進が求められるなか、初等中等教育における女性教員の管理職登用率は依然として低く、このテーマを取り上げることは、男女共同参画の推進にとって重要である。 独創性：教育委員会や学校の現場では、教育分野における男女共同参画推進や女性管理職登用の必要性についての認識が十分ではない。国立女性教育会館では、これまでの女性の社会参画等にかかわる調査研究の実績を活かして調査研究を実施し、成果普及による意識啓発を進めることができる。					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判 定 と 根 拠
B	初等中等教育においては、女性教員の管理職登用率が極めて低いなど、今後、男女共同参画推進に力を注ぐ必要性は高い。今年度の調査研究では、管理職登用が進まない現状の背景や課題等の論点整理やアンケート調査実施に向けた検討を行った。 3年計画の1年次の調査研究であったため、成果の普及は来年度以降になるが、調査研究自体は順調に進んでいる。

3. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
ヒアリング調査等では、女性管理職が未だ少ないなど、教育分野での男女共同参画が不十分であるにもかかわらず、教育分野における男女共同参画はすでに実現されているという認識が、教育委員会や学校現場に浸透している傾向があることが、あらためて明らかになった。今後は、調査研究でどのような結果を出し、どのような方法で成果を普及すれば、男女共同参画の推進や女性の意思決定過程への参画の必要性が十分に認識され、行動を起こすきっかけになり得るかを熟考して進めていく。次年度は今年度の実態把握を踏まえ、アンケート調査の実施等について、より具体的に検討していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(4))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (4) eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究
年度計画の項目 (I-2-(4))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (4) eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究

事業名	eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長、研究員(2)、専門職員 計4名

実績概要	
1. 趣 旨	放送大学と連携してオンライン講座のプログラムを作成・運用するとともに、会館独自のeラーニングプログラムの在り方について検討する。 平成28年度は放送大学と連携した女性のキャリアデザインに関するオンライン講座を開発・運用するとともに、eラーニングを活用した教育・学習支援の在り方について検討を行う。
2. 実施概要	(1) 平成28年4月～8月、「女性のキャリアデザインの展開（‘17）」の内容を検討し、シラバスを作成するとともに、放送大学と同講座の共同制作及び実施に関する覚書協定を締結した。 (2) 平成28年7月～9月、オンライン講座で提供する動画素材のインタビュー収録を行った。 (3) 平成28年10月～平成29年2月、オンライン講座の講義資料、学習活動の作成、画面の動作確認や内容確認作業を行った。 (4) 平成28年度の前期、後期に放送大学から「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」を提供し、平成28年10月～平成29年2月にかけて、講座を受講した職員を対象にヒアリングを行った。 (5) 平成28年12月～平成29年2月、オンライン講座の参考資料としてキャリア事例を9本作成し、会館のキャリア事例サイトに掲載した。 (6) 平成28年12月～29年3月、男女共同参画に関する基礎講座を内容とする会館の研修事業で提供するeラーニング講座の内容を検討し、試行的に制作した。
3. 得られた知見	(1) eラーニング学習の多様な在り方や、eラーニングを提供するにあたりコンテンツの内容や提供方法（動画、アニメーション、小テスト、PDF、リンク等）及びそれぞれの有用性についての知見を得た。 (2) eラーニングの多様な提供方法と予算や導入するシステム上の制約を把握した。 (3) 「女性のキャリアデザイン入門」という名称の講座に関心を持つ様々な立場（夫、同僚、親等として）の男性の受講者が確認できたとともに、幅広い年代の学習者男女の女性のキャリアに関する問題関心を把握した。
4. 成果の活用	一般学習者向けのeラーニング講座として、放送大学オンライン講座「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」を前期、後期に各1回提供。
実績を裏付けるデータ	
事業実績	・放送大学と連携し、放送大学オンライン講座「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」を前期、後期に各1回提供。 ・ウェブ教材として女性のキャリア形成事例を9本作成し、「女性のキャリア形成支援サイト」に掲載 ・平成29年度にオンライン講座として提供予定の「女性のキャリアデザインの展開（‘17）」（全8コマ）を作成。 ・会館の研修と合わせて実施する男女共同参画の基礎講座に関するeラーニング講座を作成。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性		
判定	B	A	B		
適時性：教育再生実行会議の「「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について（第六次提言）」（平成27年3月4日）は、女性の活躍支援等についての実践的なプログラムの提供や学びやすい環境の整備としてeラーニングを活用した教育プログラムの提供を推進しており、女性のキャリアデザインをテーマにしたオンライン講座の実施は、女性活躍推進法の施行のタイミングにも合い、適時性がある。 発展性：これまで会館の主催事業は来館を前提に行われてきたが、オンライン講座の開発を行ったことで、受講生の幅が全国の個人に広がった。「女性のキャリアデザイン」に関心を持つ男性の受講者が確認できたとともに、幅広い年代の学習者男女の問題関心を把握できた。従来の会館研修にeラーニングを取り入れるための試行的講座を制作した。 効率性：放送大学と協定を締結し、これまで会館で蓄積した研究、研修、情報の成果をオンライン講座という手法を活用して2本目の講座を作成するとともに、昨年度に作成をした講座を前期・後期の各1回全国配信のオンライン授業の形で提供した。一部、NWE Cの職員研修としても実施し、効率的に一般対象の学習機会を提供することができた。					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	放送大学のオンライン講座として、「女性のキャリアデザイン入門（'16）」を、前期、後期に各1回実施し、eラーニング講座の提供方法や進め方、学習者情報等についての知見を得た。また、放送大学のオンライン講座を受講する全国の一般生涯学習者が、女性のキャリアや男女共同参画について持つ知識や興味関心を把握することができた。 さらに、①平成29年度から放送大学で提供されるオンライン講座「女性のキャリアデザインの展開（'17）」を新たに作成し、②会館の主催事業研修と合わせて実施するNWE C独自の男女共同参画の基礎知識に関するeラーニング講座を試行的に作成した（平成29年度の研修事業で実施予定）。その他、③オンライン学習用の教材として、女性のキャリア形成事例を9本作成し、キャリア形成支援サイトに掲載した。

3. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
・平成29年度は、①放送大学を通じて前期・後期各2回ずつ提供するオンライン講座の学習活動活性化を図り、②会館独自で提供するeラーニング講座のありかたについて検討を深めるとともに、試行的に作成したeラーニング講座の改善を図る。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信
年度計画の項目 (I-3-(1)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信 ①情報資料の収集・整理・提供

事業名	情報資料の収集・整理・提供
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長、係長(併)専門職員、専門職員、係員(5) 計8名

実績概要	1. 趣旨 男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、広域的、専門的な資料・情報を収集し、多様な手段で広く一般に提供することにより、男女共同参画社会の推進を図る。 2. 実施概要 地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報の収集を図った。更に、収集した資料を個人向け及び団体向けに館外貸出した他、レファレンス・サービス、文献複写サービス、館内見学会の実施等により広く利用に供し、男女共同参画のための情報提供を行った。 3. 成果 【収集資料】 「収集資料統計」参照。企業や大学のダイバーシティ推進に資する資料の収集を継続して行い、「女性活躍」や「ワークライフバランス」に関する図書を受け入れた。大学が刊行する男女共同参画に関する広報誌等も全国的な収集を心がけた。また、地方自治体が刊行する男女共同参画に関する統計やハンドブック等を収集した。これらは女性教育情報センターで受け入れ、広く一般の利用に供している。 【学習支援】 図書資料の展示を年に3回行った。主催事業と連動した展示等を実施すると同時に、資料リストをホームページ上で公開し、男女共同参画推進のための学習・教育を支援した。 更に、埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」の中で、統計を用いた講義、女性教育情報センターを利用した情報検索の実習等を担当し、レポート作成のための資料情報の収集選択スキルアップの支援を行った。 【評価指標】 ○資料・情報の収集と提供状況 図書については、来館者への貸出の他、パッケージ貸出の形で他大学・機関の図書館への提供を行った。 ○収集資料・情報の適切性 男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する新刊資料を幅広く収集するだけでなく、企業や大学の男女共同参画担当部署が発行する資料など、地域レベルでは収集困難な資料の収集に努めた。
実績を表付けるデータ	収集資料統計（平成28年度受入） 図書 3,591件、地方行政資料 353件、雑誌 96件、新聞切り抜き 21,964件、AV資料 30件 利用状況統計（平成28年度） 資料等利用者数 7,961人、貸出資料総数 9,519冊、レファレンスサービス 821件、文献複写サービス 795件、情報研修プログラム 6件、45人 相互貸借貸出件数 221件（内 パッケージ貸出件数 71件）

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	独創性	効率性			
判定	B	B			
独創性：「地方行政資料」は、地方自治体が刊行する男女共同参画に関する統計やハンドブック等を集中的に収集し備え付けているコレクションであり、専門性に優れたコレクション構築として高く評価できる。 効率性：大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集・展示は、各自治体の男女共同参画部署が発行する資料の収集・展示とあわせて、特定の地域や機関で網羅できない資料をナショナルセンターとして集中的に収集しており、効率性が評価できる。					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	資料の収集を概ね着実に行っており、地域レベルでは収集困難な広域的・専門的な国内外の資料・情報の収集、提供に着実に取り組んでいる。リポジトリの充実により文献複写サービスの利用は減少しているが、パッケージ貸出等で資料の利活用が図られている。

3. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
女性教育情報センターは、男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として新規受入すべき図書が受入対象から漏れないよう、複数職員による再チェックを行い、選書漏れを防ぐ。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信
年度計画の項目 (I-3-(1)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信 ②ポータルとデータベースの整備充実

事業名	ポータルとデータベースの整備充実
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長、係長(併) 専門職員、専門職員、係員(5) 計8名

実績概要	
1. 趣旨	「女性情報ポータル“Winet”(Women's information network, ウィネット)」は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の総合窓口である。次の3要素で構成され、日々、データやコンテンツを継続的に整備充実することにより、政策担当者、研究・学習者、団体・グループ関係者、メディア関係者等ユーザのニーズに、迅速・的確に応えるアクセス手段を提供している。 ・女性情報ナビゲーション(リンク集。インターネット上の有用な資源への道案内) ・会館作成のデータベース ・女性情報 CASS (NVEC 作成のデータベース、及び他の関連機関のデータベースの横断検索)
2. 実施概要	女性情報ポータル“Winet”の組織的なデータ更新、充実を図るとともに、利便性の高いポータルサイトを目指す。今年度はコンテンツの随時追加・修正等を行うとともに、トップページ上の文言の修正、会館ホームページのリニューアルに合わせてリンク先の変更を行うなど、利用しやすさ、わかりやすさの向上を図った。
3. 成果	第4次中期計画期間中の年度目標である、データベース化件数 26,000 件以上の登録、アクセス件数 35 万件について、平成 28 年度はこれを達成している。 (1) 「文献情報データベース」 総件数 644,303 件(27,865 件増) 新規に受け入れた図書、雑誌、地方行政資料、和雑誌記事、新聞記事等のデータを登録した。 (2) 「国立女性教育会館リポジトリ」 総件数 6,784 件(34 件増)。 (3) 「女性情報レファレンス事例集」 累計 295 事例(8 事例増) (4) 「女性関連施設データベース」のデータ登録・更新は全国の各施設職員が直接入力する Web システムから行うものをメインとした。登録数 施設概要 500 件(内、Web 登録の施設は 264 館)、実施事業(情報・相談以外) 35,955 件(内、平成 28 年度開催の事業は 517 件)、情報事業 360 件、相談事業 316 件。 (5) 「女性と男性に関する統計データベース」は更新された統計について、最新の数値を反映した。また、収録データの見直しを3年間でを行う予定であるが、1 年目となる 28 年度は人口、労働、教育・学習、世帯・家族の各分野について見直しを行い、男女共同参画の視点から明確で使いやすい構成とした。 (6) 「大学等における男女共同参画イベント情報」に、平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月までに 114 件のイベントを掲載した。
実績を裏付けるデータ	
事業実績	
指標	H28
データベース化件数	28,400
アクセス件数	469,284

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性	効率性		
判 定	B	B	B		
独創性：「女性と男性に関する統計データベース」は男女共同参画の視点から作成された統計データベースであることと、複数年度のものが一覧できかつ、パソコン等での利用がしやすい形式であることは独創的と評価できる。 発展性：「大学等における男女共同参画イベント情報」の開設は、情報提供と共有の場として、男女共同参画の展開に資するものである。 効率性：「女性関連施設データベース」は、全国の男女共同参画センター等と共同で構築し、他機関との連携を図るものとして評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	データベース化件数	アクセス件数			
判 定	B	A			
データベース化件数：28,400件（年度目標26,000件）（目標達成率：109%） アクセス件数：469,284件（年度目標350,000件）（目標達成率：134%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
B	データベース件数、アクセス件数ともに中期計画期間中の年度目標を達成した。 女性と男性に関する統計データベースの統計データの見直し作業が順調である。 女性関連施設データベースのWebフォームによる入力・修正への移行が順調であった。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今後は「女性と男性に関する統計データベース」のデータ見直しを継続する。また、「女性のキャリア形成支援サイト」について利便性の向上のため研究国際室と連携して分野構成の再構築を行う。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信
年度計画の項目 (I-3-(1)) ③	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信 ③図書のパッケージ貸出

事業名	図書のパッケージ貸出
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長、専門職員、係員(2) 計4名

年度実績概要	
<図書のパッケージ貸出> 1. 趣 旨 各施設における男女共同参画を推進するため、テーマ毎にパッケージ化した図書の館外への貸出を実施する。 2. 実施概要 大学、女性関連施設、公共図書館、高等専門学校等の機関を対象とし、男女共同参画社会形成を目指した様々なテーマに合致する図書について、ここ数年以内に出版された比較的新しい図書を中心に、「キャリア・しごと」「家庭・家族」など複数のジャンルを組み合わせ原則100冊のパッケージにまとめ、貸出を行っている。NVEC であらかじめ用意したパッケージを3か月ごとに入れ替えながら年間を通して貸し出す「年間パッケージ」と、相手館の事業とのタイアップなどに合わせてパッケージ内容をカスタマイズし一定期間貸し出す「個別パッケージ」の2通りの利用形態がある。 平成28年度は年間パッケージ利用機関が23、個別パッケージ利用機関が7であった。 また、パッケージ貸出業務の効率化と利用機関の拡大へ対応するため、パッケージ貸出利用申込書の見直しを行い、6種類あった申込書を3種類に集約した。 3. 成 果 平成28年度の利用機関数は30であり、中期目標期間中の5年間でのべ150か所以上の機関に貸し出すという目標に向け、順調なものとなっている。	
実績を裏付けるデータ	
事業実績 1. パッケージ貸出回数 71回 2. パッケージ冊数 6,567冊	
指標	H28
パッケージ貸出機関数	30

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	B	B	B	B	
適時性：ここ数年以内に出版された図書を中心にパッケージを構成し、男女共同参画についての新しい知識や知見を他機関を通じて多くの国民に知ってもらうという点で時宜にかなった事業である。 独創性：専門図書館である女性教育情報センターの蔵書構成を活かして機関・目的・対象別に男女共同参画社会形成のための知識と情報を提供する「図書のパッケージ貸出サービス」は、全国的にも珍しく、特に専門図書館では例を見ないサービスである。 発展性：パッケージ貸出で貸し出した資料や、NWECのWebページで公開している図書リストを参考に、他機関が男女共同参画に関する資料を購入するなどの動きがあり、男女共同参画の展開に資するものとなっている。 効率性：他機関と連携してNWECの蔵書を一定期間、まとまった量を貸し出すことで男女共同参画に関する情報の効率的な普及が図られ、また、NWECの蔵書の効率的な運用にもつながっている。					

2. 定量的評価

観点	パッケージ貸出機関数				
判定	B				
パッケージ貸出機関数：30 機関					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	年度目標の30機関への貸出を達成した。 利用申込書の改訂で利便性の向上と事務の省力化を達成した。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
・貸出先が固定化してきている傾向がみられるので、広報等を通じて貸出先の増加を図る。 ・パッケージ貸出事業が順調であることから、比較的新しい図書が貸出中であることが多く、情報センター内での利用に不便をきたすことがあるため、複本の購入を積極的に行っているが、同じ図書を複数の機関に同時に貸し出す場合がある。このとき、速やかに追加購入できるよう、業務の定型化を図る。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進
年度計画の項目 (I-3-(2)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進 ①女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化

事業名	女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長、係長(併)専門職員、係員 計3名

年度実績概要	1. 趣旨 女性に関する過去の歴史的事実および現在の状況を検証し、現代の問題へのアプローチを可能とするため、歴史的価値・研究資料的価値を有する女性関係史・資料の収集・整理・保存および提供・公開を行い、男女共同参画の推進に関する啓発、学習・研究支援等に資する。 2. 概要 女性アーカイブセンターにおいて、女性関係史・資料を収集・整理・保存し、閲覧・展示・データベース等によって提供・公開する。会館のもつ全国の女性関連施設とのネットワークを活かして災害に関する史・資料のアーカイブ化を進め、国立国会図書館が運営するポータルサイトと連携させる。また、他機関と連携して行う企画展示と、アーカイブセンター所蔵資料を用いる所蔵展示を実施する。 3. 成果 順調に事業を推進し、今年度の数値目標を達成することができた。 展示用パネルおよび資料について他機関より利用の申し込みがあり、13件の貸出を行った。うち6件は、地方自治体の男女共同参画担当部署からの希望により、平成27年度所蔵展示「男女雇用機会均等法から30年」のパネル貸出を行った。 【評価指標】 ○資料の収集（年度目標1千点以上） 1,142点 ○展示室利用（年度目標1万人以上） 9,997人 ○女性アーカイブ企画展における他機関との連携状況（年間5機関以上） 5機関と連携を行った。								
実績を裏付けるデータ									
事業実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th><th>H28</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収集した史・資料点数（点）</td><td>1,142</td></tr> <tr> <td>展示室への入室人数（人）</td><td>9,997</td></tr> <tr> <td>企画展における連携機関数（機関）</td><td>5</td></tr> </tbody> </table>	指標	H28	収集した史・資料点数（点）	1,142	展示室への入室人数（人）	9,997	企画展における連携機関数（機関）	5
指標	H28								
収集した史・資料点数（点）	1,142								
展示室への入室人数（人）	9,997								
企画展における連携機関数（機関）	5								

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性			
判 定	B	B			
独創性：全国の女性関連施設と連携して女性デジタルアーカイブシステムを独自に構築し、収集した資料の目録情報と一部の画像をインターネットで公開している点に高度専門性がある。また、NWECC災害復興支援女性アーカイブは、女性の視点を災害復興支援記録に活かすという独自性を持っている。 発展性：企画展示においては、女性と演芸というテーマのもと、連携機関を新規開拓した。					

2. 定量的評価

観 点	収集数	展示室入場者数	他機関との連携数		
判 定	B	B	B		
収集数：1,142点（年間目標1,000点） 展示室入場者数：9,997人（約100%）（年間目標10,000人） 他機関との連携数：5機関（年間目標5機関）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	各取り組みを順調に進め、当年度の数値目標をほぼ達成することができた。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
史・資料の収集数は順調に目標を達成したが、会館に長く関わっている客員研究員の個人的ネットワークに頼る所が大きいため、今後は担当者が入れ替わっても引継可能な収集手段を構築する必要がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進
年度計画の項目 (I-3-(2)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進 ②女性情報アーキビスト養成研修

事業名	アーカイブ保存修復研修（基礎コース）＋（実技コース）
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長、係長(併)専門職員、係員 計3名

年度実績概要	
1. 趣旨 女性の歴史を今に生かし未来につないでいくためには、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の適切な保存と活用が必要である。そのため平成21年度から、女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者を主な対象として「女性情報アーキビスト入門講座」を開始した。その後、研修名の改称やコースの増設を行い、平成27年度は実技コースの定員を10名から20名に増員、平成28年度は研修名を「アーカイブ保存修復研修（基礎コース＋実技コース）」と改称して実施した。 2. 実施概要 基礎コースでは、アーカイブ概論ならびに複数のアーカイブ実践機関によるアーカイブ構築の事例報告を行った。実技コースでは、紙資料の修復に関わる技術について実習を行った。 3. 開催日時（場所） 平成28年11月30日（水）～12月2日（金） ①基礎コース：11月30日（水） 場所：東京大学伊藤国際学術研究センター ②実技コース：12月1日（木）～12月2日（金）1泊2日 場所：国立女性教育会館 例年、両コースとも会館内で開催していたが、平成28年度は基礎コースのみ東京大学を会場とした。 4. 成果 【評価指標】 ○研修参加者数（年間36名以上） 54名（基礎コース29名、実技コース25名） ○内容評価（90%以上の研修参加者からの満足の評価、65%以上からの高い満足の評価を得られたか） 満足度100%（基礎100%、実技100%）、高い満足度 基礎46.2%、実技95.8% ○アーカイブ実務者同士のネットワーク構築支援 実技コースにおいて情報交換会を実施し、それぞれの立場や仕事状況などについて相互理解を深められるよう配慮した。過去の修了者間では、有志が集まり男女共同参画推進フォーラムに参加するなどの交流が続いている。	
実績を裏付けるデータ	
事業実績	
指標	H28
基礎コース	
参加者数（人）	29
満足度（%）	100
高い満足度（%）	46.2
実技コース	
参加者数（人）	25
満足度（%）	100
高い満足度（%）	95.8
<参考>	
フォローアップ調査における有用度：100%（非常に役に立った29.4% 役に立った70.6%）	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性			
判 定	B	B			
独創性：女性アーカイブに主眼を置き独自に開発している専門的な研修プログラムは他に例をみないものであり、ユニークである点が評価できる。 発展性：外部機関の職員に積極的に声をかけ講師として招くことで会館とのネットワークづくりを広げている。また、参加者間および講師とのネットワークが広がることにより新たな事業展開につながる可能性がある。					

2. 定量的評価

観 点	参加者数	プログラムの満足度			
判 定	A	B			
参加者数：54名（目標36名） 「基礎コース」：29名（募集定員30名） 「実技コース」：25名（募集定員20名） 目標の36名を120%達成しているのでA評価とする。 プログラムの満足度： 「基礎コース」：100.0%（非常に満足46.2% 概ね満足53.8%） 「実技コース」：100.0%（非常に満足95.8% 概ね満足4.2%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	参加者アンケートでは、基礎コース・実技コースともに全体の満足度が100%となり、研修内容を高く評価された。質疑応答も活発に行われ、女性アーカイブ担当者が現場で活かせる基礎的な知識を得、疑問を解決するための機会を提供できた。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
参加者にとってより魅力的な研修となるよう、理論と実践のバランスが取れたプログラムとなるよう改善を図る。基本となる内容を維持しながらも、新しいテーマを取り入れる可能性を探る。あわせて、広報の範囲や手法をより拡張して本研修の周知に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (3) より多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化
年度計画の項目 (I-3-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (3) より多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化

事業名	広報活動の充実・強化
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員

年度実績概要
1 趣旨 会館の事業や取組について積極的に国民に周知し、会館のプレゼンスを高めるため、ICTの活用等により多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化を図る。 2 実施概要 (1) 広報・情報発信計画の策定 理事長のトップマネジメントのもとに会館が一丸となって効果的な広報活動を推進するため、従来の広報・情報発信の取組である「女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信」や「男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進」等に加え、新たに、より多様な主体への広報活動の充実・強化のためのホームページ改訂や動画配信、「広報・情報発信に関する委員会」の設置を定めた「国立女性教育会館広報・情報発信計画（平成28年度～29年度）」を策定した。 (2) 「広報・情報発信に関する委員会」の設置 広報・情報発信事業の内容を充実するため、平成28年度中に4回開催し、理事及び各課室長をメンバーとする委員会を設置し、広報・情報発信計画を策定した。また、組織縦断的に取り組むべき当面の課題に対応するため、各課室長をリーダーとするプロジェクトチームを複数設置した。 (3) より多様な主体への積極的な広報活動の実施 ①ホームページの改訂 前回の改訂（平成23年）から数年を経過した会館ホームページについては、「国立女性教育会館における政策実施機能を強化するための関係府省と連携しての運営・組織体制の在り方について」（平成26年）において、関係府省や関連団体の情報を集約・発信するため改訂に向けての具体的取組を進めることとされた。 そこで、各課室を横断した形で編成されたチームを中心に職員全体で内容を検討した結果、整理したサイト構成と見やすいデザインに基づいて、会館の事業や他機関の情報等をよりわかりやすく紹介する新しいホームページを完成させた（平成28年12月）。なお、利便性増加の観点から、「男女共同参画関連施設職員」「地方自治体職員」などターゲット別の情報発信に重点を置いたものとしている。 こうした取組の結果、平成28年度のホームページアクセス件数は389,066件で、目標の36万件を達成した。今後の利便性増加が期待される。 ②SNS、メールマガジン等による情報発信内容の充実 会館における主催事業や刊行物だけではなく、ニューヨークで開催されたGSW（国連女性の地位委員会）に日本政府代表団の一員として参加した会館職員の現地レポートや写真の他、ボランティアによる季節ごとの取組、PFI事業者主催のイベントなどに関する記事について積極的にSNSへ掲載した結果、平成28年度は、SNSへの記事掲載件数は102件で、目標の100件を達成した。 また、会館メールマガジンのみならず、内閣府、文部科学省、嵐山町等の広報誌を通じて、主催事業の参加者募集、実施報告及び調査研究の成果報告並びに女性アーカイブセンターの企画展示等の会館の取組について、積極的に広報を行った。 さらに、内閣府や文部科学省、女性関連施設等が実施する全国的な会議や研修・イベントの際に、会館利用案内・チラシ・パンフレットや会館概要の冊子等の配布を積極的に行った。さらに、理事長をはじめ、職員が外部機関で講演・講義を行う際には、パンフレット等を配布し利用を呼びかけてい

る（三つ折りリーフレット 11,430 枚を配付）。

③プレスリリースによる広報

研修事業を広報するプレスリリースを 11 件作成し、会館ホームページ上に掲載するとともに、文部科学省、川越市役所、埼玉県庁の記者会に配付した。

④会館主催の研修の動画配信

物理的・地理的制約のために会館に集うことのできない方に対しても会館の研修内容を普及させるため、会館が実施した研修のうち一部のプログラム（基調講演や講義）について会館ホームページ上で配信している。

平成 28 年度は、動画配信業者との契約で 16 件（平成 25～27 年度実施事業：9 件、平成 28 年度実施事業：7 件）を配信している。なお、平成 29 年度からは視聴者の利便性の向上を図り YouTube で配信に移行予定。

⑤調査研究成果物の発行及び発信

「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」（第一回）の分析結果について記者説明会を開催した（平成 28 年 6 月）。平成 28 年度パネル調査（第二回）の調査結果と平成 27 年度パネル調査（第一回）結果を合わせ、全調査項目の回答結果を男女別に集計した『男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査報告書』を作成した（平成 29 年 3 月）。

より多くの人に会館の調査研究成果が普及し活用されるよう、平成 27 年度「女性関連施設に関する調査研究」の成果としてまとめた『地域における女性の活躍推進実践ガイドブック』を大幅に加筆し、『地域連携による女性活躍推進の実践』を市販した（平成 29 年 3 月）。

平成 26 年度「男女共同参画統計に関する調査研究」の成果として作成し、館内 6 ヶ所に展示を行っている男女共同参画統計学習パネル（2017 年版）のデータを更新した（平成 29 年 3 月）。

また、女性のエンパワーメント、男女共同参画の推進に関する調査報告、女性関連施設や女性団体の実践活動等を掲載する『NVEC 実践研究』を発行（平成 29 年 3 月、テーマ：女性の初期キャリア）した。

⑥参与による訪問活動

利用活動を集中的に進めるため、参与（非常勤）が、県内の商工会連合会や地元企業を中心に訪問活動を行い、加盟する組織へ会館利用の呼びかけをする等、周知徹底に努めた。

⑦東武東上線沿線駅でのポスター掲示

多くの方に会館の主催事業を知っていただき、また参加いただけるよう、「男女共同参画推進フォーラム」及び「女子大学生キャリア形成セミナー」のポスターを東武東上線沿線駅にて掲示をした。

実績を裏付けるデータ

事業実績

	H28
ホームページへのアクセス件数	389,066
SNS への記事掲載件数	102

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	B	B	B		
適時性：ホームページの改訂を行い、「男女共同参画関連施設職員」「地方自治体職員」などターゲット別の情報発信に重点を置いたものとした。また、遠方に居住するため会館に集うことが困難な方に対しても会館の研修内容を普及させるため、会館が実施した研修のうち一部のプログラム（基調講演や講義）について会館ホームページで動画配信した。これらにより会館のプレゼンスを高めるため、ICTの活用等により多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化を図ることができた。 独創性：調査研究成果物の発行及び発信は、調査研究の長い実績を持つ会館ならではの事業であり独創性が認められる。 発展性：研修プログラムの会館ホームページでの動画配信は、会館に集うことが困難な遠方の居住者にも研修機会を提供できる点で今後の発展が期待できる。					

2. 定量的評価

観 点	ホームページへの アクセス件数	SNS への記事掲載件 数			
判 定	B	B			
ホームページへのアクセス件数（目標 36 万件） 389,066 件 SNS への記事掲載件数（目標 100 件） 102 件					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
B	第 4 期中期目標において広報・情報発信の充実が強く要請されていることを踏まえ、広報・情報発信計画の策定を行い、広報・情報発信に関する委員会を設置することで、会館における広報・情報発信の充実・強化のための体制を整備した。 また、ホームページの改訂や、SNS への記事掲載等といった、会館の事業について積極的に国民に周知する取組を行い、会館のミッションの達成に寄与している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
・さらに、より多様な主体への広報・情報発信活動を積極的に行う必要がある。 ・現在、月 1 回発行のメールマガジンについて、適切な時期に広報・情報発信するため、平成 29 年度より月 2 回に変更する予定である。 ・平成 29 年度は開館 40 年となるため、記念誌の発行など、40 周年を記念した広報・情報発信活動を行う予定である。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(1))	4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-4-(1))	4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (1) アジア地域における男女共同参画推進のための人材育成

事業名	アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー
担当課室	研究国際室
スタッフ	専門職員、係長、係員、派遣職員 計4名

年度実績概要	
1. 趣旨	開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。平成28年度は、若年女性のキャリア形成をテーマとして設定し研修を行う。
2. 実施概要	本研修では、日本国内の関連機関の視察や専門家による講義に加え、研修生同士がテーマに関する好事例を学び合うことを目指したカリキュラム構成としている。
3. 開催日時・場所	平成28年10月3日(月)～10月7日(金) (受入期間:10月2日(日)～10月8日(土)) NVEC、内閣府男女共同参画局、お茶の水女子大学、埼玉県男女共同参画センター他
4. アジア地域における拠点としての取組	研修生には、出身国(5カ国)における男女共同参画政策と、若年女性の社会参画に関するベスト・プラクティスを分析したカントリーレポートを事前に提出するとともに、研修終了後は報告書の執筆を義務づけた。
5. 研修の内容評価	研修の有用度と満足度はともに100%であった。特に埼玉県男女共同参画センターで女性の就労支援の現場を視察できたことと、内閣府男女共同参画局での意見交換が、有意義であったと評価が高かった。
6. 研修成果の活用調査に基づく研修内容の見直し状況	平成28年度は男性講師にも講義を依頼することが出来、講師の男女比のバランスにも留意した。
実績を裏付けるデータ	
1. 参加者の概況	10名(定員10名)
2. 国籍	カンボジア、韓国、ミャンマー、フィリピン、スリランカ(各2名)
3. アンケート結果	研修の満足度 100.0%(非常に満足 80.0%、満足 20.0%) 研修の有用度 100.0%(非常に有用 80.0%、有用 20.0%)
4. 2016NVECリーダーセミナーレポート	若年女性のキャリア形成 350部
事業実績	
指標	H28
満足度(%)	100
高い満足度(%)	80
有用度(%)	100

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	B	B	B		
適時性：男女共同参画を社会の中で進めてゆくためには、次世代の育成や若年女性のエンパワーメントが重要である。本研修のプログラム構成は研修期間中に各国の若年女性支援に関する政策や好事例を学ぶことに主眼をおいた。専門家による講義と関係機関の視察を通じて、若年女性をとりまく課題について学習し、充実した意見交換を行うことができた。 独創性：研修カリキュラムは、NVECがこれまで築いてきた人的ネットワークを活かし、省庁や女性関連施設 NPO法人、研究者、学校関係者に講義や視察を依頼し、限られた日程でテーマについて学ぶことができるよう配慮した。 発展性：研修生が研修から学んだ知見を基に国別報告をまとめ、2016NVEC リーダーセミナーレポートとして日本語と英語で刊行した。レポートはホームページ上でダウンロード可能な形式で公表し、研修成果の普及につとめている。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	プログラムの有用度			
判 定	B	B			
100%の研修参加者が満足、有用と回答した。研修環境（とても良い90%）、研修の運営（非常に効率的100%）に関する評価が高かった。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	年度計画どおりに実施されている。アンケートでは満足度、有用度ともに90%以上となっており、研修生のニーズに合致した研修となった。若年女性のキャリア形成をテーマとし研修を実施することで、質疑応答も活発に行われ、研修生が若年女性の自立に係る各国の政策と課題について知り、考察を深める機会を提供できた。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
現地視察4件のうち、教育機関への視察2件であったが、研修テーマに沿った現地視察があと数件あったらよかったとの意見があり、次年度以降は視察先を含めて検討していきたい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応
年度計画の項目 (I-4-(2)) ①	4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応 ①NWE Cグローバルセミナー

事業名	NWE Cグローバルセミナー
担当課室	研究国際室
スタッフ	専門職員、係長、係員、派遣職員 計4名

年度実績概要	
1. 趣旨 本事業の目的は女性活躍推進、男女共同参画に関わる研究者、地方公共団体や男女共同参画センター、女性団体の職員等を対象に、女性の人権やエンパワーメントに係る課題について理解を深めることを目的として、海外の専門家を招へいすることである。 2. 実施概要 行政職員、女性関連施設職員、大学院生、研究者、企業関係者等を対象として、「女性の活躍促進に向けた取組み ヨーロッパの経験から考える」をテーマとした国際シンポジウムを実施した。 3. 開催日時・場所 平成28年12月2日(金) 13:30~17:00 主婦会館プラザエフ 4. 国際的課題への対応 (1)女性教育のナショナルセンターとしての人的ネットワークを活用して、国内外から専門家を招へいし、男女共同参画の推進に係るEUと日本に共通する課題にして現状を分析し、解決のための方策について議論することを目指した。 (2)EUと日本における男女平等政策と取り組むべき課題について、参加者と海外の専門家が意見交換を行うことができる場を設定した。 5. グローバルセミナーの内容評価 (1)第Ⅰ部基調講演では、デンマーク政府の男女共同参画政策の歴史的変遷について講演を行った。第Ⅱ部パネルディスカッションでは、日本とポーランドの専門家による報告を行った。 (2)基調講演とパネルディスカッションの資料は事前に日英二カ国語の資料集を作成し、グローバルセミナー参加者に配付したほか、会館のホームページ上でもダウンロード可能な形式で公表している。また基調講演の動画も配信している。	
実績を裏付けるデータ	
1. 参加者 89名(定員100名) 2. アンケート結果 満足度 95.0%(非常に満足 42.0%、満足 53.0%) 有用度 96.0%(非常に有用 47.0%、有用 49.0%) 3. 基調講演者による記事の寄稿 日本語 4,000部 「ジェンダー平等の再定義」、『エイジアン・ブリーズ』79号、平成29(2017)年3月発行、p.1、公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 英語 2,400部 Redefining Gender Equality, "Asian Breeze" no. 79, March 2017, p.1, Kitakyushu Forum on Asian Women	
事業実績	
指標	H28
満足度(%)	95
高い満足度(%)	42

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	B	B	B	
適時性：「女性が輝く社会」の実現を目指して、平成27年8月には「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が成立し、女性支援政策が展開されている。平成28年度のグローバルセミナーでは、女性が社会で能力を十分に発揮するためには、どのような制度・支援が必要かを議論した。 独創性：EU諸国の中でも男女共同参画やダイバーシティの推進に関して、先駆的な取り組みをおこなっているが日本国内で紹介される機会が少ないデンマークの事例を提示した。 発展性：グローバルセミナーに参加した女性関連施設職員が、基調講演者にデンマークにおける男女共同参画の現状についての記事の執筆を依頼した。記事が掲載された冊子は日英両言語で出版され、国内外の関係者とデンマークの取り組みを共有することができた。 効率性：文部科学省とデンマーク大使館より後援を得て、国際女性会議WAW! (WAW! 2016) の公式サイド・イベントに登録し広報等に活用した。グローバルセミナーの企画、講師との調整、実施は専門職員、研究国際係長、係員及び派遣職員の4名体制で行い、講義資料の準備謝金の支払い手続き等、全て円滑に行うことができた。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度				
判 定	B				
○満足度 95.0%（非常に満足 42.0%、満足 53.0%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	年度計画どおりに実施されている。社会の中で女性が十分に能力を発揮することができることを目指して、「女性が輝く社会」政策が進められている。本事業を通じて、デンマークと日本における男女平等を推進するための好事例を学ぶ場を設けた。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
デンマークがどのようにして男女平等な社会を構築してきたかを主題とした講演は、参加者の満足度、有用度ともに高かったため、次年度以降も引き続き EU 諸国における先進事例の共有できるよう企画を進める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応
年度計画の項目 (I-4-(2)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応 ②課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」

事業名	課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究員、係長 計2名

年度実績概要	
1. 趣 旨	独立行政法人国際協力機構(JICA)がアジア地域において実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」のカウンターパート及び近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修。対象国をアセアン地域に広げた3年計画の第2年次。 人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が各国の人身取引対策に関する取組について相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として実施した。
2. 実施概要	①参加者：カンボジア、ベトナム、タイ、フィリピン、ミャンマー、マレーシアの人身取引対策の予防と保護の分野に携わる中央・地方政府機関職員(司法・法執行・入管、婦人保護、ソーシャルワーカー等)。 ②研修内容 ・各国の人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセス及び関連機関の関係の把握、グッドプラクティスや課題の共有 ・人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチの理解と、改善策やネットワーク強化に資する方策の検討を行うための発表と討議 ・幅広い関係者(・関係省庁等(東京入国管理局、都道府県警察等)、地方自治体の女性相談所等、民間団体(母子自立支援施設、若年女性支援団体等)、弁護士や有識者等を講師・見学先として、意見交換や講義を実施 ・関係機関や有識者を招いた成果発表会と意見交換会の開催
3. 開催期日	平成28年10月24日(月)～11月4日(金)(6カ国13名：女性9名、男性4名)
4. 開催場所	NWEC、JICA、内閣府、婦人相談所、東京入国管理局、社会福祉法人、民間団体等
5. 研修内容の評価	人身取引という地域に共通する喫緊の課題をテーマに取り上げ、行政官を対象に、人身取引問題の解決にジェンダー視点で取り組むことを促進する研修であり、ODA援助国である日本が実施するにふさわしい内容である。JICAの海外ネットワークとNWECの情報や研修ノウハウ、国内ネットワークが相互にいかされている。 本年度は、参加者同士が用意してきた自国の取組事例や、日本の具体的なケース事例に基づいた話し合いの機会を多く設け、人身取引対策に携わる関係者の国を越えた相互理解を深めた。成果発表会では新しい取組として、外部有識者によるミニ講演を入れたことは、研修生及び国内関係者からも人身取引問題を包括的にとらえることができたことと好評を得た。国内の人身取引対策や女性保護に携わる関係者も含めて、ASEAN諸国の取組について理解を深め、国内外のネットワークを深める役割も果たした。研修参加者からは帰国後に自国で役立つ知識や情報、国内外のネットワークを強化する機会を得たとともに、日本の男女共同参画施策及び女性に対する暴力に関する取組を学ぶ貴重な機会になったと高く評価されている。

実績を裏付けるデータ	
1. 参加者の概況 6カ国13名（女性9名、男性4名）（各国政府が選定・推薦しJICAとNWECで選定）	
2. アンケート結果 研修目標達成度100.0%（完全に達成46.2%、達成53.8%）	
事業実績	
指標	H28
研修目標達成度（%）	100
高い研修目標達成度（%）	46.2
参加国実績 （人、（）内は女性で内数）	
国名	H28
カンボジア	2
ベトナム	2(2)
タイ	3(3)
フィリピン	1
ミャンマー	3(3)
マレーシア	2(1)

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性	効率性		
判 定	B	A	B		
適時性：人身取引問題は国際的にも指摘されているが、アジア太平洋地域は女性や女児の被害が多く、政策的に重要な課題である。平成29年3月から外国人家事支援人材の受け入れ事業が開始し、「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」（平成29年11月1日施行）が制定されるなど、人の移動のグローバル化が進んでいる中で本プログラムを実施することは適時性がある。 発展性：人身取引の問題解決のために、受入国と送出国の間で多分野連携協働をテーマに行われる複数か国を対象としたワークショップ型の研修は、メコン地域からアセアン諸国に参加国が拡大し、被害者保護だけでなく送り出し国における移住労働の課題について取り上げるなど、参加国及び内容において発展性がある。 効率性：NWECの国際研修実施経験で培ったノウハウや調査研究の知見と行政や団体等とのネットワークをいかして企画したプログラムである。NWECの研修宿泊施設を利用し、委託管理収入も得ており効率性が高い。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの達成度				
判 定	B				
プログラムの達成度：＜研修参加者の85%以上からの満足の評価、40%以上からの高い満足の評価を得られたか＞ 研修参加者の研修目標達成度 100.0%（完全に達成 46.2%、達成 53.8%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
B	アセアン諸国の行政官を対象に、グローバルな課題である人身取引をテーマとして研修を実施することで、アジア地域における女性のエンパワーメント及び男女共同参画のための人材育成に貢献している。 研修では、参加国の実態やベストプラクティスを共有し、共通課題について話し合いを行う機会を設けるとともに、研修の後半では成果発表会を実施し、日本を含めた参加国の官民の関係者同士の相互理解を図るとともに、成果を発信しており、国際的課題の解決に向けた取組の推進に貢献している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
新しく制定された外国人技能実習法（平成28年11月公布、平成29年11月施行）や外国人家事支援人材の受入事業などのテーマを研修に組み込むことを検討していく必要がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応
年度計画の項目 (I-4-(2)) ③	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応 ③国際会議等で得た情報の発信

事業名	国際会議等で得た情報の発信
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長、研究員(3)、専門職員、係長、計6名

年度実績概要	
1. 会館主催国際研修及び会議等の開催 (1) アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー（平成28年10月3日（月）～7日（金）） テーマ：若年女性のキャリア形成 会館と協定を締結している、韓国両性平等教育振興院(KIGEPE)から同院職員(1名)が参加。また、研修生が研修から学んだ知見を基に国別報告をまとめた『2016NWECLリーダーセミナーレポート』を作成し、研修生及び所属機関並びに関係者へ配付。会館ホームページ上でダウンロードできる形で掲載するとともに、セミナーの様子をFacebookにて配信。 (2) NWECLグローバルセミナー（平成28年12月2日（金）） テーマ：女性の活躍促進に向けた取組み～ヨーロッパの経験から考える～ 基調講演者としてキーラ・アペル氏(デンマーク)を招聘。 基調講演及びパネルディスカッションの資料集を日英二カ国語で作成し参加者へ配付。会館ホームページ上でダウンロードできる形で掲載するとともに基調講演の動画を配信。実施報告をFacebookにて配信。 (3) 国際協力機構(JICA)委託事業 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」（平成28年10月24日（月）～11月4日（金）） 「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」のカウンターパート及び近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修。 実施報告を会館ホームページ及びFacebookにて配信。 (4) 人身取引学習パネルの展示及び貸出 会館が行った「人身取引の防止のための教育・啓発と連携方策に関する調査研究」の一環として、人身取引に関する教育・啓発パネル『人身取引と女性に対する暴力をなくすために』を作成し研修棟1階に展示。 また、貸出用パネルは、自治体や女性団体主催事業において活用され（5地域、参加者数8,544人）、会館利用者及び自治体等を通じて広く国内に発信した。 2. 国際会議等で得た情報の国内発信 平成28年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修＜女性関連施設・地方自治体・団体＞」において、平成28年3月に出席した「第60回国連女性の地位委員会(CSW)」での議論や合意結論について報告をした。なお、英文ホームページにおいても利用者の利便性向上を図るため改修を行った。	
実績を裏付けるデータ	
NWECLグローバルセミナー 満足度 95.0%（非常に満足 42.0%、満足 53.0%）	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性			
判 定	B	B			
適時性：NVEC 主催の国際研修・会議を開催し、これまでに構築した NVEC の取組等を情報発信・共有した。 また、「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム(WAW!)」シャイン・ウィークス公式サイドイベントに NVEC グローバルセミナーを登録することで、開催及び参加者を広く広報した。 発展性：『2016NVEC リーダーセミナーレポート』『NVEC グローバルセミナー資料集』の作成及び配付、韓国両性平等教育振興院(KIGEPE)主催国際会議での NVEC 事業報告、NVEC グローバルセミナー基調講演の動画等、全てにおいて会館ホームページや Facebook で研修成果を配信した。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度				
判 定	B				
NVEC グローバルセミナー 満足度 95.0% (非常に満足 42.0%、満足 53.0%)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
B	会館主催事業での国際会議出席等報告、NVEC グローバルセミナー基調講演の動画配信を会館ホームページや Facebook で配信を行い、NVEC の取組を国内外に広く普及した。 また、『リーダーセミナーレポート』は、研修生及び所属機関からも好評を得ている。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
来年度以降も、今までに構築してきた海外機関との協力体制を強化しつつ、アジア地域における男女共同参画及び女性教育の人材育成のための拠点としての役割を果たすとともに、海外における先進的な取組及び先進国における女性支援施策について情報収集を行う。また、国際研修修了生等とのつながりを一層強めるため、情報交換を定期的に行うなど、NVEC を中心としたネットワーク構築を図り、会館ホームページ及び Facebook 等で研修成果を国内外に普及させる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 5 横断的に取り組む事項 (1) 国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築
年度計画の項目 (I-5-(1)) ①②)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 5 横断的に取り組む事項 (1) 国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築 ①関係府省との連携強化、ネットワークの構築、②関係機関との連携・協働

事業名	国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員

年度実績概要	1 趣旨 関係府省との意思疎通と情報共有を図ることによって、連携して事業を行うとともに、「国立女性教育会館運営委員会」を有識者や関係府省から意見を聞く場として活用する。 年間24機関以上との協働で研修事業等に取り組み、連携によるより効果的な事業を実施する。 2 実施概要 (1) 関係府省との連携強化、ネットワークの構築 ①運営委員会出席：5府省（内閣府1回、文部科学省2回、外務省2回、厚生労働省1回、経済産業省1回） 各府省から、施策の説明等、情報提供を受けるとともに意見の交換を行った。 ②主催事業への講師派遣：10回（内閣府4回、文部科学省1回、外務省1回、厚生労働省2回、農林水産省1回、警察庁1回） 会館の主催事業において各府省より施策説明等を受けた。 ③関係省庁との情報共有（訪問・電話・メール等）：72件 主催事業への各省からの講師派遣や講演等を受けるに当たり事前に意見調整等を行った。 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課と定例会を開催し、情報の共有を行った。 (2) 関係機関との連携・協働 協働実績：23機関 【1】共催機関数：5 ①NPO法人全国女性会館協議会（「地域における男女共同参画推進リーダー研修＜女性関連施設・地方自治体・団体＞」（女性関連施設管理職コース）） ②日本学術会議「科学者委員会 男女共同参画分科会」、お茶の水女子大学、沖縄科学技術大学院大学（「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～」） ③リーダーシップ111（「女子大学生キャリア形成セミナー」） 【2】受託機関数：2 ①国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）（「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～」） ②独立行政法人国際協力機構（JICA）（課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」） 【3】後援機関数：12 ①男女共同参画学協会連絡会、埼玉県教育委員会（「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～」） ②経済産業省、厚生労働省（「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」） ③一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、日本私立大学団体連合会、全国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会、独立行政法人国立高等専門学校機構（「大学等における男女共同参画推進セミナー」） ④文部科学省、デンマーク大使館（「NWECグローバルセミナー」） 【4】連携協定による協働：4
--------	--

- ①埼玉大学（連携授業「男女共同参画社会を考える」）
- ②放送大学（「eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究」）
- ③韓国両性平等教育振興院(KIGEPE)（「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」、KIGEPE 主催の国際会議「持続的開発のためのジェンダーに配慮した教育」）
- ④カンボジア女性省（「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」、「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」）

（３）その他

- ①平成 27 年度に民間企業の正規職について男女（大学・大学院卒）を 5 年間追跡するパネル調査の第二回調査（「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」）を調査参加企業（17 社）の協力を得て実施した。
- ②「女性関連施設相談員研修」では、埼玉県警察本部子ども女性安全対策課より、「ストーカー事案の概要と被害防止のポイント」をテーマに情報提供いただいた。
- ③「女子中高生夏の学校 2016」では、55 の学会・団体から協力を得た。
- ④女性教育情報センターは、図書パッケージ貸出サービスとして、大学、高等専門学校、女性関連施設等 30 機関へ貸出を実施した。
- ⑤人身取引学習展示パネルの貸出
自治体や女性団体主催事業において活用された（5 地域、参加者数 8,544 人）
- ⑥アーカイブ企画展示「寄席で演じる～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」において 5 機関から資料提供等の協力を得た。
- ⑦平成 28 年 7 月 10 日～16 日、NVEC グローバルセミナー基調講演者との打合せのためデンマークを訪問。
子ども・教育・男女共同参画省及び王立図書館、女性博物館等を視察し情報収集を行った。
- ⑧平成 29 年 2 月 10 日、日本から帰国したフィリピン人身取引被害者女性やその子どもたちを支援している団体である、パティス女性センターの Rosalie G. Otero-Yamanaka 事務局長以下 2 名が来館。
フィリピン人女性と日本人男性との間に生まれた子どもたちが立ち上げているグループの活動内容や子どもたちへのキャリア教育の重要性等について会館職員と意見交換を行った。
- ⑨平成 29 年 3 月 13 日～24 日、Commission on the Status of Women(CSW：第 61 回国連女性の地位委員会)に日本政府代表団の一員として、研究国際室専門職員及び事業課専門職員の 2 名が参加した（ニューヨーク）。

実績を裏付けるデータ

事業実績

指標	H28
協働実績機関数	23

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	B	B	B	
適時性：平成26年12月26日付けで文部科学省から出された「国立女性教育会館における政策実施機能を強化するための関係府省と連携しての運営・組織体制の在り方について」の中で、関係府省との連携を一層強化する必要性が指摘されたことを受け、各府省からの運営委員会出席や主催事業への講師派遣等が着実に実施された。 独創性：女性教育のナショナルセンターとして、関連府省をはじめ関連機関の連携協力により、全国規模から国際的な事業まで多様な研修等で充実したプログラムを提供できたことは、会館ならではのものである。 発展性：様々な府省や関連機関と連携することにより、今後も幅広い事業展開が期待できる。 効率性：関係府省による参加者募集の広報協力や連携機関による実施経費分担や人的支援経費や人的労力の節減ができた。関係府省や連携機関のメンバーに、会館の事業展開や男女共同参画・女性の活躍推進への理解を進めることができた。					

2. 定量的評価

観 点	協働事業の取組実績				
判 定	C				
・協働事業の取組実績：23 機関（共催：5、受託：2、後援：12、連携協力：4）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
C	平成28年度は、女性関連施設、女性団体だけでなく、省庁や独立行政法人、大学、学術機関、団体等、様々な分野の機関・団体と連携を行ったが、目標にわずかに満たなかった。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
関係府省や関連機関との連携の実施は、会館の事業の充実をもたらすだけでなく、連携先及び関係者の男女共同参画の取組の促進につながることから、今後もあらゆる機会を捉えて拡大していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 5 横断的に取り組む事項 (2) eラーニングによる教育・学習支援の推進
年度計画の項目 (I-5-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 5 横断的に取り組む事項 (2) eラーニングによる教育・学習支援の推進

事業名	eラーニングによる教育・学習支援の推進
担当課室	事業課
スタッフ	研究国際室長、研究員(2)、事業課(兼)研究国際室専門職員 計4名

年度実績概要	
1. 研修事業の一部についてのeラーニング化 平成29年度に実施するリーダー研修の事前学習部分についてeラーニング化を行った。 (1) 放送大学と連携して行っている「eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究」から得た知見をもとに、以下をふまえて企画した。 ①動画使用を回避。コストと労力が増大だけでなく、統計等のデータの最新化に不利なためである。 ②評価は自動集計される選択方式のテストやアンケートのみとした。自由記述の採点が必要な評価は負荷が大きいためである。 ③コース末にアンケートを掲載した。コンテンツ改善にむけて有益な情報を得られるためである。 (2) 「男女共同参画の基礎知識」と題し、内容に国際比較データと日本の現状、男女共同参画のあゆみ、基本法、基本計画等を盛り込んだ。地域における男女共同参画の推進リーダーとしてふまえるべき事項を効率的に学習できることを目的とし、事業課と研究国際室の関係者による検討会を年5回実施して内容について吟味した。 (3) 本eラーニングは平成29年度に実施する。受講実績・アンケート結果をふまえ、更なる改善を図る。 2. 研修事業の動画配信 平成28年度中に会館で実施した研修における7つの講義・講演を収録し、Web上で動画配信を行った。さらに年度末に、視聴者の利便性の向上を図りYouTubeでの配信に着手した。	
実績を裏付けるデータ	
1. eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究（ここで得られた知見を、次項目「2. 研修事業の一部についてのeラーニング化」に反映した） (1) 平成28年4月～8月、「女性のキャリアデザインの展開（'17）」の内容を検討し、シラバスを作成するとともに、放送大学とオンライン授業「女性のキャリアデザインの展開（'17）」の共同制作及び実施に関する覚書協定を締結した。 (2) 平成28年7月～9月、オンライン講座で提供する動画素材のインタビュー収録を行った。 (3) 平成28年10月～平成29年2月、オンライン講座の講義資料、学習活動の作成、画面の動作確認や内容確認作業を行った。 (4) 平成28年10月～平成29年2月、オンライン講座を受講した職員を対象にヒアリングを行った。 (5) 平成29年12月～平成29年2月、オンライン講座の参考資料としてキャリア事例を9本作成し会館のキャリア事例サイトに掲載した。 (6) 平成28年12月～3月、男女共同参画に関する基礎講座を内容とする会館の研修事業で提供するeラーニング講座の内容を検討し、試行的に制作した。 2. 研修事業の一部についてのeラーニング化（前項目1（6）の具体的内容と特徴） (1) 1時間程度で学べる、A4で約50ページにおよぶeラーニング教材を開発した。 (2) これまでプレ講義として実施してきた内容を、学習者の都合にあわせ、研修前に地元や自宅でいつでもどこでも学習することを可能とした。 3. 平成28年度中に会館で実施した以下の研修における7つの講義・講演を収録し、動画配信を行った。 (1) 地域における男女共同参画推進リーダー研修 基調講演及び報告 (2) 男女共同参画推進フォーラム 特別講演及びシンポジウム (3) 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー 基調講演 (4) 大学等における男女共同参画推進セミナー 基調鼎談 (5) NVEC グローバルセミナー 基調講演	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	B	A	B	
適時性：多様化、高度化した学習需要に対応するため、インターネット上での配信に着手した。ICT の活用により、これまで受講できなかった層へ、情報や学習教材が提供できる地盤を整えた。 独創性：これまでつみあげた研修プログラム作成の知見に、放送大学と連携して開発したオンライン事業から得たノウハウを加えて、男女共同参画を推進するリーダー向けに特化した学習プログラムを開発している。これは NVEC のこれまでの実績と知見を生かした独創性のある取組と評価できる。 発展性：インターネットと e ラーニングの特性を生かし、研修内容の一部を学習者が自身の都合にあわせて、いつでもどこでも受講可能な形にした。 効率性：YouTube への切替えを行うことにより、平成 29 年度以降の大幅な予算の削減を実現した。					

2. 定量的評価

観 点	配信動画数				
判 定	A				
○配信動画数 7 本（年間目標 3 本に対して、200%超の実績）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	平成 28 年度は、放送大学を通じて 1 本のオンライン講座を運用、さらに同大学で平成 29 年度の運用開始に向けて 1 本の講座を制作した。それに加え、会館の研修事業で提供する e ラーニング講座も 1 年前倒しで試行版を制作した。並行して、YouTube の導入により、動画視聴の利便性の向上を図り、ICT のさらなる利活用に向けての基盤を整えた。 オンライン講座の作成及び運用で得た知見を活用し、会館の研修事業で提供する e ラーニング講座を制作していく上での参考にすることを目標とし、その結果として、主催事業の一部プログラムの試行 e ラーニングも実現、会館の研修やウェブ上で提供する資料や利便性の改善も並行して進めた。 これらの実績は適切なものであり、ねらいを十分に達成できたといえる。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、会館で実施した研修内容をオンデマンドで発信する。 「e ラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究」と「e ラーニングによる教育・学習支援の推進」で得た知見をベースに、会館独自のオンラインによる研修プログラムの開発に資する検討を行っていく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-1、5)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 1 組織体制の見直し 5 業務改革の取組の徹底
年度計画の項目 (Ⅱ-1、5)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 1 組織体制の見直し 5 業務改革の取組の徹底

事業名	組織体制の見直し、業務改革の取組の徹底
担当課室	総務課
スタッフ	理事長、理事、全職員

年度実績概要

1 趣旨

「国の行政の業務改革に関する取組方針～行政のICT化・オープン化、業務改革の徹底に向けて～」(平成26年7月25日総務大臣決定)に沿って、民間能力等の積極的な活用並びに業務の実施内容の不断の見直し及び評価により、業務運営の一層の効率化を図るとともに、効率化で得られた人的資源を会館の本来的なミッションの遂行に向けた業務の対応に振り向ける。また、職員の業務遂行能力の向上のための人事育成の在り方を検討することで、組織の生産性のさらなる改善を図る。

上記のことを通して、限られた人的資源という厳しい条件の下での業務運営の効率化を行っていく。

2 実施概要及び成果

(1) 業務運営の不断の見直し

原則として毎週火曜日に、理事長、理事、各課室長、総務課専門官、各課室係長が出席する運営会議を開催し、事業進捗状況の報告等を通し不断の業務見直しを行った。また、監事が出席する役員会を年4回、有識者から構成される運営委員会を年2回開催し、会館の業務運営について審議・協議を行った。

(2) 業務の実績に関する評価

① 自己点検・評価

各事業担当者が、事業成果を理事長、理事、各課室長が出席する自己点検評価委員会(計5回実施)において事業の成果と課題を共有した。

② 外部評価委員会による評価及び意見

- 平成28年6月と9月に外部評価委員会を実施し、12月には「平成27年度独立行政法人国立女性教育会館 自己点検・評価及び外部評価調査」を作成し、ホームページでも公開した。

(3) 業務実施体制の見直し

- eラーニングの教育・学習支援の推進のために、特別有期雇用職員を1名採用した。また、ホームページのリニューアル等のため、情報システムの専門家を客員研究員として1名導入した。
- 多様で柔軟な働き方に向けた取組として、試行期間を経て、テレワークを平成28年10月より導入した(平成28年度利用実績：3人)。

(4) 外部委託及びPFIの推進

- 施設管理、保守、消費税申告書類作成、アンケート集計や主催事業実施時のバス運行など事業実施に伴い派生する業務等について可能な限り外部委託した。
- 平成27年7月から、資産の有効活用と利用者の立場から見たサービス水準の向上を民間活力の導入により実現するため、施設の管理運営にPFIを導入した。事業課ではこれにより得られた人的資源を男女共同参画の推進の業務に向けた。その第一歩として「教職員を対象とした男女共同参画研修」に関する情報を収集し、試行的な研修の企画・実施や「地域における男女共同参画推進リーダー研修(女性関連施設・地方自治体・団体)」の事前学習のeラーニングプログラム開発に着手した。また、宿泊室へのテレビやアメニティ・タオルの設置、中庭でのバーベキューや食堂での音楽会の実施等、利用者へのさらなるサービス向上が図られた。また、旅行サイトからも利用予約が可能となり、利便性が向上した。

(5) ICTの活用

- 主催事業の動画配信をホームページ上で行い、物理的制約等により会館の研修に参加できない人々に対しても、効率的に会館研修内容の情報の発信・普及を行った。
- 会館のホームページを平成28年12月に全面的に改訂し、女性の活躍推進等に資する情報収集・発信の一元化を更に進めるとともに、ターゲット別の情報発信に重点を置く構成にした。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	効率性			
判定	B	B			

適時性：①行政運営の一層の効率化の観点から民間能力の積極的な活用が要請されている中、施設運営について、平成 27 年度から P F I を導入し民間事業者の能力を積極的に活用していること、② P F I 実施の結果、施設運営に従事していた会館職員を、教育再生実行会議の第六次提言（平成 27 年 3 月 4 日）が、提供を推進している e ラーニングプログラムの開発等に従事させることができるようになったこと、③「国の行政の業務改革に関する取組方針～行政の I C T 化・オープン化、業務改革の徹底に向けて～」（平成 26 年 7 月 25 日総務大臣決定）に沿って、職員の多様で柔軟な働き方としてテレワークを導入したことは時宜に適っている。

効率性：理事長、理事、各課室長、総務課専門官、関係職員の出席のもとほぼ毎週開催している運営会議に加え、自己点検・評価委員会や研修・調査研究事業検討会等の会議を通して、現場からトップまで随時情報共有をしているため、小規模組織であることによる情報伝達の容易さとあいまって、業務運営の見直しや検討が効率的に行うことができている。

また、平成 27 年 7 月より P F I 化した施設運営について、月 1 回の定例モニタリング等により常に把握し、必要に応じて会館より運営改善の要求を行う体制を整えたことにより、会館職員の人的資源を活用して「教職員を対象とした男女共同参画研修」の企画・実施や e ラーニングプログラムの開発など、男女共同参画の推進という会館の本来的なミッションに係る業務に振り向けた、効率的な業務運営が可能となった。

またテレワークを導入したことで遠距離通勤や育児、介護の負担がある職員が効率的な業務の遂行が可能になった。

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	職員全体の情報共有が容易であることなどの小規模組織の利点をしっかりと活用しながら、運営会議を始め、研修・調査研究検討会、役員会、自己点検評価委員会、外部評価委員会等の会議・委員会を経て着実に P D C A サイクルを回し、業務改善を行っている。 またテレワークを導入したことで調査研究等の業務に集中できるといった、業務の生産性・効率性の向上が図られた。 また、P F I の導入により民間能力を活用することによって、「教職員を対象とした男女共同参画研修」の企画・実施や、e ラーニングプログラムの開発などの新規の事業実施へ人的資源の投入が可能になった。効率的な業務運営が図られている。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
・ P F I 事業が停滞しないように、引き続きモニタリング等により運営体制を常に把握し、必要に応じて業務改善要求を行う。また試行的に実施した「教職員を対象とした男女共同参画研修」の企画・実施、e ラーニングプログラムの開発など、男女共同参画の推進という会館の本来的なミッションに係る業務について引き続き充実に努める。P F I の導入により得られた人的資源を政策課題に対応した事業等に投入するなど、引き続き業務運営の効率化を図る。 ・ 小規模組織であることによる情報伝達の早さの利点を生かし、今後も、業務運営の見直しや検討を効率的に行うよう努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-2)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 2 人件費・管理費等の適正化
年度計画の項目 (Ⅱ-2)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 2 人件費・管理費等の適正化

事業名	人件費・管理費等の適正化
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、総務課専門官、人事・企画係長、会計係長、会計係員 計5名

年度実績概要	
1. 趣旨 ・人件費については、国家公務員の給与水準に準拠し、役職員給与の適正化に取り組む。 ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。 ・平成28年度は、一般管理費（公租公課、人件費相当額を除く。）については、平成27年度と比して3%以上、業務経費（公共施設等運営事業等関係経費を除く。）については平成27年度と比して1%以上の効率化を図る。 2. 人件費の適正化 ・平成27年度から引き続いて、理事が事務局長を兼任し、人件費削減を図った。 - また、平成28年人事院勧告に基づく「一般職の職員の給与に関する法律」の改定に準拠し、役職員給与も同様に対応した（平成28年12月に28年4月に遡って実施）。 ・ラスパイレス指数は、事務職が国家公務員比85.8、研究職が国家公務員比58.4となっており、国家公務員と比較して低い水準にある。なお、役職員の報酬・給与等と職員給与については、その実績値と、国家公務員及び他法人の給与水準との年額の比較をHPにおいて情報公開している。 ・「国と異なる諸手当」及び「法人独自の諸手当」の支給はない。 ・法定外福利厚生費については、医療・健康にかかる費用などを支出。 ・健康保険組合の保険料に関する労使負担割合については、職員については国家公務員共済組合の割合に準じている。また、有期雇用職員については、全国健康保険協会の健康保険料率に従っている。 3. 関係機関・団体との連携による経費等の削減 ・科学技術振興機構受託事業「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～」国際協力機構課題別研修受託事業「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」を4,957千円の受託費用を受けて行った。 ・日本学術振興会から科学研究費補助金収入1,400千円を得て、研究業務を行った。 ・「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」において東京会場を提供した放送大学の協力により、会場使用料を負担することなく事業を実施できた。 ・利用を休止しているプール棟について、東京大学の資料保管庫として貸し出し、1,163千円の賃借料を得ている。 4. 一般管理費、業務経費の効率化 (1) 一般管理費効率化 平成28年度 13,906千円 計画値 平成27年度の一般管理費14,704千円と比して-3%、14,263千円 達成度 102.6% (2) 業務経費効率化 平成28年度 122,935千円 計画値 平成27年度の業務経費119,712千円と比して-1%、118,515千円 達成度 96.4% ホームページ改訂による費用が業務経費効率化の目標未達成の大きな原因である。しかし第4期中期目標期間において、特に優先度の高いホームページの改訂を初年度に戦略的・集中的に実施することで、広報・情報発信を効果的・効率的に行う基盤を整備できたことは評価できる。	
実績を裏付けるデータ	
一般管理費効率化	28年度
	計画値 14,263千円
	実績値 13,906千円
業務経費効率化	達成度 102.6%
	計画値 118,515千円
	実績値 122,935千円
	達成度 96.4%

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性	効率性		
判 定	B	B	B		

適時性：平成 26 年 12 月 26 日付け「国立女性教育会館における政策実施機能を強化するための関係府省と連携しての運営・組織体制の在り方について」において、会館はホームページをリニューアルし、各組織・機関と相互にリンクするとともに、情報の集約・発信等を行うことについて指摘がなされた。この指摘を受け、第 4 期中期目標から「広報・情報発信事業」は優先度の高い事業として取り組んでいる。会館が第 4 期中期目標期間の初年度に、ホームページ改訂のために組織横断的なプロジェクトチームを立ち上げ、ホームページを全面的に改訂したことは時宜にかなっている。

発展性：ホームページの全面的改訂により、情報の見やすさに加え、ターゲット別の情報発信やスマートフォン対応などによりホームページの利便性が向上し、ホームページアクセス件数の増加による広報・情報発信の充実が期待できる。

効率性：広報・情報発信の充実・強化を目的としたホームページの全面的改訂に向けて、組織横断的なプロジェクトチームを立ち上げ企画・検討するとともに全館体制で効率的に実施した結果、予定していた平成 28 年 12 月 20 日改訂が実現できた。

2. 定量的評価

観 点	一般管理費効率化	業務経費効率化			
判 定	B	C			

一般管理費効率化：平成 28 年度 13,906 千円
計画値 平成 27 年度の一般管理費 14,704 千円と比して-3%、14,263 千円
達成度 102.6%で目標を達成。

業務経費効率化：平成 28 年度 122,935 千円
計画値 平成 27 年度の業務経費 119,712 千円と比して-1%、118,515 千円
達成度 96.4%で目標を未達成。

目標が達成できなかった主な要因は、ホームページの全面改訂に伴う費用である。この費用は以下の理由によりやむをえない支出と考える。①平成 26 年 12 月 26 日付け「国立女性教育会館における政策実施機能を強化するための関係府省と連携しての運営・組織体制の在り方について」において、会館は情報の一元化・発信のためホームページをリニューアルするよう指摘がされており、第 4 期中期目標にも広報・情報発信事業が優先度の高い事業として位置づけられていること。②広報・情報発信事業を戦略的・効果的に行うために平成 28 年度にホームページの全面改訂を一括して実施することが効果的・効率的であること。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	一般管理費は、27 年度比 3%以上削減するという目標を達成した。一方、業務経費の削減目標は達成できなかった。その主な要因は、ホームページの全面的改訂に伴う費用である。第 4 期中期目標期間において、特に優先度の高いホームページの改訂を初年度に戦略的・集中的に実施することで、広報・情報発信を効果的・効率的に行う基盤を整備できたためやむをえない支出と考える。 人件費については、前年度同様ラスパイレス指数は 100 を下回っており、適正な支出を行った。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今回の業務経費の増はホームページ改訂という特殊事情によるものであるが、一般管理費、業務経費とも常日頃から予定される支出額の把握に努め、それをもとに着実な経費削減に努める。 今後も関係機関・団体との連携による経費等の削減につとめる。 また、ラスパイレス指数が 100 を下回る適正な人件費支出に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-3)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 3 取引関係の適正化
年度計画の項目 (Ⅱ-3)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 3 取引関係の適正化

事業名	取引関係の適正化
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、会計係長、専門職員、会計係 計4名

年度実績概要	
1 契約の競争性、透明性の確保 (1) 契約に係る規程類の整備及び運用状況 - 少額随意契約に係る基準額を平成19年度より国と同基準とし、一般競争入札の範囲を拡大している。 (2) 契約の執行体制、審査体制 - 各課室からの要望や仕様書を総務課会計係でとりまとめ、一般競争入札が必要な案件では入札を執行して契約を締結している。入札金額に満たない物品・役務・工事等の発注に対しては、過去の契約単価を調査し、複数の業者から見積書を徴収するなどして、安価な契約の締結に努めている。 (3) 契約監視委員会を平成28年11月と平成29年3月の2回開催し、随意契約、一者応札等について報告を行い、審査を受けた。指摘事項もなく、適正な契約を行っているとの評価を受けた。 2 契約実施状況 (1) 随意契約の見直し状況 「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成21年11月17日閣議決定)に基づき、外部有識者2名を含む契約監視委員会を設置している。また「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づく取組みを着実に実施するため調達等合理化計画を策定により、入札・契約の入札の競争性、透明性を確保したものの、一者応札は2件あった。 - 平成27年度に引き続き入札可能なものについては全て入札を実施した。平成28年度随意契約の実績は、契約の性質上、入札が不可能な「水道料金(埼玉県嵐山町)」「土地借料(埼玉県)」「郵便料金(信書)(日本郵便)」「ホームページ改修に係るサーバ等切替支援業務(日本電気)」の4件と国との契約である「排水処理施設改修工事」「宿泊棟給湯設備改修設計業務」の2件である。 (2) 一者応札について - 一者応札の削減に向け、引き続き「十分な公告期間の確保、入札条件の緩和」等の努力を行った結果、平成28年度は「職員派遣業務」、「ホームページリニューアル及びCMS構築等業務委託一式」2件であった。どちらも業者の入札辞退や総合評価落札方式での技術審査不合格が原因であり、多数の入札書の取り寄せがあったことなどから、競争性は確保されていると契約監視委員会で確認されている。引き続き、公告期間の十分な確保や業務等準備期間の十分な確保等により一者応札の削減に向け努力する。 - なお、一者応札の原因は次のとおりである。 「職員派遣業務」については、派遣期間を5月16日からとしており、派遣登録しているスタッフが4月に契約が決まり人材不足となっていたため、仕様を満たす人材がいなかった。入札仕様書は3者から取り寄せの依頼があった。 「ホームページリニューアル及びCMS構築等業務委託一式」では、総合評価落札方式を採用した。入札説明会に14者が参加し、3者から入札参加表明を受け、技術提案書と入札書の提出があった。館内で実施した技術審査において2者が要件を満たしていないため失格となったことから、入札が1者となったものである。 (3) 再委託は、無し。 (4) 関連法人は、無し。	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	効率性			
判 定	B	B			

適時性：少額随意契約に係る基準額の国への準拠や「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づく契約監視委員会の設置等、適切な処置がなされている。

効率性：一者応札の削減に向け、引き続き十分な公告期間の確保、入札条件の緩和など、契約業務を効率的に実施した。事柄の性格上、定められた手続きの適切な適用に尽力した。

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	整備された会館規程に基づいて契約が適正に執行されている。 平成 28 年度調達等合理化計画（平成 28 年 6 月 30 日策定）における一者応札の評価指標を達成できてはいないが、競争性・透明性の確保は契約監視委員会で確認されている。 契約監視委員会も確実に開催した。 随意契約は、契約の性質上、入札契約とすることが不可能な水道料金、土地借料、郵便料金（信書）、ホームページ改修に係るサーバ切替支援業務と国との契約による排水処理施設改修工事、宿泊棟給湯設備改修設計業務の 6 件のみである。 低価格物品等の調達等、随意契約においても、複数業者からの見積り徴収を徹底しており、契約に関する競争性も確保されていると言える。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、適正な契約の実施に努め、NVEC ホームページ等を用いた積極的な情報公開により公平性・透明性の確保を図る。また、公告期間の十分な確保や業務等準備期間の十分な確保等により一者応札の削減に向け、引き続き努力する。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-4)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 4 間接業務等の共同実施
年度計画の項目 (Ⅱ-4)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 4 間接業務等の共同実施

事業名	間接業務等の共同実施
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、専門官、人事・企画係長、人事・企画係(3)、会計係長、会計係 計8名

年度実績概要	
1. 趣旨 国立特別支援教育総合研究所、国立青少年教育振興機構、教員研修センター（当時）と共同した間接業務等の実施を、費用対効果等を検証しつつ行う。 2. 実施概要及び成果 ●共同調達： 【検討・実施】 - 事務用品（ドッチファイル等） 平成27年度から調達実施している。規格の統一でさらに経費削減を目指したが、各法人において必要な規格が異なること、また、聞取り・見積書を徴取した結果、経費削減があまり見込めないことが判明し、従前通りの共同調達を実施した。この結果、共同調達開始前平成26年度比で4法人合計年間17万円程度を削減した。 【検討し、平成29年度から実施予定】 - 蛍光管、電子書籍、古紙溶解（うち電子書籍、古紙溶解は平成28年度からの新規検討案件） 【引き続き検討】 - 電気供給、事務用品（事務用電子計算機）賃貸借、LED管・LED電球、非常食（うちLED管・LED電球、非常食は平成28年度からの新規検討案件） 【実施困難と判断】 - 封書運送業務（メール便）、デジタル複合機（コピー機）の賃貸借・保守業務 経費削減の見込みが乏しいなど困難な面が多いことが判明した。 ●共同事務： 【検討・実施】 - 会計事務等の内部監査 内部監査支援員として、会館職員が国立青少年教育振興機構、教員研修センターの内部監査に参加するとともに、会館の内部監査に国立青少年教育振興機構、教員研修センターが参加した。 - 宿泊研修施設利用者の相互受入（平成28年度からの新規検討案件） 国立青少年教育振興機構（国立オリンピック記念青少年総合センター）と相互の利用の空き状況のバナーを張った。 【検討し、平成29年度から実施予定】 - 国立大学法人等職員採用合同説明会の共同運営（平成28年度からの新規検討案件） 平成29年度より広報活動も含めて実施していくこととした。 【実施困難と判断】 - 源泉徴収票（外部者の謝金）作成 - 旅費計算事務 マイナンバーの問題、経費削減の見込みが乏しいなど困難な面が多いことが判明した。 ●共同職員研修： 【検討・実施】 「新規採用職員研修」（4月）、「独立行政法人制度（法律、評価、会計等）研修」（11月）、「女性活躍・男女共同参画推進研修」（2月：平成28年度からの新規検討案件） 【引き続き検討】 - 専門研修（コンプライアンス、個人情報保護、情報システム、危機管理、設備保全等：平成28年度からの新規検討案件）	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性			
判 定	B	B			
適時性：女性活躍推進法が施行され、職場での女性活躍・男女共同参画が重要視される中で、年度当初予定していなかった「女性活躍・男女共同参画推進研修」を平成 28 年度中に検討の上、企画し共同実施したことは時宜になっている。 独創性：共同実施した研修「女性活躍・男女共同参画推進研修」は会館が唯一のナショナル・センターとしてこれまで実施してきた研修事業で蓄積してきた男女共同参画等に関する独自の知見が生かされたものである。					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	検討にとどまらず、共同調達（事務用品（ドットファイル等））、共同事務（会計事務等の内部監査及び宿泊研修施設利用者の相互受入）、共同研修（新規採用職員研修、独立行政法人制度（法律、評価、会計等）研修、女性活躍・男女共同参画推進研修）を実施した。 また、年度当初予定していなかった「女性活躍・男女共同参画推進研修」を平成 28 年度中に検討の上、企画し共同実施したことで、会館が唯一のナショナル・センターとしてこれまで実施してきた研修事業で蓄積してきた男女共同参画等に関する独自の知見を他法人の職員に広めることができた。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
・今後も、未検討の分野について検討を行い、中期目標期間中に 15 業務検討という目標を着実に達成する。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ－6)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 6 予算執行の効率化
年度計画の項目 (Ⅱ－6)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 6 予算執行の効率化

事業名	予算執行の効率化
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、会計係長、会計係 計3名

年度実績概要
1. 趣旨 独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。 2. 実施概要及び成果 「独立行政法人国立女性教育会館業務達成基準の取扱いについて」（平成24年1月10日理事長裁定）に従い、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築した。事業の実施状況をもとに、業務達成基準に基づく収益化を実施し、効率的な予算執行に努めた。 なお、事業の実施状況については、理事長、理事、課室長等が出席する運営会議（週1回開催）や監事が出席する役員会（年4回開催）や研修・調査研究事業検討会、自己点検評価委員会で適宜、報告がなされている。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	効率性			
判 定	B	B			
適時性・効率性：独立行政法人会計基準の改訂に沿って、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を整備できた。					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	「独立行政法人国立女性教育会館業務達成基準の取扱いについて」（平成24年1月10日理事長裁定）に従い、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築した。業務達成基準に基づく収益化を実施し、効率的な予算執行に努めた。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
予算配分を適正に実施し、個々の業務の予算管理等を徹底することにより、より効率的な業務の実施を目指していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅲ－１－(１) (２))	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 １ 自己収入の拡大 (１) PFI 事業による運営権対価等の確保 (２) 外部資金の積極的導入
年度計画の項目 (Ⅲ－１－(１) (２))	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 １ 自己収入の拡大 (１) PFI 事業による運営権対価等の確保 (２) 外部資金の積極的導入

事業名	自己収入の拡大
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員

年度実績概要
1. 趣旨 (1) PFI 事業による運営権対価等の確保 PFI 事業の導入による運営権対価を得ることにより、安定した自己収入を確保する。 PFI 事業の経常収益のプラスを目指して、PFI 事業者と協力して施設利用を促進する。 (2) 外部資金の積極的導入 科学研究費補助金等の申請や、国・企業等からの受託事業の積極的な受入れを行い、外部資金を確保する。 2. 実施概要・成果 (1) PFI 事業による運営権対価等の確保 PFI 事業の導入による自己収入確保 平成 28 年度運営権対価の納入額：42,582 千円 PFI 事業者と協力して、経常利益プラスに向け、営業活動の支援や幅広い広報活動等を行った。具体的には県内の商工会連合会や地元企業を中心に訪問活動を行い、加盟する組織へ会館利用の呼びかけを行った。また、会館、内閣府、文部科学省、嵐山町の広報誌、メールマガジン等を通して、主催事業の参加者募集をはじめ、女性アーカイブセンターの企画展示等、会館の取組について積極的に広報を行った。内閣府や文部科学省が実施する全国的な会議や研修・イベント等の際に、利用案内チラシ・パンフレットや会館概要チラシ等の配布を積極的に行った。 今後の施設利用の促進のため、宿泊棟に Wi-fi を設置した。 (2) 外部資金の積極的導入 積極的な外部資金の導入に努め、受託事業 2 件 (4,957 千円)、科学研究費補助金 1 件 (1,400 千円)、寄附金 5 件 (565 千円) を獲得した。 またその他事業収入として、文献複写料、職員講演料、「利用を休止しているプール棟を東京大学の資料保管庫として貸し出したことによる賃借料」等として、2,161 千円の収入を得た。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性		
判定	B	B	B		
適時性：PFI 事業者による訪問活動・自主事業を通じた新たな利用層への働きかけを行うとともに、会館も引き続き積極的な広報を行ったことは、時宜にかなっており、今後、企業や学校、海外からの利用が期待できる。 発展性：Wi-fi 設置など、今後の利用拡大に向け期待できる。 効率性：PFI 事業者と連携して、企業等への訪問が効率的に実施できた。					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	PFI 事業者からの運営権対価収入で安定した自己収入を得ることができた。また、PFI 事業者と連携した広報活動や PFI 事業者に対する営業活動の支援を行うことにより、今後の施設利用の促進を図り、PFI 事業者の経常利益を上げ、プロフィットシェアリングを得られる土台作りができた。27 年度に引き続き外部資金を獲得するため、受託事業や科学研究費補助金の申請を行うとともに、寄付金を得るため広く広報を行った結果、受託事業経費、科学研究費補助金獲得額、寄附金収入額で計 8 件（6,922 千円）の資金を獲得することができた。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
PFI 事業者とより一層連携して会館の広報に努め、PFI 事業の経常収益のプラスを目指していく。 また、引き続き、業務負担を勘案しつつ、29 年度以降も外部資金導入に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ—4—(1) (2))	Ⅳ その他業務運営に関する重要事項 4 適切な法人運営体制の充実 (1) 内部統制の充実 (2) 組織・人事管理の適正化
年度計画の項目 (Ⅳ—4—(1) (2))	Ⅳ その他業務運営に関する重要事項 4 適切な法人運営体制の充実 (1) 内部統制の充実 (2) 組織・人事管理の適正化

事業名	適切な法人運営体制の充実
担当課室	総務課
スタッフ	理事長、理事、全職員

年度実績概要
1 趣旨 (1) 内部統制の充実 ・理事長のリーダーシップのもと、運営会議や職員研修等を通じて会館が担う役割や課題等の情報を職員が共有する。 ・所要の規則等を整備し、ガバナンスの保持、コンプライアンスの遵守等内部統制を充実する。 ・内部規定を必要に応じて見直し、内部統制・リスク管理の充実及び監事による監査機能を強化する。また、監事による監査及び会館が自ら行うモニタリングの結果を業務に反映させ、内部統制等の継続的な見直しを図る。 (2) 組織・人事の適正化 ・配置転換や人事交流により、組織の活性化を図るとともに、職員の資質を向上させるための研修を実施し、他機関の実施事業等への職員の参加を促す。 ・客員研究員の活用体制を工夫し、職員との連携のもと、充実した体制とする。 2 実施概要・成果 (1) 内部統制の充実 ① 理事長のリーダーシップによる事業運営 【会議を通じた課題等に関する情報の共有】 ・<u>運営会議</u> 原則として毎週火曜日に、理事長、理事、各課室長、総務課専門官、各課室係長の出席のもと運営会議を開催し、各事業における進捗状況の報告等を通して不断の業務見直しを行った（平成28年度開催実績：45回）。 ・<u>内部統制・リスク管理委員会</u> 平成29年3月に内部統制・リスク管理委員会を開催し、会館のミッションを有効かつ効果的に果たすために、業務遂行の障害となる要因をリスクとして洗い出しその対応策を検討した。 ・<u>研修・調査研究事業検討会</u> 課室横断的なメンバーから構成される研修・調査研究事業検討会を原則月1回開催し、事業内容の検討及び振り返りを行った（平成28年度開催実績：11回）。 ・<u>役員会</u> 監事が出席する役員会を年4回開催し、会館の業務運営及び評価に関する重要事項を審議した。 ・<u>運営委員会</u> 有識者から構成される運営委員会を年2回実施し、会館の業務運営に関する基本事項等について協議した。 ・<u>自己点検・評価委員会</u> 中期目標を達成するための各年度の業務運営に関する自己点検・評価について、理事長、理事、各課室長等が出席して、平成27年度事業に対して5回実施した。 【職員研修等を通じた職務に係る意識の醸成】 ・4月6日～7日の2日間にわたり館内において新任職員を対象とした研修を実施し、独立行政法人等の制度並びに会館のミッション及び事業内容への理解を促した。 ・国立青少年教育振興機構、国立特別支援教育総合研究所、教員研修センター（当時）との共同で実施する職員研修の一環として、会館が開催した「独立行政法人制度（法律、評価、会計等）研修」（11月）及び「女性活躍・男女共同参画推進研修」（2月）並びに他法人が開催した「新規採用

職員研修」（４月）に職員が参加した（３研修に延べ１６人参加）。

- ・サイバー攻撃の脅威が増大する等して従来以上に厳重な情報管理が要請されている近年の状況を踏まえ、情報セキュリティに関する研修に職員を参加させた。また、平成 29 年 1 月に標的型メールに関する訓練を実施し、不審なメールの添付ファイルへの開封等を行わないよう注意喚起するとともに対応について周知し、職員の情報セキュリティへの意識をさらに高めた。
- ・放送大学と連携の上、会館が蓄積してきた研究等の成果をもとに作成したオンライン講座（「女性のキャリアデザイン入門（'16）」）を会館の職員研修の一環として実施した。
- ・平成 28 年 11 月及び 2 月に利用者のある平日昼間の地震、火災等を想定した避難訓練を実施した。訓練には、嵐山分署の消防職員立合いのもと、会館職員及び P F I 事業者が参加し非常時に必要な行動を確認した。

② コンプライアンス体制の整備

【規程等の整備】

他法人の状況も参考にしつつ、以下の規程等の整備を行った。

- ・平成 28 年人事院勧告に応じた会館職員給与規程等の改正
- ・会館の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する規程及び同規程第 21 条に規定する個人情報の消去の指針の改正
- ・会館における研究活動上の不正行為に関する基本指針及び研究費の不正使用の防止等に関する規程の改正並びに研究データの保存等に関するガイドライン及び競争的資金の間接経費の執行に係る基本方針の新設

【監査】

- ・監事監査規程に基づき、2 名の監事による監査を実施。平成 28 年度は監事監査計画に基づき、四半期毎に計 4 回の定期監査（業務及び会計を対象）を実施した。監査結果を理事長に報告し、いずれも是正勧告を必要とする事項はなかった。
- ・監査室員による内部監査を実施し、指導の上、再監査を行い、確実に個人情報の消去等の手続きが履行されていることを確認した。なお、内部監査においては国立青少年教育振興機構の職員が、内部監査支援員として参加した。

③ リスク管理の充実

- ・他法人の状況も参考にしつつ、リスク管理の手順等について定めた「会館リスク管理要領」を制定した。

④ 評価の業務への反映

- ・平成 26 年度文部科学省業務実績評価の結果を踏まえ、平成 27 年度に引き続き平成 28 年度の業務運営を改善し、その内容を会館ホームページにて公表。

（２）組織・人事管理の適正化

① 人事交流等による組織の活性化

- ・文部科学省、国立大学法人、都道府県教育委員会と人事交流を行っている（平成 28 年度新規受入実績：4 名（文部科学省：2 名、東京大学：2 名）、平成 28 年度新規派遣実績：1 名（東京大学））。
- ・前年度に引き続き、4 月に国立大学法人等職員採用試験合格者から 1 名を常勤職員として採用したことに加えて、e ラーニングの教育・学習支援の推進のために、1 名を特別有期雇用職員として採用した。

② 研修への参加促進による職員の資質向上

- ・各府省や法人等が実施する研修について、従来から参加させていた人事・個人情報保護・文書管理・内部統制・評価・簿記・労働法等の研修に加え、情報セキュリティに関する研修にも職員を参加させた（59 研修に延べ 82 名参加（前述の 4 法人共同実施による研修は除く））。
- ・例年通り、職員採用時の新任職員研修を 4 月に実施したことに加え、オランダの女性・情報専門家を招き、「国際的な女性情報ネットワークの構築とジェンダーセンター職員の専門性」をテーマにした職員研修（5 月）の機会を設けて、国外の女性情報ネットワークの現状等について職員の知見を広げた。
- ・将来の業務の中核となる常勤職員を計画的に育成するため、国立大学法人等採用試験合格者から採用した職員等を対象とした研修の受講、大学院への派遣、人事ローテーション等の計画を盛り込んだ職員の処遇方針を制定した。なお、平成 28 年度は図書系職員を大学院へ 1 名派遣している。

③ 客員研究員の活用

- ・企業向け研修の企画やホームページのリニューアルなどのため、企業関係や情報システムに詳しい専門家など客員研究員を 13 名導入している。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	発展性	効率性			
判定	B	B			
発展性：国立大学法人等採用試験合格者から採用した職員等を対象とした研修の受講等の計画を盛り込んだ職員の処遇方針を制定したことにより将来の業務の中核となる常勤職員の資質向上を計画的に実施することが期待できる。 効率性：自宅でも学習できるオンライン講座（「女性のキャリアデザイン入門（'16）」）を会館の職員研修の一環として実施し、職員を一堂に集めて研修を行う手間を省略できた。また、国立青少年教育振興機構、国立特別支援教育総合研究所、教員研修センター（当時）と共同で職員研修を行い個別に研修を行うよりも労力をかけずに研修が実施できた。					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	・職員全体の情報共有が容易であることなどの小規模組織の利点をしっかりと活用しながら、運営会議を始め、研修・調査研究事業検討会、自己点検評価委員会、外部評価委員会等の会議を経て、着実にPDCAサイクルを回し、業務改善を図っている。また、コンプライアンスやリスク管理に関する規程等の整備を行い、コンプライアンス体制の整備、リスク管理の充実に努めた。この結果、内部統制の充実という目標を達成することができた。 ・職員の多くが人事、個人情報保護、文書管理、内部統制、評価、簿記、労働法、情報セキュリティ等、多様な研修に参加し、資質の向上を図った。また、他機関の協力を得て、定期的な人事交流を実施している。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
・平成28年度はコンプライアンスやリスク管理に関する規程等の整備を行った。平成29年度以降も引き続き内部統制やリスク管理、コンプライアンス体制を充実し、時代の要請に的確に応じた業務展開を推進していく。 ・平成28年度は国立大学法人等職員採用試験合格者から1名を常勤職員として採用したことに加え、eラーニングの教育・学習支援の推進のために、1名を特別有期雇用職員として採用した。今後も適宜、業務遂行のために必要な職員の採用に努める。 ・将来の業務の中核となる常勤職員を計画的に育成するため、国立大学法人等採用試験合格者から採用した職員等を対象とした研修の受講等の計画を盛り込んだ職員の処遇方針を制定した。今後はこの方針に基づき職員の研修等を実施するとともに方針について随時見直す。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ―5)	Ⅳ その他業務運営に関する重要事項 5 PFI 事業の適切な実施のための監視・協力
年度計画の項目 (Ⅳ―5)	Ⅳ その他業務運営に関する重要事項 5 PFI 事業の適切な実施のための監視・協力

事業名	PFI 事業の適切な実施のための監視・協力
担当課室	総務課、事業課
スタッフ	総務課長、専門官、会計係長、施設担当専門職員、事業課長、事業係長、事業課専門職員 計 7 名

年度実績概要	
1. 趣旨 利用者へのサービス水準の向上や適切な運営体制等、PFI 事業に係る契約内容が着実に実施されているかについてモニタリングを行う。 宿泊施設を含む施設利用率の向上のため、関係各省庁や地方公共団体等が主催する事業等での広報資料等の配布依頼を行うとともに、PFI 事業者が実施する利用拡大の取り組みに協力する。 宿泊施設の利用率については 42%、研修施設の利用率については 52%を目指し、施設全体の利用率として 47%を達成する。 2. 実施概要及び成果 (1) PFI のモニタリング 毎月 1 回の定例会議において会館職員が PFI 事業者から運営状況の報告を受け、契約内容が着実に実施されているかモニタリングを実施し、適切なアドバイスや協力を行った。その結果、PFI 事業者が独自でパソコン教室、パン作り教室など、会館の認知度を高め、利用者を増やすために 24 回の自主事業を行った。また、PFI 導入以来、宿泊室へのテレビやアメニティ・タオルの設置、中庭でのバーベキューや食堂のメニュー改善、音楽会の実施、旅行サイトから利用予約が可能となったこと等、利用者の利便性が向上し、さらなるサービス向上が図られている。 また、今年度より新たな取組として、PFI 事業者がネットからの利用者を増やすため、インターネットエージェントを活用した宿泊予約や、SNS を活用した広報を行うなど、平成 29 年度以降の利用者拡大に向けて着実に活動した。 (2) 施設利用率向上に向けた広報 会館は、PFI 事業者の経常利益プラスに向け、営業活動の支援や幅広い広報活動等を行った。具体的には県内の商工会連合会や地元企業を中心に訪問活動を行い、加盟する組織へ会館利用の呼びかけを行った。また、会館、内閣府、文部科学省、嵐山町の広報誌（月刊）、メールマガジン（月刊、隔週）等を通して、主催事業の参加者募集をはじめ、女性アーカイブセンターの企画展示等、会館の取組について積極的に広報を行った。内閣府や文部科学省が実施する全国的な会議や研修・イベント等の際に、利用案内チラシや会館概要の三つ折りリーフレット等の配布を積極的に行った（三つ折りリーフレット 11,430 枚を配付）。 (3) 施設利用率 こうした働きかけの結果、宿泊施設利用率 38.3%、施設全体利用率 46.7%は目標値（宿泊施設利用率 42%、施設全体利用率 47%）に達しなかったものの、研修施設利用率 55.1%は目標値 52%を達成した。	
実績を裏付けるデータ	
指標	H28
宿泊施設利用率（%）	38.3
研修施設利用率（%）	55.1
施設全体利用率（%）	46.7

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	発展性	効率性			
判 定	B	B			

発展性：PFI 化後、PFI 事業者が独自で自主事業を行ったり、食堂のメニュー改善を図るとともに地元新聞に広告を折り込むなど、新たな取組を行うことで地域住民の利用も増えている。昨年度から引き続き、PFI 事業者が県内の商工会連合会や地元企業、国立大学等へ訪問し、会館の利用案内を呼びかけたことにより、徐々にではあるが新規団体利用も増え、成果も現れている。28 年度は、埼玉県内の高等学校へ訪問したことにより、新規の利用や申込みが多数あり、今まで利用のなかった高等学校へも会館利用案内の成果が浸透してきていると言える。また、PFI 事業者がインターネットエージェントと契約したり、Twitter、Instagram を活用したりしたことにより、今後の利用者拡大が期待できる。

効率性：PFI 化した施設運営について、月 1 回の定例モニタリング等により常に把握し、必要に応じて会館より運営改善の要求を行う体制を整えたことにより、施設の管理・運営に労力を割く必要がなくなり、会館職員の労力を試行的に実施した「教職員を対象とした男女共同参画研修」の企画・実施や「ラーニングプログラムの開発など、男女共同参画の推進という会館の本来的なミッションに係る業務に振り向け、効率的な業務運営が可能となった。また、会館によるアドバイスや協力によりサービスの低下を招くことなく、PFI 導入以来、宿泊室へのテレビやアメニティ・タオルの設置、中庭でのバーベキューや食堂のメニュー改善、音楽会の実施、旅行サイトから利用予約が可能となったこと等、利用者の利便性が向上し、さらなるサービス向上が図られている。

2. 定量的評価

観 点	宿泊施設利用率	研修施設利用率	施設全体利用率		
判 定	C	B	C		

宿泊施設利用率：38.3%（年度目標 42%）
 研修施設利用率：55.1%（年度目標 52%）
 施設全体利用率：46.7%（年度目標 47%）

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
C	PFI 事業へのモニタリングを着実に実施することにより利用者へのサービスの向上が図られた。また、PFI 事業者が実施する利用拡大の取り組みへの協力により、研修施設利用率は目標値を達成したが、宿泊施設利用率は目標に達しなかったため、施設全体利用率は目標にわずかに達しなかった。宿泊施設利用率は目標に達しなかった。なお、PFI 事業者の取組や会館による幅広い広報活動等により、新規の利用や申込みが多数あり、今まで利用のなかった高等学校へも会館利用案内の成果が浸透してきている。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
PFI 事業者は独自で自主事業を行い、食堂のメニュー改善を図る等の取組を行い、会館も広報等に努めた結果、研修施設利用率、施設全体利用率は概ね目標を達成したものの、宿泊施設利用率の目標達成に至らなかった。 今後は、さらに必要な業務が何かの分析を行い、目標の達成に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－６)	Ⅳ その他業務運営に関する重要事項 ６ 情報セキュリティ体制の充実
年度計画の項目 (Ⅳ－６)	Ⅳ その他業務運営に関する重要事項 ６ 情報セキュリティ体制の充実

事業名	情報セキュリティ体制の充実
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員

年度実績概要
1. 趣旨 情報セキュリティは、従来からあるシステムの脆弱性を狙った侵入や Web サイトの改ざんに加え、標的型攻撃と呼ばれる手法による重要情報の略取が、組織的かつ大規模に行われるようになる中、業務の維持や社会的評価の維持のため重要度を増している。また、「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」の準用が平成 29 年度から独立行政法人にも求められることとなった。 これらに対応するため、情報セキュリティ・ポリシーの見直し、情報セキュリティ要員の確保及び教育・研修の実施など情報セキュリティ体制の充実が必要となっている。 2. 実施概要 「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」への対応のための情報セキュリティ・ポリシーの見直しや情報セキュリティ対策推進計画の策定を行った。また、全職員に対して標的型攻撃メールを想定した研修を実施するとともに、職員研修として文部科学省及び内閣府が行う情報セキュリティ研修に出席させ、スキルアップを図った。 3. 成果 ○情報セキュリティ・ポリシーの見直しを実施 統括情報セキュリティ責任者、区域情報セキュリティ責任者、最高情報セキュリティアドバイザーを設置。 ○情報セキュリティ研修の実施 全職員に対して標的型攻撃メールを想定した研修を実施した。また、情報セキュリティに関する各種の研修に参加した。 ○情報セキュリティ体制の充実 ・会館における情報セキュリティ対策を総合的に推進するために「情報セキュリティ対策推進計画」を策定した。 ・会館の情報システムに関する管理機関として、情報システム管理委員会を設置した。 ○個人情報の消去 ・監査室において、独立行政法人国立女性教育会館の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する規程第 21 条に規定する個人情報の消去の指針に基づく内部監査を実施し適正に処理されていたことを確認した。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	効率性			
判定	B	B			
適時性：情報セキュリティ研修は、近年増加傾向にある標的型攻撃メールを想定した内容となっており、実際にメールを受信した職員がその後の対応を行えるかの訓練を実施することができた。 効率性：情報セキュリティ・ポリシーの見直しは、情報セキュリティ委員会だけでなく、情報システム管理委員会でも検討を行うなど効率的に行うことができた。					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	情報セキュリティ・ポリシーについては、見直しを図るとともに、職員研修を実施することにより情報セキュリティに関する人材育成を実施した。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成29年度以降も情報セキュリティ・ポリシーの見直しを図っていくとともに、計画的・定期的な職員研修の充実によって情報セキュリティに関する人材育成を図っていく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－７)	Ⅳ その他業務運営に関する重要事項 ７ 長期的視野に立った施設・設備の整備
年度計画の項目 (Ⅳ－７)	Ⅳ その他業務運営に関する重要事項 ７ 長期的視野に立った施設・設備の整備

事業名	長期的視野に立った施設・設備の整備
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、総務課専門職員、会計係長、会計係員 計４名

年度実績概要
１．計画 (１) 長期的視野に立った保守・管理を行うとともに、利用者が安全で快適に利用できる環境と提供するため、必要な施設・設備の改修等を計画的に進める。 (２) 施設の有効活用のための工夫に努めるべく、個々の施設の有用性についての検証を行い、具体的措置を講ずる。 ２．施設・設備の計画的整備、快適な環境構築 (１) 安全で快適な環境を提供するための計画的改修 緊急性と、長期的視野に立った優先性に基づき、以下の改修を行った。 【緊急性及び優先性】 ・排水処理施設改修工事 排水処理施設が老朽化したため、必要な機器の更新を行った。平成 27 年度から改修を計画しており緊急性及び優先性が高い工事である。 【緊急性】 ・宿泊棟 A 棟高層階水栓接続部交換工事 水栓接続部に水漏れがあったため、必要な機器の更新を行った。 ・宿泊棟・研修棟雨漏り改修 宿泊棟・研修棟の雨漏り箇所について雨漏りを防ぐ改修を行った。 ・体育館排煙窓補修工事 体育館排煙窓の開閉に不具合があったため補修を行った。 【優先性】 ・宿泊施設 Wi-fi 設置工事 宿泊棟内で利用者がインターネットを利用できるサービス向上を目的に、Wi-fi の設置工事を行った。 (２) 中長期的な保守を行うための保全計画 ・本館及び宿泊棟保全計画について内部で検討を行った。29 年度も引き続き検討を行い、29 年度中に策定予定。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性	効率性		
判 定	B	B	B		
適時性：排水処理施設改修等、必要な個所に適切に改修・修繕工事を行ったことは、時宜にかなっており、施設利用者の安全性・快適性が図られている。 発展性：Wi-fi 設置工事を行うことにより、施設利用者獲得に寄与している。また、中長期保全計画の検討を行い、29 年度中に策定予定。今後 20 年間の施設の保全体制を整える土台ができた。 効率性：施設の維持管理業務を PFI 事業者へ委託し効率的な維持管理ができた。					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	排水処理施設改修工事、宿泊施設 Wi-fi 設置工事、宿泊棟 A 棟高層階水栓接続部交換工事、宿泊棟・研修棟雨漏り改修、体育館排煙窓補修工事などきめ細かな利用者の利便性及び安全・安心に配慮した施設・設備の改善を図った。 中長期保全計画の検討を実施し、29 年度中に策定予定。今後の保全体制を整える土台作りを行い、今後の施設維持管理の効率化を図った。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成 29 年度以降も適切な改修工事等の施設・設備の整備を行い、引き続き施設利用者への安全かつ快適な環境整備を図る。

5. 外部評価の観点

- ◆ 評価の基本： ナショナルセンターとしての役割
男女共同参画推進の中核機関
公共性を実現する機関

評価の観点	評価する際に手がかりとなる事項の例
独自性・先駆性を有する事業を企画実施しているか 〔独自性・先駆性〕	・ 先行事例の有無 ・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
新たな社会的課題の解決に向けて積極的に取り組んでいるか 〔現代的課題性〕	・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
事業内容がよい事例として全国に広まっているか 〔モデル性〕	・ 他機関の事業内容の分析 ・ 事業内容に対する事業参加者の意見 ・ 事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が日本を代表するものとして国際社会において一定の役割を果たしているか 〔国際性〕	・ 他国における同種の機関との関係 ・ 国内における代替可能な機関の有無 ・ 海外の専門家の評価
事業の成果が国や地方公共団体における政策の企画実施に役立っているか 〔政策性〕	・ 国や地方公共団体の政策担当者の意見 ・ 事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が高度な専門性をもつものとして地域の関係機関の活動により影響を与えているか 〔高度専門性〕	・ 事業実施後における地域の関係機関の活動内容 ・ 事業内容に対する専門家（特に地域の研究者や実践者）の意見
事業の成果が参加者以外にも波及しているか 〔波及性・普及性〕	・ 事業参加者が中心となつて行う講習会等の有無 ・ 事業に関連する分野における団体の数及びそれらの事業内容
会館のもつ内部資源を有効に活用しているか 〔内部資源の有効活用〕	・ 内部資源の把握とそれらに着目した事業内容の分析
関係する機関や団体のネットワークの形成を促しているか 〔ネットワークの促進〕	・ ネットワーク形成に関する専門家（研究者や実践者）の意見
様々なレベルで関係者の交流を促しているか 〔交流の促進〕	・ 交流事業の内容（プログラム・方法・対象者など）分析 ・ 交流事業参加者の事業後のフォローアップ
事業成果を他の事業に活用しているか 〔事業成果の有効活用〕	・ 事業の成果の把握とそれらに着目した事業内容の分析
最小の投入で最大の効果を上げるといふ点から事業の企画実施に創意工夫を行っているか 〔効率性〕	・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
宿泊施設を有意義に活用しているか 〔施設の有効活用〕	・ 宿泊に関わる事業に参加した者や関係者の意見
評価の結果を積極的に改善に結びつけているか 〔評価結果の有効活用〕	・ 評価結果の把握とそれらに着目した事業計画の分析

6. 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成28年度）

平成28年3月31日

文部科学大臣へ届け出

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規定により、独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成28年3月31日文部科学省大臣認可）に基づき、平成28年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施

(1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成

①地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設、地方自治体、団体〉

- ・地方公共団体や男女共同参画センター、女性団体等、地域において女性の活躍や男女共同参画を推進するリーダー等を対象に、女性の活躍推進や男性中心型労働慣行の変革を促すために必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワーク力を養うことを目的として、実践的な研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うためフォローアップ調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

②学習オーガナイザー養成研修

- ・女性関連施設職員など研修を企画・実施する立場にある地域のリーダーを対象に、力量の形成と資質の向上を目的として、喫緊の課題、学習方法、評価の視点など事業実施上必要とされる知見を身につけるための研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うためフォローアップ調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

③企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

- ・企業の管理職、人材育成推進者、チームリーダーを対象に、長時間労働や転勤を前提とする男性中心型労働慣行の見直しをはじめとする職場の意識改革を目的として、ダイバーシティの本質や社員がその能力を最大限に発揮できる環境作りについて学習する研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うためモニター調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

④男女共同参画推進フォーラム

- ・行政、大学、企業等の担当者及び女性団体やNPOのリーダー等を対象に、課題の共有と課題解決の方策に協働して取り組むことを目的として、分野を越えて横断的に情報を共有し、ネットワークの構築を行うための研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うためフォローアップ調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

(2) 次代を担う女性人材の育成

①女子中高生夏の学校2016 ～科学・技術・人との出会い～

- ・女子中高生を対象に、研究者・技術者、理工系大学生との交流や実験実習を通して、理系への関心を深めることを目的として、合宿形式の体験型プログラムを実施する。また、女子中高生の進路選択に強い影響力をもつ保護者、教員を対象としたプログラムも併せて実施する。
- ・研修終了後のアンケートで、95%以上の研修参加者からの満足の評価、80%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修終了後のアンケートで、研修内容がその後のキャリア形成に役立つかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

②女子大学生キャリア形成セミナー

- ・女子大学生を対象に、将来活躍しうる女性人材の育成を目的として、職業をもつ意義、経済的自立の精神、社会や組織のリーダーとなる志などを伝えることを目的として、キャリア開発研修を実施する。
- ・研修終了後のアンケートで、95%以上の研修参加者からの満足の評価、80%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修終了後のアンケートで、研修内容がその後のキャリア形成に役立つかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

(3) 困難な状況に置かれている女性を支援するための人材の育成

女性関連施設相談員研修

- ・男女共同参画センター等において、ドメスティックバイオレンスや貧困などの困難な状況に置かれている女性を支援する人材を対象に、専門的知識・技能の向上を目的とした研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得る
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うためフォローアップ調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

(4) 教育分野における女性参画拡大に向けた取組

大学等における男女共同参画推進セミナー

- ・大学等の高等教育機関における女性の活躍推進・男女共同参画の推進担当者を対象に、組織や労働環境、学生に対するキャリア教育の見直しや、参加者同士のネットワークの構築を図ることを目的として、実践的な研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、40%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うため、モニター調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施

(1) 男女共同参画統計に関する調査研究

- ・男女の置かれている状況を客観的に把握するための統計の充実を目指し、分野ごとの内容とデータの提供方法について検討する。
- ・調査研究を活用した研修資料等を作成し、研修参加者の85%以上からの有用の評価、40%以上からの高い有用の評価を得る。

(2) 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究

- ・企業における若年層の初期キャリアに関して、男女間の意識の差や女性が直面する問題について実証的に検証する。
- ・平成28年度は追跡調査（第2次調査）を実施する。
- ・調査研究を活用した研修資料等を作成し、研修参加者の85%以上からの有用の評価、40%以上からの高い有用の評価を得る。

(3) 女性教員の活躍推進に関する調査研究

- ・女性教員の管理職登用に向けた課題分析及び教員を対象とする男女共同参画・女性活躍の視点を踏まえた研修プログラム開発に資する調査研究を実施する。
- ・平成28年度は先行研究から課題を明らかにし、調査票を作成する。

(4) eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究

- ・放送大学と連携してオンライン講座のプログラムを作成・運用するとともに、会館独自のeラーニングプログラムの在り方について検討する。
- ・平成28年度は放送大学と連携した女性のキャリアデザインに関するオンライン講座を開発・運用するとともに、eラーニングを活用した教育・学習支援の在り方について検討を行う。

3 男女共同参画推進のための広報・情報発信

(1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信

① 情報資料の収集・整理・提供

女性教育情報センター利用者に資料等を提供するとともに、女性情報ポータル及びデータベースを整備充実し、広く国民に対して情報発信を行う。

② ポータルとデータベースの整備充実

データベース化件数は、年間 26,000 件以上、アクセス件数は年間 35 万件を達成する。

③図書のパッケージ貸出

男女共同参画センターや大学等に、女性の活躍推進や男女共同参画社会の形成を目指した様々なテーマに応じた図書をパッケージ化し、年間 30 か所以上への貸出を行う。

④NWE C実践研究の発行

女性のエンパワーメント、男女共同参画の推進に関する研究報告、女性関連施設や女性団体の実践活動等を掲載する「NWE C実践研究」を発行する。

(2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進

①女性アーカイブ機能の充実と全国的女性アーカイブとのネットワークの強化

- ・男女共同参画に関連する歴史的な資料について、外部有識者の意見を参考にしつつ、収集・保存のための方針に基づいて全国から収集し保存する。女性に関する史・資料を新たに年間千点以上収集する。
- ・展示室への入室者数は、年間 1 万人以上を達成する。
- ・アーカイブ企画展において年間 5 機関以上との連携を行う。

②女性情報アーキビスト養成研修

- ・女性関連施設職員、図書館職員、地域女性史編纂関係者などの実務担当者を対象に、女性アーカイブの保存や整理に必要な実技等の習得を目的として、実践的な研修を実施する。
- ・女性アーカイブに関する研修を 36 名以上に提供し、研修参加者の 90%以上からの満足の評価、65%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果の普及状況を的確に把握するためフォローアップ調査を実施し、次回の研修内容の改善のために活用する。

(3) より多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化

広報活動の充実・強化

- ・ホームページ改訂や SNS、メールマガジンによる情報発信内容の充実など広報活動の充実・強化を図る。
- ・多様な場で男女共同参画に関する研修等が実施されるよう、会館で実施する研修や取組について、地方公共団体や男女共同参画センターのみならず、企業や大学を始めとした教育機関等に対しても、情報発信やプログラムの提供等を行う。ホームページへのアクセス件数を 36 万件以上達成する。
- ・SNS への記事掲載件数を年間 100 件以上とする。

4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献

(1) アジア地域における男女共同参画推進のための人材育成

アジア地域における男女共同参画推進リーダーセミナー

- ・アジア地域において男女共同参画の政策策定及び政策提言を行う立場にある行政担当者、NGO のリーダーを対象に、女性の能力開発に係る課題解決の方策を検討する実践的なセミナーを実施する。
- ・毎年度研修参加者の 90%以上からの満足の評価、80%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修成果の効果的な普及に向けて、80%以上から、本国に帰ってから取組を進める上で

有用であるという評価を得る。

（２）国際的課題への対応

①NWECグローバルセミナー

- ・女性活躍推進、男女共同参画に関わる研究者、地方公共団体や男女共同参画センター、女性団体の職員等を対象に、女性の人権やエンパワーメントに係る課題について理解を深めることを目的として、海外の専門家を招へいするセミナーを開催する。
- ・男女共同参画の推進に資する先進事例や、国際社会の動向を紹介し議論し、参加者の85%以上からの満足の評価、40%以上からの高い満足の評価を得る。

②課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」

- ・国際協力機構（JICA）がアセアン諸国で実施する人身取引対策プロジェクトに関連して、人身取引対策に携わるアセアン諸国関係者を対象としたワークショップ型研修を3年計画で実施する。

③国際会議等で得た情報の発信

- ・国際会議等で得た情報を国内に発信するための報告会を実施し、参加者の85%以上からの満足の評価、40%以上からの高い満足の評価を得る。

5 横断的に取り組む事項

（１）国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築

①関係府省との連携強化、ネットワークの構築

関係府省との意思疎通と情報共有を図ることによって、連携して事業を行うとともに、「国立女性教育会館運営委員会」を有識者や関係府省から意見を聞く場として活用する。

②関係機関との連携・協働

年間24機関以上との共同で研修事業等に取り組み、連携によるより効果的な事業を実施する。

（２）eラーニングによる教育・学習支援の推進

eラーニングによる教育・学習支援の推進

- ・これまで会館が主催する研修等に直接参加する機会がなかったリーダーや地理的理由等から直接の参加が困難な国民を対象に、eラーニングによる教育・学習支援を行う。
- ・会館で実施した研修内容を、オンデマンドで年間3件以上発信する。
- ・オンライン講座の教育・学習支援プログラムについて、放送大学と連携して、開発した入門編を運用し、広く提供するとともに、新たに展開編のカリキュラムを開発する。

II 業務運営の効率化に関する事項

1 組織体制の見直し

PFIの導入により施設運営に従事していた人的資源を女性活躍促進等の政策課題に対応した事業等に投入する。

2 人件費・管理費等の適正化

- ・人件費については、国家公務員の給与水準に準拠し、役職員給与の適正化に取り組む。
- ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。

- ・平成 28 年度は、一般管理費（公租公課、人件費相当額を除く。）については、平成 27 年度と比して 3%以上、業務経費（公共施設等運営事業等関係経費を除く。）については平成 27 年度と比して 1 %以上の効率化を図る。

3 取引関係の適正化

政府における調達等合理化の取組を踏まえた契約の見直しを行う。

4 間接業務等の共同実施

国立特別支援教育総合研究所、国立青少年教育振興機構、教員研修センターと共同した間接業務等の実施に当たっては、費用対効果等を検証しつつ行う。

5 業務改革の取組の徹底

政府の業務改革に関する方針に準じ、費用対効果も含めて業務運営の効率化について検討する。

6 予算執行の効率化

独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。

III 財務内容の改善に関する事項

1 自己収入の拡大

(1) PFI 事業による運営権対価等の確保

- ・PFI 事業の導入による運営権対価を得ることにより、安定した自己収入を確保する。
- ・PFI 事業の経常収益のプラスを目指して、PFI 事業者と協力して施設利用を促進する。

(2) 外部資金の積極的導入

科学研究費補助金等の申請や、国・企業等からの受託事業の積極的な受入れを行い、外部資金を確保する。

IV その他業務運営に関する重要事項

1 予算

別紙 1 のとおり

2 収支計画

別紙 2 のとおり

3 資金計画

別紙 3 のとおり

4 適切な法人運営体制の充実

(1) 内部統制の充実

- ・理事長のリーダーシップのもと、運営会議や職員研修等を通じて会館が担う役割や課題等の情報を職員が共有する。
- ・所要の規則等を整備し、ガバナンスの保持、コンプライアンスの遵守等内部統制を充実する。

- ・内部規定を必要に応じて見直し、内部統制・リスク管理の充実及び監事による監査機能を強化する。また、監事による監査及び会館が自ら行うモニタリングの結果を業務に反映させ、内部統制等の継続的な見直しを図る。

(2) 組織・人事管理の適正化

- ①配置転換や人事交流により、組織の活性化を図るとともに、職員の資質を向上させるための研修を実施し、他機関の実施事業等への職員の参加を促す。
- ②客員研究員の活用体制を工夫し、職員との連携のもと、充実した体制とする。

5 PFI 事業の適切な実施のための監視・協力

- ①利用者へのサービス水準の向上や適切な運営体制等、PFI 事業に係る契約内容が着実に実施されているかについてモニタリングを行う。
- ②宿泊施設を含む施設利用率の向上のため、関係各省庁や地方公共団体等が主催する事業等での広報資料等の配布依頼を行うとともに、PFI 事業者が実施する利用拡大の取り組みに協力する。
- ③宿泊施設の利用率については 42%、研修施設の利用率については 52%を目指し、施設全体の利用率として 47%を達成する。

6 情報セキュリティ体制の充実

政府の情報セキュリティ対策のための統一基準等を踏まえ、情報セキュリティ・ポリシーを適宜適切に見直すとともに、これに基づき情報セキュリティ対策を講じる。
また、対策の実施状況を毎年度把握し情報セキュリティ体制の改善を図る。

7 長期的視野に立った施設・設備の整備

- ・長期的視点に立った安心・安全な研修環境の維持のための施設改修、設備更新を計画的に進める。

(以上)

別 紙

1. 運営費交付金の算定ルール

毎事業年度に交付する運営費交付金(A)については、以下の数式により決定する。

$$A(y)=P(y)+R1(y)+R2(y)+\varepsilon(y)-B(y)$$

A(y): 当該事業年度における運営費交付金

$\varepsilon(y)$: 特殊業務経費。施設・設備の改修工事、事故の発生等の事由により時限的に発生する経費であって、運営費交付金算定ルールに影響を与えうる規模の経費。
各事業年度の予算編成過程において、当該経費を具体的に決定。

1) 人件費

毎事業年度の人件費(P)については、以下の数式により決定する。

$$P(y)=P(y-1)\times\sigma(\text{係数})\times\theta(\text{係数})$$

P(y): 当該事業年度における人件費。P(y-1)は直前の事業年度におけるP(y)。

σ : 人件費調整係数。各事業年度予算編成過程において、給与昇給率、給与改善率等を勘案し、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

θ : 人件費効率化係数。各事業年度予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

注) 当該法人における退職手当については、独立行政法人国立女性教育会館役員退職手当規程及び独立行政法人国立女性教育会館職員退職手当規程に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される金額を運営費交付金に加算する。

2) 業務経費

毎事業年度の管理経費の業務費(R1)及び事業経費の業務費(R2)については、以下の数式により決定する。

$$R1,2(y)=R1,2(y-1)\times\beta(\text{係数})\times\gamma(\text{係数})\times\alpha1,2(\text{係数})$$

R1,2(y): 当該事業年度における業務経費。R1,2(y-1)は直前の事業年度におけるR1,2(y)。

β : 消費者物価指数。各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

γ : 業務政策係数。自己収入に見合う支出を勘案し、また、研究開発の場合には、計画期間中の初期に大きな投資が必要であること、事業の進展により必要経費が変動すること等を勘案し、各事業年度の予算編成過程において当該事業年度における具体的な係数値を決定。

$\alpha1,2$: 効率化係数。各独立行政法人について計画的削減を行うこととされている観点から、業務の効率化等を勘案して、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な数値を決定。

3) 受託事業等経費(受託事業実施に伴う間接経費を含む)

毎事業年度の受託事業経費(F)については、以下の数式により決定する。

$$F(y)=F(y-1)\times\omega(\text{係数})$$

F(y): 当該事業年度における受託事業収入の見積り。F(y-1)は直前の事業年度におけるF(y)。

ω : 受託収入政策係数。過去の実績を勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

4) 自己収入

毎事業年度の自己収入(B)の見積り額については、以下の数式により決定する。

$$B(y)=B(y-1)\times\lambda(\text{係数})\times\delta(\text{係数})$$

B(y): 当該事業年度における自己収入の見積り。B(y-1)は直前の事業年度におけるB(y)。

λ : 収入調整係数。過去の実績における自己収入に対する収益の割合を勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

δ : 自己収入政策係数。過去の実績等を勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

[注記]前提条件

1. 運営費交付金の試算にあたっての係数値

$\alpha 1$: 効率化係数: $\Delta 3.20\%$

$\alpha 2$: 効率化係数: $\Delta 1.03\%$

β : 消費者物価指数: 勘案せず

θ : 人件費効率化係数: 勘案せず

γ : 業務政策係数: $\Delta 14\%$ ※PFI導入分

ω : 受託収入政策係数: 勘案せず

δ : 自己収入政策係数: $\Delta 63.54\%$ ※PFI導入分

σ : 人件費調整係数: 勘案せず

λ : 収入調整係数: 0%

平成28年度計画予算

(単位:百万円)

区 別	研 修 関係事業	調査研究 関係事業	広報・情報発信 関係事業	国際貢献 関係事業	公共施設等運営事業 関係事業	受託事業	共 通	合 計
収入								
運営費交付金	94	20	34	11	107		258	524
施設整備費補助金							138	138
運営権対価等収入			1		39	1	7	47
受託収入								1
計	94	20	35	11	146	1	403	710
支出								
業務経費	94							308
うち研修関係経費								94
うち調査研究関係経費		20						20
うち広報・情報発信関係経費			35					35
うち国際貢献関係経費				11				11
うち公共施設等運営事業関係経費					146			146
施設整備費							138	138
受託経費						1		1
一般管理費							265	265
計	94	20	35	11	146	1	403	710

【人件費の見直し】

平成28年度は187百万円を支出する。

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、退職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

【運営費交付金の算定ルール】

別紙のとおり

平成28年度収支計画

(単位:百万円)

区 別	研 修 関係事業	調査研究 関係事業	広報・情報発信 関係事業	国際貢献 関係事業	公共施設等運営事業 関係事業	受託事業	共 通	合 計
費用の部								
経常費用	94	20	35	11	146	1	324	631
業務費								
うち研修関係経費	94							94
うち調査研究関係経費		20						20
うち広報・情報発信関係経費			35					35
うち国際貢献関係経費				11				11
うち公共施設等運営事業関係経費					146			146
うち受託事業経費						1		1
一般管理費							320	320
減価償却費							4	4
財務費用								-
随時損失								-
収益の部								
運営費交付金収益								520
運営権対価等収入	94	20	34	11	107		254	47
受託収入			1		39	1	7	1
施設費収益								
寄附金収益								
資産見返運営費交付金戻入							59	59
資産見返物品受贈額戻入							3	3
純利益							1	1
目的積立金取崩額								
総利益								

【注記】
当該法人における退職手当については、独立行政法人国立女性教育会館役員退職手当規程及び独立行政法人国立女性教育会館職員退職手当規程に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される全額を運営費交付金に加算する。

平成28年度資金計画

(単位:百万円)

区 別	研 修 関係事業	調査研究 関係事業	広報・情報発信 関係事業	国際貢献 関係事業	公共施設等運営事業 関係事業	受託事業	共 通	合 計
資金支出 業務活動による支出 投資活動による支出 次期中期目標の期間への繰越金	94	20	35	11	146	1	324 79	631 79 -
資金収入 業務活動による収入 運営費交付金による収入 運営館対価等収入 受託収入	94	20	34 1	11	107 39	1	258 7	524 47 1
投資活動による収入 施設費による収入 前期中期目標の期間よりの繰越金							138	138 -

平成28年度施設・設備に関する計画

施設・設備の内容	予定額(百万円)	財源
機能性向上改修 排水処理施設緊急改修工事	138	施設整備補助金 (平成27年度繰越分)
計	138	

【注記】
金額については見込みである。
なお、上記のほか、業務の実施状況等を勘案した施設整備が追加されることがあり得る。また、施設・設備の老朽度合等を勘案した改修(更新)等が追加される見込みである。

7. 平成29年度 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会委員一覧

犬 塚 協 太（静岡県立大学国際関係学部教授）

斎 藤 悦 子（お茶の水女子大学大学院基幹研究院人間科学系准教授）

笹 井 宏 益（玉川大学学術研究所教授）

長 田 三 紀（全国地域婦人団体連絡協議会事務局長）

萩 原 貴 子（株式会社グリーンハウス執行役員）

（敬称略、五十音順）

8. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程

(設置)

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に、独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(役割)

第2条 委員会は、会館が実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うと共に、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行う。

(委員)

第3条 委員会は、会館の業務に関し識見を有するもののうちから、理事長が委嘱する8名以内の委員で構成する。

(委嘱期間)

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、第3条の委員のうちから、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成18年2月10日から施行する。

2 この規程の施行後、最初及び委員長が置かれていないときに召集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

9. 「第4期中期目標期間（平成28～32年度）」の評価基準について

1. 中期計画の実施状況に関する判定の考え方

判定に使用する用語は、次のとおりとする（文部科学省所管の独立行政法人評価に関する評価基準（平成27年6月30日文部科学大臣決定）による）。

- S 顕著な達成 : 当該目標を120%以上達成し、量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
- A 達成 : 当該目標を120%以上達成し、目標を上回る成果が得られている（S評価を除く）
- B 順調 : 当該目標を100%以上～120%未満達成
- C 改善 : 当該目標を80%以上～100%未満達成で目標を下回っており、改善が必要
- D 抜本的改善 : 当該目標を80%未満達成で目標を下回っており、業務廃止を含めた抜本的改善が必要

2. 定量的評価の観点について

定量的評価の観点については、下記の中期計画、年度計画に掲げられている達成目標を達成した時をBとする。

【中期目標期間内】

事業区分	評価観点	中期目標期間の達成目標
研修事業	研修件数	40件
	地域向け研修件数	15件
	企業向け研修件数	5件
	大学等教育機関向け研修件数	5件
	学生向け研修件数	10件
	分野横断的研修件数	5件
調査研究事業	調査研究の件数	5件
	調査研究を活用した研修の有用度	参加者の85%
	調査研究を活用した研修の高い有用度	有用回答の40%
広報・情報発信事業	データベース化件数	13万件
	図書館のパッケージ貸出箇所数	150か所
	資料収集数	5,000点
	アーカイブ展示室への入室者数	5万人
	アーカイブ企画展連携機関数	25機関
	アーキビスト研修参加者数	180人
	ホームページへのアクセス件数	40万件
国際貢献事業	主催事業	10件
横断的事項	連携機関数	120機関
	研修のオンデマンド発信数	15件
業務の効率化	一般管理費効率化	平成27年度から15%削減
	業務経費効率化	平成27年度から5%削減
	間接業務の共同実施の検討	15業務
PFI事業の適切な実施	PFIのプロフィットシェアリング	50%
	施設利用率	55%

【平成28年度内】

事業区分	評価観点	平成28年度の達成目標
研修事業	プログラムの満足度（学生向け研修）	参加者の95%
	プログラムの高い満足度（学生向け研修）	参加者の80%
	プログラムの満足度（高等・初等中等教育機関向け研修）	参加者の90%
	プログラムの高い満足度（高等・初等中等教育機関向け研修）	満足回答の40%
	プログラムの満足度（その他の研修）	参加者の90%
	プログラムの高い満足度（その他の研修）	満足回答の45%
	フォローアップ調査（有用度）	参加者の80%
広報・情報発信事業	データベース化件数	26,000件
	図書のパッケージ貸出箇所数	30か所
	ポータル及びデータベースへのアクセス件数	350,000件
	資料収集数	1,000点
	アーカイブ展示室への入室者数	1万人
	アーカイブ企画展連携機関数	5機関
	アーキビスト研修参加者数	36人
	アーキビスト研修の満足度	参加者の90%
	アーキビスト研修の高い満足度	満足回答の65%
	ホームページへのアクセス件数	36万件
	SNSへの記事掲載件数	100件
	主催事業	2件
国際貢献事業	アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーの満足度	参加者の90%
	アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーの高い満足度	満足回答の80%
	アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーの有用度	参加者の80%
	NWECグローバルセミナー、「国際会議等で得た情報の発信」の満足度	参加者の85%
	NWECグローバルセミナー、「国際会議等で得た情報の発信」の高い満足度	満足回答の40%
横断的事項	連携機関数	24機関
	研修のオンデマンド発信数	3件
業務の効率化	一般管理費効率化	平成27年度から3%削減
	業務経費効率化	平成27年度から1%削減
PFI事業の適切な実施	施設利用率	47%
	宿泊施設利用率	42%
	研修施設利用率	52%

3. 定性的評価の観点について

○各業務区分に応じた定性的評価の観点については、基本的な考え方は下記のとおり。特段の事情がある場合などで、このほかの観点を使用する事が適当と思われるときは、任意に観点を設ける事も可能。

適時性：喫緊の課題を踏まえたプログラムの実施や男女共同参画基本法等の政策との関連点等、時宜に合わせてその事業を実施することが、男女共同参画の推進等に資することを示すもの。

独創性：独自の視点による調査研究や先進的なプログラムの作成等、「国立女性教育会館ならではの」高い専門性等を示すもの。

発展性：会館で作成されたプログラム等をモデルとした地方の活動事例、研修をきっかけに拡大した女性関連団体等のネットワーク等、会館が提供した情報等で男女共同参画の展開に資するもの。

効率性：事業をより円滑に実施するための取組等を示すもの。

評価の観点	適時性	独創性	発展性	効率性
観点の考え方	・ 政策性 ・ 必要性 ・ 国際性 ・ 緊急性	・ 独自性 ・ 新規性 ・ 先駆性 ・ 高度専門性	・ 影響性 ・ 汎用性 ・ 応用性 ・ 多様性 ・ 将来性 ・ モデル性	・ 時間的投資 ・ 人的投資 ・ 設備的投資 ・ 内部資源の活用 ・ 施設の有効活用 ・ 他機関との連携

○定性的評価の基準（文部科学省の評価基準による）

- S：目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
- A：目標を上回る成果が得られている
- B：目標を達成している
- C：目標を下回っており、改善が必要
- D：目標を下回っており、業務廃止を含めた抜本的改善が必要

4. 総合評価の判定基準の考え方

各観点評価の結果を基に、総合的判定を行うが、考え方は次のとおりとする。

S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点

<例>

4つの観点で評価し、Aが3つ、Bが1つの場合

$$((4 \times 3) + (3 \times 1)) \div 4 = 3.75 \approx 4 \rightarrow \text{総合評価 A}$$

※S評価については、文部科学省等からその根拠について詳細な確認を求められる傾向にある。

判定結果をSとする場合、「評価の観点」に応じた明確な理由を「理由欄」に記述。

参考資料

地域における男女共同参画づくりを推進するリーダー向けの、専門的・実践的な研修です。

平成28年度
地域における
男女共同参画推進リーダー研修
〈女性関連施設・地方自治体・団体〉

期日

平成28年5月25日（水）～5月27日（金）

テーマ

一人ひとりの女性が活躍できる社会を目指して
～女性活躍推進と男性中心型労働慣行の変革～

本研修の特色

男女共同参画の視点から実態把握・課題分析を行い、実践に結びつく方策を考えます。

第4次基本計画の柱としてあげられた「男性中心型労働慣行の変革」について様々な角度から掘り下げます。

ディスカッションを重視し、関係機関の連携・協働関係を促します。

宿泊研修の利点を活かし、参加者同士の情報交換や交流をサポートします。

会場：国立女性教育会館

埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
武蔵嵐山駅より徒歩約12分
（池袋から東武東上線急行で約60分）

*以下の駅から会館まで
タクシー利用で

森林公園駅から約15分
武蔵嵐山駅から約5分



問い合わせ先：

（独）国立女性教育会館
事業課

TEL：0493-62-6724
0493-62-6725
FAX：0493-62-6720
Email：progdiv@nwec.jp
HP：http://www.nwec.jp/

平成28年度地域における男女共同参画推進リーダー研修
〈女性関連施設・地方自治体・団体〉
開催要項

1. テーマ 一人ひとりの女性が活躍できる社会を目指して

～女性活躍推進と男性中心型労働慣行の変革～

女性活躍推進のためには男性の働き方・暮らし方の見直しが欠かせないことから、第4次男女共同参画基本計画の柱として挙げられた「男性中心型労働慣行」について様々な角度から掘り下げ、働き方を変えていくために地域の男女共同参画リーダーがどのような取組を行ったら良いのか考えます。

2. 本研修のねらい

- (1) 男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践に結びつけます。
- (2) 男女共同参画の中核となるリーダーの関係力・連携力の向上を図ります。
- (3) 実践事例を重視し、課題解決につなげます。
- (4) 研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かします。

3. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 共 催

NPO 法人全国女性会館協議会（女性関連施設管理職コース）

5. 期 日

平成28年5月25日（水）～5月27日（金）〔2泊3日〕

6. 定員

120名

7. 参加対象者

地域の女性関連施設、地方自治体、団体等で男女共同参画推進リーダーとして実践的な取組を行っている方で、研修終了直後のアンケートと6か月後に実施するフォローアップ調査の両方を提出していただける方

- (1) 女性関連施設管理職コース：（50名）

公立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等、男女共同参画社会の形成に向けた拠点としての施設の管理職

- (2) 地方自治体職員コース：（40名）

都道府県・市区町村の男女共同参画推進責任者

- (3) 団体リーダーコース：（30名）

地域で男女共同参画を推進する団体等のリーダー

8. 日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
5/25 (水)			プレ 講義		受付	開会	講演		省庁報告	CS W 報告	チェ ック イン	夕食	情報 交換会
5/26 (木)	情報 提供		座談会	昼食		分科会Ⅰ		全体会		情報 セン ター 見学	夕食	自由交流	
5/27 (金)		分科会Ⅱ		全体会	閉会								

9. 内容

第1日 5月25日(水)

(希望者のみ参加)

(50分) 11:00~11:50

プレ講義「男女共同参画の基礎知識」

主に初任者を対象として、日本における男女共同参画推進の歴史的背景など基礎知識を学びます。

講 師：石崎 裕子 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部准教授

1 開会

(15分) 13:10~13:25

- | | | |
|----------|-------|-----------------|
| ①主催者あいさつ | 内海 房子 | 国立女性教育会館理事長 |
| ②共催者あいさつ | 納米恵美子 | 全国女性会館協議会代表理事 |
| ③趣旨説明 | 中光 理恵 | 国立女性教育会館事業課専門職員 |

2 講演「一人ひとりの女性が活躍できる社会を目指して」

～女性活躍推進と男性中心型労働慣行の変革～ (90分) 13:30~15:00

平成27年12月に策定された第4次男女共同参画基本計画について、第3次計画までの振り返りを踏まえて学びます。中でも、第4次計画の第1項に挙げられている「男性中心型労働慣行の変革と女性の活躍」についてのポイントと今後の方向性を知り、男女共同参画を推進するための方策について考えます。

講 師：鹿嶋 敬 一般財団法人女性労働協会会長
内閣府男女共同参画社会計画策定専門調査会会長

3 報告「男女共同参画社会に向けた今日の政策課題」 (90 分) 15:20～16:50

男女共同参画や女性活躍の促進に向けた施策についての説明と今後の方向性について理解を深めます。

講 師：岡田 恵子	内閣府男女共同参画局総務課課長
講 師：高橋 雅之	文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課課長
講 師：阿部 知康	農林水産省経営局就農・女性課女性活躍推進室 環境整備班課長補佐
講 師：岸田 京子	厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課課長補佐

4 報告「CSW60（第60回国連婦人の地位委員会）参加報告（30 分） 17:00～17:30

3月にニューヨークの国連本部で開催された、第60回CSWでの議論や合意結論について報告します。

報告者：越智 方美	国立女性教育会館研究国際室専門職員
中光 理恵	国立女性教育会館事業課専門職員

5 情報交換会（希望者のみ参加）（有料1,000 円） (60 分) 19:30～20:30

全国からの参加者と交流し、情報交換やネットワークづくり等、今後の活動に役立てます。

第2日 5月26日（木）

6 情報提供「NWECの事業展開について」 (40 分) 9:00～9:40

①情報事業について

女性アーカイブ展示や女性デジタルアーカイブシステムなど、NWECの情報事業や機能について詳しく説明します。

説 明：山崎 裕子	国立女性教育会館情報課係長（併）専門職員
-----------	----------------------

②調査研究事業について

地方自治体や女性関連施設が実施する女性の活躍支援についての調査結果を報告します。

説 明：飯島 絵理	国立女性教育会館研究国際室研究員
-----------	------------------

③研修事業について

平成28年度の研修事業計画について説明します。

説 明：櫻田今日子	国立女性教育会館事業課課長
-----------	---------------

7 座談会「男女共同参画の視点から働き方改革について考える」 (120 分) 10:00～12:00

女性が活躍できる社会を実現するためには、「男性の暮らし方・働き方」の見直しが欠かせません。男女共同参画の視点から、「働くこと」について考え、男女ともに働きやすく暮らしやすい社会にするためにはどのようなことが必要か、理解を深め合います。

講 師：安齋 徹	群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部教授 キャリア支援センター副センター長
講 師：関根 紀子	サイボウズ株式会社執行役員カスタマー本部長
進 行：内海 房子	国立女性教育会館理事長

8 分科会 I (テーマ別)**(150 分) 13:30~16:00****「働くことをめぐる課題に迫る」**

参加者が関心のあるテーマ別に集まり、「働く」をキーワードにそれぞれのテーマにおける課題や連携の仕方について考えます。

A 「男性中心型労働慣行の改革とワークライフバランス」

男女共同参画の推進には、働き方、暮らし方の見直しが不可欠です。第4次男女共同参画基本計画でも重要とされている男性中心型労働の改革に向けて積極的な事業を展開されている21世紀職業財団の取組から考えます。

講 師：高松 和子 公益財団法人21世紀職業財団理事・事務局長

ファシリテーター：佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

B 「学校教育と連携して実施する若年層へのキャリア教育」

男女共同参画の視点は、子どもの頃から培っていくことが重要です。そのための学校教育と連携した男女相互の理解や生涯を見通したキャリア教育について内容や連携の仕方などについて考えます。

講 師：真下 峯子 大妻嵐山中学校・高等学校校長

ファシリテーター：小井川 聡 国立女性教育会館事業課専門職員

C 「女性の働き方と非正規労働をめぐって」

女性の活躍を阻む男性中心型の働き方の問題と女性の非正規雇用の問題は表裏一体です。非正規雇用で働く女性への支援について、女性関連施設、地方自治体、団体それぞれの立場から考えます。

講 師：藤原 千沙 法政大学大原社会問題研究所教授

報 告：植野 ルナ 男女共同参画センター横浜事業課課長

ファシリテーター：岸上 真巳 一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会
企画調整課チーフ

9 全体会 I**(40 分) 16:20~17:00**

分科会 I で話し合われたテーマごとの報告をいただき、全体で共有します。

A 報告者：高松 和子 公益財団法人21世紀職業財団理事・事務局長

B 報告者：真下 峯子 大妻嵐山中学校・高等学校校長

C 報告者：植野 ルナ 男女共同参画センター横浜事業課課長

コーディネーター：西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員

(希望者のみ参加)**(30 分) 17:20~17:50****女性教育情報センター見学**

男女共同参画及び、女性・家庭・家族に関する国内外の広域的、専門的な資料・情報を有する女性教育情報センターを見学し、その活用法を詳しく説明します。

案内：国立女性教育会館情報課

10 自由交流 (希望者のみ参加)**(90 分) 19:30~21:00**

- 参加者がテーマごとに集い、情報交換や交流を行います。
(このプログラムを希望する方は参加申込書の所定欄に希望テーマを選択し、記入してください。)
[テーマ]「意思決定の場における女性の参画」「女性に対する暴力」「女性と防災」
「男性視点から見た男女共同参画」「多様な分野との連携」

第3日 5月27日(金)

11 分科会Ⅱ(コース別)

(150分) 9:00~11:30

「働くことをめぐる課題の解決方法を探る」

分科会Ⅰを踏まえ、コースごとに事例報告に基づくグループワークを行い、実践に役立つ力を身につけながら、支援や解決の方法を考えます。

A 女性関連施設管理職コース 「女性活躍推進と第4次男女共同参画基本計画」

第4次男女共同参画基本計画では、男女共同参画センターに対して、地域における女性の活躍推進の人材発掘・育成の拠点としての役割を果たすことを要請しています。事例報告を参考に、これまでの枠にとられない新たな事業展開について考えます。

報告者：牛井渕展子 仙台市男女共同参画推進センター エル・ソーラ仙台
管理事業課管理事業係長

報告者：松谷 順子 神奈川県立かながわ男女共同参画センター参画推進課課長
ファシリテーター：今井まゆり 京都市男女共同参画推進協会事業企画課課長

B 地方自治体職員コース 「女性活躍推進に向けた横断的な連携」

地域における男女共同参画を戦略的に推進するためには庁内外での横断的な計画や取組が不可欠です。庁内の他部署や外部組織との有効的な連携について考えます。

報告者：吉武 和子 山口県農林水産部審議監 農山漁村・女性対策推進室長

報告者：光藤 伸史 岡山市市民協働局女性が輝くまちづくり推進課課長

ファシリテーター：萩原なつ子 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授

C 団体リーダーコース 「地域がもたらす組織の活性化」

組織の基盤として重要な人材養成や外部との連携について、社会貢献、キャリア、職場などのさまざまな団体の側面に焦点を当てながら考えます。

報告者：森 豊吉 一般社団法人参画社会地域フォーラム代表理事

鈴木多美江 一般社団法人参画社会地域フォーラム参与

報告者：伊藤 友江 NPO食と農のまちづくりネットワーク理事長

久保田美栄子 NPO食と農のまちづくりネットワーク副理事長

ファシリテーター：引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

12 全体会Ⅱ

(35分) 11:50~12:25

分科会の報告内容や、話し合われた課題や解決法についてファシリテーターから発表し、全体で共有します。

A 報告者：今井まゆり 京都市男女共同参画推進協会企画課課長

B 報告者：萩原なつ子 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授

C 報告者：引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員
コーディネーター：西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員

13 閉会

(10 分) 12:25~12:35

アンケート記入

10. 申込方法・期限

(1) 方 法

①電子メール：国立女性教育会館事業課（progdiv@nwec.jp）へ、別紙1「参加申込書」と別紙2「実情・工夫等」を添付してお申し込みください。

②郵送：国立女性教育会館事業課までお申し込みください。

※ 開催要項、参加申込書等の電子データをご希望の方は、国立女性教育会館ホームページよりダウンロードしてください。（<http://www.nwec.jp/>）

(2) 申込期限 平成28年5月11日（水）（先着順）

(3) 提出書類 「参加申込書」（別紙1）、「実情・工夫等」（別紙2）

(4) 参加通知 別紙1記載の連絡先に文書によりお知らせします。
5月18日（水）までに連絡が来ない場合は、お手数ですが事業課（電話：0493-62-6725）までお問い合わせください。

11. 所要経費

(1) 参加費 無料

(2) 宿泊費 研修期間中は1泊1,200円（前・後泊も1泊1,200円）

(3) 食費 朝食870円（バイキング形式） 昼食550～750円（カフェテリア形式）
夕食1,080円（バイキング形式）

(4) 情報交換会費 1,000円（1日目の夕食後に行います。飲み物、お菓子、消費税を含みます。）

12. その他

(1) 研修期間中に職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

(2) 研修期間中、参加者の所属する施設や団体、地方自治体等のパンフレットやチラシなどを自由に交換できる情報交換コーナーを設置します。お持ちになった資料を自分で所定の場所に並べ、参加者の方に資料を自由にお持ち帰りいただけるコーナーです。

(3) 研修終了6か月後を目途にフォローアップ調査を実施いたしますので、ご提出ください。

平成28年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修＜女性関連施設・地方自治体・団体＞」参加者概況

1. 性別

	参加者			
	女性関連施設	地方自治体	団体リーダー	総計
	計	計	計	計
女性	49	43	34	126
男性	11	16	8	33
計	60	59	40	159

定員 120 名
 申込者数 166 名
 キャンセル 7 名
 参加者数 159 名
 応募倍率 138.3 %

2. 年代別

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
20代	2	-	3	3	-	-	5	3	8
30代	3	2	8	5	-	-	11	7	18
40代	9	2	18	6	4	1	31	9	40
50代	18	4	11	1	6	-	35	5	40
60代	11	3	-	-	12	1	23	4	27
70代以上	2	-	-	-	8	4	10	4	14
無回答	4	-	3	1	4	-	11	1	12
計	49	11	43	16	34	6	126	33	159

3. 勤務形態

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
常勤（専任）	39	9	35	9	2	1	76	19	95
（兼任）	2	-	8	7	2	-	12	7	19
無回答	1	-	-	-	-	-	1	-	1
非常勤（専任）	5	2	-	-	1	1	8	3	9
（兼任）	-	-	-	-	2	-	2	-	2
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
嘱託（専任）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
（兼任）	-	-	-	-	1	-	1	-	1
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	-	-	-	26	4	28	4	32
計	49	11	43	16	34	6	126	33	159

4. 施設区分(女性関連施設管理職コースのみ)

	女	男	計
(1)公立Ⅰ：管理運営者が教育委員会	-	-	-
(2)公立Ⅰ：管理運営者が男女共同参画担当課	15	1	16
(3)公立Ⅱ：指定管理者を導入①運営者が財団法人、社団法人、任意団体等	8	7	15
②管理運営者が企業	3	1	4
③管理運営者がNPOなど	15	1	16
(4)私立	-	-	-
(5)その他	3	-	4
(6)無回答	4	-	4
計	48	10	58

その他の内容

5. プレワークショップへの参加

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
基礎知識	13	4	23	8	15	1	51	13	64

6. 情報交換会

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
	34	7	26	11	18	1	78	19	97

7. 自由交流

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
	23	7	25	8	21	3	69	18	87

8. 会館の利用歴(複数回答)

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
会館が主催する男女共同参画に携わるリーダー向け研修に参加したことがある	18	1	2	-	17	1	37	2	39
会館が主催する本事業以外の事業に参加したことがある	14	-	2	-	14	1	30	1	31
会館を利用し、事業を実施したことがある	2	-	-	-	2	-	4	-	4
会館で実施された、他の機関・団体で実施した事業に参加したことがある	3	-	3	1	2	-	8	1	9

9. 地域別

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	計
北海道	1	2	3	2	-	-	4	4	8
青森県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
岩手県	2	-	-	-	-	-	2	-	2
宮城県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
秋田県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
茨城県	-	-	2	-	-	-	2	-	2
栃木県	-	1	1	-	-	-	1	1	2
群馬県	3	-	5	1	3	-	11	1	12
埼玉県	2	-	2	-	10	3	14	3	17
千葉県	2	1	3	2	1	-	6	3	9
東京都	10	1	2	1	2	-	14	2	16
神奈川県	4	-	-	-	-	-	4	-	4
山梨県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
新潟県	-	-	1	2	-	-	1	2	3
長野県	1	-	2	-	3	1	6	1	7
富山県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
石川県	-	-	-	-	3	-	3	-	3
福井県	-	1	2	-	1	1	3	2	5
岐阜県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
静岡県	2	-	2	-	1	-	5	-	5
愛知県	1	-	1	2	1	-	3	2	5
三重県	1	-	1	1	-	-	2	1	3
滋賀県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	3	-	1	-	1	-	5	-	5
兵庫県	4	-	-	-	1	-	5	-	5
奈良県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
和歌山県	-	-	-	-	1	-	1	-	1
鳥取県	-	-	-	1	-	-	-	1	1
島根県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
岡山県	1	-	2	1	1	-	4	1	5
広島県	3	-	-	-	-	-	3	-	3
山口県	1	-	1	1	2	-	4	1	5
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
福岡県	2	1	2	-	3	-	7	1	8
佐賀県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
長崎県	1	-	1	1	-	-	2	1	3
熊本県	-	-	1	1	-	-	1	1	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	1	-	-	-	1	-	2	2
鹿児島県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	49	11	43	16	34	6	126	33	159

10. 地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	割合%
北海道・東北	11	5	16	10.1
関東	52	10	62	38.9
甲信越	8	3	11	6.9
北陸・東海	19	5	24	15.1
近畿	12	1	13	8.2
中国・四国	12	4	16	10.1
九州・沖縄	12	5	17	10.7
合計	126	33	159	100.0

平成28年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修＜女性関連施設・地方自治体・団体＞」アンケート集計結果

参加者数 159 名 アンケート回答数 132 件
アンケート対象者 132 名 アンケート回答率 100.0 %

1 本研修に関する意見・感想をお聞かせください。

【25日 プレ講義「男女共同参画の基礎知識」(希望者)】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	12	11.8	2	8.7	14	10.8
有用であった	20	19.8	9	30.0	29	22.0
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
参加しなかった	47	46.0	17	56.6	64	48.4
無回答	22	21.8	2	8.7	24	18.2
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	5	10.4	7	14.8	2	5.8	14	10.8
有用であった	9	18.8	15	31.3	5	13.9	29	22.0
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	1	2.1	-	-	1	0.8
参加しなかった	28	59.3	20	41.5	16	44.4	64	48.4
無回答	6	12.5	5	10.4	13	39.1	24	18.2
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【25日 講義「一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して～女性活躍推進と男性中心型労働慣行の変革」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	75	73.5	18	60.1	93	70.5
有用であった	16	15.7	10	33.3	26	19.7
あまり有用でなかった	1	1.0	1	3.3	2	1.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	2.9	1	3.3	4	3.0
無回答	7	6.9	-	-	7	5.3
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	36	75.0	37	77.0	20	55.5	93	70.5
有用であった	8	16.8	9	18.8	9	25.0	26	19.7
あまり有用でなかった	-	-	1	2.1	1	2.8	2	1.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	6.3	-	-	1	2.8	4	3.0
無回答	1	2.1	1	2.1	5	13.9	7	5.3
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【25日 報告「男女共同参画社会に向けた今日の政策課題」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	23	22.5	5	16.7	28	21.2
有用であった	62	60.8	19	63.3	81	61.3
あまり有用でなかった	7	6.9	5	16.7	12	9.1
有用でなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
参加しなかった	2	2.0	1	3.3	3	2.3
無回答	7	6.9	-	-	7	5.3
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	9	18.8	11	22.9	8	22.2	28	21.2
有用であった	32	66.8	31	64.6	18	50.0	81	61.3
あまり有用でなかった	4	8.3	5	10.4	3	8.3	12	9.1
有用でなかった	-	-	-	-	1	2.8	1	0.8
参加しなかった	2	4.2	-	-	1	2.8	3	2.3
無回答	1	2.1	1	2.1	5	13.9	7	5.3
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【25日 CSW60(第50回国連婦人の地位委員会)参加報告】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	27	26.5	3	10.0	30	22.7
有用であった	54	52.9	17	56.7	71	53.8
あまり有用でなかった	8	7.8	8	26.7	16	12.1
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	6	5.9	2	6.7	8	6.1
無回答	7	6.9	-	-	7	5.3
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	12	25.0	7	14.8	11	30.8	30	22.7
有用であった	31	64.5	28	58.1	14	38.8	71	53.8
あまり有用でなかった	2	4.2	12	25.0	2	5.6	16	12.1
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	4.2	2	4.2	4	11.1	8	6.1
無回答	1	2.1	1	2.1	5	13.9	7	5.3
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【25日 情報交換会(希望者)】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	32	31.4	11	36.7	43	32.6
有用であった	36	35.3	9	30.0	45	34.1
あまり有用でなかった	3	2.9	1	3.3	4	3.0
有用でなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
参加しなかった	17	16.7	6	20.0	23	17.4
無回答	13	12.7	3	10.0	16	12.1
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	14	29.2	21	43.8	8	22.2	43	32.6
有用であった	22	45.8	15	31.3	8	22.2	45	34.1
あまり有用でなかった	3	6.3	1	2.1	-	-	4	3.0
有用でなかった	-	-	-	-	1	2.8	1	0.8
参加しなかった	5	10.4	8	16.7	10	27.8	23	17.4
無回答	4	8.3	3	6.3	9	25.0	16	12.1
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【26日 情報提供「NWECの事業展開について」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	29	28.4	5	16.7	34	25.8
有用であった	57	55.8	19	63.3	76	57.6
あまり有用でなかった	2	2.0	3	10.0	5	3.8
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	2.0	2	6.7	4	3.0
無回答	12	11.8	1	3.3	13	9.8
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	13	27.1	13	27.1	8	22.2	34	25.8
有用であった	30	62.4	31	64.5	15	41.7	76	57.6
あまり有用でなかった	2	4.2	2	4.2	1	2.8	5	3.8
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	2.1	-	-	3	8.3	4	3.0
無回答	2	4.2	2	4.2	9	25.0	13	9.8
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【26日 座談会「男女共同参画の視点から働き方改革について考える」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	48	47.0	15	50.0	63	47.7
有用であった	41	40.2	11	36.7	52	39.4
あまり有用でなかった	1	1.0	1	3.3	2	1.5
有用でなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
参加しなかった	-	-	2	6.7	2	1.5
無回答	11	10.8	1	3.3	12	9.1
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	25	52.0	22	45.8	16	44.4	63	47.7
有用であった	19	39.6	23	47.9	10	27.8	52	39.4
あまり有用でなかった	-	-	1	2.1	1	2.8	2	1.5
有用でなかった	1	2.1	-	-	-	-	1	0.8
参加しなかった	-	-	-	-	2	5.6	2	1.5
無回答	3	6.3	2	4.2	7	19.4	12	9.1
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【26日 分科会Ⅰ「働くことをめぐる課題に迫る」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	37	36.3	14	46.7	51	38.6
有用であった	54	53.0	15	50.0	69	52.2
あまり有用でなかった	3	2.9	-	-	3	2.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	1	3.3	1	0.8
無回答	8	7.8	-	-	8	6.1
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	20	41.7	17	35.4	14	38.9	51	38.6
有用であった	25	52.0	29	60.4	15	41.8	69	52.2
あまり有用でなかった	1	2.1	1	2.1	1	2.8	3	2.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	1	2.8	1	0.8
無回答	2	4.2	1	2.1	5	13.9	8	6.1
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【26日 全体会Ⅰ「各分科会の内容の共有」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	28	27.5	8	26.7	36	27.3
有用であった	59	57.7	17	56.6	76	57.5
あまり有用でなかった	2	2.0	-	-	2	1.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.0	2	6.7	3	2.3
無回答	12	11.8	3	10.0	15	11.4
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	14	29.2	12	25.0	10	27.8	36	27.3
有用であった	31	64.5	29	60.4	16	44.4	76	57.5
あまり有用でなかった	-	-	2	4.2	-	-	2	1.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	1	2.1	2	5.6	3	2.3
無回答	3	6.3	4	8.3	8	22.2	15	11.4
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【26日 自由交流(テーマ別)(希望者のみ)】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	20	18.6	6	20.0	26	18.7
有用であった	25	24.5	6	20.0	31	23.5
あまり有用でなかった	5	4.9	2	6.7	7	5.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	24	23.5	11	36.6	35	26.5
無回答	28	27.5	5	16.7	33	25.0
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	9	18.8	10	20.8	7	19.4	26	19.7
有用であった	9	18.8	14	29.1	8	22.2	31	23.5
あまり有用でなかった	4	8.2	2	4.2	1	2.8	7	5.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	13	27.1	13	27.1	9	25.0	35	26.5
無回答	13	27.1	9	18.8	11	30.6	33	25.0
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【27日 分科会Ⅱ「働くことをめぐる課題の解決方法を探る」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	52	51.0	16	53.3	68	51.5
有用であった	35	34.3	12	40.0	47	35.6
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
無回答	14	13.7	2	6.7	16	12.1
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	26	54.1	26	54.1	16	44.4	68	51.5
有用であった	19	39.6	15	31.3	13	36.1	47	35.6
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	1	2.8	1	0.8
無回答	3	6.3	7	14.6	6	16.7	16	12.1
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

【27日 全体会「各分科会の内容の共有」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	24	23.5	8	26.7	32	24.2
有用であった	46	45.1	15	49.9	61	46.2
あまり有用でなかった	2	2.0	-	-	2	1.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.0	2	6.7	3	2.3
無回答	29	28.4	5	16.7	34	25.8
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
非常に有用であった	18	37.5	7	14.6	7	19.4	32	24.2
有用であった	19	39.6	27	56.3	15	41.7	61	46.2
あまり有用でなかった	-	-	1	2.1	1	2.8	2	1.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	2	4.2	1	2.8	3	2.3
無回答	11	22.9	11	22.9	12	33.3	34	25.8
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0

2 この研修内容は有用でしたか。

	女性	%	男性	%	合計	%	※%	※%		管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	68	66.7	14	46.7	82	62.1	63.0	99.2	非常に有用であった	31	64.6	30	62.5	21	58.3	82	62.1	63.0	99.2
有用であった	31	30.4	16	53.3	47	35.8	36.2	0.8	有用であった	17	35.4	18	37.5	12	33.3	47	35.8	36.2	0.8
あまり有用でなかった	1	1.0	-	-	1	0.8	0.8		あまり有用でなかった	-	-	-	-	1	2.8	1	0.8	0.8	
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-		有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	2	2.0	-	-	2	1.5			無回答	-	-	-	-	2	5.6	2	1.5		
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0	100.0	100.0	合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0	100.0	100.0

<非常に有用であった理由>

施策の動向から具体的な事例まで、男女共同参画と女性活躍について総合的に理解を進めることが出来た。
経営的視点、学校教育などについて新たな知見が得られた。事業展開上のヒントが得られた。グループワークのファシリテーション、スキルについて素晴らしい事例を体験できた。
社会全体の動き、地方自治体としてこれから何をすべきかということを知り、考えさせられた。多くの有識者との会話や議論を通して自身の幅も広がったと実感している。

<有用であった理由>

働くをキーワードに、「今」の男女共同参画の動きについていろいろなお話を聞くことが出来た。
男女共同参画を取り巻く現状、課題、方向性等を学ぶことが出来た。
男女共同参画社会形成に向かうための基本的な考え方を学ぶことが出来、自市での取組を考えていくヒントがたくさんあった研修だった。

3 この研修は満足でしたか。

	女性	%	男性	%	合計	%	※%	※%		管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	44	43.1	12	40.0	56	42.4	43.0	93.8	非常に満足した	20	41.7	22	45.8	14	38.9	56	42.4	43.0	93.8
満足した	50	49.0	16	53.3	66	50.0	50.8	6.2	満足した	24	50.0	25	52.1	17	47.2	66	50.0	50.8	6.2
少し物足りなかった	6	5.9	2	6.7	8	6.1	6.2		少し物足りなかった	4	8.3	1	2.1	3	8.3	8	6.1	6.2	
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-		物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	2	2.0	-	-	2	1.5			無回答	-	-	-	-	2	5.6	2	1.5		
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0	100.0	100.0	合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0	100.0	100.0

<非常に満足した理由>

講義や分科会などを通じて、他の所属の先進的な取組などに良い刺激を受けた。
とにかく多彩なカリキュラムで、小さな市ではとても出来ない。国は凄い！と思った。
異業、異業の機関と交流して情報共有できた。インプットしたことを自分なりにまとめ、職場で広めたい。
待っているだけでは得られない情報がNNECに足を運ぶと、より多く得られた。

<満足した理由>

全国から参加されている方々と交流できる時間が有り、他施設の活動について知ることが出来た。
昨年や他事業で一緒した方とも再会でき、その後の報告も含めて情報交換できた。
ネットワークづくりにつながった。

4 研修の達成度をご回答ください。

(1)男女共同参画の視点、考え方を学ぶことができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	47	46.1	13	43.3	60	45.5
おおむねできた	51	50.0	17	56.7	68	51.5
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-
できなかった	-	-	-	-	-	-
無回答	4	3.9	-	-	4	3.0
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%	※%	※%
十分できた	23	47.9	24	50.0	13	36.1	60	45.5	49.9	100.0
おおむねできた	24	50.0	24	50.0	20	55.6	68	51.5	53.1	
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	1	2.1	-	-	3	8.3	4	3.0		
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0	100.0	100.0

(2)男女共同参画政策に関わる国の施策・動向を理解することができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	38	37.3	14	46.7	52	39.4
おおむねできた	59	57.8	15	50.0	74	56.0
あまりできなかった	-	-	1	3.3	1	0.8
できなかった	-	-	-	-	-	-
無回答	5	4.9	-	-	5	3.8
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%	※%	※%
十分できた	24	50.0	17	35.4	11	30.6	52	39.4	40.9	99.2
おおむねできた	23	47.9	30	62.5	21	58.3	74	56.0	58.3	
あまりできなかった	-	-	-	-	1	2.8	1	0.8	0.8	0.8
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	1	2.1	1	2.1	3	8.3	5	3.8		
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0	100.0	100.0

(3)地域で男女共同参画を推進するための自組織が抱える課題を把握することができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	21	20.6	4	13.3	25	18.9
おおむねできた	65	63.7	20	66.7	85	64.5
あまりできなかった	10	9.8	6	20.0	16	12.1
できなかった	-	-	-	-	-	-
無回答	6	5.9	-	-	6	4.5
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%	※%	※%
十分できた	11	22.9	9	18.8	5	13.9	25	18.9	19.8	87.3
おおむねできた	31	64.6	30	62.4	24	65.7	85	64.5	67.5	
あまりできなかった	5	10.4	8	16.7	3	8.3	16	12.1	12.7	12.7
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	1	2.1	1	2.1	4	11.1	6	4.5		
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0	100.0	100.0

(4)地域課題解決のための組織の在り方について、方向性や手立てを得ることができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	8	7.8	6	20.0	14	10.8
おおむねできた	70	68.7	18	60.0	88	66.6
あまりできなかった	18	17.6	6	20.0	24	18.2
できなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
無回答	5	4.9	-	-	5	3.8
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%	※%	※%
十分できた	9	18.8	2	4.2	3	8.3	14	10.8	11.0	80.3
おおむねできた	30	62.4	35	72.9	23	64.0	88	66.6	69.3	
あまりできなかった	7	14.6	10	20.8	7	19.4	24	18.2	18.9	19.7
できなかった	1	2.1	-	-	-	-	1	0.8	0.8	
無回答	1	2.1	1	2.1	3	8.3	5	3.8		
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0	100.0	100.0

(5)地域課題解決のための事業や企画の在り方について、方向性や手立てを得ることができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	10	9.8	4	13.3	14	10.8
おおむねできた	70	68.8	17	56.7	87	66.0
あまりできなかった	17	16.7	8	26.7	25	18.9
できなかった	-	-	-	-	-	-
無回答	5	4.9	1	3.3	6	4.5
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%	※%	※%
十分できた	8	16.7	2	4.2	4	11.1	14	10.8	11.1	80.2
おおむねできた	32	66.8	33	68.7	22	61.1	87	66.0	69.1	
あまりできなかった	7	14.6	12	25.0	6	16.7	25	18.9	19.8	19.8
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	1	2.1	1	2.1	4	11.1	6	4.5		
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0	100.0	100.0

(6)地域で男女共同参画を推進するための連携・協働の在り方について、手がかりを得ることができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	11	10.8	2	6.7	13	9.8
おおむねできた	67	65.7	21	70.0	88	66.7
あまりできなかった	21	20.6	6	20.0	27	20.5
できなかった	-	-	-	-	-	-
無回答	3	2.9	1	3.3	4	3.0
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%	※%	※%
十分できた	5	10.4	5	10.4	3	8.3	13	9.8	10.2	78.9
おおむねできた	34	70.8	30	62.5	24	65.7	88	66.7	68.7	
あまりできなかった	7	14.6	13	27.1	7	19.4	27	20.5	21.1	21.1
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	2	4.2	-	-	2	5.6	4	3.0		
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0	100.0	100.0

(7)全国の各地域で男女共同参画を推進するリーダーの人々とのネットワークづくりのきっかけを得ることができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	30	29.4	11	36.7	41	31.1
おおむねできた	55	53.9	14	46.7	69	52.3
あまりできなかった	9	8.8	5	16.7	14	10.8
できなかった	3	2.9	-	-	3	2.3
無回答	5	4.9	-	-	5	3.8
合計	102	100.0	30	100.0	132	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%	※%	※%
十分できた	17	35.4	15	31.3	9	25.0	41	31.1	32.3	80.8
おおむねできた	25	52.1	29	60.4	15	41.7	69	52.3	54.3	
あまりできなかった	5	10.4	3	6.3	6	16.7	14	10.8	11.0	13.4
できなかった	-	-	-	-	3	8.3	3	2.3	2.4	
無回答	1	2.1	1	2.1	3	8.3	5	3.8		
合計	48	100.0	48	100.0	36	100.0	132	100.0	100.0	100.0

5 今後この研修で取り上げてほしいテーマ・内容・方法等について、自由にお書きください。

施設組織の運営、人材マネジメント、育成、新たな財源獲得、「男性」の巻き込み方、働き方改革、LGBT、SDGs

6 国立女性教育会館の事業や施設等についてのご要望やご意見を自由にお書きください。

日常の家事や雑事、職場でのあらゆる問題から離れて、男女共同参画のこののみをじっくりと考える時間を過ごせたことが有意義。

男女共同参画について専門性の高い情報が得られる貴重な場。今後も事業継続しこの場を組織してほしい。

7 研修開催の情報を何で知りましたか。(複数回答可)

項目	人数(126人中)	% (126人中)	項目	人数(126人中)	% (126人中)
①行政から			④国立女性教育会館から		
男女共同参画課	77	61.1	ホームページ	49	38.9
教育委員会	-	-	メールマガジン	27	21.4
NPO所轄課	-	-	フェイスブック	-	-
②社会教育施設などから			ダイレクトメール	18	14.3
女性関連施設	7	5.6	⑤その他	3	2.4
公民館・生涯学習センター	-	-			
③団体・組織から			その他(具体的に)		
男女共同参画団体・女性団体	-	-	・チラシ: 1人 ・同僚から: 1人 ・職場で予算がついたから: 1人		
NPO上記以外の団体等から	2	1.6			

平成28年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修＜女性関連施設・地方自治体・団体＞」
フォローアップ調査集計結果(最終報告)

●回答者について

	対象者	回答数	%
管理職コース	47	47	100.0
地方自治体コース	48	48	100.0
団体リーダーコース	35	35	100.0
合計	130	130	100.0

参加者数:159名
フォローアップ対象者数:132名
有効回答数:130名
無回答数:2名(退職1名、活動終了1名)
回収率:100.0%

1 研修の成果はあなたの仕事や活動に役立ちましたか

	件数	%
a. 非常に役立った	68	52.3
b. 役立った	62	47.7
c. あまり役立たなかった	-	-
d. 役立たなかった	-	-
合計	130	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
130	100.0

	管理職	%	自治体	%	団体	%
a. 非常に役立った	29	61.7	24	50.0	15	42.9
b. 役立った	18	38.3	24	50.0	20	57.1
c. あまり役立たなかった	-	-	-	-	-	-
d. 役立たなかった	-	-	-	-	-	-
合計	47	100.0	48	100.0	35	100.0

2 研修の成果を普及・活用した方法

(1) 所属する組織内での普及・活用方法

ア. それぞれの内容における「活用プラン」および「実績」への回答数

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (130名中)	件数	% (68名中)	件数	% (62名中)
研修内容の報告・説明	110	84.6	62	91.2	48	77.4
各種広報資料への執筆・公表	13	10.0	8	11.8	5	8.1
研修資料を活用した勉強会・研修会の開催	23	17.7	14	20.6	9	14.5
所属組織・団体の体制づくり・整備への提言	26	20.0	15	22.1	11	17.7
来年度事業・予算への反映	35	26.9	23	33.8	12	19.4
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	54	41.5	31	45.6	23	37.1
その他	14	10.8	9	13.2	5	8.1

(表中のa、bは、設問1におけるプラス回答者の件数とする)

(2) 地域(他機関、団体・グループ等との連携)での普及・活用方法

ア. それぞれの内容における「活用プラン」および「実績」への回答数

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (130名中)	件数	% (68名中)	件数	% (62名中)
研修資料の提供	31	23.8	15	22.1	16	25.8
研修内容の説明	36	27.7	22	32.4	14	22.6
各種広報資料への執筆	7	5.4	3	4.4	4	6.5
勉強会・研修会での指導・助言・協力	36	27.7	20	29.4	16	25.8
他の組織・団体の体制づくり・整備への指導・助言・協力	20	15.4	9	13.2	11	17.7
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	28	21.5	14	20.6	14	22.6
ネットワーク構築に向けた働きかけ	33	25.4	16	23.5	17	27.4
その他	16	12.3	9	13.2	7	11.3

(表中のa、bは、設問2における回答件数とする)

平成28年度「学習オーガナイザー養成研修」実施要項

1. 趣旨

国立女性教育会館では、「男女共同参画の視点に立つキャリア開発」をテーマとした体系化された学習プログラムを企画・実施する「学習オーガナイザー」を養成する研修を開催します。

キャリアを個人の発達と社会参画の両面からとらえ、男女共同参画の基本理念や取組の意義、社会状況や現代的課題について整理するとともに、学習方法や評価など、事業運営に関する実務的な学びの機会を提供することで、経験者の知見・技能の向上と人材養成をもって男女共同参画の推進を図ります。

2. 目的

- (1) 男女共同参画意識の醸成、キャリア開発の基礎的理解、実態・課題把握をふまえた課題解決に結びつくプログラムの企画・実践力を形成します。
- (2) 「男女共同参画」と「キャリア開発」の二つの視点に立った学習プログラムを企画・実施できる人材の育成を通じ、男女共同参画社会の形成を推進します。

3. 主催 独立行政法人国立女性教育会館

4. 会場 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL 0493-62-6724・6725
FAX 0493-62-6720

5. 期日 平成28年12月14日（水）～12月16日（金）2泊3日

6. 対象及び定員

女性関連施設、公民館、行政、大学、NPOなどで、研修・学習事業、女性のキャリア開発、女性の活躍推進に係る事業等の企画・実施経験を有する方 30名

*初めて参加される方、現に業務に就いている方、活動している方を優先します。

7. 日程・内容（各プログラムの間に10～15分の休憩が入ります）

12/14 (水)	12:30 13:00 13:50 14:50 16:00 17:00 19:00 20:30								
		受付	開会	講義	講義	講義	チェックイン 夕食	ワーク ショップ	
12/15 (木)	9:00	11:15	12:00	13:15	14:15	15:10	17:00	18:30	19:30
	ワークショップ	ワーク ショップ	昼食	ワーク ショップ	講義	ワークショップ	休憩	情報交換会	
12/16 (金)	9:00	10:15	12:00	13:15	15:00				
	講義	ワークショップ	昼食	発表 まとめ	閉会				

第1日 12月14日(水)

- (1) 開会 13:00～13:45
①主催者あいさつ
②オリエンテーション
・日程及び趣旨説明、参加者同士の自己紹介
- (2) 講義「プログラムデザインの意義と役割」 13:50～14:40
学習プログラムの設計図となる「プログラムデザイン」作成の目的・意義とその重要性について、学習の「見える化」の視点から理解を深めます。
講師：櫻田今日子 国立女性教育会館事業課長
- (3) 講義「男女共同参画の基礎的理解を深めるために
～社会参加の経験の発展として～」 14:50～15:50
男女共同参画の歴史的経緯や、個としての女性と社会との関係などを踏まえ、男女共同参画の今日的な理解について講義を行います。
講師：神田 道子 東洋大学名誉教授、国立女性教育会館事業課客員研究員
- (4) 講義「キャリア開発上の課題について」 16:00～17:00
キャリア開発を進める上での発達段階及び社会的状況による課題について、キャリアの個人的側面と社会的側面、キャリア開発の多様性の視点から学びます。
講師：亀田 温子 十文字学園フェロー、十文字学園女子大学名誉教授
- (5) ワークショップ「課題の共有と整理」 19:00～20:30
プログラムの対象となる学習者の実態や課題を把握するため、年齢・性別・所属など、属性や状況に起因する課題を探り、共有します。
講師：引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

第2日 12月15日(木)

- (6) ワークショップ「キャリア開発実践報告」 9:00～11:00
職業や社会活動をとおしてキャリア開発を進められた実践報告をもとに、キャリア開発を進める共通要因やポイントについて、ワークショップにより把握します。
報告者：山口 文代 NPO 法人パートナーシップながれやま代表
西村 和代 カラーズジャパン株式会社代表取締役
コーディネーター：西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員
- (7) ワークショップ「統計から考える男女共同参画の現状」 11:15～14:00
＜昼食休憩 12:00～13:15＞
意識調査、国際比較調査などの統計データから、日本の男女共同参画の現状と課題を深掘りし、読み解きます。
講師：中野 洋恵 国立女性教育会館研究国際室長

- (8) 講義「男女共同参画の視点に立った事業企画を考える」 14:15:~15:00
学習プログラムを企画する上での現状把握、実施、評価までのPDCAサイクルに基づく運営について、注意点・留意点を解説します。

講師：松下 光恵 NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか代表理事

- (9) ワークショップ「キャリア開発に向けたプログラムをデザインする」①

15:10~17:00

キャリア開発上の課題別に必要な学習プログラムについて、プログラムデザインを実際に企画・作成します。

ファシリテーター：西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員

学習支援：平成28年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員

国立女性教育会館事業課専門職員

- (10) 情報交換会

18:30~19:30

全国からの参加者同士のネットワークづくりを図り、交流を深めます。

第3日 12月16日(金)

- (11) 講義「協働型学習の理論・方法について」

9:00~10:00

協働型学習（グループワーク）を単なる「意見交換の場」ととどめずに、その場の学びをどう振り返り意味づけするか、学びをとおして価値意識の差異を認識し、それらの意味づけの中から実践につながる「気づき」を得ることの重要性について、社会教育の視点から考えます。

講師：笹井 宏益 国立教育政策研究所総括客員研究員

- (12) ワークショップ「キャリア開発に向けたプログラムをデザインする」②

10:15~12:00

キャリア開発上の課題別に必要な学習プログラムについて、プログラムデザインを実際に企画・作成します。

ファシリテーター：西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員

学習支援：平成28年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員

国立女性教育会館事業課専門職員

- (13) まとめと成果の共有

13:15~14:30

作成したプログラムデザイン案の発表により成果を共有するとともに、出来上がったプログラムを検証します。また、これまでの学習をふまえ、学習オーガナイザーの役割を再確認します。

コメンテーター：平成28年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員

- (14) 振り返り・閉会

14:30~15:00

8. 平成28年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員（五十音順、敬称略）

- ・ 亀田 温子 十文字学園フェロー、十文字学園女子大学名誉教授
- ・ 神田 道子 東洋大学名誉教授、国立女性教育会館事業課客員研究員
- ・ 西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員
- ・ 松下 光恵 NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか代表理事

9. その他

- （１）研修期間中に職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。
- （２）研修の一環として、研修終了後（時期未定、平成29年3月以降）にフォローアップ調査を実施いたします。皆様の実際の職務や活動に、研修成果がどのように役立てられているかを伺うものです。今後の事業を充実させていくための参考にさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成28年度 学習オーガナイザー養成研修 参加者概況

1. 性別

	合 計
女 性	27
男 性	3
合 計	30

定員 30 名
 申込者 33 名
 (※内キャンセル 3名)
 参加者 30 名
 応募倍率 110.0 %

2. 参加日別

	女 性	男 性	合 計
全日程	23	3	26
14日のみ	1	—	1
14日、15日	—	—	—
15日、16日	2	—	2
15日のみ	1	—	1
16日のみ	—	—	—
合 計	27	3	30

3. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	—	—	—
30代	1	1	2
40代	9	—	9
50代	11	2	13
60代以上	6	—	6
無回答	—	—	—
合 計	27	3	30

4. 情報交換会参加

	合 計
女 性	19
男 性	3
不参加	8
合 計	30

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	4	1	5
関東	9	2	11
甲信越	2	—	2
北陸・東海	2	—	2
近畿	1	—	1
中国・四国	4	—	4
九州・沖縄	5	—	5
合 計	27	3	30

5. 都道府県別

		女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	1	—	1
	青森県	1	—	1
	岩手県	2	1	3
	宮城県	—	—	—
	秋田県	—	—	—
	山形県	—	—	—
	福島県	—	—	—
関東	茨城県	—	—	—
	栃木県	1	—	1
	群馬県	—	—	—
	埼玉県	1	—	1
	千葉県	1	—	1
	東京都	5	2	7
	神奈川県	1	—	1
甲信越	山梨県	—	—	—
	新潟県	1	—	1
	長野県	1	—	1
北陸・東海	富山県	1	—	1
	石川県	—	—	—
	福井県	—	—	—
	岐阜県	—	—	—
	静岡県	—	—	—
	愛知県	1	—	1
	三重県	—	—	—
近畿	滋賀県	—	—	—
	京都府	—	—	—
	大阪府	—	—	—
	兵庫県	—	—	—
	奈良県	—	—	—
	和歌山県	1	—	1
中国・四国	鳥取県	—	—	—
	島根県	—	—	—
	岡山県	1	—	1
	広島県	1	—	1
	山口県	—	—	—
	徳島県	—	—	—
	香川県	—	—	—
	愛媛県	—	—	—
	高知県	2	—	2
九州・沖縄	福岡県	2	—	2
	佐賀県	—	—	—
	長崎県	—	—	—
	熊本県	2	—	2
	大分県	—	—	—
	宮崎県	—	—	—
	鹿児島県	—	—	—
	沖縄県	1	—	1
合計		27	3	30

平成28年度「学習オーガナイザー養成研修」参加者アンケート集計結果

参加者 30 名
回答者 28 名
回収率 93.3 %

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

1. 各プログラムについて

(1)講義「プログラムデザインの意義と役割」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	13	46.4	50.0	100.0
有用	13	46.4	50.0	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	1	3.6		
無回答	1	3.6		
合計	28	100.0	100.0	100.0

(2)講義「男女共同参画の基礎的理解を深めるために～社会参加の経験の発展として～」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	18	64.2	66.7	96.3
有用	8	28.6	29.6	
あまり有用でない	1	3.6	3.7	3.7
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	1	3.6		
合計	28	100.0	100.0	100.0

(3)講義「キャリア開発上の課題について」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	20	71.4	74.1	100.0
有用	7	25.0	25.9	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	1	3.6		
合計	28	100.0	100.0	100.0

(4)ワークショップ「課題の共有と整理」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	12	42.9	46.2	96.2
有用	13	46.3	50.0	
あまり有用でない	1	3.6	3.8	3.8
有用でない	-	-	-	-
不参加	1	3.6		
無回答	1	3.6		
合計	28	100.0	100.0	100.0

(5)講義 キャリア開発実践報告

	人数	%	※%	※%
非常に有用	19	67.8	70.4	100.0
有用	8	28.6	29.6	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	1	3.6		
合計	28	100.0	100.0	100.0

(6)ワークショップ「統計から考える男女共同参画の現状」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	16	57.1	57.1	100.0
有用	12	42.9	42.9	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-
合計	28	100.0	100.0	100.0

(7)講義「男女共同参画の視点に立った事業企画を考える」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	24	85.7	88.9	100.0
有用	3	10.7	11.1	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	1	3.6		
合計	28	100.0	100.0	100.0

(8)ワークショップ「キャリア開発に向けたプログラムをデザインする①」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	15	53.5	55.6	96.3
有用	11	39.3	40.7	
あまり有用でない	1	3.6	3.7	3.7
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	1	3.6		
合計	28	100.0	100.0	100.0

(9)情報交換会(希望者のみ参加)

	人数	%	※%	※%
非常に有用	14	50.1	60.9	100.0
有用	9	32.1	39.1	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	3	10.7		
無回答	2	7.1		
合計	28	100.0	100.0	100.0

(10)講義「協働型学習の理論と方法について」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	16	57.2	61.5	100.0
有用	10	35.7	38.5	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	2	7.1		
合計	28	100.0	100.0	100.0

(11)ワークショップ「キャリア開発に向けたプログラムをデザインする②」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	21	75.0	80.8	100.0
有用	5	17.9	19.2	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	2	7.1	-	-
合計	28	100.0	100.0	100.0

(12)まとめと成果の共有

	人数	%	※%	※%
非常に有用	17	60.7	73.9	100.0
有用	6	21.4	26.1	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	5	17.9	-	-
合計	28	100.0	100.0	100.0

2. 研修全体について

(1)満足度

	人数	%	※%	※%
非常に満足	21	74.9	77.8	96.3
満足	5	17.9	18.5	
少し物足りない	1	-	-	3.7
物足りない	-	-	-	-
無回答	1	8.0	-	-
合計	28	100.0	100.0	100.0

<主な意見・感想等>

「非常に満足」の理由

- ・同じ目的のもとで仕事(活動)しているみなさんとの討議は、孤立感を感じることも多々ある日常の中で励みになった。男女共同参画というとても広く深い課題にとりくむ中、NWECの研修の場は貴重。
- ・企画担当者同志のワークショップは、同じ悩みを持つ仲間として役立つ情報が得られた。
- ・自分たちの行っていることの位置づけ、確認作業ができた。企画実施、終了のプロセス、これが欲しかった。
- ・研修を受けたことと、全国から集まった「男女共同参画」に関わっている方たちと交流することで、再度この仕事の意味を確認できた。思い切って参加して良かった。

「満足」の理由

- ・具体的プランを作成し、ブラッシュアップする時間がもう少し欲しかった。
- ・他の自治体、センターの方、団体の方など、立場や規模の異なる方と交流でき、意見をうかがえたので、大変勉強になった。
- ・3日間じっくり学ぶことが出来てよかった。宿泊しながら学べるのも体力的に助かった。

「少し物足りなかった」理由

- ・もう少し時間が欲しかった。

(2)有用度

	人数	%	※%	※%
非常に有用	22	78.5	81.5	100.0
有用	5	17.9	18.5	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
無回答	1	3.6	-	-
合計	28	100.0	100.0	100.0

<主な意見・感想等>

「非常に有用」の理由

- ・男女共同参画における課題が多すぎて何をどうするのかわからない状況だったが、まずは優先順位をつけ、目的を明確にしてターゲットを絞り込んで計画書を作成すること、そしてニーズをちゃんと把握することに気づかされた。

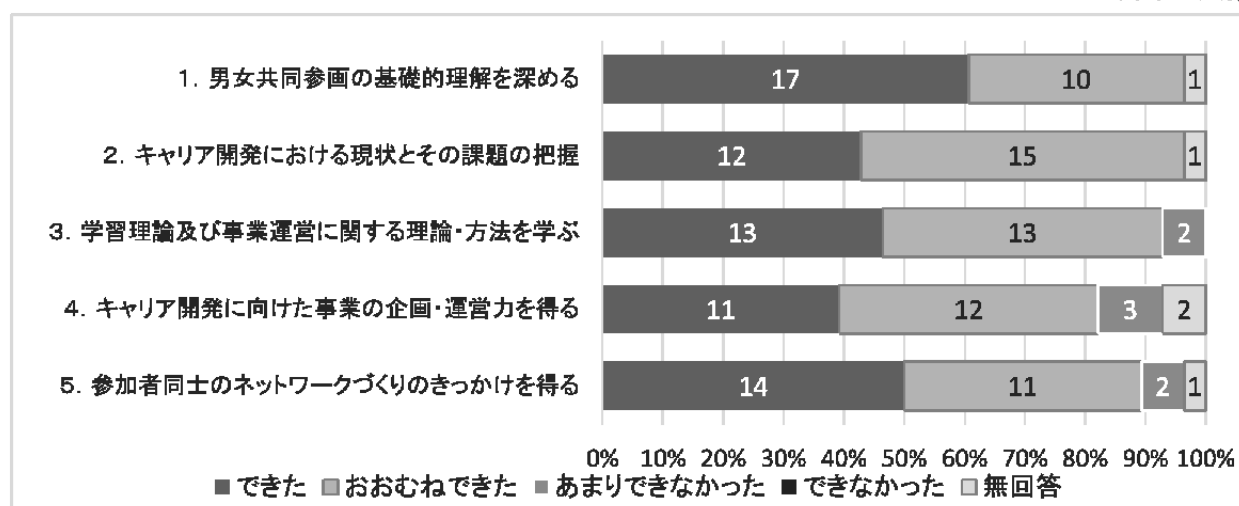
- ・キャリア開発プログラムのデザインには、作成するまでにきちんと準備しなければならず、それが相手（支援対象）にもきちんと伝わり共有するものという事が理解でき、今後の事業の取組の参考にしたい。
- ・企画担当者が一堂にあつまり、日常課題としているプログラム作りを学べることは、とてもラッキーだった。通常職場では教えてもらえない基礎基本も入っていて有用だった。地域で実践したい。
- ・業務の中でキャリアに関係しない事業の企画にも生かせる内容。また、学習した内容を取り入れたいと思える意識づけができるカリキュラムだった。
- ・講義とグループワークのバランスも丁度よく、話を深掘りして考えることができた。同じ立場の方と同じ悩み・課題を共有することができた。すぐにすべてできるわけではないが、やり方、手法をすることができ、男女に限らず、他の仕事にも応用できる部分が多くあったと思う。

「有用」の理由

- ・具体的に今すぐ実践できる場はないが、事業の枠組を見直す段階で新たな提案ができそうだ。
- ・課題を明確にすること、対象者を限定し、満足度の高い講座を提供することの重要性がよくわかった。
- ・知らなかったことやこれから知るべきことが明確になってきたと思う。講義とワークショップが交互にカリキュラムが組まれていたのがよかった。

3. 研修の達成度について

(単位:人数)



4. 今後、自身が企画・運営に関わる事業の中で、キャリア開発に向けた事業の実施予定があるか

	人数	%
実施予定がある	13	46.4
今後の実施に向け検討したい	13	46.4
実施予定はない	1	3.6
無回答	1	3.6
合計	28	100.0

平成28年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施要項

1. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）

2. 後 援 経済産業省、厚生労働省

3. 会 場

1日目：放送大学東京文京学習センター

東京都文京区大塚3-29-1

TEL:03-5395-8688

2日目：国立女性教育会館

埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL:0493-62-6725

4. 期 日

平成28年10月18日（火）～10月19日（水）1泊2日（日帰り参加も可能）

5. 参 加 者

企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職及びリーダー

6. 日 程 ※「情報交流会」は、希望者のみの有料プログラムになります。

10/18 (火)	12:15 13:00 13:10 14:20 15:10 17:00 17:30 18:30									
			受付	開 会	基調 講演	情報 提供	パネル ディスカッション	閉 会	※情報 交流会	バス 移動
10/19 (水)	9:00	10:15	12:00	13:00	14:45 15:00					
	講義	グループ ワーク 1	昼 食	グループ ワーク 2	閉 会					

7. 内 容

第1日 10月18日（火）

【東京茗荷谷会場】

(1) 開会

13:00～13:10

主催者あいさつ：内海 房子 国立女性教育会館理事長

(2) 基調講演「男女ともに活躍できるこれからの働き方」

13:10～14:10

どうしたら男女ともに活躍できる社会になるのか、社会学の視点から、日本的な働き方と女性の社会進出の関係性を解説いただき、これからの働き方についての方向性と具体策をお話しいたします。

講 師：筒井 淳也

立命館大学産業社会学部現代社会学科教授

【講師紹介】

一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程満期退学。博士（社会学）

主な著書等：『仕事と家族』（中公新書）第6回「不動産協会賞」受賞、
『結婚と家族のこれから』（光文館新書）

（3）情報提供「新入社員の意識調査から」

14:20～15:00

国立女性教育会館が昨年実施した調査結果をもとに、新入社員のワーク・ライフ・バランスやキャリアに関する意識について紹介します。

講 師：島 直子 国立女性教育会館研究国際室研究員

（4）パネルディスカッション「多様なキャリア形成を受け入れる取組とは」 15:10～17:00

多様な働き方を受け入れ、社員の能力を引き出している各社のしくみと風土づくりについてうかがい、これからの新しい働き方について議論を深めます。

パ 初 社：藤本 圭子 株式会社セブン-イレブン・ジャパン 取締役常務執行役員
ダイバーシティ推進部長 兼
セブン&アイグループ ダイバーシティ推進プロジェクトリーダー

パ 初 社：児玉 涼子 株式会社リコー コーポレート統括本部
人事部 ダイバーシティ推進グループリーダー

パ 初 社：新谷 英子 カルビー株式会社 人事総務本部 ダイバーシティ委員会 委員長

コ ン テ ナ ー：筒井 淳也 立命館大学産業社会学部現代社会学科教授

モ デ レ ー タ ー：内海 房子 国立女性教育会館理事長

【パネリスト紹介】

藤本 圭子 氏

1979年、日揮（株）、東京ヒルトンホテル勤務後、1988年、（株）セブン-イレブン・ジャパン入社、秘書室マネジャー、総括マネジャーを経て、2006年5月執行役員秘書室長に就任。同時に持ち株会社である（株）セブン&アイ・ホールディングス秘書室オフィサー及びCSR統括部シニアオフィサー、セブン&アイ・グループダイバーシティ推進プロジェクトリーダーも兼任。2014年セブン-イレブン・ジャパン取締役執行役員秘書室長就任。2015年、セブン-イレブン・ジャパン取締役常務執行役員秘書室長。2016年6月より現職。

児玉 涼子 氏

1991年、（株）リコー入社。採用・福利厚生・制度企画など人事分野に従事。
2009年よりダイバーシティ推進のプロジェクトグループを兼務。
2011年、人事本部リコーグループ企業年金センター所長。2013年より現職。

新谷 英子 氏

カルビー（株）入社後、東京事業部の経営企画等で管理会計に従事。2005年、東京事業部 CSR（CSS）担当。（2009年5月～2010年11月産休～育休）2010年、東日本

事業本部財務担当。2011年(兼)ダイバーシティ委員会キャリア支援部会。2012年、東日本事業本部人事担当(兼)ダイバーシティ委員会キャリア支援部会リーダー。2013年、東日本事業本部人材開発課課長(時短)(兼)ダイバーシティ委員会キャリア支援部会リーダー。2016年より現職。

(5) 1日目閉会(1日目のみ参加者アンケート記入及び回収) 17:00~17:10

(6) 情報交流会(希望者のみ) 17:30~18:30

全国からの参加者と交流し、参加者同士の情報ネットワークづくりを行います。

*2日目参加者は専用バスで国立女性教育会館へ移動(約90分)

第2日 10月19日(水)

【武蔵嵐山会場】

(7) 講義「アクションラーニング」 9:00~9:45

21世紀型のリーダー育成のスキルとして注目され、リーダーに必要なコミュニケーション力養成に効果的なアクションラーニングを学びます。業務上で抱える問題について、対話を通じて解決するとともに、個人、チーム、組織の能力開発を行い、活気のある風土、自律型チーム、変革を生み出すリーダーを育成することに有効な学習法です。

講師：堀本 麻由子 国立女性教育会館事業課客員研究員
東海大学現代教養センター准教授

(8) 自己紹介と問題提示者決定 9:45~10:45

グループに分かれて、参加者同士の背景や問題意識を共有するための長めの自己紹介と、その後のグループワークでの問題提示者を決定します。

(9) グループワーク1 11:00~12:00

実際の業務での問題を事例に、グループごとにアクションラーニングに基づいたディスカッションを行います。

(10) グループワーク1の振り返り 13:00~13:30

グループワーク1を全体で振り返り、アクションラーニングを体験した気づきを共有します。

(11) グループワーク2 13:30~14:30

引き続き、グループごとにアクションラーニングに基づいたディスカッションを行います。

(12) まとめ 14:30~14:45

グループワークで話し合ったことを全員で共有し、全体のまとめを行います。

(13) 閉会 14:45~15:00

アンケートの記入及び回収

閉会あいさつ 櫻田今日子 国立女性教育会館事業課長

8. その他

職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成28年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」参加者概況

定員 80 名
 申込者数 118 名
 参加者 106 名
 応募倍率 147.5 %

キャンセル 12

1. 性別

	合 計
女 性	89
男 性	17
合 計	106

2. 18日講演・パネルディスカッション

	女 性	男 性	合 計
参加	89	17	106
不参加	—	—	—
合計	89	17	106

3. 18日情報交流会(オプション)

	女 性	男 性	合 計
参加	39	8	47
不参加	50	9	59
合計	89	17	106

4. 19日グループワーク 1

	女 性	男 性	合 計
参加	31	3	34
不参加	58	14	72
合計	89	17	106

5. 19日グループワーク 2

	女 性	男 性	合 計
参加	30	3	33
不参加	59	14	73
合計	89	17	106

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計	割合
北海道・東北	2	—	2	1.9
関東	73	15	88	83.0
甲信越	—	—	—	—
北陸・東海	6	2	8	7.5
近畿	6	—	6	5.7
中国・四国	2	—	2	1.9
九州・沖縄	—	—	—	—
合計	89	17	106	100.0

6. 都道府県別

		女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	—	—	—
	青森県	—	—	—
	岩手県	2	—	2
	宮城県	—	—	—
	秋田県	—	—	—
	山形県	—	—	—
	福島県	—	—	—
関東	茨城県	4	—	4
	栃木県	—	1	1
	群馬県	5	—	5
	埼玉県	5	3	8
	千葉県	6	—	6
	東京都	50	11	61
	神奈川県	3	—	3
甲信越	山梨県	—	—	—
	新潟県	—	—	—
	長野県	—	—	—
北陸・東海	富山県	—	1	1
	石川県	2	—	2
	福井県	—	—	—
	岐阜県	—	—	—
	静岡県	1	1	2
	愛知県	2	—	2
	三重県	1	—	1
近畿	滋賀県	2	—	2
	京都府	1	—	1
	大阪府	2	—	2
	兵庫県	1	—	1
	奈良県	—	—	—
	和歌山県	—	—	—
中国・四国	鳥取県	—	—	—
	島根県	—	—	—
	岡山県	—	—	—
	広島県	—	—	—
	山口県	1	—	1
	徳島県	—	—	—
	香川県	1	—	1
	愛媛県	—	—	—
	高知県	—	—	—
九州・沖縄	福岡県	—	—	—
	佐賀県	—	—	—
	長崎県	—	—	—
	熊本県	—	—	—
	大分県	—	—	—
	宮崎県	—	—	—
	鹿児島県	—	—	—
	沖縄県	—	—	—
	合計	89	17	106

平成28年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」 アンケート集計結果

参加者 106 名 (女性 89名 男性 17名)
アンケート回答数 97 件 (女性 80名 男性 14名 無回答 3名)
アンケート回答率 91.5 %

1. 事例発表・講演・パネルディスカッションについてご意見をお聞かせください。

- ・一日目でインプット、二日目で実用的な手法を学び、知識と実践というセミナーの形式で良かった。
- ・各社からの発表は、非常に実践的な話で参考になり、大変有意義だった。
- ・女性活躍促進の成功事例を聞けて、大変参考になった。TOPの意識が会社を動かすのだと強く感じた。

2. その他プログラムについてご意見をお聞かせください。

- ・ディスカッションではお互いの制度や悩みを共有することができ前向きな解を得ることができた。
- ・アクションラーニングについて深く理解でき、持ち帰れるものがたくさんあった。
- ・交流会、情報交換会が有益でした。多様な文化背景、業界ごとの特色など知り、共通項を探し出すことができた。

3 このセミナー全体の有用度は、いかがでしたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
非常に有用であった	36	45.0	5	35.7	—	—	41	42.3	42.3
有用であった	44	55.0	9	64.3	3	100.0	56	57.7	57.7
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	80	100.0	14	100.0	3	100.0	97	100.0	100.0

「非常に有用であった」理由

- ・アクションラーニング手法について深く理解できたことで、有用な者がたくさんあり、是非参考にして導入していきたい。
- ・最新の情報や先進企業の現状を知り、自社の位置や目標が明確になった。
- ・経営者の意識改革、女性の意識改革働き方改革がポイントになるということが、実例を聞き、非常によくわかった。

4 このセミナー全体の満足度は、いかがでしたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
非常に満足した	37	46.3	5	35.7	—	—	42	43.3	43.3
満足した	38	47.4	9	64.3	2	66.7	49	50.5	50.5
少し物足りなかった	5	6.3	—	—	1	33.3	6	6.2	6.2
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	80	100.0	14	100.0	3	100.0	97	100.0	100.0

「非常に満足した」理由

- ・アクションラーニングを日頃の仕事(一つの打合せ、会議など)で活かしてみようと思えた。
- ・企業の成長に女性活躍がマストであることだけでなく、真のダイバーシティの意義を再確認できた。
- ・意識改革が重要であること等、Keyの部分がTOPの強いメッセージが明確になった。

「少し物足りなかった」理由

- ・期待していたパネルディスカッションが短いと感じました。しかし、それ以外は、それぞれ大変充実していた。
- ・7&i、リコー、カルビー、それぞれの発表をもう少し多く聞いたかった。

5 あなた自身についてお聞かせください。

◆性別	人数	%						
女 性	80	82.5						
男 性	14	14.4						
無回答	3	3.1						
合 計	97	100.0						
◆年代	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%
20代	7	8.6	1	7.1	—	—	8	8.2
30代	27	33.8	5	35.7	—	—	32	33.0
40代	28	35.0	6	42.9	—	—	34	35.1
50代	15	18.8	2	14.3	—	—	17	17.5
60代	1	1.3	—	—	—	—	1	1.0
無回答	2	2.5	—	—	3	100.0	5	5.2
合計	80	100.0	14	100.0	3	100.0	97	100.0

平成28年度「企業を成長に導く女性活躍推進セミナー」モニター調査集計結果

●回答者について

参加者数:106名

モニター調査数:10名

回答数:9名

1 本セミナーはあなたの仕事に役立ちましたか

	件数	%
a. 非常に役立った	6	66.7
b. 役立った	3	33.3
c. あまり役立たなかった	—	—
d. 役立たなかった	—	—
合計	9	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
9	100.0

2 「非常に役立った」「役だった」に回答した方はそのように役立ちましたか(複数回答)

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (9名中)	件数	% (6名中)	件数	% (3名中)
研修内容の報告・説明	7	77.8	6	100.0	1	33.3
各種広報資料への執筆・公表	1	11.1	1	16.7	—	—
研修資料を活用した勉強会・研修会の開催	4	44.4	4	66.7	—	—
所属組織のシステム・制度整備への提言	—	—	—	—	—	—
来年度事業・予算への反映	1	11.1	1	16.7	—	—
ネットワーク構築に向けた働きかけ	5	55.6	3	50.0	2	66.7
自らの行動指針への影響	3	33.3	2	33.3	1	33.3
特に普及・活用していない	—	—	—	—	—	—

(表中のa、bは、設問1におけるプラス回答者の件数)

平成28年度「男女共同参画推進フォーラム」実施要項

1. 趣 旨

男女共同参画を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティや女性の活躍を推進する担当者等が一堂に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修を実施します。同時に、組織分野を越え、連携・協働して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成を図ります。

2. テーマ

つなぐ、あらたな明日へ
一人ひとりが活躍できる社会を創る

3. 日 程

平成28年8月26日（金）～8月28日（日）

4. 主催及び会場

独立行政法人国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL 0493-62-6724、6725

FAX 0493-62-6720

Eメールアドレス progdiv@nwec.jp

ホームページ URL <http://www.nwec.jp/>

5. 参加者

男女共同参画に関心のある方（行政、企業、大学、NPO等の組織において男女共同参画の推進に携わる方、並びに女性団体、女性／男女共同参画センター職員を含む。）

1,000名

6. 内 容

【第1日】8月26日（金）

（1）開会 主催者あいさつ

13:15～13:30

（2）特別講演

13:30～14:40

「均等法から30年、あらたな明日へ～女性の活躍について考える～」

今、国・自治体・企業などあらゆる組織において女性の活躍が求められています。今年は昭和60年（1985年）に制定された「男女雇用機会均等法」施行から30年目となり、平成27年（2015年）には、女性活躍推進法が成立しました。

今回の特別講演では、雇用の場における男女平等への道を切り拓くために尽

力された赤松良子氏をお迎えいたします。当時の映像を交えながら、走り続けてこられた道程を振り返り、これからの女性がさらに活躍できる環境づくりや、あらゆる場面で女性が参画していく視点について、ご講演いただきます。

講 師 赤松 良子 公益財団法人日本ユニセフ協会会長

- (3) ワークショップ1・パネル展示1 15:30～17:30
会館提供ワークショップと全国から募集したワークショップやパネル展示を行います。

- (4) 懇親会（参加費 3,500 円（税込）、立食） 18:30～20:00

【第2日】8月27日（土）

- (5) ワークショップ2・パネル展示2 10:00～12:00
全国から募集したワークショップやパネル展示を行います。

- (6) シンポジウム 13:00～15:00

「男もつらいよ！～男性の働き方改革とワークライフバランス再考～」

平成28年度より施行された第4次男女共同参画基本計画では、女性の活躍を妨げる一因として、長時間勤務や転勤が当然とされている男性中心型労働慣行をあげています。

このシンポジウムでは、男性の意識変革の観点から「男性学」を唱える男性研究者、24年前に男性で初めて育児休職を取得した企業人、社会のゆくえを展望しながら社会的課題にどう対処していくかを提言されてこられた女性研究者により、男女が共に働きやすく、生活しやすい社会を創りだすための議論を展開します。

パネリスト

田中 俊之 武蔵大学社会学部助教
著書『男が働かない、いいじゃないか』『不自由な男たち——その生きづらさは、どこから来るのか（田中俊之×小島慶子）』他

太田 睦 元電機メーカー研究所研究職
著書『オレだって育てる子どもをつくろう』『「育休父さん」の成長日誌—育児休業を取った6人の男たち』他

コーディネーター

宮本みち子 放送大学副学長
著書『下層化する女性たち』『人口減少社会のライフスタイル』他

- (7) ワークショップ3・パネル展示3 15:30～17:30
全国から募集したワークショップやパネル展示を行います。

【第3日】8月28日(日)

- (8) ワークショップ4・パネル展示4 10:00～12:00
全国から募集したワークショップやパネル展示を行います。

- (9) 神田 鯉栄 お話と講談の会 13:00～14:30

5月に真打に昇進した神田鯉栄(りえい)さんが、講談界での体験談と、ジェンダーを超えた新作「鉄砲のお熊」(作:三遊亭白鳥)をたっぷり語ります。

講談師 神田 鯉栄

7. ワークショップについて

(1) 趣旨

フォーラム期間中、会館及び一般公募による団体・個人が、男女共同参画、ダイバーシティ及び女性の活躍推進を目的とした日頃の取組や研究、教育、学習、実践活動の発表を行う場として、ワークショップ及びパネル展示を実施します。日程や内容などの詳細は、別紙「ワークショップ・パネル展示一覧」及び「参加者へのメッセージ」をご参照ください。

(2) テーマ

ワークショップ及びパネル展示のテーマは「第4次男女共同参画基本計画」に示されている施策などを参考に設定した、以下の7分野です。

	テーマ : 内容例
①	男性中心型労働慣行等の変革 : ワーク・ライフ・バランスの推進、男性管理職等への意識啓発、男性の家庭・地域への参画、男性の男女共同参画に対する理解の促進等
②	女性の活躍と女性のキャリア形成支援 : 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大、雇用等における機会の均等と待遇の確保、継続就業、再就職、女性管理職への支援、ポジティブ・アクションの推進、社会活動キャリアに対する評価、女性の能力開発への支援、女性のライフ・プランニング支援、女性起業家への支援等
③	学校教育における男女共同参画 : 大学における男女共同参画推進、科学技術・学術における男女共同参画の推進、女性研究者の参画拡大、小中学生向けプログラム、女子中高生への理系進路選択支援等
④	安全・安心と男女共同参画 : 女性に対する暴力の根絶、生活上の困難に直面する男女への支援、災害・防災への取組、高齢者・子ども・障害者・外国人等が安心して暮らせる環境の整備、人身取引等
⑤	地域づくりにおける男女共同参画 : 地域経済の活性化と女性の参画、地域や分野を横断するネットワークづくり、農山漁村女性のエンパワーメント、災害からの復興と地域づくり等
⑥	男女共同参画センターの役割 : 女性関連施設・社会教育施設の機能の充実、団体・NPO活動の支援、指定管理者制度のあり方、男女共同参画情報の発信・活用、女性関連施設における危機管理等
⑦	国際的な協調及び貢献 : 女子差別撤廃条約の遵守、国際規範の尊重、「北京行動綱領」の実現、男女共同参画の視点に立った国際貢献、国際機関・NGO等との連携、持続可能な開発のための2030アジェンダ等の情報提供等

(3) 会館提供ワークショップについて

会館による研究・実践の成果報告のワークショップを実施します。

男女共同参画の視点に立ったキャリア開発プログラムを考える

8月26日(金) 15:30～17:30

男女共同参画社会の実現を推進するためには、地域課題の解決に向けて男女共同参画の視点から体系化された効果的な学習プログラムの開発・企画することと同時に、それを展開していくための人材としての「学習オーガナイザー」が必要です。このワークショップでは、学習プログラムの設計図となる「プログラムデザイン」の解説、研修修了生の実践報告及びフロアとの意見を通じ、今後「学習オーガナイザー」が果たす役割とその可能性について探ります。

講 師	神田 道子	国立女性教育会館事業課客員研究員
ファシリテーター	西山恵美子	国立女性教育会館事業課客員研究員
報 告 者	町田 小織	東洋英和女学院大学講師

(4) ワークショップ選定委員

募集ワークショップ（ワークショップの部、パネル展示の部）の選考と調整を行います。

・犬塚 協太	静岡県立大学国際関係学部教授
・小山内世喜子	NPO 法人全国女性会館協議会代表理事
・小野島 恵子	公益財団法人 21 世紀職業財団開発事業部長

8. 情報コーナー（場所：本館1階ロビー南側レストラン前）

参加者の皆さまが、ご所属団体のパンフレットやチラシなどの資料や書籍などを自由に交換・販売するコーナーを設置しますので、ご利用ください。資料の運搬、陳列、金銭の取扱いなどは、各自の責任でお願いします。

9. 送迎バス

期間中、国立女性教育会館本館前～東武東上線武蔵嵐山駅東口間で無料送迎バスをピストン運行しますのでご利用ください。

*運行間隔は、武蔵嵐山駅への電車の到着にあわせ、1時間に3～4本程度です。

10. その他

以下の点について、あらかじめご了承ください。

- (1) 参加者同士の交流・情報交換の促進を目的とした場ですので、署名運動や行き過ぎた勧誘、募金等のご遠慮願います。
- (2) 申込書等で得た個人情報については、事業実施のための連絡及び参加者の統計情報として使用します。その情報は厳重に管理し、取扱いには十分留意いたします。
- (3) 期間中、当館が撮影した写真を記録や広報のために使用することがあります。

平成28年度「男女共同参画推進フォーラム」参加者概況

1. 参加区分別人数

一般参加者			募集WS運営者			講師・会館関係者			合計		
	計	%		計	%		計	%		計	%
女性	630	80.9	女性	244	85.6	女性	16	80.0	女性	890	82.1
男性	129	16.6	男性	41	14.4	男性	4	20.0	男性	174	16.1
無回答	20	2.6	無回答	—	—	無回答	—	—	無回答	20	1.8
計	779	100.0	計	285	100.0	計	20	100.0	計	1,084	100.0

(人)

定員 1000 名
参加者 1,084 名
充足率 108.4 %

平成27年度参加者 1,252名

【区分内訳】

一般参加者 宿泊申込者、当日申込者(日帰り)、会館ボランティア等
募集WS運営者 ワークショップの部及びパネル展示の部運営者等
講師・会館関係者 選定委員、会館プログラム講師、来賓、協議会メンバー等

【一般参加者・区分別人数】

(人)

	宿泊	日帰り	合計
女性	141	489	630
男性	21	108	129
無回答	1	19	20
計	163	616	779

2. 参加日別(延べ人数)

(人)

	一般参加者						募集WS運営者						講師・会館関係者						合計					
	女性	男性	無回答	計	%		女性	男性	無回答	計	%		女性	男性	無回答	計	%		女性	男性	無回答	計	%	
26日	428	70	20	518	43.8		157	15	—	172	38.4		14	2	—	16	40.0		599	87	20	706	42.3	
27日	393	78	2	473	40.0		159	23	—	182	40.8		12	3	—	15	37.5		564	104	2	670	40.1	
28日	150	39	2	191	16.2		79	15	—	94	21.0		8	1	—	9	22.5		237	55	2	294	17.6	
計	971	187	24	1,182	100		395	53	—	448	100		34	6	—	40	100		1,400	248	24	1,672	100	

3. 年代別

(人)

	一般参加者						募集WS運営者						講師・会館関係者						合計					
	女性	男性	無回答	計	%		女性	男性	無回答	計	%		女性	男性	無回答	計	%		女性	男性	無回答	計	%	
10～19歳	1	—	—	1	0.1		1	—	—	1	0.4		—	—	—	—	—		2	—	—	2	0.2	
20～29歳	41	10	—	51	6.5		8	—	—	8	2.8		—	—	—	—	—		49	10	—	59	5.4	
30～39歳	26	13	—	39	5.0		15	3	—	18	6.3		—	—	—	—	—		41	16	—	57	5.3	
40～49歳	75	25	—	100	12.8		26	7	—	33	11.6		—	—	—	—	—		101	32	—	133	12.3	
50～59歳	128	33	2	163	20.9		54	9	—	63	22.1		—	—	—	—	—		182	42	2	226	20.8	
60代以上	340	41	—	381	48.9		123	20	—	143	50.2		—	—	—	—	—		463	61	—	524	48.3	
無回答	19	7	18	44	5.6		17	2	—	19	6.7		18	4	—	20	100.0		52	13	18	83	7.7	
計	630	129	20	779	100		244	41	—	285	100		16	4	—	20	100		890	174	20	1,084	100	

4. 職業形態別

(人)

	一般参加者						募集WS運営者						講師・会館関係者						合計					
	女性	男性	無回答	計	%		女性	男性	無回答	計	%		女性	男性	無回答	計	%		女性	男性	無回答	計	%	
行政関係者	104	55	—	159	20.4		10	6	—	16	5.6		—	—	—	—	—		114	61	—	175	16.1	
研究者・大学教員	27	6	—	33	4.2		21	9	—	30	10.5		1	3	—	4	20.0		49	18	—	67	6.2	
小・中・高校教員	2	2	—	4	0.5		3	—	—	3	1.1		—	—	—	—	—		5	2	—	7	0.6	
団体・グループ	340	23	20	383	49.2		151	15	—	166	58.2		6	—	—	6	30.0		497	38	20	555	51.2	
施設関係者	36	10	—	46	5.9		12	—	—	12	4.2		6	—	—	6	30.0		54	10	—	64	5.9	
会社員・企業関係者	18	10	—	28	3.6		7	2	—	9	3.2		1	—	—	1	5.0		26	12	—	38	3.5	
学生	19	0	—	19	2.4		5	—	—	5	1.8		—	—	—	—	—		24	—	—	24	2.2	
その他	66	18	—	84	10.8		15	7	—	22	7.7		2	1	—	3	15.0		83	26	—	109	10.1	
無回答	18	5	—	23	3.0		20	2	—	22	7.7		—	—	—	—	—		38	7	—	45	4.2	
計	630	129	20	779	100		244	41	—	285	100		16	4	—	20	100.0		890	174	20	1,084	100	

5. 都道府県別

(人)

	一般参加者					募集WS運営者					講師・会館関係者					合計				
	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	無回答	計	%
北海道	25	4	—	29	3.7	4	—	—	4	1.4	1	—	—	1	5.0	30	4	—	34	3.1
青森県	2	—	—	2	0.3	1	—	—	1	0.4	1	—	—	1	5.0	4	—	—	4	0.4
岩手県	8	—	—	8	1.0	—	—	—	—	—	1	—	—	1	5.0	9	—	—	9	0.8
宮城県	1	—	—	1	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	0.1
秋田県	8	1	—	9	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	1	—	9	0.8
山形県	1	—	—	1	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	0.1
福島県	18	3	—	21	2.7	1	—	—	1	0.4	1	—	—	1	5.0	20	3	—	23	2.1
茨城県	42	13	—	55	7.1	2	1	—	3	1.1	1	—	—	1	5.0	45	14	—	59	5.4
栃木県	57	5	—	62	8.0	17	—	—	17	6.0	—	—	—	—	—	74	5	—	79	7.3
群馬県	53	—	—	53	6.8	1	—	—	1	0.4	—	—	—	—	—	54	—	—	54	5.0
埼玉県	96	30	1	127	16.3	49	13	—	62	21.8	1	—	—	1	5.0	148	43	1	190	17.5
千葉県	37	17	—	54	6.9	13	2	—	15	5.3	1	—	—	1	5.0	51	19	—	70	6.5
東京都	113	23	—	136	17.5	96	14	—	110	38.6	7	3	—	10	50.0	216	40	—	256	23.6
神奈川県	9	3	—	12	1.5	18	1	—	19	6.7	—	—	—	—	—	27	4	—	31	2.9
山梨県	36	6	—	42	5.4	15	4	—	19	6.7	—	—	—	—	—	51	10	—	61	5.6
新潟県	18	3	—	21	2.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18	3	—	21	1.9
長野県	10	2	18	30	3.9	1	—	—	1	0.4	—	—	—	—	—	11	2	18	31	2.9
富山県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石川県	4	—	—	4	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	4	0.4
福井県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岐阜県	2	—	—	2	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	0.2
静岡県	7	2	—	9	1.2	7	—	—	7	2.5	—	1	—	1	5.0	14	3	—	17	1.6
愛知県	12	—	—	12	1.5	1	—	—	1	0.4	—	—	—	—	—	13	—	—	13	1.2
三重県	1	2	—	3	0.4	1	—	—	1	0.4	—	—	—	—	—	2	2	—	4	0.4
滋賀県	5	2	—	7	0.9	—	—	—	—	—	1	—	—	1	5.0	6	2	—	8	0.7
京都府	11	2	—	13	1.7	—	2	—	2	0.7	—	—	—	—	—	11	4	—	15	1.4
大阪府	11	1	1	13	1.7	5	2	—	7	2.5	—	—	—	—	—	16	3	1	20	1.8
兵庫県	2	—	—	2	0.3	1	1	—	2	0.7	—	—	—	—	—	3	1	—	4	0.4
奈良県	3	—	—	3	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	3	0.3
和歌山県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鳥取県	3	1	—	4	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	1	—	4	0.4
島根県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岡山県	5	2	—	7	0.9	—	1	—	1	0.4	1	—	—	1	5.0	6	3	—	9	0.8
広島県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山口県	2	—	—	2	0.3	1	—	—	1	0.4	—	—	—	—	—	3	—	—	3	0.3
徳島県	—	—	—	—	—	1	—	—	1	0.4	—	—	—	—	—	1	—	—	1	0.1
香川県	1	—	—	1	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	0.1
愛媛県	—	1	—	1	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	0.1
高知県	1	1	—	2	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	2	0.2
福岡県	7	1	—	8	1.0	7	—	—	7	2.5	—	—	—	—	—	14	1	—	15	1.4
佐賀県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長崎県	2	—	—	2	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	0.2
熊本県	1	—	—	1	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	0.1
大分県	—	1	—	1	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	0.1
宮崎県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿児島県	4	2	—	6	0.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	2	—	6	0.6
沖縄県	11	1	—	12	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	1	—	12	1.1
不明・無回答	1	—	—	1	0.1	2	—	—	2	0.7	—	—	—	—	—	3	—	—	3	0.3
計	630	129	20	779	100	244	41	—	285	100	16	4	—	20	100	890	174	20	1,084	100

平成28年度「男女共同参画推進フォーラム」

3日間共通参加者アンケート集計結果

参加者数779名(講師・関係者を除く一般参加者) アンケート回答数:258件 アンケート回答率:33.1%

● 参加したプログラム

(%は回答者に対する割合:※%は「無回答」を除いた割合)

		女性 (205人中)	% (205人中)	男性 (32人中)	% (32人中)	不明 (21人中)	% (21人中)	合計 (258人中)	% (258人中)	※% (255人中)
26日 (金)	開会	124	60.5	17	53.1	11	52.4	152	58.9	59.6
	特別講演	145	70.7	23	71.9	16	76.2	184	71.3	72.2
	ワークショップ1	131	63.9	21	65.6	14	66.7	166	64.3	65.1
27日 (土)	ワークショップ2	99	48.3	12	37.5	8	38.1	119	46.1	46.7
	シンポジウム	109	53.2	13	40.6	9	42.9	131	50.8	51.4
	ワークショップ3	79	38.5	12	37.5	8	38.1	99	38.4	38.8
	懇親会	62	30.2	10	31.3	7	33.3	79	30.6	31.0
28日 (日)	ワークショップ4	64	31.2	14	43.8	6	28.6	84	32.6	32.9
	講談	36	17.6	11	34.4	3	14.3	50	19.4	19.6
期間中	パネル展示	79	38.5	11	34.4	5	23.8	95	36.8	37.3
	均等法30年資料展示	45	22.0	6	18.8	3	14.3	54	20.9	21.2
	アーカイブセンター企画展	28	13.7	5	15.6	3	14.3	36	14.0	14.1
無回答		2	1.0	-	-	1	4.8	3	1.2	

● 「フォーラム」について

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とても満足した	85	41.5	15	46.8	6	28.6	106	41.1	45.5
満足した	88	43.3	11	34.4	9	42.9	109	42.2	46.8
少し物足りなかった	10	4.9	3	9.4	2	9.5	15	5.8	6.4
物足りなかった	3	1.5	-	-	-	-	3	1.2	1.3
無回答	18	8.8	3	9.4	4	19.0	25	9.7	
合 計	205	100.0	32	100.0	21	100.0	258	100.0	100.0

※主な感想・ご意見(抜粋)

【今後取り上げてほしいテーマ】

- ・女性活躍推進 ・子どもの貧困 ・女性の貧困 ・LGBT ・男性相談、女性相談の違いと傾向 ・女性議員の増加
- ・ポルノ被害、子ども・若年女性の性被害 ・教育問題 ・子育てについて ・少子化対策 ・消費者教育
- ・キャリアデザイン(キャリア教育) ・STEM(科学・テクノロジー・工学・数学)教育

【全体について】

- ・自分の県以外の方と触れ合うことができ、見方が変わったとともに、もっと勉強しなければ！と強く感じました。都市部と地方との差も感じました。男女平等の世の中が早く実現しますように！！
- ・初めて参加させていただきました。熱い女性がたくさん集まる、素晴らしいフォーラムだと思いました。この熱い気持ちを、職場に持ち帰って、日々の仕事に活かしたいと思います。是非また参加したいです。
- ・昨年と比べて、若い方の姿も増えたように見えました。男女共同参画の分野に若い人が増えて欲しいと思いました。
- ・ワークショップが非常に有意義だった。様々な立ち位置の方と共有出来たこと、とても幸せでした。
- ・「男はつらいよ」とても良かったです。宮本さんの的確な社会状況判断と田中助教の的確な実践アドバイス。太田さんの経験、全てがよいmixでした。とくに田中さんの話には、大笑いしながら学びが多かったです。
- ・冊子がわかりやすく、よくできていると思いました。最初のPR(HPなど)から、団体呼びかけ文を眺めるといいと思います。冊子をもらわないとわからない、というのは少し不自由。
- ・赤松先生の講演は大変勉強になりました。女性の社会進出大賛成ですが、女性の多くはいざとなると引いてしまうことが多い。もっと女性自身勉強が必要。
- ・発表することで、発表者自身が会場とのやりとりを含めて、一歩先へ進めていける場でもあることを再確認しました。夜間の少人数による話し合いも、とても楽しめました。
- ・充実したフォーラムでした。スタッフの職員の方も、とてもよくサポートして下さいたいと思います。
- ・サンカクカフェ、しおり作り、度々おじゃましました。心・人当たり良い女性が多く、エネルギーがすごい！おもてなしの心で私自身沢山心に残る言葉を頂きました！！生きて行けます！！ここで学んだ多くの事を次世代へつなぎ、私に出来る活動をして行きます。ありがとうございました。

● この講演を知ったきっかけ(複数回答) (％は回答者に対する割合：※％は「無回答」を除いた割合)

	女性 (205人中)	％ (205人中)	男性 (32人中)	％ (32人中)	不明 (21人中)	％ (21人中)	合計 (258人中)	％ (258人中)	※％ (244人中)
チラシ・ポスターを見て	52	25.4	8	25.0	4	19.0	64	24.8	26.2
鉄道の駅などで 新聞など	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ミニコミ誌、各種広報誌など	2	1.0	—	—	—	—	2	0.8	0.8
知人からの紹介	4	2.0	1	3.1	—	—	5	1.9	2.0
ポスティングされたチラシ	36	17.6	2	6.3	2	9.5	40	15.5	16.4
当館のホームページを見て	1	0.5	1	3.1	—	—	2	0.8	0.8
インターネットで検索していて	43	21.0	11	34.4	2	9.5	56	21.7	23.0
メルマガなどから	15	7.3	2	6.3	1	4.8	18	7.0	7.4
その他*	24	11.7	7	21.9	1	4.8	32	12.4	13.1
無回答	71	34.6	7	21.9	11	52.4	89	34.5	36.5
	10	4.9	1	3.1	3	14.3	14	5.4	

※「その他」複数のもの

行政 5件

職場 4件

市役所から 3件

団体、WS 3件

毎年参加(団体で) 3件

WS開催団体 2件

活動事務局 2件

研修 2件

● あなたご自身について

①性別、②年齢

(※％は「無回答」を除いた割合)

	女性	％	男性	％	不明	％	合計	％	※％
10代	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	9	4.4	2	6.3	—	—	11	4.3	4.4
30代	15	7.3	1	3.1	—	—	16	6.2	6.3
40代	35	17.1	9	28.1	3	14.3	47	18.2	18.7
50代	56	27.3	7	21.9	7	33.4	70	27.1	27.7
60代	57	27.8	6	18.8	3	14.3	66	25.6	26.2
70代	29	14.1	5	15.6	4	19.0	38	14.7	15.1
80代	3	1.5	1	3.1	—	—	4	1.6	1.6
無回答	1	0.5	1	3.1	4	19.0	6	2.3	
合計	205	100.0	32	100.0	21	100.0	258	100.0	100.0

③所属(複数回答可)

(※％は「無回答」を除いた割合)

	女性 (205人中)	％ (205人中)	男性 (32人中)	％ (32人中)	不明 (21人中)	％ (21人中)	合計 (258人中)	％ (258人中)	※％ (244人中)
a.行政関係者	39	19.0	10	31.3	3	14.3	52	20.2	21.3
b.研究者・大学教員	8	3.9	3	9.4	1	4.8	12	4.7	4.9
c.小・中・高校教員	2	1.0	1	3.1	—	—	3	1.2	1.2
d.団体・グループ	84	41.0	8	25.0	11	52.4	103	39.9	42.2
e.施設関係者(女性／男女共同参画 センター・社会教育施設等)	29	14.1	4	12.5	3	14.3	36	14.0	14.8
f.企業関係者	9	4.4	2	6.3	—	—	11	4.3	4.5
g.学生	2	1.0	—	—	—	—	2	0.8	0.8
h.その他	32	15.6	3	9.4	1	4.8	36	14.0	14.8
無回答	9	4.4	2	6.3	3	14.3	14	5.4	

④フォーラムへの参加回数

(※％は「無回答」を除いた割合)

	女性	％	男性	％	不明	％	合計	％	※％
初めて	95	46.4	17	53.0	6	28.5	118	45.7	51.4
2 回目	21	10.2	2	6.3	2	9.5	25	9.7	10.9
3 回目	16	7.8	2	6.3	3	14.3	21	8.1	9.1
4 回目	13	6.3	1	3.1	1	4.8	15	5.8	6.5
5 回目	12	5.9	2	6.3	1	4.8	15	5.8	6.5
6 回目	5	2.4	1	3.1	1	4.8	7	2.7	3.0
7 回目	4	2.0	—	—	—	—	4	1.6	1.7
8 回目	2	1.0	—	—	—	—	2	0.8	0.9
9 回目	—	—	2	6.3	—	—	2	0.8	0.9
10 回以上	16	7.8	3	9.3	2	9.5	21	8.1	9.1
無回答	21	10.2	2	6.3	5	23.8	28	10.9	
合 計	205	100.0	32	100.0	21	100.0	258	100.0	100.0

●特別講演「均等法から30年、あらたな明日へ」参加者アンケート集計結果

26日参加者数:690名(講師・会館関係者を除く) アンケート回答数:375件 アンケート回答率:54.3%

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とてもよかった	164	51.0	24	50.0	2	33.3	190	50.6	52.0
よかった	118	36.8	16	33.3	2	33.3	136	36.3	37.3
少し物足りなかった	23	7.2	6	12.5	1	16.7	30	8.0	8.2
物足りなかった	6	1.9	2	4.2	1	16.7	9	2.4	2.5
無回答	10	3.1	-	-	-	-	10	2.7	
合 計	321	100.0	48	100.0	6	100.0	375	100.0	100.0

※主な感想・意見

- ・均等法世代なので、今回、赤松さんのお話を聞くことができて感動しました。働く女性の環境は徐々に改善されているが、過去ががんばってきて下さった先輩方と今の私たちが、その努力を知り、次世代につなげていくことが重要だと思う。
- ・男女共同参画の歴史について、知らないことばかりだったが、道のりがわかり、その重要性が理解できた。「今」しか知らない自分には「あたり前」だったが、そうではないとわかった。
- ・産まれる前に制定された男女雇用機会均等法。中身を詳しく考えることは、学校の授業以外であまり考えることはありませんでした。今後、学び直したいです！
- ・DVDを見た後、講演という形式が良かった。
- ・女性の権利を人間らしい立場としていくためには、クオータ制を導入すべきと思った。ここまで女性の働き方も含め、自由な生き方―差別とを感じる実感も、赤松さんががんばってきて下さったと、感慨深く思いました。

●シンポジウム「男もつらいよ！」参加者アンケート集計結果

27日参加者数(講師・会館関係者を除く)655人 アンケート回答数:198件 回答率30.2%

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とてもよかった	96	56.8	16	80.0	4	44.5	116	58.6	61.7
よかった	61	36.1	3	15.0	1	11.1	65	32.8	34.6
少し物足りなかった	5	3.0	1	5.0	-	-	6	3.0	3.2
物足りなかった	-	-	-	-	1	11.1	1	0.5	0.5
無回答	7	4.1	-	-	3	33.3	10	5.1	
合 計	169	100.0	20	100.0	9	100.1	198	100.0	100.0

※感想・ご意見詳細

- ・ユーモアもあり、非常に楽しく有意義な時間でした。“女”という自分のことばかりに目が向きがちでしたが、男女合わせての生き方について考えていきたいです。
- ・今回初めてフォーラムに参加して、実際に育児休業をとり、ジェンダー問題について男性目線のお話を聞くことができ、私達女だけで考えたジェンダーの問題点解決策とはまた違った、「男性は今まで働いてればゆるされたんだよ」という言葉などをきくことができ、すごく新鮮で新たな発見につながった気がします。地域の中でのつながりの大切さや、企業のあり方など、これからは様々な視点からジェンダーについて考えていきたいと思いました。
- ・男性の視点をとりあげたのは、新しい試みだった。男性側の意見を聞き「なるほど」と、お互い様であると感じた。
- ・90年代に企業で育休を取得された太田さんと、2016年の現在、0才の育児をされている田中さんというパネリストのバランスがとてもよかった。女性が働きやすく生きやすい社会は、男性にとっても働きやすく、生きやすい社会だと思う。
- ・男性二人の世代が異なるパネリストの体験に基づいたお話がよかった。宮本さんの分析も学ぶところ大だった。全体にとってもよくコーディネートされ、充実した内容であった。

● 講談「お話と講談の会」参加者アンケート集計結果

28日参加者数285名（講師・会館関係者を除く） アンケート回答数：65件 アンケート回収率：22.8%

（※%は「無回答」を除いた割合）

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とてもよかった	24	63.2	13	72.2	5	55.6	42	64.6	75.0
よかった	8	21.1	4	22.2	2	22.2	14	21.5	25.0
少し物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	6	15.8	1	5.6	2	22.2	9	13.8	—
合 計	38	100.0	18	100.0	9	100.0	65	100.0	100.0

※主な感想・ご意見

- ・とても楽しいひとときでした。実際に直接、講談をお聞きし、講談についてのことをわかりやすく説明していただき、より身近に講談を感じることができました。又エックフォーラムの最後のサプライズを楽しませていただきました。
- ・大きくて強い女と、美しく優しい男。男女のマイノリティを描いた「鉄砲のお熊」は、それだけで、我々が捕われているジェンダー（男女のマジョリティ）に気づくことができる。男女共同参画推進に有効な創作講談だと思いました。
- ・講談の歴史や今の状況がわかった。生で見るのは初めてで、臨場感のあるものでした。迫力もあったし、とても面白かった。やっぱりライブがベストでした。
- ・1年分の笑いが大奮闘した。初めての講談で、少し講談とは…の知識を得ました。90分間集中させる講談のすばらしさ“大変良かった”
- ・初めてお聞きしました。元気に張りのある声、とてもおもしろかった。女も男も、目標に向かって進む姿が楽しくえがかれよかった。

●募集ワークショップ運営者アンケート集計結果

ワークショップ実施	51 団体	(ワークショップ:43団体, パネル展示:8団体)
アンケート提出	51 団体	
回答率	100.0 %	

1. 参加人数

人数	回答数	割合
1～20名	15	29.4%
21～40名	18	35.3%
41～60名	8	15.7%
61～80名	3	5.9%
81～100名	2	3.9%
101名以上	4	7.8%
無回答	1	2.0%
合計	51	100.0%

2. ワークショップを実施してみていかがでしたか。

選択項目	回答数	割合
とてもよかった	34	66.6%
よかった	14	27.5%
少し物足りなかった	2	3.9%
物足りなかった	—	—
無回答	1	2.0%
合計	51	100.0%

3. 準備・運営にあたっての意見・感想など

W1	多くの方に(それも各地でジェンダー平等の中核を担う方々に)ご覧いただき、ありがたい限りです。機材のことで急にスタッフの方にサポートをお願いし助けていただきありがとうございました。
W2	会場の温度調節に気がつかいました。前の開催の方と思いますが、飲み物がこぼれたままになっていました。開催前に準備の時間をいっぱいいただけて、とてもやりやすかったです。参加者は少なかったのですが、とても感想がよくてうれしかったです。
W3	場所など大きい会場で大変戸惑った。きちんとスタッフの方のフォローがあり、やりきれた。
W4	「研修棟」で荷物の受け取りや発送までお預かりいただけましたら幸いです。各WS・パネルの宣伝コーナー(A4サイズのチラシを貼るための枠)などがありましたら幸いです。
W5	主に企画をした若手メンバーにとっては、初めての経験で、よかったこと、反省したこと共に収穫がありました。この経験を生かして、次の活動につなげていこうと思います。
W6	準備で横断幕など大変会館にはお世話になりました。ありがとうございました。コーディネーターをお願いしました小林さんには素晴らしい進行ありがとうございました。私たちとしては、推進協として一丸となってワークショップができたことに喜びと感謝申し上げます。最後に参加者により発信ができましたことに、喜びを感じています。ありがとうございました。
W7	DVDを上映できなかったことが残念でした。
W8	いろんな意見を聞けて参考になりました。学会等研究発表会と違い、仮説的な思いを語れる場は貴重なのでありがたかったです。ありがとうございました。
W9	毎年ありがとうございます。
W10	これまでずっと定員30名の会場でやって定員オーバーしていたので、今回は定員50名の会場にさせていただいたのに26人しか集まらなかったのが大反省です。
W11	参加者71名は、懇親会を1日目にさせていただいたため、そこでPRが十分にできた成果かと思います。広報、情報の広場が大勢の人の動線上にない！！1日目に早速思ったことです。チラシを置いても減らない！！研修棟ロビーや講堂前だった数年前は、もっと多く捌けましたよ！！フルサイズホワイトボードをご用意いただきありがとうございました。。有効に使うことができました。ただし、響書院は鴨居が低く、移動が困難。座卓も出し入れしにくい。そこで要望！ホワイトボード(フルサイズ)を1台、低めのものを購入していただき、響書院に常設。座卓は講師用に2台、受付用に1台、出しやすいところに保管場所を変更を。

W12	順調にできました。スタンドマイクが必要。
W13	特に問題もなく、スムーズにやれました。お疲れ様でした。ありがとうございます。
W14	時間不足だった。報告人数も課題も多く、運営の手順の範囲を超えていた。
W15	掲示ボードが使いやすく助かりました。もう少し広い部屋で実施できればよかった。受付机を部屋の外に置けばよかった。
W16	日程の希望がかなってよかった。教室もちょうどよかった。様々な参加者があって実りあるワークショップになった。
W17	特に問題はありませんでした。ありがとうございました。
W18	時間が足りなかった。
W19	養生テープ等も用意していただき、大変有り難かったです。最終日であったのもかかわらず、たくさんの方にご参加いただきうれしかったです。
W20	機械操作が上手にできず、上映がトラブったのは困った。最初に説明してほしかった。参加者からは貴重な意見が聞けてよかった。
W21	ここ数年、3階の部屋ばかり。1階の部屋もいい。
W23	チラシをいろいろなところに掲示できなかったのが、呼び込み不足になった。マイクの準備ありがとうございました。
W24	記述なし。
W25	前日の入館が遅くなりご迷惑をおかけしまして申し訳ございませんでした。当日はスムーズに準備・運営でき感謝致しております。ご参加者全員が熱心にWorkくださり、内容もよいものとなりました。
W26	事業課の方にいろいろと問い合わせ、ご相談などをした際も丁寧な対応いただき、ありがとうございました。
W27	予想以上に多くの参加者に来ていただいた。DV被害者に複数参加いただき、リアルな声を聞くことができたのはよかった。
W28	資料が足りなくなってしまったので、追加でコピーできるところが近くにあればよかった(事前に確認してなかった)
W29	記述なし。
W30	借用したプロジェクターの返却に迷い、一度階下の受付にお持ちしましたが「そのまま部屋に置いておく」とのことで、また研修室(207)に戻しました。このあたりの対処方法について事前に確認すべきでした。バタバタしている中で何かとお世話になり、ありがとうございました。
W31	WS運営にあたり、又エックの方のご助言やご協力をいただき感謝です。会場の入口が変型なので誘導に苦慮いたしました。ほぼ定員を集めることができてよかったです。
W32	いろいろとありがとうございました。
W33	お陰様で今年のワークショップも無事終了することができました。本当にありがとうございました。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。
W34	資料代は必要だと思います。無料になるとたくさんとって行かれます。台風接近で参加者少なく残念でした。
W35	ワークショップをするにはちょうどよい研修室で助かりました。どうもありがとうございました。
W36	又エックから配布資料の手提げ袋をいただきましたが、マーカーと他が入っていませんでした。不便でした。
W37	記述なし。
W38	フォトボイスプロジェクトの報告者・写真・声をもとに活発なグループワークができ「東日本大震災を忘れない」が、ご参加の方に届き持って帰っていただいた。手応えを感じました。ワークショップがメンバーの実践学習の場になりました。運営に当たりいろいろお世話になり、ありがとうございました。
W39	1時間前から準備できるようになって助かりました。会場の定員より多い参加者で狭くなってしまいました。
W40	①プロジェクター等事前に準備していただいたのでとてもやりやすかった。ありがとうございました。 ②206号ぴったりの人数参加でワークショップも盛り上がってできた。

W41	記述なし。
W42	全体がとてもスムーズに親切に運営されていて、準備・運営がスムーズにできました。ありがとうございました。
W43	記述なし。
P1	研修棟にも宅急便受付がほしい。2日目は雨のため、荷物を出すために台車で運ぶのが大変だった。
P2	貴重な情報交換の機会となってよかったです。ありがとうございました。
P3	記述なし。
P4	今回は会場がかわり、人の流れがあつてよかった。他団体との交流も図れてとてもよかった。
P5	深夜着になったため、前泊したがA棟でなかったので入浴できなかった。残念。ご配慮よろしくお願いします。 パネルが各2枚は手狭です。3連パネルなので3枚に増加してくださいませ。 展示にはスポットライトが当たるようになると見やすくなるのでよろしくお願い致します。 特に初日、2日目、食堂の時間～特に朝、昼が限られているので、食べそびれて困っている方がおられました。改善をよろしくお願いします。
P6	記述なし。
P7	2F(研修棟)パネルのボードを動かさないことを言われた(うるさく)が、もう少し状況を見て融通をきかせていただけるとありがたかった。 初日のもろもろの受付をもう少し段取りよく手配していただけるとありがたかった。
P8	パネルにも30分程度の時間で、参加者とディスカッションできる枠組がほしい。

4. ワークショップ実施回数

回数(回)	ワークショップ	パネル展示
初めて	9	2
1～2	8	3
3～5	14	1
6～	12	2

●募集ワークショップ フォローアップアンケート集計結果

参加ワークショップ数： 51
 アンケート回答数： 51
 アンケート回収率： 100.0 %

1 フォーラムで実施したことは、その後の業務・活動に役立っていますか。

	件数	%	※%
1.非常に役立っている	24	47.1	100.0
2.役立っている	27	52.9	
3.あまり役立っていない	-	-	-
4.役立っていない	-	-	
合 計	51	100.0	100.0

2 「非常に役立っている」、「役立っている」と書いた方はどのように役立ちましたか。 (複数回答可)

	件数 (51件中)	%
1. ホームページや広報資料への実施報告の執筆・公表	22	43.1
2. つながりのできた組織・団体や個人との連絡・情報交換	36	70.6
3. 勉強会・研修会の開催	14	27.5
4. 講師や報告者として他機関・団体の事業へ協力	17	33.3
5.その他	22	43.1

その他(具体的に)

W3	参加した世話人の若い女性たちはワーキングマザーですから、その彼女たちが、まず一番によかったと思います。なかなかこのような場所で、仕事以外での発表などありませんから、今後のつながりに役立ちました。彼女たちから、次回も参加したい旨が話されました。
W4	・学内の広報誌に掲載され、内容が周知された。
W7	・貴フォーラムで会った他の団体の方とネットワークができた。
	地域の女性の活性化、ネットワークづくりに役立った。
W15	本委員会主催のフォーラムを実施予定
W16	・ワークショップ実施と学習した事柄を執筆、会報に掲載、広く会員に知らせることができた。 ・ワークショップは、多くの人に学んでもらいたいこと、考えてもらいたいことを取り上げている。
W18	ワークショップを基にした団体の活動方針の思索に役に立っている。
W19	提示した課題「ポルノ被害」に関する周知・啓発ができた。
W21	団体の実績として評価されている。

W23	他団体と協力して、各議会に働きかけ、意見書の採択に結びつけたり、法案成立にむけて、協働して取り組むことにつながった。
W26	このワークショップが縁で、賛同団体に参加いただくなど、組織拡大に役立っています。
W29	受講者から当日の発表者を決めたため、受講者自身が人前で話すことに慣れたり、自身のキャリアを振り返ることができ、自信を持つことができた。
W31	・全国の方と意見交換、交流でき学びが深まった。 ・地域課題を数字を交えて説明するようになった。 ・統計リーフレットをワークショップで配布することができた。
W33	東京都大田区の大田文化の森運営協議会から別紙チラシのように、講師依頼を受けまして、100名の方々の応募者がありました。その結果、60名の方々に「はじめての源氏物語」の第1回目を聴いていただきました。また、その後の講座の開催についてお話を受けております。また、他の市町村から飯能市立図書館から平成25、26、27、28年度と29年度もといわれています。
W34	大阪堺市(生誕地)では、晶子のための「利品の杜」が数年前(2015年)建設し、来場者も多く、私共の会も、再三この講座室で発表していて、平成28年度「フォーラム」の結果を、講演会の際報告している。今後もこのフォーラムで全国の人たちに晶子を広めていきたい。
W36	会の充実のためにも、ポター絵本を(24冊)順次取り上げ、ポターの世界、女性の生き方、社会活動を理解し、会員ひとりひとりの個性を活かし、自他の尊重を持ちながら会の活動を継続していく。
W38	ワークショップ参加により、開催する実践の学びができた。“忘れない”震災支援のメッセージ発信の新しい形を創れた。フォトボイスは今までで会員の方でしていたが、今回は被災者ではない一般の方とのワークという新しい形を創れたと喜ばれた。
W39	自治体や男女共同参画担当の名称変更がその後もあり、ワークショップで配布した資料や機関紙のワークショップ報告記事を情報として提供している。 ワークショップがきっかけの一つとなり、代表が市川記念会「女性展望」の2016年11月ー12月号、「座談会2011年をふり返るー自治体の女性行政(男女共同参画)の現在」に発言者として参加。
W42	JAWWでは毎年翌年のCSWのメインテーマに焦点を当てて複数の勉強会を開催しているが、このワークショップでは、その第1回目として意味のある重要な機会となった。また、このワークショップには通常JAWWが開催する勉強会等のイベントの参加者とは異なる、さまざまな立場、さまざまな地方からの方々の参加をいただくことができ、貴重なご意見を聞くことができたことも大変有意義だった。
P1	・学内の広報誌に掲載され、内容が周知された。 ・貴フォーラムで会った他の団体の方とネットワークができた。
P6	毎年展示させていただき、参加者が写真をお撮りになるのを見て、このような手法を知って、各地で利用していただけることを光榮に思っている。また、パネルを購入してくれる自治体や借用してくれる団体や自治体もある。全国から関係者が参集する同フォーラムの意義を感じている。
P7	全国からの多くの参加者に見ていただき、被災者の支援のあり方の一つとして認識してもらうことにつながる。被災地のフォトボイスのメンバーに報告することで、全国の人々に見ていただくことは、被災地、被災者の実情を知っていただくことになり、被災者である女性メンバーの方を力づけることになる。

3 来年度も参加を予定していますか。

	件数	%
1.参加を検討している	36	70.6
2.参加しない	2	3.9
3.未定	13	25.5
合計	51	100.0

4 今後、会館で実施する事業に望むことなどを、ご自由にお書きください。

W1	多岐にわたるプログラムが用意されていて、とても勉強になります。
W4	・受講者が、予想よりも少なかったため、事前に当日の会場内での集客方法をアドバイスしていただければよかったと思いました。 ・因みに、事前に登壇者のネットワークにメールやオンライン会報で連絡し、学内でも在学生向けに開催内容の文書を表示し、当日も急遽、開催場所の案内紙面を廊下に貼らせていただき、開催中に会場内の廊下にいる人達に声をかけることはしました。 ・当日のアンケートにも書きましたが、会場(教室・展示場所)のある建物と宅配便の送受場所(入り口の建物)が遠いのは難儀でした。
W7	全国その他団体との情報交換の場として貴重なので、このフォーラムを継続してほしい。
W9	今まで、日本の女性シンガーソングライターを主に取り上げてきましたが、今年は、世界の女性アーティストに目を向けてみたいと考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。
W10	今回のワークショップの開催にあたって、講座のタイトルについて、選定委員からの要請を受けてタイトルを短縮したところ、参加者が例年の三分の二に減ってしまった。タイトル部分の大切さを再確認することができた。
W11	近年、開催曜日が一定しないのは、集客のために試行錯誤なさっているのでしょうか。来場者を増やすには、募集ワークショップの時間帯を4コマから6コマに回復した方がよいのではないのでしょうか。また、全国大会として全ての都道府県、主要都市からの参加が実現するよう、呼びかけに力を入れてください。自らもワークショップを提供しながら、もっと多くの団体の催しに参加し、交流を広げたいと考えています。
W19	特別講演・シンポジウム等、若い世代が興味を持つ内容、登壇者の人選をお願いします。また、年々参加者が減り、活気がなくなっているように感じます。広報、周知の工夫がいるのではないかと思います。今後とも男女共同参画社会の実現に向けて、ご尽力いただくようお願い申し上げます。
W20	参加費・資料代の制限があるようでやりにくい。ほとんどボランティアで活動しているので、せめて東京近郊からの交通費程度が出せる金額を認めてほしい。
W24	8月の末の土日は、地域のお祭りもあり、子育て世代にとっては参加しにくいです。3月末など、学校行事がない季節の開催だと助かります。
W30	ワークショップで知り合えた方々の中では、特に大学教授とのつながりは、一時的なことではなく継続する傾向にあります。フォーラムもワークショップも本当に有り難い場で、心から感謝しています。ほんとうにありがとうございます。
W31	大田区のジェンダー統計リーフレットを作成したのは、2012年NWECフォーラムにて岡山市のジェンダー統計があるのを知ったことが契機でした。その必要性を実感し、大田のジェンダー統計を作りたいという想いが芽生えました。統計作成について、全くの初心者である私たちにNWEC研究国際室長の中野さんが伊藤教授を紹介してくださり、伊藤教授の多岐にわたるサポートのおかげでリーフレット作成が叶いました。また、WS参加決定後、中野さんのご好意により岡山市とつながり、一緒にWSを開催することができ岡山市の方々から統計作成後の活動について、継続学習の大切さや、活用事例についてたくさん学びを得ることができました。実際には学びを実践できていないもどかしい状況にありますが、あきらめずに続けていきたいと思っています。今回の一連の活動はNWECの存在、職員の方々のサポート無しには実現できなかったことです。NWECのみならず心より感謝申し上げます。
W33	いつもお世話になっております。どうぞ今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。
W34	せめて、一人だけでも交通費の実費が全額出ればありがたい。
W35	「参加者への呼びかけ文」の副題と本文の修正のご助言をいただいたことに感謝しております。
W39	機関紙は毎号、情報室に送付していますが、別個にお送りすればいいのでしょうか。
W42	いつも多くの情報をいただき感謝しています。これから、若い方々が男女共同参画により関心をもつ契機となるよう事業の開催を期待します。
P1	・受講者が、予想よりも少なかったため、事前に当日の会場内での集客方法をアドバイスしていただければよかったと思いました。 ・因みに、事前に登壇者のネットワークにメールやオンライン会報で連絡し、学内でも在学生向けに開催内容の文書を表示し、当日も急遽、開催場所の案内紙面を廊下に貼らせていただき、開催中に会場内の廊下にいる人達に声をかけることはしました。 ・当日のアンケートにも書きましたが、会場(教室・展示場所)のある建物と宅配便の送受場所(入り口の建物)が遠いのは難儀でした。 (W4と同様に記すよう連絡あり)
P4	今回のパネル展の会場は研修棟であり多くの方にご覧いただくことができた。相互交流も図れ有意義であったと感じた。
P5	既に実施されているかもしれませんが、自治体や企業、教師などへの男女共同参画社会形成への研修講座の際に、「女性差別撤廃条約」の内容、仕組みなど時間をとって周知し、各地での条約周知へつなげる。また、DVやセクハラ、性被害当事者に実際に対応することが多いので、2次被害予防のため、それらの基礎知識、基本的対応を学べる研修を実施する。
P6	年に一度のこのフォーラムに参加することを目標に、活動発表を準備することが、全国各地で多種多様な男女共同参画に関する問題に真剣に対峙することになり、大変意義のあるフォーラムと思う。また、ワークショップ主催者同士のネットワーク構築、一般参加者との顔と顔を合わせての話し合いをすることで、課題の共有が進む。今後もこのフォーラムを継続していただきたい。
P7	展示ボードの前の机を、近くの大きな会に勝手に使われ不愉快でした。

平成28年度 女子中高生夏の学校 2016



～科学・技術・人との出会い～

1 趣 旨

女子中高生が「科学技術にふれる」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながる」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」ための機会として「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い」を開催します。

このプログラムは、2泊3日の合宿研修を通じて、女子中高生と科学研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数を単位に親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものです。理系の分野も様々です。すでに理系の道を進んでいる女子中高生も、これから夢を追い求める人も、ちょっと不安な人も、より深くより広く自分たちの視野を広げてみませんか？

また、女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けのプログラムもそれぞれ設定しています。子どもの将来像が描けるよう、よきアドバイスやサポートができるように理系進路選択についての理解を深めます。

2 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

3 共 催

日本学術会議 「科学者委員会 男女共同参画分科会」
お茶の水女子大学 沖縄科学技術大学院大学

4 後 援

男女共同参画学協会連絡会 埼玉県教育委員会

5 会 場

国立女性教育会館 (NWEC)
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地
電 話：0493-62-6724・6725 F A X：0493-62-6720
Eメール：progdiv@nwec.jp U R L：http://www.nwec.jp/

6 期 日

平成28年8月6日（土）～8月8日（月）

7 参加者・定員

- 科学・技術の分野に興味・関心のある女子
(中学校3年生、高校1～3年生、高等専門学校1～3年生) … 100名
※文系、理系は問いません。どちらの道に進もうか迷っている人もぜひご参加ください。
- 保護者・教員 … 50名

8 日 程 (予定)

【共通】…女子中高生、保護者、教員共通プログラム

【女子中高生】…女子中高生用プログラム

【保護者】…保護者用プログラム

【教員】…教員用プログラム

<第1日 8月6日(土)>

【共通】開校式

13:00～13:30

開会宣言 横倉 隆和 実行委員長(日本分子生物学会)

あいさつ ①内海 房子 国立女性教育会館理事長

②日本学術会議会員(予定)

オリエンテーション 古澤 亜紀 茨城県立水戸農業高等学校教諭

【共通】サイエンスアンバサダー「自分の将来について考えよう」

13:30～14:00

合宿研修のオリエンテーション及び仲間同士の交流を促進するため、グループ内での自己紹介、学生TA(学生ティーチングアシスタント)の講話などから、合宿研修のねらいや目的を理解し、主体的に参加する気持ちを高めます。

【共通】キャリア講演

14:15～15:45

過去の夏学卒業生でもあり、学生TAや夏学の企画運営に長く携わった女性や女子中高生にとって魅力的な科学・技術の研究を行っている方から、現在の生活や仕事のことなど理系進路の魅力についてお話を伺い、将来理系で学ぶこと、働くことの意義や理系進路の多様性について理解を深めます。

講師 五十嵐 悠紀 明治大学 総合数理学部専任講師

西原 亜理沙 首都大学東京 博士課程後期2年

【女子中高生】学生企画「Cross Road」

16:00～17:30

女子中高生からのキャリアに関する疑問に対し、キャリア講演者や学生TAが回答をしていきます。また企画内では講演に関連するゲームを行います。これらを通じて、ゲーム感覚でキャリアについての理解を深めます。

【保護者】【教員】夏の学校を知る

16:00～17:30

今までの夏学の様子をDVDで視聴したり、担当者から説明を受けたりすることにより、3日間の研修の流れや意義を理解するとともに、グループ討議等を通じてお互いの交流を深めます。

夕 食

18:00～19:00

【女子中高生】学生企画「サイエンスバトル!？」

19:15～20:45

グループで協力し合い、学生スタッフが出題する課題やクイズに答えるスタンプラリーに挑戦しながら、グループの親交を深めます。

【保護者】【教員】サイエンスカフェⅠ

「学会、大学、企業等の研究者・技術者との座談会」

19:15～20:45

学会、大学、企業等で活躍する研究者・技術者との対話やグループ討議などを通じて、理系の分野での女性の活躍や今後の期待に対する現状等を知り、女子中高生への支援の在り方について考えます。

講師 河野 銀子 山形大学

「女子中高生の理系選択にかかわる親や教員の影響（仮題）」

男女共同参画学協会連絡会、大学、企業等から数名 調整中

【共通】天体観望会＜希望者のみ参加＞

21:00～22:00

自然豊かな国立女性教育会館の夏の夜空を天体望遠鏡で観察します。

【女子中高生】国際交流「英語相談所」＜希望者のみ参加＞

21:00～22:00

翌日に行われる国際交流の時間に向けて、英語で話すことへの不安を取り除けるよう、女子中高生の相談に留学生TAが応じます。

【共通】研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会①

＜希望者のみ参加＞

21:00～22:00

女子中高生の理系進路選択に向けて、研究者・技術者や学生TAとさらに話をしたいという参加者のために、進学や就職など、将来のことに関する懇談会を行います。

＜第2日 8月7日（日）＞

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」

9:00～11:30

理系の各分野における研究者・技術者と交流しながら、実験・実習にじっくりと取り組みます。進路を理系にするか文系にするか迷っている生徒向けの不思議体験コースと専門性の高いチャレンジコースの2種類の実験を用意します。（参加決定時に実験・実習の希望調査を行います。）

【保護者】【教員】実験・実習の参加・見学

9:00～11:30

女子中高生が取り組んでいるサイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」の実験や実習を実際に見学、参加することで、研修に取り組む女子中高生の姿を見たり、理系進路選択を応援する意識を高めたりします。

昼 食

11:30～12:45

集合写真の撮影

12:45～13:00

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」

13:00～15:50

女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えるため、次の①と②のブースを設け、様々な人と交流します。様々な分野、世代の人と交流することで、理系進路選択への不安や悩み等の解決に近づける場とします。

①ポスター展示・キャリア相談

30程度の展示ブースを設置し、協力学会、企業や大学等、様々な立場の研究者・技術者によるポスター展示や演示実験を行います。理系の世界で活躍する人

たちや最先端の技術に触れる機会とします。

また、研究者・技術者や女子大学生・大学院生などが女子中高生の理系進路選択に関する相談に応じます。女子中高生の進路に関する不安や悩み等の解決や理系進路選択についてより明確な考えを持てるようにする機会とします。

②国際交流

海外から日本に来ている留学生や科学・技術者に学校生活や日本での生活、研究内容や母国に帰ってからの夢などについて、英語を使ってインタビューします。女子中高生のコミュニケーション能力や語学力の向上に生かします。

【保護者】【教員】講演Ⅰ

13:00～14:00

「企業における女性研究者・技術者の活躍（仮題）」

講師 渡辺 美代子

日本学術会議 科学と社会委員会・科学力増進分科会

国立研究開発法人科学技術振興機構 執行役

【保護者】【教員】講演Ⅱ

14:00～15:00

「社会からみる女性研究者・技術者の活躍と今後の期待（仮題）」

講師 松尾 由賀利 法政大学 理工学部教授（日本学術会議第3部会員）

【保護者】【教員】サイエンスカフェⅡ「ポスター展示・キャリア相談見学」15:00～15:50

女子中高生の理系進路選択への支援に向けて、男女共同参画学協会連絡会や企業、大学等のポスターブースを回り、最先端の科学技術について知る機会とします。

また理系の進路について相談することで我が子や生徒の進路に関する不安や悩み等の解決に近づける場とします。

【女子中高生】学生企画「Gate Way」

16:00～17:30

女子中高生が理系の進路についてさらに深く知るとともに、進路選択における悩みを相談できるよう、様々な分野や年代の人々とざっくばらんに話し合います。

また、学生企画「キャリア・プランニング」にてタイムラインを作成するために、科学・技術者や学生TAからアドバイスを受ける時間を設けます。

【保護者】サイエンスカフェⅢ-A

「研究者・技術者、大学生、新社会人との座談会」

16:00～17:30

女性の研究者・技術者、学生TA、新社会人との座談会を通じて、理系進路選択の現状やその魅力について知る機会とします。

【教員】サイエンスカフェⅢ-B「中学、高校、大学の教員の連携」

16:00～17:30

中学、高校、大学の教員による連携を促進するために、理科や数学など、理系科目の授業展開などについて、講義やグループワークを行います。

【共通】交流会

18:00～19:00

夕食をとりながら、参加者同士、講師や実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深めます。

【女子中高生】学生企画「キャリア・プランニング」 19:15～20:45

これまでの女子中高生と科学・技術者、学生TAなどの交流を踏まえ、また、研究者・技術者へのインタビューなどを通して、各グループでアドバイスを出し合いながら話し合い、一人一人の具体的な進路を模索します。

【保護者】【教員】サイエンスカフェⅣ「海外理工系事情」 19:15～20:45

本プログラムでは、留学生と保護者・教員が交流する場を設けます。諸外国における各種状況（生活、文化、教育、科学・技術等）について理解を深めるとともに、我が国における女子中高生の理工系キャリアパスの現状を再認識することを目的としています。

【共通】研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会②

＜希望者のみ参加＞

21:00～22:00

女子中高生の理系進路選択に向けて、研究者・技術者や学生TAとさらに話をしたいという参加者のために、進学や就職など、将来のことに関する懇談会を行います。

【女子中高生】国際交流「もっと話そう英語」＜希望者のみ参加＞ 21:00～22:00

国際交流の時間だけでは英語を話すことが物足りなかった女子中高生のために、留学生TAが英語での会話や質問に応じます。

＜第3日 8月8日（月）＞

【女子中高生】キャリア・プランニングポスター発表会 9:00～11:00

学生企画「キャリア・プランニング」で作成したタイムラインを用いて、班で一つのポスターを作成し、夏学を通して考えた自分の将来について発表します。

【保護者】夏の学校を振り返る 9:00～10:00

女子中高生の理系進路に関する保護者同士の忌憚のない意見交換を行い、3日間の研修を振り返ります。

【教員】夏の学校を振り返る 9:00～10:00

それぞれの学校に戻った時にこの合宿研修の経験をどう生かすかについて考える機会として、教員同士の忌憚のない意見交換を行って3日間の研修を振り返ります。

【保護者】【教員】キャリア・プランニングポスター発表会見学 10:00～11:00

【共通】学生企画「夏学振り返りと表彰式」 11:15～11:45

参加者が一堂に会し、3日間の振り返りを学生スタッフの企画により行います。

【共通】サイエンスアンバサダー任命式・閉校式 11:45～12:15

女子中高生の参加者全員をサイエンスアンバサダーとして任命します。アンバサダーは、自分の学校や地域に戻った後、学校や友人に夏学の体験を伝えます。

任命 横倉 隆和 実行委員長（日本分子生物学会）

平成28年度 女子中高生夏の学校2016参加者概況

1. 学年

中学生	3年	36	36
高校生	1年	33	79
	2年	37	
	3年	9	
合計		115	

2-1. 教員、保護者等

	教員	保護者	合計
女性	8	12	20
男性	3	4	7
合計	11	16	27

5. 都道府県別

※学校の所在地と居住地が違う場合、学校の所在地による。

		中学生	高校生	中高生合計	保護者	教員
北海道・東北	北海道	—	—	—	—	1
	青森県	1	2	3	1	—
	岩手県	1	3	4	—	—
	宮城県	1	3	4	—	—
	秋田県	—	3	3	—	1
	山形県	—	—	—	—	—
	福島県	—	—	—	—	—
関東	茨城県	—	3	3	1	—
	栃木県	1	2	3	—	—
	群馬県	3	1	4	—	—
	埼玉県	3	6	9	1	1
	千葉県	—	4	4	1	—
	東京都	5	15	20	3	1
	神奈川県	3	5	8	—	1
甲信越	山梨県	2	1	3	1	—
	新潟県	—	—	—	—	—
	長野県	1	—	1	—	—
北陸・東海	富山県	—	—	—	—	—
	石川県	—	1	1	—	—
	福井県	—	—	—	—	—
	岐阜県	1	2	3	—	—
	静岡県	2	6	8	1	1
	愛知県	2	2	4	1	1
	三重県	—	—	—	—	—
近畿	滋賀県	—	—	—	—	—
	京都府	—	—	—	—	—
	大阪府	—	2	2	—	2
	兵庫県	—	2	2	—	—
	奈良県	—	1	1	—	—
	和歌山県	—	—	—	—	—
中国・四国	鳥取県	—	—	—	—	—
	島根県	—	1	1	—	—
	岡山県	4	2	6	—	1
	広島県	—	1	1	—	—
	山口県	2	1	3	2	—
	徳島県	—	2	2	1	—
	香川県	—	1	1	1	—
	愛媛県	—	—	—	—	—
九州・沖縄	高知県	1	—	1	—	—
	福岡県	—	3	3	1	—
	佐賀県	—	—	—	—	1
	長崎県	1	—	1	—	—
	熊本県	2	1	3	—	—
	大分県	—	1	1	1	—
	宮崎県	—	1	1	—	—
	鹿児島県	—	—	—	—	—
	沖縄県	—	1	1	—	—
合計		36	79	115	16	11

※地域ブロック別内訳

	中学生	高校生	保護者	教員	合計
北海道・東北	3	11	1	2	17
関東	15	36	6	3	60
甲信越	3	1	1	—	5
北陸・東海	5	11	2	2	20
近畿	—	5	—	2	7
中国・四国	7	8	4	1	20
九州・沖縄	3	7	2	1	13
合計	36	79	16	11	142

「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～」
アンケート集計結果(女子中高生用)

参加者 115 名
 アンケート回答者 107 件
 アンケート回答率 93.0 %

1. あなた自身について、聞かせてください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	—	—	石川県	1	0.9	岡山県	6	5.6
青森県	3	2.8	福井県	—	—	広島県	1	0.9
岩手県	4	3.7	山梨県	3	2.8	山口県	3	2.8
宮城県	4	3.7	長野県	1	0.9	徳島県	2	1.9
秋田県	3	2.8	岐阜県	3	2.8	香川県	1	0.9
山形県	—	—	静岡県	7	6.5	愛媛県	—	—
福島県	—	—	愛知県	3	2.8	高知県	1	0.9
茨城県	3	2.8	三重県	—	—	福岡県	2	1.9
栃木県	3	2.8	滋賀県	—	—	佐賀県	—	—
群馬県	4	3.7	京都府	—	—	長崎県	1	0.9
埼玉県	9	8.4	大阪府	2	1.9	熊本県	3	2.8
千葉県	5	4.7	兵庫県	1	0.9	大分県	1	0.9
東京都	15	14.0	奈良県	1	0.9	宮崎県	—	—
神奈川県	9	8.4	和歌山県	—	—	鹿児島県	—	—
新潟県	—	—	鳥取県	—	—	沖縄県	1	0.9
富山県	—	—	島根県	1	0.9	無回答	—	—
						合計	107	100.0

◆今後の具体的な進路

(※は「無回答」を除いた場合)

No.	選択肢	人数	%	※%
①	理系	84	78.5	78.5
②	文系	1	0.9	0.9
③	まだ決めていない	22	20.6	20.6
	無回答	—	—	—
	合計	107	100.0	100.0

2. 今回の企画を何で知りましたか。次の①～⑤よりあてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	選択肢	人数	% (107 名中)
①	学校・先生から	83	77.6
②	国立女性教育会館の広報 (HP、メルマガ等) を見て	5	4.7
③	新聞の記事	1	0.9
④	親、家族、親戚から	19	17.8
⑤	その他	8	7.5

3. あなたが「女子中高生夏の学校2016」に参加した理由は何ですか。次の①～⑨よりあてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	選択肢	人数	% (107 名中)
①	科学・技術の分野に興味があるから	59	55.1
②	将来の進路を考える参考にするから	68	63.6
③	講師の先生に関心があるから	5	4.7
④	おもしろそうなプログラムがあるから	37	34.6
⑤	他校の生徒と話をしてみたかったから	30	28.0
⑥	大学生と話をしてみたかったから	20	18.7
⑦	先生にすすめられたから	28	26.2
⑧	親等にすすめられたから	15	14.0
⑨	その他	3	2.8

4. 各プログラムの内容について

【1日目】

キャリア講演①五十嵐悠紀さん

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合)

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	55	51.4	51.4
②	有用だった	51	47.7	47.7
③	あまり有用ではなかった	1	0.9	0.9
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	107	100.0	100.0

キャリア講演②西原亜理沙さん

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	43	40.2	41.0
②	有用だった	59	55.1	56.2
③	あまり有用ではなかった	3	2.8	2.9
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	2	1.9	-
	合計	107	100.0	100.0

学生企画「Cross Road」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	57	53.3	53.8
②	有用だった	46	43.0	43.4
③	あまり有用ではなかった	1	0.9	0.9
④	有用ではなかった	2	1.9	1.9
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	1	0.9	-
	合計	107	100.0	100.0

学生企画「サイエンスバトル!？」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	76	71.0	71.0
②	有用だった	27	25.2	25.2
③	あまり有用ではなかった	4	3.7	3.7
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	107	100.0	100.0

天体観測会

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	25	23.4	42.4
②	有用だった	28	26.2	47.5
③	あまり有用ではなかった	6	5.6	10.2
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	41	38.3	-
	無回答	7	6.5	-
	合計	107	100.0	100.0

国際交流「英語相談所」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	26	24.3	59.1
②	有用だった	16	15.0	36.4
③	あまり有用ではなかった	2	1.9	4.5
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	54	50.5	-
	無回答	9	8.4	-
	合計	107	100.0	100.0

研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会①

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	14	13.1	51.9
②	有用だった	11	10.3	40.7
③	あまり有用ではなかった	1	0.9	3.7
④	有用ではなかった	1	0.9	3.7
⑤	参加していない	67	62.6	
	無回答	13	12.1	
	合計	107	100.0	100.0

【2日目】

サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	71	66.4	66.4
②	有用だった	28	26.2	26.2
③	あまり有用ではなかった	7	6.5	6.5
④	有用ではなかった	1	0.9	0.9
⑤	参加していない	-	-	
	無回答	-	-	
	合計	107	100.0	100.0

サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	81	75.7	76.4
②	有用だった	24	22.4	22.6
③	あまり有用ではなかった	1	0.9	0.9
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	
	無回答	1	0.9	
	合計	107	100.0	100.0

学生企画「Gate Way」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	68	63.6	63.6
②	有用だった	36	33.6	33.6
③	あまり有用ではなかった	3	2.8	2.8
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	
	無回答	-	-	
	合計	107	100.0	100.0

交流会

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	54	50.5	51.4
②	有用だった	42	39.3	40.0
③	あまり有用ではなかった	7	6.5	6.7
④	有用ではなかった	2	1.9	1.9
⑤	参加していない	-	-	
	無回答	2	1.9	
	合計	107	100.0	100.0

学生企画「キャリア・プランニング」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	52	48.6	51.0
②	有用だった	46	43.0	45.1
③	あまり有用ではなかった	4	3.7	3.9
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	2	1.9	
	無回答	3	2.8	
	合計	107	100.0	100.0

国際交流「もっと話そう英語」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	29	27.1	65.9
②	有用だった	11	10.3	25.0
③	あまり有用ではなかった	4	3.7	9.1
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	51	47.7	
	無回答	12	11.2	
	合計	107	100.0	100.0

研究者・技術者やT Aとのキャリア・進学懇談会②

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	19	17.8	59.4
②	有用だった	10	9.3	31.3
③	あまり有用ではなかった	3	2.8	9.4
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	61	57.0	
	無回答	14	13.1	
	合計	107	100.0	100.0

【3日目】

学生企画「キャリア・プランニング」ポスター発表会

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	59	55.1	63.4
②	有用だった	32	29.9	34.4
③	あまり有用ではなかった	2	1.9	2.2
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	14	13.1	
	合計	107	100.0	100.0

学生企画「夏学振り返りと表彰式」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	42	39.3	53.8
②	有用だった	35	32.7	44.9
③	あまり有用ではなかった	1	0.9	1.3
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	29	27.1	
	合計	107	100.0	100.0

5. 「女子中高生夏の学校2016」全体について、次の①～⑤のうち、もっともあてはまるものに○をつけてください。

(※は「無回答」を除いた割合)

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に満足した	89	83.2	83.2
②	満足した	17	15.9	15.9
③	少し物足りなかった	1	0.9	0.9
④	物足りなかった	-	-	-
	無回答	-	-	-
	全体	107	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、「女子中高生夏の学校」に参加して感じたことを自由に書いてください。

・自分の知りたいこと、やりたいことをとことんできる科学者、研究者は楽しそうだった。また、このような人達が日本を動かしているんだなとじかに感じる事ができた。

・参加前から興味があった分野は選択する人が少ないので、専門家がいるのかという不安も多かった。しかし、以外にもその道の先輩が多くて、いろいろなお話を聞くことができました。今回の経験を自分の進路に役立てていきたいです。

・私はあまり理系の科目が得意じゃないけれども、みんな理系の分野を楽しそうに学んでいて、理系の面白さが分かって楽しかった。また、班のメンバーですぐとけあってすごい楽しかった。また、T Aになって戻って来たい！

・文系の分野にもとても興味がありましたが、理系に決めていた私は迷っていました。しかし、いろいろな分野、仕事がいろいろなところでつながっていることを知りました。焦らずに、自分の道突き進んで行きたいと思っています。

・私は理系が大好きでした。夏学に来るまでは。でも、来たことにより、理系のどんな分野に自分は興味を抱いていたのかを知ることができました。本当にありがとうございました。そして、3日間この6人とTAの方のおかげで、とても楽しい思い出ができました。この3日間は一生忘れません！ありがとう！！

・特に、サイエンスアドベンチャーとGate Wayが良かったです。思わぬ場で、知り合いに出会ったり、新たな友人を作ることができました。また、学生TAさんにも憧れました。Gate Wayで、将来やりたいことを新発見したり、同じ趣味、考えの友人もできました。夏学に参加し、科学技術の理解を深め、出会えて良かったと思える友人もでき、有意義な3日間でした。

・この3日間はとても有意義でした。こんなに進路について考えたり、理科を勉強することがなかったので、良い機会になった。理系女子もこんなにたくさんいて安心したし、同時に競争心も生まれた。良い経験をしたと思う。大学生になれば、TAさんになってみたい。

・私は理系に苦手意識があり、どっちがやりたいというのでも分からなかったのも、必然的に文系になってしまうのかなと感じていたけれど、3日間を通していろいろな理系の方々とお話しして、理系に頑張って進んでたくさんの人に役立てる人になりたいと思えました！

・様々な人の意見や様々な研究、仕事についてのお話を聞くことができ、将来の目標を整理することができました。また、直接質問をすることができ、疑問に思うことを解決しやすかったです。

・今まで少し曖昧だった将来の夢をしっかりと決められました。しかも、そのためのシナリオとかも考えさせてもらう機会があって、本当にためになりました。きっとこの夏学は私の人生において、大きな分岐点になりました。このような機会を与えてくれたことにとても感謝しています。

・将来、理系の進路を選択することについて、より前向きになりました。普段できない貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

・夏学に参加する前は理系に進むことに抵抗がありましたが、夏学に参加して、理系の仕事の魅力をたくさん知ることができて、とても良かったです。実際に大学や企業、学会で活躍されている人と直接話ができて、刺激を受けました。

・理系は自分達の暮らしにとっても深く関わっていて、1つの分野でも他の分野といろいろつながりがあることを知って、どんな分野を選んでも方向転換は可能なんだなと思って、進路選択が少し気楽にできるようになった。

・自分の好きなこと、やりたい分野が、様々な方達の話聞き、少しではありますが見えてきたような気がしました。めったに聞けないような話やここに来なければ知らなかった団体など、理系の分野について幅広く知ることができ、とても楽しかったです。来年は、この話を元に進路選択をしていきたいと思います。

・今まで将来やりたいことは文系でないと思っていたけれど、夏学に参加して、いろんな角度から物事をみると、いろんな選択肢があるのだと分かった。理系も文系もきちんと勉強し、今後考えていきたい。

・今まで身近に研究者の方々が女性、男性を問わずほとんどいなかったのも、話を聞く機会もなく、科学・技術の職業は未知な世界が多かったのも、ゆっくりと話を聞けて良かったです。また、科学・技術分野の職業の中にはたくさんの職種があって、初めて知る分野も多くあり、新しい出会いがありました。その中には興味のわくものもあったので、これからの将来選択に生かしていきたいです。

**「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～」
アンケート集計結果(教員用)**

参加者 11 名
アンケート回答者 10 件
アンケート回答率 90.9 %

1. あなた自身について、聞かせてください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	1	10.0	石川県	-	-	岡山県	1	10.0
青森県	-	-	福井県	-	-	広島県	-	-
岩手県	-	-	山梨県	-	-	山口県	-	-
宮城県	-	-	長野県	-	-	徳島県	-	-
秋田県	1	10.0	岐阜県	-	-	香川県	-	-
山形県	-	-	静岡県	1	10.0	愛媛県	-	-
福島県	-	-	愛知県	1	10.0	高知県	-	-
茨城県	-	-	三重県	-	-	福岡県	-	-
栃木県	-	-	滋賀県	-	-	佐賀県	1	10.0
群馬県	-	-	京都府	-	-	長崎県	-	-
埼玉県	-	-	大阪府	2	20.0	熊本県	-	-
千葉県	-	-	兵庫県	-	-	大分県	-	-
東京都	1	10.0	奈良県	-	-	宮崎県	-	-
神奈川県	1	10.0	和歌山県	-	-	鹿児島県	-	-
新潟県	-	-	鳥取県	-	-	沖縄県	-	-
富山県	-	-	島根県	-	-	無回答	-	-
						合計	10	100.0

2. 今回の企画を何で知りましたか。次の①～⑤よりあてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	選択肢	人数	%(10名中)
①	学校・先生から	7	70.0
②	国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)を見て	3	30.0
③	新聞の記事	-	-
④	生徒、子ども、家族、親戚から	-	-
⑤	その他	2	20.0

3. あなたが「女子中高生夏の学校2016」に参加した理由は何ですか。次の①～⑨よりあてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	選択肢	人数	%(10名中)
①	理系進路選択の知識を得るため	7	70.0
②	生徒の進路について悩んでいるため	1	10.0
③	理系進路選択事業に関心があるため	3	30.0
④	実験やポスター展示等に関心があるため	5	50.0
⑤	講師に関心があるため	1	10.0
⑥	情報交換のため	7	70.0
⑦	その他	1	10.0

4. 各プログラムの内容について

【1日目】

キャリア講演①五十嵐悠紀さん

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合)

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	9	90.0	90.0
②	有用だった	1	10.0	10.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	10	100.0	100.0

キャリア講演②西原亜理沙さん

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	3	30.0	30.0
②	有用だった	7	70.0	70.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	10	100.0	100.0

夏の学校を知る

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	4	40.0	40.0
②	有用だった	6	60.0	60.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	10	100.0	100.0

サイエンスカフェⅠ「学会、大学、企業等の研究者め技術者との座談会」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	6	60.0	60.0
②	有用だった	4	40.0	40.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	10	100.0	100.0

天体観測会

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	-	-	-
②	有用だった	3	30.0	60.0
③	あまり有用ではなかった	2	20.0	40.0
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	5	50.0	-
	無回答	-	-	-
	合計	10	100.0	100.0

研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会①

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	5	50.0	100.0
②	有用だった	-	-	-
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	4	40.0	-
	無回答	1	10.0	-
	合計	10	100.0	100.0

【2日目】

実験・実習の参加・見学

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	7	70.0	70.0
②	有用だった	3	30.0	30.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	10	100.0	100.0

講演1 渡辺 美代子氏

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	7	70.0	77.8
②	有用だった	2	20.0	22.2
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	1	10.0	-
	合計	10	100.0	100.0

講演2 松尾 由賀利氏

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	7	70.0	77.8
②	有用だった	2	20.0	22.2
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	1	10.0	-
	合計	10	100.0	100.0

サイエンスカフェⅡ「ポスター展示・キャリア相談見学」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	5	50.0	50.0
②	有用だった	5	50.0	50.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	10	100.0	100.0

サイエンスカフェⅢーB「中学、高校、大学の教員の連携」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	5	50.0	55.6
②	有用だった	3	30.0	33.3
③	あまり有用ではなかった	1	10.0	11.1
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	1	10.0	-
	合計	10	100.0	100.0

交流会

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	3	30.0	30.0
②	有用だった	4	40.0	40.0
③	あまり有用ではなかった	2	20.0	20.0
④	有用ではなかった	1	10.0	10.0
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	10	100.0	100.0

サイエンスカフェⅣ「海外理工系事情」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	3	30.0	30.0
②	有用だった	4	40.0	40.0
③	あまり有用ではなかった	2	20.0	20.0
④	有用ではなかった	1	10.0	10.0
⑤	参加していない	-	-	
	無回答	-	-	
	合計	10	100.0	100.0

研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会②

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	5	50.0	71.4
②	有用だった	2	20.0	28.6
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	3	30.0	
	無回答	-	-	
	合計	10	100.0	100.0

【3日目】

学生企画「キャリア・プランニング」ポスター発表会見学

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	4	40.0	44.4
②	有用だった	4	40.0	44.4
③	あまり有用ではなかった	1	10.0	11.1
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	
	無回答	1	10.0	
	合計	10	100.0	100.0

夏の学校を振り返る

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	3	30.0	50.0
②	有用だった	3	30.0	50.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	1	10.0	
	無回答	3	30.0	
	合計	10	100.0	100.0

学生企画「夏学振り返りと表彰式」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	3	30.0	75.0
②	有用だった	1	10.0	25.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	1	10.0	
	無回答	5	50.0	
	合計	10	100.0	100.0

5. 「女子中高生夏の学校2016」全体について、次の①～⑤のうち、もっともあてはまるものに○をつけてください。

(※は「無回答」を除いた割合)

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に満足した	7	70.0	70.0
②	満足した	3	30.0	30.0
③	少し物足りなかった	-	-	-
④	物足りなかった	-	-	-
	無回答	-	-	
	全体	10	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、「女子中高生夏の学校」に参加して感じたことを自由に書いてください。

・「人との出会い」がテーマということもあり、本当に多くの方々とお話する機会を頂くことができました。理系に進学した私自身も知らないことも多くあり、勉強になりました。私もこれから結婚、出産という課程に進みたいので、どのように仕事を両立させているかという実体験を聞けて、「困難したことには、やりがいがある」ということを多くの人が話しておられたので、努力したいと改めて実感しました。少し残念なのは、子供達の活動が分かりづらかったです。教育現場に持ち帰り活かすためには、子供達の反応を直接見てみたかったです。将来のビジョンを明確にすることの難しさは、教員をする上でも感じていたので、こうした先輩方の話を聞くようなイベントを各地で実施して頂ければと思います。

・日々教科書指導や生徒指導に追われる中で、何か変だなと思う学校でのいろいろな問題点を置き去りにしてしまいがちですが、それを整理する機会を頂きました。実験イベントではなく、進路を考える場の提供、人との出会いが中心となる夏学は、この主旨を崩さず、これからも続けて頂けたらと思います。初めて参加した時一番驚いたのは、企画委員はじめ学生TAのいきいきと動く姿です。中高生に不足しているのは身近なロールモデルですが、数年後の自分の姿を想像し、目標を持つことは日常のやる気にもつながります。学校に戻り、自分のところでもこれに似た機会を作ることができないだろうかと考えています。どうもありがとうございました。昨年、学生企画の資料を下さいと企画委員にお願いし、メールで送って頂きました。ありがとうございました。生徒企画の内容はキャリア教育として参考にしたいものばかりなのですが、それを見る機会が少なく、それが残念です。ビデオなどで見せて頂くだけでもいいので、ぜひお願いします。

・今回初めて参加して、大変勉強になりました。盛りだくさんのカリキュラムで、まだ自分の中で整理することができていませんが、学校に戻り、生徒だけでなく、先生方にも「夏学」おすすめですよと伝えていきたいです。教員なので、子供たちの様子が気になります。もう少し、子供たちの活動を見る時間があれば・・・と思いました。「振り返る」でもお話しましたが、是非、「夏学」を地方にも発信して頂きたいと思います。よろしくお願いします。

・理系に進む女性の特性を改めて理解した。「生き方」は自由で良い。理系の仕事は多様化していて、「THE理系」でなくて良いのだと思った。日本中、様々な地域の方と接する機会でもあって、地域で違いがあるということが知ることができた。理科の女性教員として使命感が生まれた（興味を引く授業づくり、能力を引き出す）。研修室の温度調節が難しいようだった。寒かったので、持ち物の中に「上着」を加えた方が良い。

・サイエンスとキャリア教育を合わせ持った取り組みは素晴らしいです。ぜひ自校でも取り入れたい企画です（まねしてみたい）。また、未来を担う中高生女子に対して、実験を通してその潜在意識や能力をより引き出したいと決意を新たにしました。そういう意味で、各学会の集う会員の果たす役割とTAさんの熱意に敬意を表します。本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～」
アンケート集計結果(保護者用)

参加者 16 名
アンケート回答者 15 件
アンケート回答率 93.8 %

1. あなた自身について、聞かせてください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	-	-	石川県	-	-	岡山県	-	-
青森県	1	6.7	福井県	-	-	広島県	-	-
岩手県	-	-	山梨県	1	6.7	山口県	2	13.3
宮城県	-	-	長野県	-	-	徳島県	1	6.7
秋田県	-	-	岐阜県	-	-	香川県	-	-
山形県	-	-	静岡県	1	6.7	愛媛県	-	-
福島県	-	-	愛知県	1	6.7	高知県	-	-
茨城県	1	6.7	三重県	-	-	福岡県	1	6.7
栃木県	-	-	滋賀県	-	-	佐賀県	-	-
群馬県	-	-	京都府	-	-	長崎県	-	-
埼玉県	1	6.7	大阪府	-	-	熊本県	-	-
千葉県	1	6.7	兵庫県	-	-	大分県	1	6.7
東京都	3	20.0	奈良県	-	-	宮崎県	-	-
神奈川県	-	-	和歌山県	-	-	鹿児島県	-	-
新潟県	-	-	鳥取県	-	-	沖縄県	-	-
富山県	-	-	島根県	-	-	無回答	-	-
						合計	15	100.0

2. 今回の企画を何で知りましたか。次の①～⑤よりあてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	選択肢	人数	% (15名中)
①	学校・先生から	6	40.0
②	国立女性教育会館の広報 (HP、メルマガ等) を見て	5	33.3
③	新聞の記事	-	-
④	子ども、家族、親戚から	4	26.7
⑤	その他	1	6.7

3. あなたが「女子中高生夏の学校2016」に参加した理由は何ですか。次の①～⑦よりあてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	選択肢	人数	% (15名中)
①	理系進路選択の知識を得るため	10	66.7
②	子どもの進路について悩んでいるため	10	66.7
③	理系進路選択事業に関心があるため	5	33.3
④	実験やポスター展示等に関心があるため	3	20.0
⑤	講師に関心があるため	1	6.7
⑥	情報交換のため	2	13.3
⑦	その他	2	13.3

4. 各プログラムの内容について

【1日目】

キャリア講演①五十嵐悠紀さん

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合)

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	11	73.3	73.3
②	有用だった	4	26.7	26.7
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

キャリア講演②西原亜理沙さん

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	9	60.0	60.0
②	有用だった	6	40.0	40.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

夏の学校を知る

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	5	33.3	33.3
②	有用だった	10	66.7	66.7
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

サイエンスカフェⅠ「学会、大学、企業等の研究者め技術者との座談会」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	7	46.7	46.7
②	有用だった	8	53.3	53.3
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

天体観測会

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	1	6.7	11.1
②	有用だった	8	53.3	88.9
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	4	26.7	-
	無回答	2	13.3	-
	合計	15	100.0	100.0

研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会①

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	4	26.7	66.7
②	有用だった	2	13.3	33.3
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	8	53.3	-
	無回答	1	6.7	-
	合計	15	100.0	100.0

【2日目】

実験・実習の参加・見学

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	9	60.0	60.0
②	有用だった	6	40.0	40.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

講演 1 渡辺 美代子氏

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	9	60.0	60.0
②	有用だった	6	40.0	40.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

講演 2 松尾 由賀利氏

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	9	60.0	60.0
②	有用だった	6	40.0	40.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

サイエンスカフェⅡ「ポスター展示・キャリア相談見学」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	11	73.3	73.3
②	有用だった	3	20.0	20.0
③	あまり有用ではなかった	1	6.7	6.7
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

サイエンスカフェⅢーA「研究者・技術者、大学生、新社会人との座談会」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	10	66.7	66.7
②	有用だった	5	33.3	33.3
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

交流会

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	7	46.7	50.0
②	有用だった	7	46.7	50.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	1	6.7	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

サイエンスカフェⅣ「海外理工系事情」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	5	33.3	33.3
②	有用だった	8	53.3	53.3
③	あまり有用ではなかった	2	13.3	13.3
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会②

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	7	46.7	87.5
②	有用だった	1	6.7	12.5
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	6	40.0	-
	無回答	1	6.7	-
	合計	15	100.0	100.0

【3日目】

学生企画「キャリア・プランニング」ポスター発表会見学

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	10	66.7	66.7
②	有用だった	5	33.3	33.3
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

夏の学校を振り返る

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	9	60.0	60.0
②	有用だった	6	40.0	40.0
③	あまり有用ではなかった	-	-	-
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	-	-	-
	合計	15	100.0	100.0

学生企画「夏学振り返りと表彰式」

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に有用だった	8	53.3	57.1
②	有用だった	5	33.3	35.7
③	あまり有用ではなかった	1	6.7	7.1
④	有用ではなかった	-	-	-
⑤	参加していない	-	-	-
	無回答	1	6.7	-
	合計	15	100.0	100.0

5. 「女子中高生夏の学校2016」全体について、次の①～⑤のうち、もっともあてはまるものに○をつけてください。

(※は「無回答」を除いた割合)

No.	選択肢	人数	%	※%
①	非常に満足した	13	86.7	86.7
②	満足した	2	13.3	13.3
③	少し物足りなかった	-	-	-
④	物足りなかった	-	-	-
	無回答	-	-	-
	全体	15	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、「女子中高生夏の学校」に参加して感じたことを自由に書いてください。

・交流会やサイエンスカフェなどで、運営の先生方が「実はうちも〇〇の娘（息子）がいて・・・」などと話しをして下さるのが、同じ保護者としてすごく安心しました。「保護者として、親として、我が子の進学や将来のことは不安があるんですよね。先生だって。」って勝手に思い、「先生方も悩むんだから、私が悩むのは当たり前だよ」と勝手に思い込み、勝手に安心感を得てました。すごく楽しい3日間でした。中3で参加できたことはとっても良かったと思います。数年後にもう一度参加できたら、ポスター展示なども別の見方でできるようになると思います。本人が希望したら、また参加させてあげたいです。

・サイエンスカフェ、ポスター展示では、いろいろな大学、高専、学会のブースがあり、興味を持つ分野との出会いがあるのであった（子供と話をするのが楽しみです）。キャリアを重ねる上で、転職や留学などいろいろな選択があり、それを可能にするのは志や探究心だと感じました。より現実的な話をたくさん知ることができ、参加して良かったと思っています。たくさんの職業の方と出会い、娘達の夢が身近なロールモデル（医師、教員、看護師、薬剤師）から、学問を続けるうちにいろいろな選択に気づき、人生を充実させてくれることを期待しています。保護者の不安や悩みをいろいろと聞いて頂き、ありがとうございました。たくさんのプログラムを体験させて頂き、充実した3日間でした。

・様々なプログラムを準備頂き、有難う御座いました。プログラムはもちろんの事ながら、子供のポスター発表では具体的な先生方、TAの方々からの「言葉」がけを感じられ、まさに「人との出会い」の大切さを実感した。親だけでは与えられない経験を体験させて頂けた事に、心から感謝申し上げますと共に、今後も継続下さる事を熱望致します。親子共々、充実した学びの多い夏休みとなり、中学3年の受験期に受験勉強よりも大切な事を得られ、大変有意義な時間でした。またの機会に是非宜しくお願い致します。

・女子中高生夏の学校へ、今回初めて参加させて頂きました。娘の「これに行きたい」と興味津々の表情に背中を押され、申し込みました。どちらかというと理系より文系の娘が、応募したいと思うほど進路に迷いがあるのだと感じました。高いモチベーションを持った彼女達の中に混じって、娘も弱音を吐かずやる気を見せている姿を見ることができ、嬉しかったです。今回の体験を通して、進路について何かを掴んでくれたと思います。ここで学んだことを学校生活に活かして欲しいです。最後に、スタッフの皆様、学校関係の皆様、最高の充実した学習環境と、皆様の温かい愛情で支えて下さって、心から感謝申し上げます。また、このような機会を作って頂き、ありがとうございました。

・たくさんの理系女子のロールモデルを赤裸々に聞けて、大変参考になりました。娘もきっと素晴らしい出会いに刺激を受けていると思いますが、私自身、理系女子のことを全く知らなかったもので、とても視野が広がりました。まだ今小6の妹もいますので、この夏学がずっとずっと続いていきますように！！

・今回参加して、理系の分野の研究はとても幅が広いこと、社会貢献性が高いと実感しました。ロールモデルの先生方のお話を伺い、具体的に理系職への理解が深まりました。又、先生方が生き生きと仕事をされていて、又、出会いを大切にされ、人生の状況に合わせて柔軟に対応していらっしゃるライフスタイルを拝見し、今から悩んでいても仕方ない、まずは理系で興味のあることに飛び込めばいいのだと、親として背中を押してやろうと思えるようになりました。保護者として参加して良かったと思います。

・本当に充実した3日間で、日頃お会いできないような方と沢山お話もできました。私自身も刺激を受けました。この夏学でロールモデルとして紹介された方の、人生の生き様を思い出すことが、子供にとって今後の支えとなると思います。この会を、今までもこれからも支えて下さっている皆様に、心より感謝申し上げます。うちの子も、学生TAになって欲しい。

・利益有占のGlobal Companyを見てきており、子供を持って働く事が大変だっただけに、娘には自分で考え納得した人生を歩んで欲しいと思っています。好きな事の先に生活を支える収益があり続けて欲しいという視点で、現実と対応策を知りたいです。・HPを分かりやすく、楽しさが伝わるものにして頂けると友達にも伝えやすいです。アンバサダーの声や参加者父兄の声をのせる。・企画の方に加え、TAの皆さんにも心からお礼申し上げます。

・自分が子供（中高生）の頃に、このような企画があったら是非参加したかったと思いました。2年後、妹にも是非参加させたいと思います。多くの方々のボランティア精神と中高生のより良い進路のための希望や夢を大切にしたいという思いが、活動全体を通してひしひしと伝わってきました。この精神が永く続いてくれる事を願うと共に、もっと広く多くの方々に伝わってくれれば良いと思います。研究者以外にも企業の中で理系を卒業して活躍している方や人事部門の方の話等も聞けると良いと思いますが、企業の利益追求に巻き込まれる事については不安です。

平成28年度「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～」
フォローアップアンケート集計結果

対象者数 115 名
回答数 70 件
回答率 60.9 %

☆ 回答者内訳

	回答数	対象者数	回答率(%)
中3	22	36	61.1
高1	17	33	51.5
高2	26	37	70.3
高3	5	9	55.6
合計	70	115	60.9

1. 「女子中高生夏の学校」の3日間で学んだことは、その後の学校生活にどんな点で役立ちましたか。

	中3	% (22名中)	高1	% (17名中)	高2	% (26名中)	高3	% (5名中)	合計	% (70名中)
ア 自分自身の進路について、よく考えるようになった	21	95.5	16	94.1	25	96.2	5	100.0	67	95.7
イ 学校での授業内容について、よく理解できるようになった	5	22.7	1	5.9	1	3.8	1	20.0	8	11.4
ウ 定期テストや模試、通知表などの成績が上がった	2	9.1	-	-	2	7.7	1	20.0	5	7.1
エ 家族や学校の先生、友達などと進路についてよく話すようになった	14	63.6	11	64.7	16	61.5	3	60.0	44	62.9
オ 役立つことはなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カ その他	1	4.5	1	5.9	1	3.8	-	-	3	4.3

(カ その他)の内容

- ・理系の先生からいろいろな話が聞けるようになった。
- ・自分の将来について考えるときにイメージが具体的に出来るようになった。
- ・友達をつくることの大切さ。

2. サイエンスアンバサダーに任命されましたが、誰に対してこうした活動を行いましたか。

	中3	% (22名中)	高1	% (17名中)	高2	% (26名中)	高3	% (5名中)	合計	% (70名中)
ア 親	18	81.8	15	88.2	22	84.6	4	80.0	59	84.3
イ 兄弟姉妹	8	36.4	5	29.4	11	42.3	2	40.0	26	37.1
ウ 祖父母	4	18.2	3	17.6	6	23.1	2	40.0	15	21.4
エ 親戚	4	18.2	2	11.8	2	7.7	1	20.0	9	12.9
オ 友達	19	86.4	12	70.6	20	76.9	2	40.0	53	75.7
カ 先生	13	59.1	3	17.6	11	42.3	3	60.0	30	42.9
キ 全校生徒	4	18.2	-	-	-	-	-	-	4	5.7
ク 地域(近所)の人	1	4.5	-	-	1	3.8	-	-	2	2.9
ケ 出身校の生徒や先生	3	13.6	-	-	2	7.7	2	40.0	7	10.0
コ 誰にも行っていない	-	-	1	5.9	1	3.8	-	-	2	2.9
サ その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(サ その他)の内容

- ・なし

3. サイエンスアンバサダー活動で、どのようなことを伝えましたか。

- ・今まで知らなかった職場について知ることができたこと。お友達を作ることができたこと。なりたい職業にもっとなりたいたいと思えたこと。
- ・夏学での体験を、色々な人に話した。
- ・学校の活動が忙しくできなかった。
- ・活動で行ったことについて伝えました。
- ・同級生がどんな生活や、学習環境にいるのか、その相違と感じたことを伝えた。
- ・受けた授業について教える。
- ・夏学と理系の楽しさや素晴らしさを家族や友人に伝えました。文系、理系の人を問わず、多くの人に理系に魅力を持ってもらいました。
- ・日本にはたくさんの研究機関があり、男性だけでなく女性も幅広く活動していることを伝えました。
- ・夏学の、他のイベントには無い魅力を具体的に伝えた。例えば、同じ理系を志す同年代の子とじっくり話すことができること、実際に理系で活躍する方々の貴重なお話を聞けることなどを説明した。
- ・もっと、理数を身近に感じてもらおうと、夏学で勉強したことなどを、話した。
- ・夏学でやったこと、楽しかったこと、自慢したいことなど。
- ・将来の夢、そこにたどり着くまでの想定プラン、今回の合宿で行ったこと等。
- ・スケッチブックにまとめて掲示、発表しました。
- ・一期一会の貴重な経験であり、周囲にあるものを違う角度から見ることやチャレンジすることで経験を深めていくことができる。周囲にあるものすべてに好奇心を持つことが大切である。
- ・キャリアなど。
- ・理系分野だけが全てではなく、理系分野の中でも何かだけが全てではなくて、結局は様々な分野と分野が関わり、さらには様々な専門性のある人々が集まることによって新しいものが生まれること。

- ・薬品の不思議。
- ・理系の大学の種類や内容。
- ・活動内容の報告。
- ・今 何が実用化されているか。
- ・その道に進んでいる人から聞いた話と、それを聞いて自分がどう思ったか。
- ・夏学の魅力。
- ・夏学での学習、体験内容を学級のスピーチで発表した。家族、親戚にプレゼンテーションソフトを使用して説明した。
- ・学んだことを伝えた。
- ・ファイルを見せながらこれではどんなことをしたか、なにが参考になったか、など。
- ・3日間の活動内容で特に面白いと思った活動（企業や大学の方への質問で知ったことや天体観測会）などについて話した。
- ・実習の時に学んだこと。
- ・新しい友達ができ、将来の選択肢が増えた。楽しかった。是非参加してみてください。
- ・夏学の楽しさや、学んだこと。
- ・進路選択について、学校内で話し合う際に、夏学で知り得た情報を紹介しています。女子が理系を選択する＝医学部か、薬学部といった選択が多い中で、理数系科目の得意な人達に、活躍の場が多いことをお伝えしています。
- ・夏の学校でどのような講義を受けたか、また、それを通してどのように感じたかということ。
- ・この夏学に参加するといいい経験になるよ、と友だちに教えた。
- ・夏学で出会った友達や先生のこと。一口に理系の研究といっても、実際は様々な分野が関係していること。研究員は大変というイメージが強いが、子育てや家事をしながら活躍している人もいること。理系っておもしろい！と思ったので、作ったもの、もらったものなどを見せつつ、研究内容の紹介もしました。
- ・大勢の仲間と学んだこと、理科の実験の紹介と面白さ、将来の選択肢など。
- ・進路を考える上で役立つ情報を得られたことや、何よりも同年代の人たちと関わって楽しかったということ。
- ・夏の学校での活動内容や、そこで学んだことを伝えました。
- ・活動時に使用したとめたファイルを在籍校の先生方に見ていただきました。
- ・理科の魅力を話して伝えた。
- ・科学ボランティアに参加し、理科の楽しさを伝えた。
- ・もらったプリントなどを見せてこんな分野もあるんだよということを伝えた。
- ・夏の学校での活動内容と、活動を通して感じたことや考えたことを伝えた。
- ・サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」で学んだことなど。
- ・自分が進路についてもっとよく考えられるようになった経緯など。
- ・夏の学校での活動全体の紹介と、自分が相談した進路のこと。
- ・頭が良い人が沢山いたこと。
- ・活動内容。
- ・夏の学校でどんな事をしたか伝えた。
- ・研修で知った、様々な学会の活動や、理系の仕事をされている女性の方から聞いた話を伝えました。特に研究職に就いている方は、どのようなことをしているのかということをお話しました。また、TAさんの大学生活の話なども聞いて、自分の大学生のイメージが広がったので、友人にも伝えました。全国から集まった中高生の学校生活の話もした。研修中の写真も見てもらい、興味を持ってくれました。
- ・地域によって生態系が異なることを伝えた。
- ・この様な活動があること。また、活動内容。
- ・夏学中に見た学会等の発表で知ったことを知り合いに話した。
- ・国際交流で自分の英語力を試せたり外国について知ることができてよかったことと、専門の方が自分の進路や不安なことについて相談にのってくれたから、少し自信が持てたこと。
- ・二日目にさせていただいた実験のことを話したり、理系の学問の種類や職業などを伝えました。
- ・夏学で学んだこと。
- ・理系で興味のある分野について母や友達と話すきっかけになった。秋に文理選択をしたが、母を説得することができた。友達にはやりたい分野に挑戦しようと勧めることができた。
- ・夏休み中に行ったかつどうとして、先生に報告書を提出した。
- ・夏学でどんな事をしたか。どんな事を聞いたか。
- ・肥満は癌になりやすいなどポスターの発表で聞いたことを伝えた。
- ・何をどのように伝えればよいかわからなかったからです。
- ・理系の仕事の多さや魅力など。
- ・ポスター発表を聞き、海洋科学や地球生命科学などに興味を持って、医者以外の進路も自分なりに見つけることができたこと。
- ・夏学で学んだキャリア教育や実験について伝え参加することの良さを伝えた。
- ・理系の職業の種類について。
- ・サイエンスアドベンチャーで体験した事。
- ・夏学での体験、実験をこのようなことをしたよと光塩女子学院のお友達に伝えた。
- ・夏の学校で聞いて驚いたこと。1日目に聞いた理系分野で活躍している女性の話。
- ・体験談を話した。
- ・活動内容、参加して考えたこと。
- ・参加して感じた事得たことを作文にして、地元の文学賞に応募した。賞を頂いて、冊子になりました。
- ・キャリア講演で女性の研究者の方のお話を伺い、理系を目指すことの面白さや将来の有望性を知ったこと、同じ志を持つ仲間との出会いがあり、自分の将来を本気で考えられたこと。

4. TAを希望しますか。

	中3	% (22名中)	高1	% (17名中)	高2	% (26名中)	高3	% (6名中)	合計	% (70名中)
ア 是非(必ず)参加したい	8	36.4	5	29.4	10	38.5	4	80.0	27	38.6
イ 参加してもよい	13	59.1	9	52.9	13	50.0	1	20.0	36	51.4
ウ あまり参加したいとは思わない	1	4.5	2	11.8	3	11.5	—	—	6	8.6
エ 参加する気持ちはまったくない	—	—	1	5.9	—	—	—	—	1	1.4
未定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	22	100.0	17	100.0	26	100.0	5	100.0	70	100.0

5. 今後の「女子中高生夏の学校」に望むことなど、自由に書いてください。

- ・進路よりも、色々な分野の入口となる講義をウケたかったです
- ・もっと多くの人に知ってもらいたいです。
- ・もっと教授と話せる時間が欲しい。
- ・理系分野だけでなく、文理融合などの分野もあつたらもっと楽しいと思います。
- ・日数を増やして、実験を複数体験したいです。
- ・人との出会いのプログラムでもあり、国際交流の場をもう少し増やすこと、他グループの人との出会いを作る場を増やせればいいと思います。また、科学・技術のレクチャーは身の回りへの視野を違う視点から見れるように工夫されていたのでとても興味深く良かったと思います。是非、後輩の理系女を育てるため夏学を続けてください。
- ・講義のジャンルを増やして欲しい。
- ・より多くの女子中高生に同じような体験をしてもらいたい。
- ・2017も参加させていただきたい
- ・もっともっと多くの女子高生にこの活動に参加してもらいたいと願っているので、チラシなどに去年の写真を載せたり体験できることを載せたりともっと興味を持たせる内容にして欲しいです！
- ・進路の視野が広がり、様々な理系現場で活躍する女性の姿を見ることができてとても良い体験となりました。地域に関わらず班ごとに分かれていることで、幅広い友好関係を築くことができますし、今でも交流が続いています。今後はTAとして参加してみたいと思います。将来自分の娘にも参加させたいと思うような素敵なイベントでした。感謝申し上げます。
- ・九州の方の学生は、夏の学校について情報が無い人も多く、知る機会が増えると良いと思います。
- ・夏の学校に参加した生徒にとって、自分の学んだことをどんなふうに生かせるのかということを知るきっかけになる場になってほしい
- ・班の人以外とももっと仲良くなれたらよかったですほかの班との交流がもう少しあってもいいと思いました
- ・今回の宿舎で今後の進路について現実的に考えられるようになったので、更に学ぶ為には是非もう一度参加できると大変嬉しいですね。
- ・これからも、理科の世界で活躍している技術者や研究者の人たちと話すことのできる機会を作ってください。同じ理科に興味をもった同年代の友人と出会う機会に感謝しています。
- ・私はこの夏の学校で、これからの生き方や自分の夢について考えることができました。TAの先輩や大学の先生、働く女性と出会えたおかげです。企業や学会のブースの説明を聞いたり、実験教室を体験したり、地元では体験できない出会いや発見がありました。高校生になって物理や化学の勉強をしてまた参加したいです。
- ・私の子孫の代まで続けてほしい企画だと思いました。
- ・理系を目指す生徒だけでなく、文系を目指す女子生徒のための催しを開催していただきたいです。とても貴重で素晴らしい経験ができました。ありがとうございました。
- ・イベントを増やしてほしいです。
- ・Wi-Fiを付けてほしい。
- ・沖縄県からの参加で、費用や宿泊地など不安がありましたが、航空費の補助があったり、研修中も親切に対応して頂いたりして、充実した時間を過ごす事ができました。今回夏の学校に参加して、様々な人に出会い、自分の好きなことを探したり、大学や就職へのイメージが変わったり、将来のことについて考えるきっかけとなりました。今は、将来の夢に向かって勉強やその他の活動にも取り組んでいます。大学生になったら、TAとしてまた参加出来ればと思っています。本当にありがとうございました。
- ・もっと違うグループとの交流ができるとよい。
- ・子供おしで夢についてもっと話す機会があればより良いと思いました。
- ・埼玉県以外でもやってほしい。
- ・天体観測の時間がもう少し欲しい（星がみえなかった）
- ・特にありません。ありがとうございました。
- ・また参加したいという気持ちが強い。遠方なのと学校の夏期補習が忙しすぎて参加出来ないのが残念。
- ・理系に進みたくても、色々思い悩むことはあるので、また相談させてください！

平成28年度「女子大学生キャリア形成セミナー」実施要項

1. 趣 旨

日本における女性を取り巻く状況は、以前より改善されてきていますが、男女平等は未だに実現していません。働く女性及び担当者レベルでの女性リーダーは増えてきましたが、組織における意思決定に関わる女性の割合は未だ低いままです。しかし、我が国が男女共同参画社会を実現するためには、女性が職業活動に参加するだけでなく、様々な組織において管理的地位に就き、その意思決定に関わるなど、組織活動へ参画することが必要です。

そこで国立女性教育会館では、自らのキャリアを模索する女子大学生を対象に、

①仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること
(自主自立)

②女性の人生設計に関わる様々な出来事をあらかじめ知っておくこと
(ライフ・プランニング)

③キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながるという視点を持つこと(社会を変える・支える志)

の3つを学ぶ機会を提供することで、将来、社会や組織を支える女性リーダーを育成し、我が国の男女共同参画の推進を図ります。

2. 主 題

「キャリアを考えることは、人生を考えること」

3. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 共 催

リーダーシップ111

★リーダーシップ111(ワンワンワン)は、各分野を代表する女性たちが、よりよい社会の実現を目指して、助け合い、学び合い、情報交換をするネットワークとして、1994年に設立されました。グローバル社会に向けて提言を発信し、自らも実践することをモットーとしている団体です。

5. 会 場

2月18日(土) 霞が関ナレッジスクエア

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-1 霞が関コモンゲート

電 話 03-3288-1921

2月19日(日) 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

電 話 0493-62-6724・6725 F A X 0493-62-6720

6. 期 日

平成29年2月18日(土)～2月19日(日) 1泊2日

7. 対象

女子大学生 30名

8. 日 程 (各プログラムの間に10分程度の休憩があります)

2/18 (土)	12:15 13:00 13:05 14:40 16:40 18:20 19:30 21:00									
		受付	開会	対談	パネル ディス カッション	バス で 移動	チェッ クイン ・夕食	交流会		
2/19 (日)	9:00 10:00 12:00 13:00 15:00 15:30 16:30									
	講義	グループ ワーク ①	昼食	グループ ワーク ②	閉 会	懇親会 *希望者 のみ				

9. 内 容

第1日 2月18日 (土)

(1) 受付 12:15～13:00

(2) 開会 13:00～13:05

主催者挨拶：内海 房子 国立女性教育会館理事長

(3) 対談「キャリアを考えることは人生を考えること」 13:05～14:30

世界を舞台に活躍する石倉氏と女性が活躍できる新しい働き方を提案する木下氏との対談を通じて、これから社会に出ていく女子学生に、未来に向かって一步を踏み出す勇気を伝えます。

講 師：石倉 洋子

一橋大学名誉教授

講 師：木下 紫乃

昭和女子大学ダイバーシティ推進機構事務局次長
株式会社ヒキダシ代表取締役

(4) パネルディスカッション「先輩の声を聞く」 14:40～16:40

人生経験を重ねたパネリストの話から、働く女性の現状や課題、女性の人生設計に関わるさまざまな出来事や働くことの面白さ、課題を乗り越えるための視点を学びます。

パネリスト：平野こずえ

東燃ゼネラル石油株式会社

人事総務統括部総務部アドバイザー

パネリスト：細川 芽

国立女性教育会館情報課長

パネリスト兼コーディネーター

：小林 洋子

NTT コミュニケーションズ株式会社常勤監査役

☆国立女性教育会館へバスで移動

18:20 ごろ到着予定

(5) チェックイン・夕食・休憩 18:20～19:30

(6) 交流会 19:30～21:00

パネリスト、OG 企画委員も交え、小グループで意見交換を行います。いろいろな立場の方のお話を聞くことで自分の考えるキャリアについて掘り下げ、整理し、また参加者同士の交流から自身のネットワークを広げる機会とします。

第2日 2月19日(日)

(7) 講義「働く女性を取り巻く環境～国際データ比較と女子大学生追跡ヒアリング調査を通して～」 9:00～10:00

統計データを用いた国際比較と、一昨年度に大学を卒業した女性の入社後の意識調査を通じて、女性の活躍と男女共同参画の推進についてわかりやすく解説します。

講師：島 直子 国立女性教育会館研究国際室研究員

(8) グループワーク① 10:10～12:00

ここまで学んだ内容を踏まえながら自分の考えや思いを整理し、参加者間で共有します。自己理解、他者理解を深めながら、働き方、生き方についての考察を進めつつ、参加者同士のネットワークづくりを進めます。

講師：佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

(9) 昼食・休憩 12:00～13:00

(10) グループワーク② 13:00～15:00

グループワーク①を踏まえ、キャリアシートの作成を行います。自分を客観視することで自分軸をはっきりさせ、これからのキャリアデザインが見える化していきます。パネリスト等によるフィードバックを交えつつ、翌日から具体的に行動できる方策を検討します。

講師：佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

(11) 閉会 15:00～15:20

アンケート記入を行い、2日間の研修を振り返ります。最後に修了証を授与します。

(12) 懇親会（希望者のみ参加） 15:30～17:00

軽食をとりながら2日間の研修を振り返るとともに、参加者同士の交流をさらに深めます。

10. その他

(1) 期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

(2) 修了生（希望者のみ）には、国立女性教育会館から定期的にメールマガジンを送付します。

平成28年度「女子大学生キャリア形成セミナー」参加者概況

定員： 30

申込者： 43
(キャンセル6)

参加者： 35

応募倍率： 143.3%

1. 性別

	合 計
女 性	35

2. 対談

	女 性
参加	34
不参加	1
合 計	35

3. パネルディスカッション

	女 性
参加	34
不参加	1
合 計	35

4. 交流会

	女 性
参加	34
不参加	1
合 計	35

5. 講義

	女 性
参加	34
不参加	1
合 計	35

6. グループワーク①

	女 性
参加	34
不参加	1
合 計	35

7. グループワーク②

	女 性
参加	34
不参加	1
合 計	35

8. 懇親会

	女 性
参加	26
不参加	9
合 計	35

9. 都道府県別

		女 性
北海道・東北	北海道	—
	青森県	—
	岩手県	—
	宮城県	—
	秋田県	—
	山形県	—
	福島県	3
関東・甲信越	茨城県	5
	栃木県	—
	群馬県	1
	埼玉県	3
	千葉県	5
	東京都	8
	神奈川県	5
	山梨県	2
北陸・東海	新潟県	—
	長野県	2
	富山県	—
	石川県	—
	福井県	—
近畿	岐阜県	—
	静岡県	—
	愛知県	—
	三重県	—
	滋賀県	—
中国・四国	京都府	—
	大阪府	—
	兵庫県	—
	奈良県	—
	和歌山県	—
	鳥取県	—
	島根県	1
	岡山県	—
九州・沖縄	広島県	—
	山口県	—
	徳島県	—
	香川県	—
	愛媛県	—
	高知県	—
	福岡県	—
	佐賀県	—
	長崎県	—
	熊本県	—
	大分県	—
	宮崎県	—
	鹿児島県	—
	沖縄県	—
合 計		35

平成28年度「女子大学生キャリア形成セミナー」アンケート集計結果

参加者数	35 名
アンケート回答数	40 件 (学生35名、オブザーバー等5名)
アンケート回答率	100.0 %

☆ 各プログラムについて

2月18日(土) 霞が関ナレッジスクエア⇒NWEG

対談「キャリアを考えることは人生を考えること」

	人数	%	※%	※%
非常に満足した	24	60.0	66.7	97.2
満足した	11	27.5	30.6	
少し物足りなかった	1	2.5	2.8	2.8
物足りなかった	—	—	—	
参加しなかった	4	10.0		
合計	40	100.0	100.0	100.0

※%は「参加しなかった」を除いた場合

パネルディスカッション「先輩の声を聞く」

	人数	%	※%	※%
非常に満足した	25	66.6	67.6	91.9
満足した	9	22.5	24.3	
少し物足りなかった	3	7.5	8.1	8.1
物足りなかった	—	—	—	
参加しなかった	3	7.5		
合計	40	100.0	100.0	100.0

※%は「参加しなかった」を除いた場合

交流会

	人数	%	※%	※%
非常に満足した	17	42.5	44.7	89.5
満足した	17	42.5	44.7	
少し物足りなかった	4	10.0	10.5	10.5
物足りなかった	—	—	—	
参加しなかった	1	2.5		
無回答	1	2.5		
合計	40	100.0	100.0	100.0

※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合

2月19日(日)NWECC

講義「働く女性を取り巻く環境」

	人数	%	※%	※%
非常に満足した	14	35.0	36.9	81.6
満足した	17	42.5	44.7	
少し物足りなかった	4	10.0	10.5	18.4
物足りなかった	3	7.5	7.9	
参加しなかった	2	5.0		
合計	40	100.0	100.0	100.0

※%は「参加しなかった」を除いた場合

グループワーク①②

	人数	%	※%	※%
非常に満足した	31	77.5	81.5	94.7
満足した	5	12.5	13.2	
少し物足りなかった	2	5.0	5.3	5.3
物足りなかった	-	-	-	
参加しなかった	2	5.0		
合計	40	100.0	100.0	100.0

※%は「参加しなかった」を除いた場合

☆ 全体の満足度

	人数	%	※%	※%
非常に満足した	30	75.0	75.0	95.0
満足した	8	20.0	20.0	
少し物足りなかった	2	5.0	5.0	5.0
物足りなかった	-	-	-	
合計	40	100.0	100.0	100.0

☆ セミナー全体についての感想、要望

- ・ 少しでも将来についての不安が解消され有意義な2日間となりました。私は教育学部で就活とは少し違う方向に進みたいのでそういった教育だけの集まりがあったらいいなと思います。
- ・ 様々なことができ、濃い2日間でした。社会で活躍されている方の話をもっと聞きたいと思いました。こういう機会があればまた参加してみたいです。2日間とも東京で開催していただけたらもっと参加しやすいなと感じました。
- ・ 今までモヤモヤしていた自分の将来が少しわかった気がしました。私は人の話を聞いて参考にするよりは、自分の話を聞いてもらってアドバイスをいただけたので交流会はとても有意義でした。
- ・ スタッフの方々、パネリストの方々ともに常に暖かい雰囲気を出してくださって、意見も聞きやすいし、言いやすかった。参加者が全国から来ていて、学びも悩みも様々で刺激的であった。
- ・ キャリアについて悩んでいる子が多くて、明確にやりたいことが決まっている子が少なく驚きました。ぜひ、来年度も来て、考えたいと思います。人との出会いを大切に。今回のつながりをSNSでも続けていきます。ありがとうございました。勉強になりました。
- ・ 夕食の席やグループワークがランダムだったことで、1人で参加した身としては気楽に他学生と話せたと感じています。できれば帰りもバスがあると嬉しかったです。
- ・ 社会で活躍されている方や他大学生のお話を聞き、自分の価値観が変わりました。女性のライフイベントとキャリアの関係についても考えを深めていきたいと思いました。
- ・ 始めは自分の考えを深く掘り下げてきちんと向き合う時間になりたいと思っていました。学生の様々な経験や考え方を聞いたことで自分の考えを広げることができました。あっという間の2日間でした。楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 1日目東京、2日目NWECCで、アクセスが良くとても便利でした。全体での交流(アイスブレイク)のような時間がもう少しあればより深くまで話し合いができるのかなと思いました。
- ・ “1人で参加する方がほとんど”という言葉を見て、参加することを決意しました。集まった女子学生は、様々な活動をしていたり、多様な価値観を持っていて、身体中で刺激を受けました。この刺激が熱いうちに、就活にシフトします！就活で、働いて、辛くなったらこの2日間の事を思い出して気合を入れなおしたいです。

☆ 「OG企画委員」希望

希望：8名

☆ このセミナーを受講するにあたりどのプログラムに一番期待していましたか。
(複数回答可)

	人数
対談	14
パネルディスカッション	6
グループワーク	21
その他*	1

* ・人との交流

☆ 会場について(複数回答可)

	人数
2日間NWEC開催でもよい	13
初日は東京会場、2日目NWECがよい	8
どちらでもよい	12
その他*	1
無回答	1
合計	35

* ・集合場所は分かりやすく
・都内までの送迎を希望します
・初日アクセスがよかったので
・東京からバスがでるなら、そうでなければ
1日目は東京、2日目NWEC

☆ このセミナーを知ったきっかけ(複数回答)

	人数
チラシ・ポスター	20
会館ホームページ	1
facebook	1
大学の先生*1	6
大学の就職課支援課	1
過去の参加者	2
インターネット検索	-
情報誌	-
親から	1
その他*2	3

*1 流通経済大学 高橋伸子氏から3名
法政大学 衛藤幹子氏から1名
日本女子大学 西村一之氏から1名
早稲田大学 石崎氏から1名
*2 ・NWECからの郵送です。インターンの時です
・友達からの誘い
・NWECにインタビューに行ったときに紹介されて

平成28年度「女性関連施設相談員研修」実施要項

1. 趣 旨 女性関連施設の相談員を対象に、女性に対する暴力などの喫緊の課題解決を目指し、相談者への理解を深め、必要な知識・技能を習得するとともに、関係機関との連携促進を図るための研修を行います。複雑・多様化する男女の悩みに男女共同参画の視点から適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上を図るための専門的・実践的研修です。
2. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館
3. 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL 0493-62-6725
FAX 0493-62-6720
Eメールアドレス progdiv@nwec.jp
ホームページ URL <http://www.nwec.jp/>
4. 期 日 平成28年6月22日（水）～ 6月24日（金） 2泊3日
5. 参 加 者 公私立の女性会館・女性センター、男女共同参画センター等の女性関連施設において相談業務に携わっている相談員
6. 定 員 80名
7. 日 程（各プログラムの間に10～15分の休憩があります。）

6/22 (水)	12:30 13:15 13:30 15:15 16:55 17:30 18:30 20:00										
					受付	開会	講義		講義	討議	チェックイン
6/23 (木)	9:00	10:00	12:30		13:30	14:30	17:00			19:00	20:00
	情報提供	分科会1				事例報告	分科会2			オプション	
6/24 (金)	9:00	10:00	11:40 12:00								
	情報提供	講義	閉会								

8. 内 容

第1日 6月22日(水)

(1) 開会

13:15~13:30

- ① 主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長
- ② オリエンテーション 引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

(2) 講義「男女共同参画の視点に立った女性相談とは」

13:30~15:00

女性関連施設における相談業務の意義と役割について、女性が抱える問題の解決と女性のエンパワーメントの視点から学びます。

講 師 景山ゆみ子 前名古屋市男女平等参画推進センター
相談担当主幹

(3) 講義「女性相談の実態と支援に関する法知識」

15:15~16:45

実際によくある女性からの相談の事例などを交えながら、関係機関との連携の仕方や法的措置など、相談員として知っておくべき法知識を学びます。

講 師 白石美奈子 とらすと法律事務所弁護士
神奈川県弁護士会犯罪被害者支援委員会委員長

(4) グループ討議

16:55~17:30

参加者同士の自己紹介を行った後、研修に対するニーズや課題などについて、グループワークと討議を通じ、整理・共有します。

進 行 引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

(5) 情報交換会

18:30~20:00

相談業務における課題などの情報交換と参加者同士のネットワークづくりを行います。

第2日 6月23日(木)

(6) 情報提供「SNS利用トラブルの実情と防止策」

9:00~9:45

インターネットやソーシャルネットワーキングサービス（SNS）を介して起こりやすいトラブルとその防止策について学びます。

講 師 宮武 孝之 千葉県柏市教育委員会指導課生徒指導室室長

(7) 分科会1「課題別ケース検討」

10:00~12:30

課題を抱える当事者に対して実際にどのように支援をしていったらよいのか、課題別コースに分かれて、講義とワークショップで学びます。

A：人間関係に関する相談者への支援

夫婦、子ども等の家族、職場や男女間など、人との関係性を巡る相談者の課題をどのように捉えて支援につなげるかについて学びます。

講 師 田口 京子 ウィメンズカウンセリングいずみ代表

B：配偶者等からの暴力被害者への支援

配偶者等からの暴力被害について、相談受理から危機介入、自立支援に向けた実際の対応の留意点について学びます。

講 師 竹之下雅代 ウィメンズカウンセリング京都
フェミニストカウンセラー

C：DV被害を受けた母親と子どもへの支援

DV被害を受けた母親と同様、その子どもも生活上の困難を抱えます。地域の中での切れ目ない支援に向けたポイントについて探ります。

講 師 仲村 久代 認定NPO法人サバイバルネット・ライフ代表

(8) 事例報告「よりよい支援の提供に向けた支援者エンパワメント」

13:30～14:15

よりよい支援を行うためには、相談スキルの向上に加え、支援者自身のエンパワメントが重要です。支援者のバーンアウトを防ぐとともに、必要な支援を持続可能にするための組織運営や連携・協働の仕組づくりについて考えます。

講 師 米山麻以子 公益財団法人東京YWCA女性と少女の人権課

(9) 分科会2『相談』と『支援』のその先へつなぐ

14:30～17:00

相談業務のあり方や相談者のエンパワメントにつながる支援について、今直面している課題とその解決に向けた意見交換と共有を行い、今後の相談業務に役立つヒントを探ります。

A：男性向け相談

報告者 信政ちえ子 広島市男女共同参画推進センターゆいぽーと
センター長

B：デートDV防止教育出前講座—教育現場との連携—

報告者 熊谷 正子 長野県男女共同参画センターあいとぴあ主査

C：当事者・自助グループへの支援

報告者 三好 千秋 高松市男女共同参画センター相談員

●オプション・プログラム「タッピングタッチ体験会」(希望者のみ) 19:00～20:00

タッピングタッチは指先を使って軽く弾ませるように左右交互に優しくたたきながら、お互いに心地よさを楽しみます。日頃のストレス解消とともに、相談場面でも役立つリラックスとリフレッシュの方法を体験します。

講 師 田平 絵恵 タッピングタッチ認定インストラクター
臨床心理士
前森 庸子 タッピングタッチ認定インストラクター

第3日 6月24日（金）

(10) 情報提供「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」 9:00～9:20

女性情報ポータルWinet（ウィネット）と女性教育情報センターの紹介を通じ、相談事業に役立つ情報の活用について情報提供します。

説 明 細川 芽 国立女性教育会館情報課長

(11) 情報提供「ストーカー事案の概要と被害防止のポイント」 9:20～9:50

ストーカー事案の概要と被害防止のポイントについて情報を得ます。

講 師 加藤 邦明 埼玉県警察本部子ども女性安全対策課課長補佐

(12) 講義「トラウマ・ケア／PTSD予防における援助者支援

～心的外傷後成長（PTG）の視点より」 10:00～11:30

つらい出来事やストレスを経験後、より成長へと向かう「心的外傷後成長（Posttraumatic Growth：PTG）」に着目し、相談者・援助者双方の持つ困難を乗り越える力（レジリエンス）をどう高めるか、特に援助者自身に対する支援とメンタルケアを考えます。

講 師 井上 孝代 井上孝代マクロカウンセリングセンター（MCC）代表
明治学院大学名誉教授

(13) 閉会 11:40～12:00

① アンケート記入・振り返り

② 主催者あいさつ 櫻田今日子 国立女性教育会館事業課長

9. その他

(1) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報に使用することがあります。あらかじめご了承ください。

(2) 研修の一環として、研修終了6か月後を目途にフォローアップ調査を実施いたします。皆様の実際の職務に、研修成果がどのように役立てられているかを伺うものです。今後、当会館が実施する事業を充実させていくための参考にさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成28 年度「女性関連施設相談員研修」参加者概況

1. 性別

	合 計
女 性	105
男 性	—
合 計	105

2. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	5	—	5
30代	4	—	4
40代	29	—	29
50代	44	—	44
60代以上	23	—	23
合 計	105	—	105

3. 施設区分

	女 性	男 性	合 計
公設公営	76	—	76
公設民営	23	—	23
民設民営	3	—	3
その他	2	—	2
合 計	104	—	104

*無記名1名

4. オプションプログラム参加

	女 性	男 性	合 計
①情報交換会	84	—	84
②タッピングタッチ	66	—	66

5. 23日(木)分科会1

	女 性	男 性	合 計
A: 人間関係に関する相談者への支援	32	—	32
B 配偶者等からの暴力被害者への支援	48	—	48
C DV被害を受けた母親と子どもへの支援	25	—	25
不参加	—	—	—
合 計	105	—	105

6. 23日(木)分科会2

	女 性	男 性	合 計
A 男性向け相談	38	—	38
B デートDV防止教育出前講座	37	—	37
C 当事者・自助グループへの支援	30	—	30
不参加	—	—	—
合 計	105	—	105

7. 日にち別参加者

	22(水)	23(木)	24(金)
参加	101	105	103
不参加	4	—	2
計	105	105	105

8. 地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	12	—	12
関東	33	—	33
甲信越	8	—	8
北陸・東海	17	—	17
近畿	7	—	7
中国・四国	14	—	14
九州・沖縄	14	—	14
合 計	105	—	105

定員: 80

申込者数: 115

参加者数: 105

応募倍率: 143.8%

9. 都道府県別

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	—	—
	青森県	1	—
	岩手県	2	—
	宮城県	1	—
	秋田県	3	—
	山形県	1	—
	福島県	4	—
関東	茨城県	4	—
	栃木県	5	—
	群馬県	2	—
	埼玉県	8	—
	千葉県	5	—
	東京都	6	—
	神奈川県	3	—
甲信越	山梨県	1	—
	新潟県	3	—
	長野県	4	—
北陸・東海	富山県	2	—
	石川県	—	—
	福井県	3	—
	岐阜県	4	—
	静岡県	2	—
	愛知県	6	—
	三重県	—	—
近畿	滋賀県	—	—
	京都府	2	—
	大阪府	3	—
	兵庫県	1	—
	奈良県	—	—
	和歌山県	1	—
中国・四国	鳥取県	3	—
	島根県	—	—
	岡山県	2	—
	広島県	1	—
	山口県	2	—
	徳島県	1	—
	香川県	—	—
	愛媛県	2	—
	高知県	3	—
	福岡県	3	—
九州・沖縄	佐賀県	2	—
	長崎県	1	—
	熊本県	—	—
	大分県	3	—
	宮崎県	3	—
	鹿児島県	—	—
	沖縄県	2	—
合 計	105	—	105

10. 参加歴

初めて	1回	2回	3回以上
88	10	5	2

平成28年度「女性関連施設相談員研修」参加者アンケート 集計結果

参加者 105 名
回答者 100 名
回収率 95.2 %

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

1. 各プログラムについて

(1)講義「男女共同参画の視点に立った女性相談とは」 (2)講義「女性相談の実態と支援に関する法知識」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	47	47.0	49.5	97.9
有用	46	46.0	48.4	
あまり有用でない	2	2.0	2.1	2.1
有用でない	-	-	-	
不参加	4	4.0		
無回答	1	1.0		
合計	100	100.0	100.0	100.0

	人数	%	※%	※%
非常に有用	84	84.0	85.7	99.0
有用	13	13.0	13.3	
あまり有用でない	1	1.0	1.0	1.0
有用でない	-	-	-	
不参加	1	1.0		
無回答	1	1.0		
合計	100	100.0	100.0	100.0

(3)グループ討議

	人数	%	※%	※%
非常に有用	44	44.0	45.4	93.8
有用	47	47.0	48.5	
あまり有用でない	5	5.0	5.2	6.2
有用でない	1	1.0	1.0	
不参加	1	1.0		
無回答	2	2.0		
合計	100	100.0	100.0	100.0

(4)情報提供「SNS利用トラブルの実情と防止策」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	67	67.0	68.4	99.0
有用	30	30.0	30.6	
あまり有用でない	1	1.0	1.0	1.0
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	2	2.0		
合計	100	100.0	100.0	100.0

(5)分科会1「当事者の課題別ケース検討」

A: 人間関係に関する相談者への支援

	人数	%	※%	※%
非常に有用	19	65.5	65.6	96.6
有用	9	31.0	31.0	
あまり有用でない	1	3.4	3.4	3.4
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	29	100.0	100.0	100.0

B: 配偶者等からの暴力被害者への支援

	人数	%	※%	※%
非常に有用	35	77.8	77.8	100.0
有用	10	22.2	22.2	
あまり有用でない	-	-	-	
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	45	100.0	100.0	100.0

C: DV被害を受けた母親と子どもへの支援

	人数	%	※%	※%
非常に有用	18	75.0	75.0	100.0
有用	6	25.0	25.0	
あまり有用でない	-	-	-	
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	24	100.0	100.0	100.0

(6)事例報告「よりよい支援の提供に向けた支援者エンパワメント」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	38	38.0	37.9	93.7
有用	53	53.0	55.8	
あまり有用でない	5	5.0	5.3	6.3
有用でない	1	1.0	1.1	
不参加	-	-		
無回答	5	5.0		
合計	100	100.0	100.0	100.0

(7)分科会2「『相談』と『支援』のその先へつなぐ」

A: 男性向け相談

	人数	%	※%	※%
非常に有用	18	52.9	52.9	85.3
有用	11	32.4	32.4	
あまり有用でない	4	11.8	11.8	14.7
有用でない	1	2.9	2.9	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	34	100.0	100.0	100.0

B: デートDV防止教育出前講座-教育現場との連携-

	人数	%	※%	※%
非常に有用	15	42.9	44.1	94.1
有用	17	48.6	50.0	
あまり有用でない	2	5.7	5.9	5.9
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	1	2.9		
合計	35	100.0	100.0	100.0

C: 当事者・自助グループへの支援

	人数	%	※%	※%
非常に有用	14	46.7	46.7	90.0
有用	13	43.3	43.3	
あまり有用でない	3	10.0	10.0	10.0
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	30	100.0	100.0	100.0

(8)タッピングタッチ体験会(希望者のみ)

	人数	%	※%	※%
非常に有用	42	42.0	67.7	100.0
有用	20	20.0	32.3	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	
不参加	29	29.0		
無回答	9	9.0		
合計	100	100.0	100.0	100.0

(9)情報提供「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	32	32.0	34.4	96.8
有用	58	58.0	62.4	
あまり有用でない	3	3.0	3.2	3.2
有用でない	-	-	-	
不参加	1	1.0		
無回答	6	6.0		
合計	100	100.0	100.0	100.0

(10)情報提供「ストーリー事例の概要と被害防止のポイント」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	45	45.0	47.9	95.8
有用	45	45.0	47.9	
あまり有用でない	4	4.0	4.2	4.2
有用でない	-	-	-	
不参加	1	1.0		
無回答	5	5.0		
合計	100	100.0	100.0	100.0

(11)講義「トラウマ・ケア／PTSD予防における援助者支援-心的外傷後成長(PTG)の視点より」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	61	61.0	66.3	95.6
有用	27	27.0	29.3	
あまり有用でない	2	2.0	2.2	4.4
有用でない	2	2.0	2.2	
不参加	1	1.0		
無回答	7	7.0		
合計	100	100.0	100.0	100.0

2. 研修全体について

(1)満足度

	人数	%	※%	※%
非常に満足	59	59.0	64.1	100.0
満足	33	33.0	35.9	
少し物足りない	-	-	-	-
物足りない	-	-	-	
無回答	8	8.0		
合計	100	100.0	100.0	100.0

<意見・感想等>

「非常に満足」の理由

- ・ どの研修も内容の濃いものだった。分科会は、他にも参加したいテーマがあった。宿泊を伴った研修で、日常の業務から離れ、集中できた点も良かった。
- ・ 4月から相談業務に携わり、様々な相談の対応に苦慮している。講義や情報提供の話を聴く中で支援のあり方を学ぶことができた。各地域の相談担当者との情報交換もありがたかった。
- ・ 想像以上の研修内容の充実度。何より他県との交流はここでしか得られないものである。
- ・ プログラムデザインに仕組まれている、目的をどう今後活かすかなど、必ず実のある内容が厳選されている。職員の皆様の熱意にも感銘を受けた。相談員どうし、他では言えない職場の力関係や悩みまで語り合え、とてもありがたかった。この研修自体がバーンアウトを防ぐ大きな力になる。
- ・ 講義の内容が常に悩みながら行っている支援内容に合ったものでとても勉強になった(法知識SNS利用トラブルなど)。実践を深めていきたい。

「満足」の理由

- ・他機関の相談のあり方や様子を知ることができて大変参考になった。相談員として活動し始めて間がないので、すべての講義に興味深く受講することができた。
- ・同じ課題、同じ悩みを抱える方々と一緒に考えたり、お話をさせていただき、改めて気づきや発見があった。
- ・講義だけではなく、グループ討議や各分科会に分かれてのディスカッション等のプログラムが工夫されて組み立てられており、実践的な研修だった。
- ・初めての参加でしたが、わかりやすい研修内容でした。職場の他の相談員へ参加をすすめたい。

(2)有用度

	人数	%	※%	※%
非常に有用	69	69.0	70.4	100.0
有用	29	29.0	29.6	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	2	2.0	-	-
合計	100	100.0	100.0	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

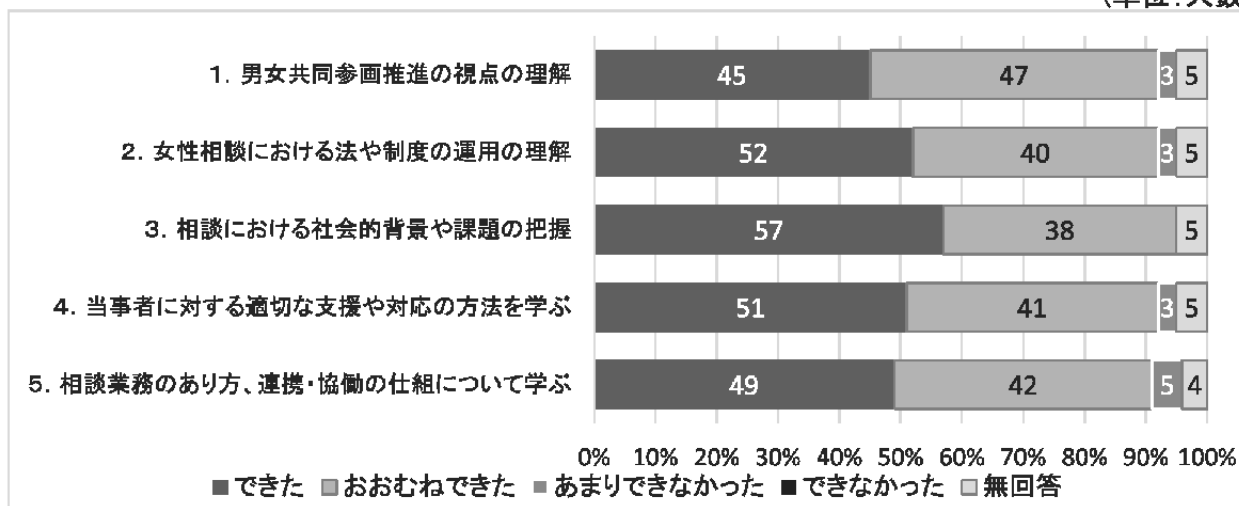
- ・この機会でないとは出会えない他県の方たちともいろいろな情報を交換し合うことができた。県境を越えた「つながり」を実感できた。
- ・①内容が実践的。知識や相談援助技術についていずれも業務に活かせる。
②資料が充実。所属で参加しなかった方にも伝えやすい。
③ネットワークを張ろうと話そう、相談員の置かれている環境や人間関係など大変さが分かった。バーンアウトを防ぐためにもよかったという声を複数耳にした。
- ・3日間泊まり込みでできる研修はなかなかないのでとても貴重だと思う。同じ相談業務に携わっている相談員の皆さんのお話もたくさん伺うことができ、とても充実した研修だった。

「有用であった」理由

- ・情報化の進展、DV関連法の改正等で、最新の情報にアップデートできたのは有用だった。
- ・私の職場は、相談員たちが働きにくいと思っている。そのことを相談員以外の職員や上司に理解してもらえない状況なので、研修内容を報告することで、少しでも意識に変化を与えることができそうと思った。上司が読みたくくなるような報告書をつくりたいと思った。
- ・職場を離れて、集中的に研修を受けることで、日々の相談活動の振り返りができた。

3. 研修の達成度について

(単位:人数)



平成28年度「女性関連施設相談員研修」フォローアップ調査集計結果

●回答者について

参加者数:105名

フォローアップ対象者数:105名

有効回答数:98名

回収率:93.3%

1 研修の成果はあなたの仕事や活動に役立ちましたか

	件数	%
a. 非常に役立った	58	59.2
b. 役立った	39	39.8
c. あまり役立たなかった	1	1.0
d. 役立たなかった	-	-
合計	98	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
97	99.0

2 研修の成果を普及・活用した方法について(複数回答)

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (98名中)	件数	% (58名中)	件数	% (39名中)
研修内容の報告・説明	92	93.9	56	96.6	35	89.7
各種広報資料への執筆・公表	-	-	-	-	-	-
研修資料を活用した勉強会・研修会の開催	12	12.2	9	15.5	3	7.7
所属組織・団体の体制づくり・整備への提言	10	10.2	8	13.8	2	5.1
来年度事業・予算への反映	7	7.1	4	6.9	3	7.7
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	11	11.2	7	12.1	4	10.3
ネットワーク構築に向けた働きかけ	4	4.1	4	6.9	-	-
特に普及・活用していない	4	4.1	4	6.9	-	-

(表中のa、bは、設問1におけるプラス回答者の件数)

平成28年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」実施要項

1. 趣 旨

テーマ：「経営戦略としてのダイバーシティ&インクルージョン」

大学等の高等教育機関が、優秀な人材を獲得し、その研究力・教育力を高めていくためには、育児中の女性や介護を抱える男性などをはじめとして、多様な人材が活躍できる自由闊達な職場の雰囲気をつくり、新しい発想やアイデアが生まれる風土を形成していくことが必要である。そのために必要な「ダイバーシティ&インクルージョン」の視点を学ぶことをねらいとする。

本セミナーでは、高等教育機関が進むべき方向についての基調鼎談やパネル・ディスカッション、これまで各大学が取り組んできた女性活躍推進についての具体的な好事例の紹介や、これからの男女共同参画推進をとりまく状況についての豊富なデータ分析を通じ、学内で男女共同参画に携わる教職員を対象として、専門的、実践的な研修を行う。

2. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館

3. 後 援 一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、
日本私立大学団体連合会、全国公立短期大学協会、
日本私立短期大学協会、独立行政法人国立高等専門学校機構

4. 会 場 1日目：放送大学東京文京学習センター
〒112-0012 東京都文京区大塚3丁目29-1
2日目：国立女性教育会館（NWE C）
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

5. 期 日 平成28年11月29日（火）～11月30日（水） 1泊2日

6. 参 加 者 大学・短期大学・高等専門学校の男女共同参画に携わる教職員及び女性の採用、就労、入学、キャリア教育、就職に関わる総務・人事・入試・就職部門の教職員

7. 日 程 (各プログラムの間に 10～15 分の休憩あり)

11/29 (火) 東京 会場	13:00 13:15 13:30 15:30 16:45 17:30 18:45 20:15									
		受 付	開 会	基調鼎談	パネル・ ディスカッション	情報 提供	夕食 情報 交換会	バスで 移動	宿 泊	
11/30 (水) 国立 女性 教育 会館	9:00 9:50	11:30 12:45		14:40	15:00					
	特別 講義	分科会 前半	昼 食	分科会 後半	全体 会	閉 会				

8. 内 容

第1日 11月29日(火)

【東京茗荷谷会場：放送大学東京文京学習センター】

(1) 開会 13:15～13:30

①主催者あいさつ 国立女性教育会館理事長 内海 房子

②プログラムの趣旨説明

(2) 基調鼎談「経営戦略としてのダイバーシティ&インクルージョン」

13:30～15:15

長らく、高等教育機関で男女共同参画やジェンダーの研究に携わっている3名の専門家にご登壇いただき、研究と教育という大学の使命を踏まえ、学内全体への男女共同参画意識の浸透や推進体制を構築することの必要性についてお話しいただくとともに、高等教育機関の経営戦略の課題と解決策を「ダイバーシティ&インクルージョン」から考察する。

講師：井野瀬久美恵

脇坂 明

進行：東村 博子

甲南大学文学部教授 日本学術会議副会長

学習院大学経済学部教授

名古屋大学大学院生命農学研究科教授

名古屋大学副理事 名古屋大学男女共同参画室長

(3) パネル・ディスカッション「女性も活躍できる職場風土を考える」

15:30～16:45

昨年10月に発表された英国教育専門誌「タイムズハイヤー・エデュケーション(THE)」の世界大学ランキングでは、日本の大学の国際的評価の低下がみられるなど、我が国の高等教育機関の経営は厳しい状況に直面している。今後、海外の諸大学と肩を並べつつ、特色ある研究・教育を展開していくためには、より多くの優秀な教職員を獲得することが喫緊の課題である。ここでは、管理職あるいはその候補者である女性職員4名にご登壇いただき、職場の現状と課題も踏まえ女性が活躍できる職場の風土づくりについて、本音とリアルを会場の参加者と共有する。

パネリスト：中野 浩子 東京大学工学系・情報理工学系等国際推進課長
 腰越 朋子 聖心女子大学教務課長
 面川 弥生 東京工業高等専門学校総務課総務係長
 コーディネーター：矢野 由美 立教女学院法人事務局長

- (4) 情報提供「企業主導型保育事業について」 16:45～17:15
 待機児童対策として内閣府が緊急に対策を講じる「企業主導型保育事業」について紹介するとともに、大学等がこの制度をどのように活用できるか、学内で保育環境を整備する一つの策として具体的に解説する。
 講師：内閣府子ども子育て本部担当者

- (5) 夕食・情報交換会 17:30～18:30
 参加者それぞれが抱える課題の共有とネットワークづくりの場。立食形式。
 (参加費3,500円、於：放送大学内)

☆国立女性教育会館へバスで移動(約90分)

※20:15頃到着予定 以降 自由時間 宿泊

第2日 11月30日(水)

【埼玉武蔵嵐山会場：国立女性教育会館】

- (6) 特別講義「ジェンダーに敏感な視座に立ったキャリア支援の必要性」 9:00～9:40
 男女共同参画は、女性だけを対象にしたものではなく、男性の働き方や男子学生のキャリアプランニングを考える際にも必要な視点である。教育機関としての組織のあり方や学生のキャリア支援を考えるうえで踏まえるべき知見としてのジェンダーの視点について学ぶ。
 講師：伊藤 公雄 京都大学大学院文学研究科教授

- (7) 分科会前半 9:50～11:30
 大学における男女共同参画推進の主要な課題について、事例報告をもとにディスカッションを行い、明日からの具体的な取組につながる知見を培う。前半は、各高等教育機関等の事例報告を聞き、課題をグループ内で共有する。

<分科会I>「大学等における働き方改革」

学内全体で、ワーク・ライフ・バランスの取れた労働環境づくりに取り組むためには、女性だけでなく男性も、育児だけでなく介護も、と支援の対象を拡げていく必要がある。分科会1では、国立大学と私立大学の取組事例をもとに、ダイバーシティ促進の上でも不可欠な研究や仕事と育児・介護といったライフイベントとの両立をめざした環境づくりについて考える。

事例①報告者：堀 久美 岩手大学男女共同参画推進室 准教授
 事例②報告者：伊東 昌子 長崎大学副学長 ダイバーシティ推進センター長
 事例③報告者：浜本 牧子 明治大学副学長 男女共同参画推進センター長

コーディネーター：伊達 紫

宮崎大学理事・副学長

宮崎大学清花アテナ男女共同参画推進室長

<分科会Ⅱ>「出口戦略としてのキャリア支援」

数年来大学のキャリア支援は定着し、発展しつつある。特に女子学生は、就職に効果的なキャリア支援プログラムがある大学を求めている。

分科会2では、国立女性教育会館の女子大学生に対する取組や、企業の女性社員獲得への努力、高専の女子学生へのキャリア支援の事例から現在の学生をとりまく状況や直面する課題について共有する。就職だけではなく、その後のキャリアを形成するために、高等教育機関は、学生をどう育て、どのように社会へ送り出すべきかを考え、今後のキャリア教育・キャリア形成支援をいかに行うべきかについて考察する。

事例①「女子大学生キャリア形成セミナーについて」

報告者：佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

事例②「女性が活躍する会社は、好い会社」

報告者：松橋 卓司 株式会社メトロール代表取締役社長

事例③「内的キャリアを重視した自律型キャリア教育と支援のあり方」

報告者：中谷 敬子 大阪府立大学工業高等専門学校准教授

コーディネーター：佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

☆昼食<レストランらんにて>

11:30～12:30

(8) 分科会後半

12:45～14:30

後半は、前半共有した課題の解決策をグループ内で探り、全体で考察する。

(9) 全体会

14:40～14:55

各分科会の報告と考察により、参加者の情報共有を行う。

報告者：伊達 紫 (分科会Ⅰ)

佐伯加寿美 (分科会Ⅱ)

進行： 小井川 聡 国立女性教育会館事業課専門職員

(10) アンケート記入・閉会

14:55～15:00

9. その他

期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

「大学等における男女共同参画推進セミナー」は、外務省主催国際女性会議「WAW! 2016」のシャインウィークス公式サイドイベントとして登録しています。



平成28年度 大学等における男女共同参画推進セミナー
参加者概況

1. 性別

	合 計
女 性	66
男 性	18
合 計	84

定員 80 名
申込者 94 名
※内キャンセル 10 名
参加者 84 名
応募倍率 117.5 %

2. 参加日別

	女 性	男 性	合 計
29日参加	62	15	77
30日参加	35	14	49
合 計	97	29	126

3. 分科会（30日参加者 49 名）

	女 性	男 性	合 計
<分科会Ⅰ>「大学等における働き方改革」	26	7	33
<分科会Ⅱ>「出口戦略としてのキャリア支援」	10	6	16
合 計	36	13	49

※所属別

	合 計
国公立大学	45
私立大学	13
高専(国公私立)	12
その他	14
合 計	84

※職種別

	合 計
教員系	22
職員系	41
その他	21
合計	84

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	9	3	12
関東	33	11	44
甲信越	1	—	1
北陸・東海	7	1	8
近畿	4	—	4
中国・四国	5	2	7
九州・沖縄	7	1	8
合 計	66	18	84

4. 都道府県別

		女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	4	—	4
	青森県	—	2	2
	岩手県	1	1	2
	宮城県	2	—	2
	秋田県	—	—	—
	山形県	1	—	1
	福島県	1	—	1
関東	茨城県	1	—	1
	栃木県	—	—	—
	群馬県	2	—	2
	埼玉県	3	1	4
	千葉県	2	—	2
	東京都	24	10	34
	神奈川県	1	—	1
甲信越	山梨県	1	—	1
	新潟県	—	—	—
	長野県	—	—	—
北陸・東海	富山県	1	1	2
	石川県	—	—	—
	福井県	—	—	—
	岐阜県	1	—	1
	静岡県	3	—	3
	愛知県	1	—	1
	三重県	1	—	1
近畿	滋賀県	—	—	—
	京都府	3	—	3
	大阪府	—	—	—
	兵庫県	1	—	1
	奈良県	—	—	—
	和歌山県	—	—	—
中国・四国	鳥取県	—	—	—
	島根県	—	—	—
	岡山県	1	—	1
	広島県	—	1	1
	山口県	1	—	1
	徳島県	2	—	2
	香川県	1	—	1
	愛媛県	—	1	1
	高知県	—	—	—
九州・沖縄	福岡県	3	—	3
	佐賀県	—	—	—
	長崎県	2	—	2
	熊本県	—	—	—
	大分県	—	—	—
	宮崎県	1	—	1
	鹿児島県	1	—	1
	沖縄県	—	1	1
合計		66	18	84

平成28年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」 参加者アンケート集計結果

参加者 84 名
回答者 68 件
回収率 81.0 %

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

1. 各プログラムについて

(1)1日目プログラム(回答者68名中参加者61名)

・基調鼎談「経営戦略としてのダイバーシティ&インクルージョン」

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に有用	35	72.9	6	50.0	1	100.0	42	68.9	68.9	100.0
有用	13	27.1	6	50.0	-	-	19	31.1	31.1	
あまり有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-		
合計	48	100.0	12	100.0	1	100.0	61	100.0	100.0	100.0

・パネル・ディスカッション「女性も活躍できる職場風土を考える」

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に有用	22	45.8	3	25.0	1	100.0	26	42.6	44.1	91.5
有用	22	45.8	6	50.0	-	-	28	45.9	47.4	
あまり有用でない	2	4.2	3	25.0	-	-	5	8.2	8.5	8.5
有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	2	4.2	-	-	-	-	2	3.3		
合計	48	100.0	12	100.0	1	100.0	61	100.0	100.0	100.0

・情報提供「企業主導型保育事業について」

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に有用	8	16.7	2	16.7	1	100.0	11	18.0	20.8	79.2
有用	23	47.9	8	66.7	-	-	31	50.9	58.4	
あまり有用でない	10	20.8	1	8.3	-	-	11	18.0	20.8	20.8
有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	2	-	-	-	-	-	2	3.3		
無回答	5	-	1	8.3	-	-	6	9.8		
合計	48	100.0	12	100.0	1	100.0	61	100.0	100.0	100.0

・情報交換会

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に有用	15	31.3	4	33.3	1	100.0	20	32.8	48.8	100.0
有用	15	31.3	6	50.0	-	-	21	34.4	51.2	
あまり有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	6	12.5	-	-	-	-	6	9.8		
無回答	12	24.9	2	16.7	-	-	14	23.0		
合計	48	100.0	12	100.0	1	100.0	61	100.0	100.0	100.0

(2) 2日目プログラム(回答者68名中参加者47名)

・特別講義「ジェンダーに敏感な視座に立ったキャリア支援の必要性」

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に有用	20	60.6	6	46.2	-	-	26	55.4	60.5	97.7
有用	10	30.3	6	46.2	-	-	16	34.0	37.2	
あまり有用でない	-	-	1	7.6	-	-	1	2.1	2.3	2.3
有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不参加	1	3.0	-	-	-	-	1	2.1		
無回答	2	6.1	-	-	1	100.0	3	6.4		
合計	33	100.0	13	100.0	1	100.0	47	100.0	100.0	100.0

・分科会Ⅰ「大学等における働き方改革」(回答者31名)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に有用	14	60.9	4	57.1	1	100.0	19	61.2	65.5	100.0
有用	7	30.4	3	42.9	-	-	10	32.3	34.5	
あまり有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	2	8.7	-	-	-	-	2	6.5		
合計	23	100.0	7	100.0	1	100.0	31	100.0	100.0	100.0

・分科会Ⅱ「出口戦略としてのキャリア支援」(回答者16名)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に有用	9	90.0	5	83.3	-	-	14	87.5	87.5	100.0
有用	1	10.0	1	16.7	-	-	2	12.5	12.5	
あまり有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-		
合計	10	100.0	6	100.0	-	-	16	100.0	100.0	100.0

・全体会

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に有用	14	42.5	5	38.5	-	-	19	40.5	54.3	100.0
有用	11	33.3	5	38.5	-	-	16	34.0	45.7	
あまり有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不参加	-	-	1	7.7	-	-	1	2.1		
無回答	8	24.2	2	15.3	1	100.0	11	23.4		
合計	33	100.0	13	100.0	1	100.0	47	100.0	100.0	100.0

2. プログラム全体について

(1) 満足度

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に満足	25	47.1	7	50.0	-	-	32	47.0	56.1	100.0
満足	18	34.0	7	50.0	-	-	25	36.8	43.9	
あまり満足でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
満足でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	10	18.9	-	-	1	100.0	11	16.2		
合計	53	100.0	14	100.0	3	100.0	68	100.0	100.0	100.0

<主な意見・感想等>

「非常に満足」の理由

- ・全国から男女共同参画担当者が集まり、意見や情報交換できる機会であり、今後の事業展開の方向性を考えていく上でヒントになるお話をたくさんいただいた。
- ・本学の取り組みを客観的に再評価することができた。
- ・とても充実した内容だった。毎年内容を精査して取り組まれているところがすばらしい。大学を支える職員も参加を今後も増やしてほしい。
- ・日本全体の課題ではあるが、自分なりにできることから始めていこうという気になった。いろいろな方とのつながりができたのが財産である。
- ・基調鼎談が興味深く聞け(進行がとてもよかった)情報、考え方を得ることができた。グループワークでは様々な話も聞け参考になった。

「満足」の理由

- ・男性女性ということを見ず、今後働いていく上でのヒントになることを学ぶことができた。ダイバーシティということを考えた時に女性の働きやすさということは現状課題があると思うが、このような取組を通じて誰もが互いに働きやすい環境作りをしていけたらと思う。
- ・パネルディスカッションのように現実に直面した企画が有益だと思った。
- ・男女共同参画室等に所属している教員の方々が多かったと思うが、事務職員の方も参加していたのでよかった。

(2)有用度

・1日目全体を通して(1日目参加者61名)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に有用	15	31.3	2	16.7	1	100.0	18	29.5	50.0	100.0
有用	12	25.0	6	50.0	-	-	18	29.5	50.0	
あまり有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	21	43.7	4	33.3	-	-	25	41.0		
合計	48	100.0	14	100.0	1	100.0	61	100.0	100.0	100.0

・2日間全体を通して(2日間参加47名)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%	※%
非常に有用	17	51.5	4	30.8	1	100.0	22	46.8	64.7	100.0
有用	7	21.2	5	38.4	-	-	12	25.5	35.3	
あまり有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	9	27.3	4	30.8	-	-	13	27.7		
合計	33	100.0	13	100.0	1	100.0	47	100.0	100.0	100.0

平成28年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」モニター調査集計結果

●回答者について

参加者数: 84名

モニター調査数: 9名

回答数: 9名

1 本セミナーはあなたの仕事に役立ちましたか

	件数	%
a. 非常に役立った	4	44.4
b. 役立った	5	55.6
c. あまり役立たなかった	—	—
d. 役立たなかった	—	—
合計	9	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
9	100.0

2 「非常に役立った」「役だった」に回答した方はそのように役立ちましたか(複数回答)

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (9名中)	件数	% (4名中)	件数	% (5名中)
研修内容の報告・説明	8	88.9	4	100.0	4	80.0
各種広報資料への執筆・公表	—	—	—	—	—	—
研修資料を活用した勉強会・研修会の開催	2	22.2	2	50.0	—	—
所属組織のシステム・制度整備への提言	5	55.6	4	100.0	1	20.0
来年度事業・予算への反映	—	—	—	—	—	—
ネットワーク構築に向けた働きかけ	5	55.6	4	100.0	1	20.0
自らの行動指針への影響	5	55.6	3	75.0	2	40.0
特に普及・活用していない	—	—	—	—	—	—

(表中のa、bは、設問1におけるプラス回答者の件数)

「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」結果 ～パネル調査による入社 1 年目と 2 年目の比較～

独立行政法人国立女性教育会館

【お問い合わせ】

独立行政法人国立女性教育会館 研究国際室
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
電話 0493 (62) 6437
FAX 0493 (62) 9034
担当：島 直子 (shima@nwec.jp)

1. 入社 2 年目調査の概要

1-1. 調査目的

新規学卒者が直面する職場環境は、その後の男女のキャリア形成やライフスタイルを左右する。また女性のキャリア意識を高め活躍を促進するためには、出産・育児による制約を受ける前の 20 代に、成長を先取りさせる必要があるとされる。そして人々の「成長」や「変化」を精緻に検証するには、同一個人を追跡するパネル調査の実施が求められる。そこで独立行政法人国立女性教育会館では、平成 27 年に民間企業の正規職についた新入社員（大学・大学院卒）を 5 年間追跡するパネル調査を開始し、昨年 10 月に第二回目（入社 2 年目）の調査を実施した。

※パネル調査の利点：「同一個人」に「同一質問」を繰り返し尋ねるため、人々がおかれている環境や意識などの「変化」と「変化の要因」について、より精緻な検証が可能。

1-2. 調査内容

現在の就業状況、今後の希望・見通し、ライフプランなどに関する意識調査

1-3. 調査要領

①調査対象：調査協力企業 17 社に、平成 27 年に入社した新規学卒者（大学・大学院卒）2137 人（女性 836 人、男性 1301 人）のうち、第二回調査時点での退職者などを除く 1931 人（女性 753 人、男性 1178 人）。

企業 17 社は、正社員が 3000 人以上（10 社）、1000 人以上 2999 人以下（4 社）、800 人以上 999 人以下（3 社）の大企業で、金融業 1 社、建設業 1 社、コンサルタント業 1 社、サービス業 7 社、商社・卸業 1 社、通信・ソフト業 2 社、製造業 4 社（本社は、東京 15 社、埼玉 1 社、大阪 1 社）。

②調査方法：WEB アンケート調査

③回答数：979 人（回答率 50.7%）、うち有効回答数 975 人

④有効回答者の内訳：女性 393 人（40.3%）、男性 582 人（59.7%）

⑤調査実施期間：平成 28 年 10 月 3 日～平成 28 年 10 月 22 日

2. 調査結果の公開

「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」（第一回調査・第二回調査）の報告書は、下記 URL よりダウンロード可能 <https://www.nwec.jp/about/publish/2016/index.html>

3. 調査研究の実施体制

外部有識者及び国立女性教育会館研究国際室メンバーからなる「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究」検討委員会を組織し、調査研究を実施した。

＜外部有識者＞（五十音順、敬称略）

安齋 徹（群馬県立女子大学教授）
大槻 奈巳（聖心女子大学教授）
大山 瑞江（日本経済団体連合会政治・社会本部主幹）
高見 具広（労働政策研究・研修機構研究員）
永井 暁子（日本女子大学准教授）

＜国立女性教育会館＞

中野 洋恵（国立女性教育会館研究国際室長）
島 直子（国立女性教育会館研究国際室研究員）
渡辺 美穂（国立女性教育会館研究国際室研究員）（肩書きは平成29年3月31日現在）

4. 入社1年目調査と入社2年目調査の比較（概要）

パネル調査の利点（＝「変化」と「変化の要因」について、より精緻な検証が可能）をふまえて、入社1年目・入社2年目（第一回・第二回）の両調査に回答した女性305人、男性440人を対象に、入社1年目から2年目にかけて生じた変化と、その男女差について分析した。

4－1. 仕事／プライベートの満足度：2年目になると、仕事は男性の方が、プライベートは女性の方が満足

仕事満足度は、2年目になると男性の方が高い。一方、プライベート（趣味や友人関係など）満足度は、2年目になると女性の方が高い（図3・図4）。

4－2. 職場環境の評価：男女とも、2年目になると低下。男女差もなし。

「待遇」「教育・訓練機会の充実」「相談相手」「上司の熱意」に対する評価は、男女とも2年目に下がる。1年目・2年目とも、評価に男女差なし（図5～図8）。

4－3. ビジネススキルの自己評価：おおむね男性の方が高い

「思考力」「リーダーシップ」の自己評価は、1年目から男性の方が高い。「プレゼンテーション」の自己評価は、2年目になると男性の方が高く、男性のみ2年目に上昇する。自己評価に男女差がないのは、「担当業務の知識・技能」（図9～図12）。

4－4. 管理職志向：女性は1年目から低い。2年目に管理職志向を失う傾向も顕著

1年目・2年目ともに管理職を志向する女性は、4割強（男性は8割強）。2年目に管理職志向を失う女性が、2割（男性は1割）。女性は「総合職・転勤なし」「総合職以外・転勤なし」で、男性は「仕事のやりがい」が大きく低下すると、管理職志向を失う傾向（図13・図14・図16）。

4－5. ワーク・ライフ・バランス：男女とも「仕事以外の時間も大切にしている」が低下し、残業増加

「仕事以外の時間も大切にしている」が「あてはまる」は、男女とも1割減。残業頻度が「ほぼ毎日」は女性1割増、男性2割増。「ほとんどない」は男女とも2割減（図17・図18）。

4－6. 結婚・出産と仕事：男女とも、育児期のワーク・ライフ・バランス重視。結婚・出産後も今の会社で「続けたい」は1割減

「就学前の子どもがいるとき」の理想の働き方は、男女とも1年目・2年目で変化ない。女性は5割弱が「短時間勤務」、男性は4割強が「時間の融通がきくフルタイム」を希望。結婚したり子どもが生まれたとしても、今の会社で働き「続けたい」は、男女とも1割減（図20・図21）。

5. 入社1年目調査と入社2年目調査の比較（詳細）

※第一回／第二回の両調査に回答した女性 305 人、男性 440 人を対象として、「1 年目から 2 年目の変化」を検証

5-1. 仕事／プライベートの満足度

○「1 年目・仕事に満足」→ 2 年目も「満足している」は、男性の方が多い

- ▶ 1 年目の仕事満足度は、男女差なし（図 1）※統計的に有意でない -----
- ▶ 「1 年目は満足」（＝満足している＋やや満足している）グループにおける「2 年目の満足度」は、男性の方が高い。2 年目「満足している」は、女性 12.5%に対し男性 21.2%※統計的に有意（図 2）——
- ▶ 「1 年目は不満」（＝やや不満である＋不満である）グループにおける「2 年目の満足度」は男女差なし（図略）

図 1. 1 年目の仕事満足度

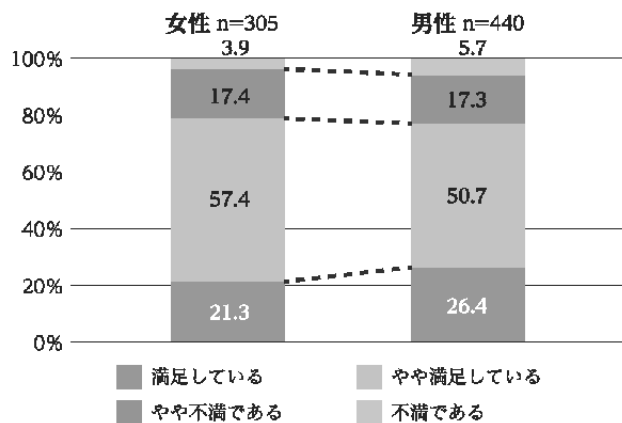
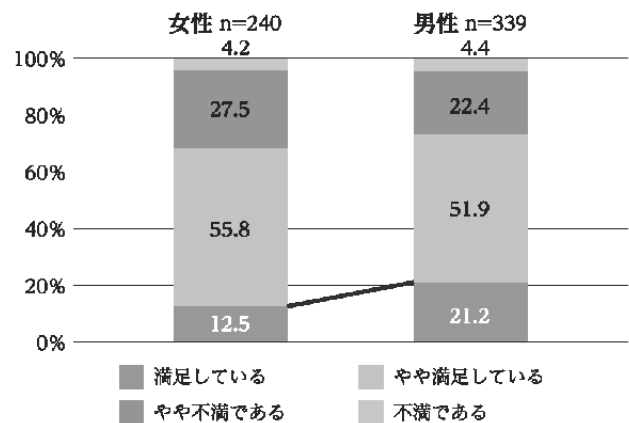


図 2. 2 年目の仕事満足度 (1 年目「満足」グループ)



○男女ともに仕事満足度は低下するが、2 年目の仕事満足度は男性の方が高い

平均点でみても
2 年目に男女差

「仕事」満足度の平均点（図 3）

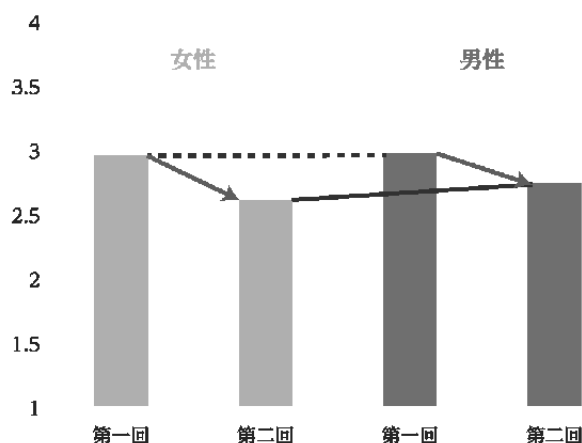
- ▶ 1 年目は男女差がない-----が、2 年目になると男性の方が高い
- ※統計的に有意 ——
- ▶ 男女ともに、2 年目に下がる →

○男性はプライベート満足度が低下し、2 年目のプライベート満足度は、女性の方が高い

「趣味や友人関係など」満足度の平均点（図 4）

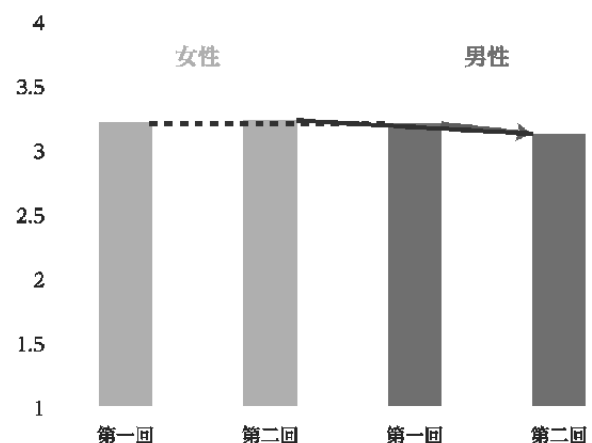
- ▶ 1 年目は男女差がない-----が、2 年目になると女性の方が高い
- ※統計的に有意 ——
- ▶ 男性のみ、2 年目に下がる
- ※統計的に有意 →

図 3. 仕事満足度



※満足している＝4 点、やや満足している＝3 点、やや不満である＝2 点、不満である＝1 点として、平均点を算出

図 4. 趣味・友人関係などの満足度



5-2. 職場環境の評価

○男女ともに、職場環境の評価は低下。1年目・2年目とも、評価に男女差なし

「待遇」(図5)、「教育・訓練機会の充実」(図6)、「相談相手」(図7)、「上司の熱意」(図8)に対する評価(平均点)は

- ▶男女ともに2年目に下がる (図5は、「待遇が釣り合わない」ほど高得点)
- ▶1年目・2年目各時点で男女差はない※統計的に有意でない -----

図5. 現在の仕事内容と待遇が釣り合わない

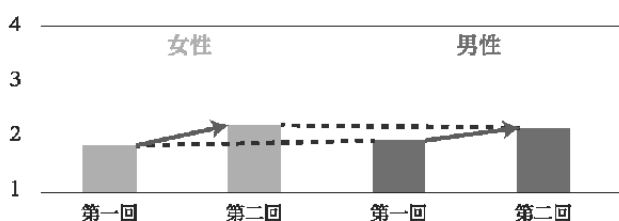


図6. 職場では、仕事に必要な教育・訓練の機会が充実している

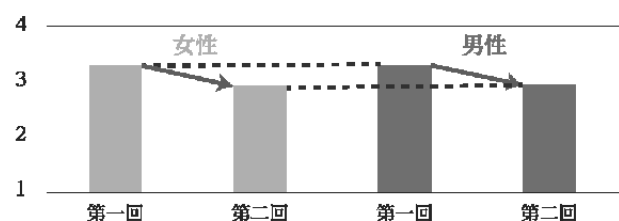


図7. 仕事について不安や悩みなどがあつたら、相談できる同僚・仲間が職場にいる

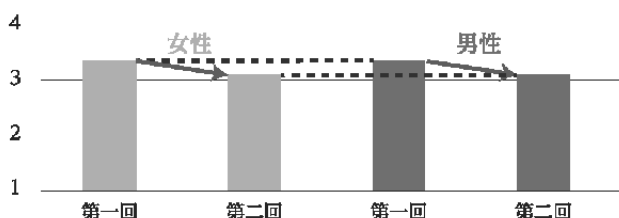
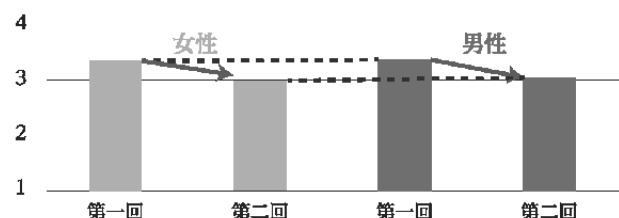


図8. 上司はあなたの育成に熱心である



※あてはまる=4点、どちらかというあてはまる=3点、どちらかというあてはまらない=2点、あてはまらない=1点として、平均点を算出

5-3. ビジネススキルの自己評価

ビジネススキル	男女差	2年目の変化
思考力 (図9)	1・2年目とも、男性の方が高い	男女ともに、上がらない ※統計的に有意でない -----▶
リーダーシップ (図10)	1・2年目とも、男性の方が高い	男女ともに、上がらない ※統計的に有意でない -----▶
プレゼンテーション (図11)	2年目のみ、男性の方が高い	男性は、2年目に上がる ※統計的に有意 -----▶
担当業務の知識・技能 (図12)	1・2年目とも、男女差なし -----	男女ともに、2年目に上がる -----▶

図9. 論理的な思考力

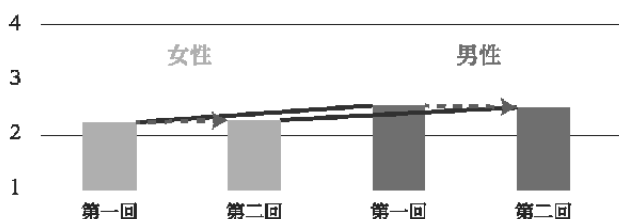


図10. チームやグループを牽引するリーダーシップ

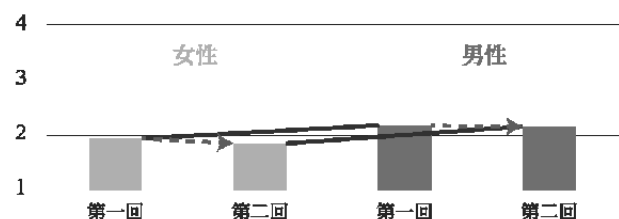


図11. 発表・報告のためのプレゼンテーション能力

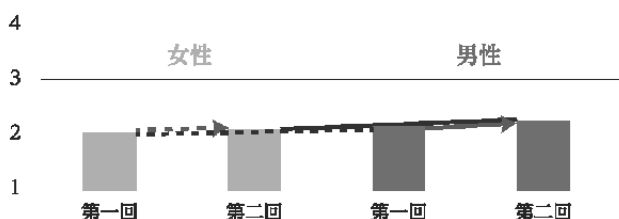
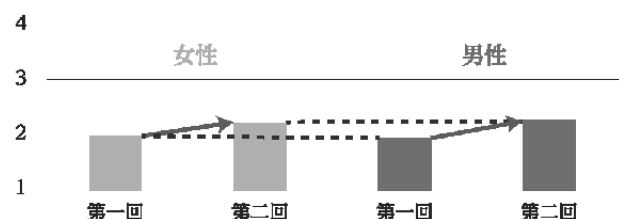


図12. 担当業務を遂行するための知識・技能



※十分にある=4点、ある程度ある=3点、やや不十分=2点、全く不十分=1点として、平均点を算出

5-4. 管理職志向

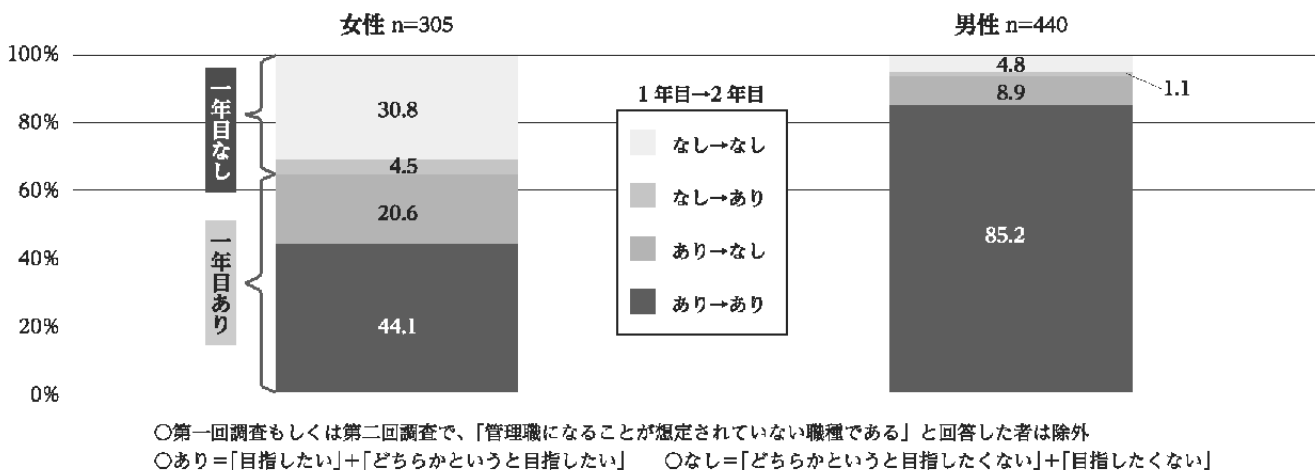
(1) 管理職志向の変化

○女性：1年目・2年目とも志向するのは、4割強。2年目に管理職志向を失う傾向が、男性より顕著

○男性：8割強が、1年目・2年目ともに管理職を志向

- ▶女性：1年目・2年目ともに管理職志向「あり」（＝「目指したい」＋「どちらかという目指したい」）が44.1%。1年目は管理職志向「あり」だったが、2年目に「なし」に変化した者が20.6%を占める。1年目・2年目ともに管理職志向「なし」（＝「どちらかという目指したくない」＋「目指したくない」）は30.8%。
- ▶男性は、1年目・2年目とも管理職志向「あり」が85.2%にのぼる。

図 13. 管理職志向の変化



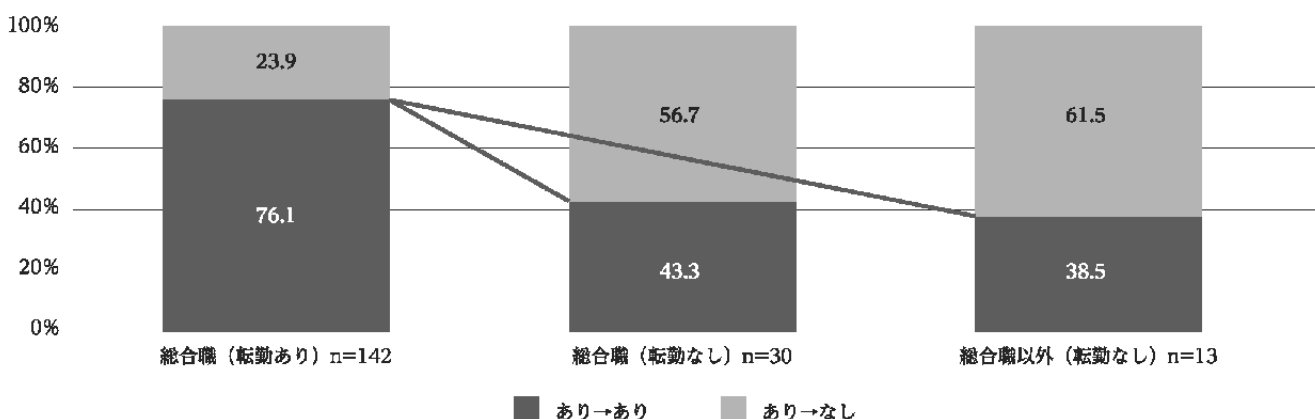
(2) 管理職志向を変化させる要因

1年目は管理職志向「あり」だったが、2年目に管理職志向「あり」と「なし」にわかれた2グループ（「あり→あり」グループ、「あり→なし」グループ）を比較することで、管理職志向を維持（喪失）する要因を検証

○「総合職（転勤なし）」「総合職以外（転勤なし）」女性は、管理職志向を失う傾向

- ▶1年目に管理職を志向していた女性のうち、2年目も管理職を志向する（あり→あり）割合は、「総合職（転勤あり）」76.1%に対し、「総合職（転勤なし）」43.3%、「総合職以外（転勤なし）」38.5%（図 14）。
- ▶男性は、職掌によって管理職志向の維持／喪失に差がない（図略）※男性は、「総合職（転勤あり）」が全体の9割

図 14. 職掌別・管理職志向の変化（女性）

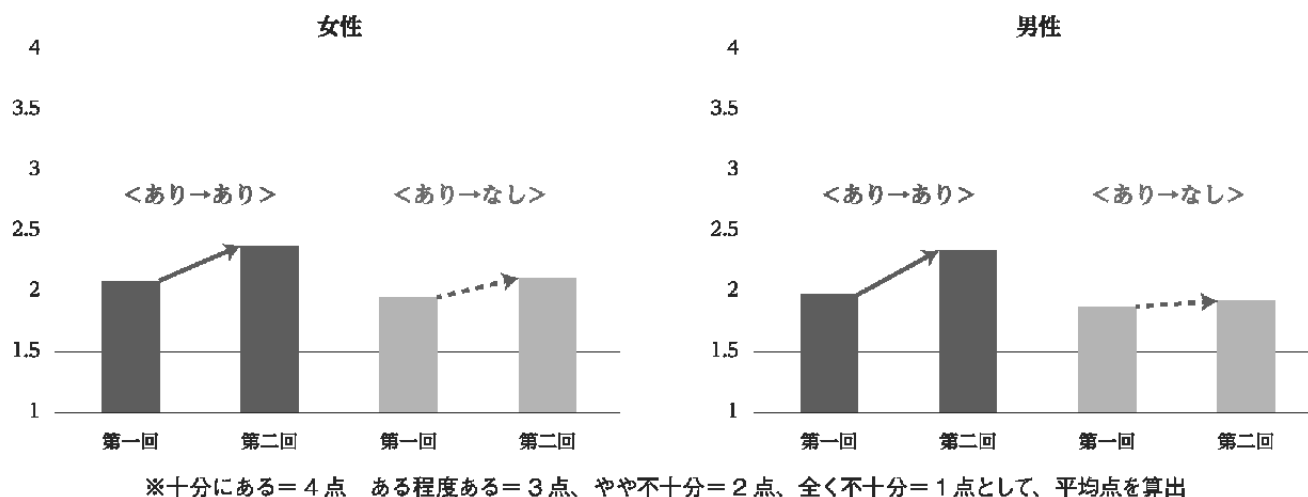


○男女ともに、管理職志向を維持するグループは「担当業務を遂行するための知識・技能」が高まる傾向

男女ともに

- ▶ 2年目も管理職志向を維持する（あり→あり）グループでは、「担当業務を遂行するための知識・技能」の自己評価が高まる →
- ▶ 2年目に管理職志向を失う（あり→なし）グループでは、自己評価はほとんど変化なし※統計的に有意な上昇ではない ----▶

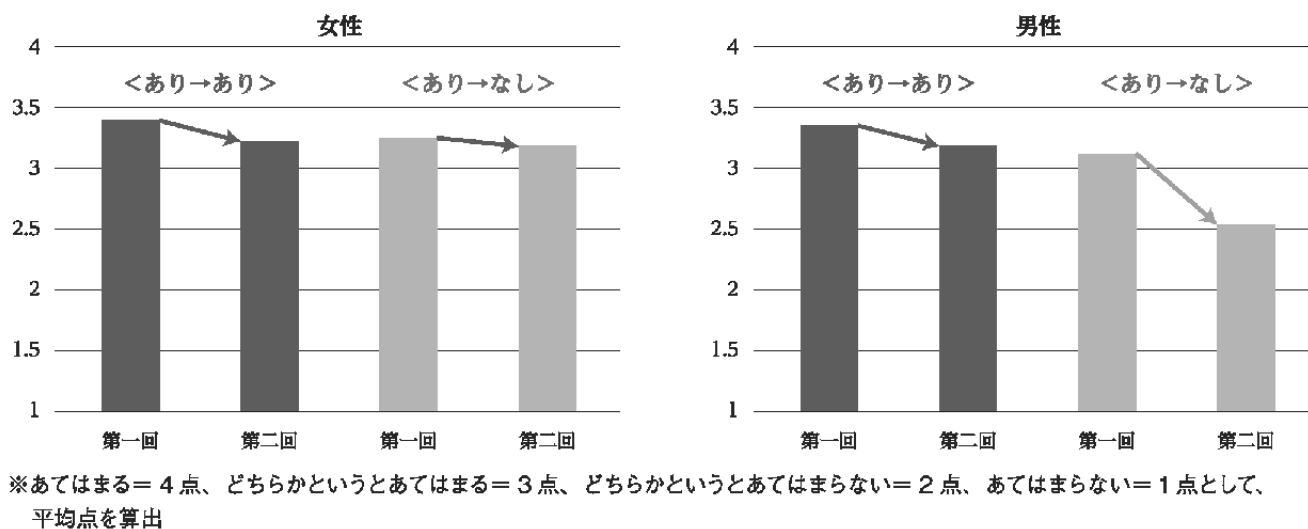
図 15. 管理職志向の変化別「担当業務を遂行するための知識・技能」



○管理職志向を失う男性グループは「仕事のやりがい」が大きく低下

- ▶ 男女ともに、2年目には「仕事のやりがい」が低下する傾向 →
- ▶ ただし管理職志向を失う（あり→なし）男性グループでは、低下傾向が顕著 ↘

図 16. 管理職志向の変化別「やりがいのある仕事をしている」

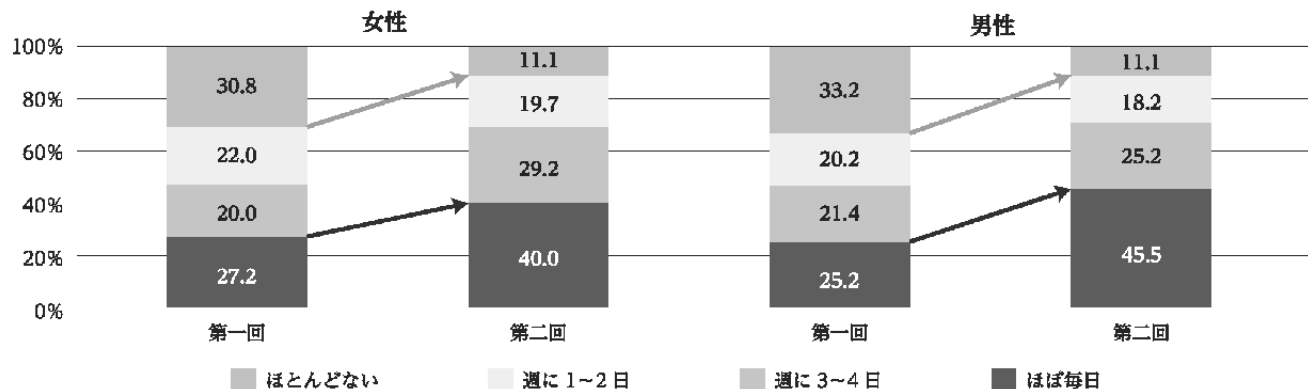


5-5. ワーク・ライフ・バランス

○男女ともに、残業頻度が増加

- ▶ 残業が「ほぼ毎日」は、男女ともに増加。女性 27.2%→40.0%、男性 25.2%→45.5%
- ▶ 残業が「ほとんどない」は、男女ともに減少。女性 30.8%→11.1%、男性 33.2%→11.1%

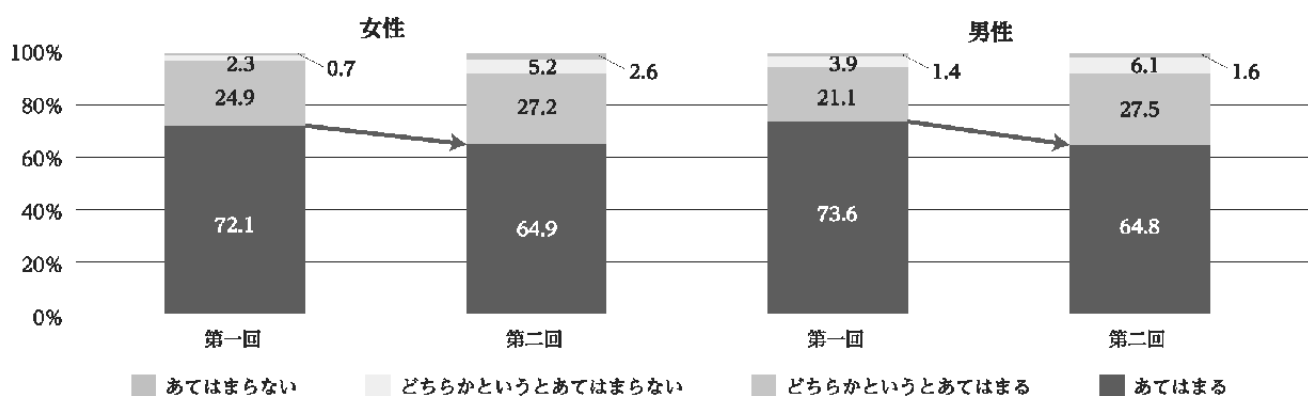
図 17. 残業頻度



○男女ともに、「仕事以外の時間も大切にしている」が「あてはまる」は1割減

- ▶ 「仕事以外の時間も大切にしている」が「あてはまる」は、男女ともに7割強から6割強へ減少

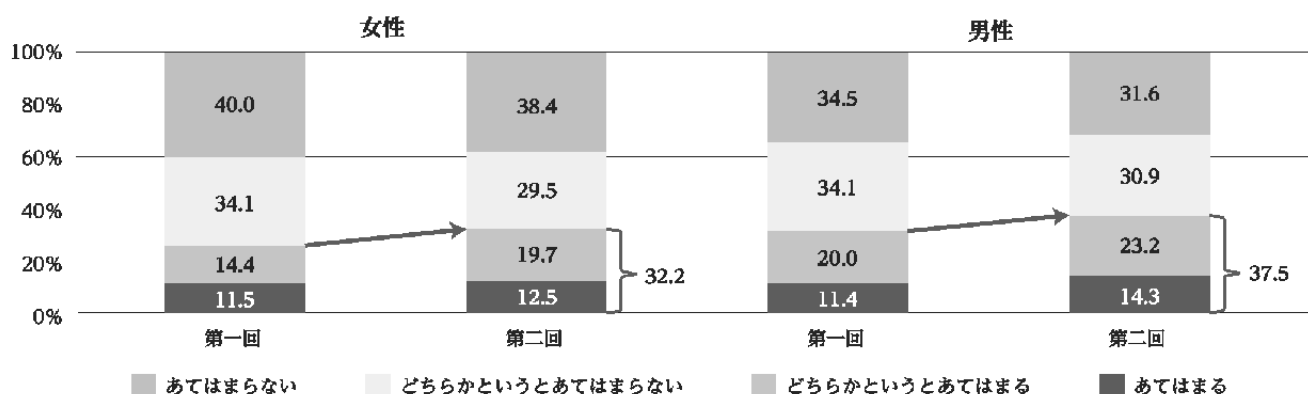
図 18. 仕事だけでなく、仕事以外の時間も大切にしている



○男女ともに「仕事をしている人がいると退社しにくい」は微増し、女性3割、男性4割へ

- ▶ 男女ともに、「業務が終わっても、仕事をしている人がいると退社しにくい雰囲気がある」(=あてはまる+どちらかというにあてはまる)は6%増 → その結果2年目には、女性3割強、男性4割弱へ }

図 19. 業務が終わっても、仕事をしている人がいると退社しにくい雰囲気がある



5-6. 結婚・出産と仕事

○2年目も、男女ともに育児期のワーク・ライフ・バランスを重視

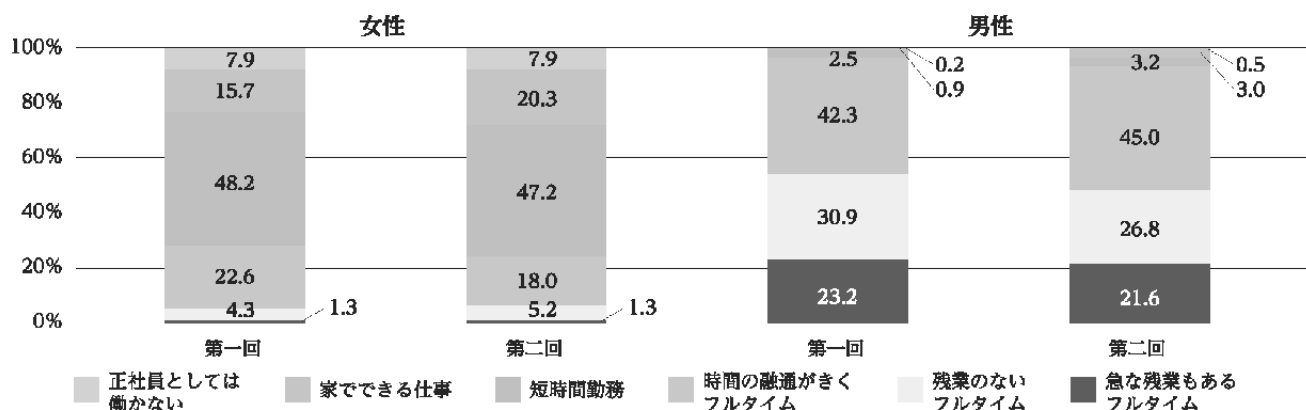
○「就学前の子どもがいるとき」に「正社員」希望の女性は、9割のまま

「就学前の子どもがいるとき」の理想の働き方は、男女ともに、1年目・2年目でほとんど変化なし

▶女性は5割弱が「短時間勤務」希望。男性は4割強が「時間の融通がきくフルタイム」希望

▶「正社員としては働かない」女性は1年目・2年目ともに7.9%

図 20. 「就学前の子どもがいるとき」の理想の働き方



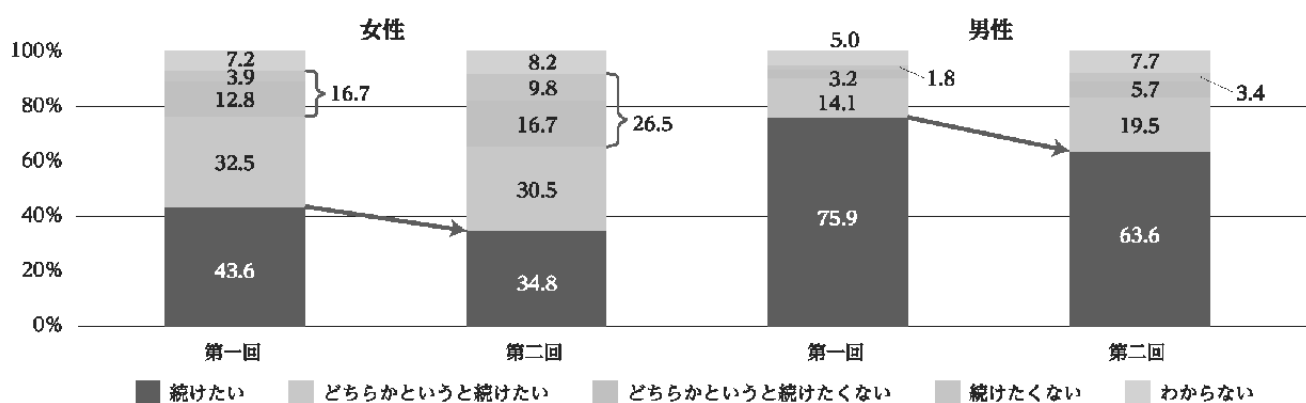
○女性は、「結婚・出産後、今の会社で働き続けたくない」が1割増

○男女ともに、「続けたい」は1割減

▶女性は、「結婚したり子どもが生まれたりしても、今の会社で働き続けたいと思いますか」に「続けたくない+どちらかという続けたくない」が1割増 } (男性は、4%増)

▶男女ともに、今の会社で働き「続けたい」は1割減 →

図 21. 「結婚したり子どもが生まれたりしても、今の会社で働き続けたいと思いますか」



入社1・2年目に生じる男女差

▶仕事満足度とプライベート満足度は、2年目に男女差が生じる。仕事満足度は男性の方が高くなり、プライベート満足度は女性の方が高くなる(図3・図4)。

▶ビジネススキルの自己評価は、おおむね男性の方が高い(「担当業務の知識・技能」を除く)(図9～図12)。

▶管理職志向は、大きな男女差がみられる。女性は1年目時点ですでに管理職志向が低く、2年目に管理職志向を失う傾向も顕著(図13)。女性は採用職掌(図14)、男性は仕事のやりがい(図16)が管理職志向と関連。

★詳細については、<https://www.nwec.jp/about/publish/2016/index.html> をご覧ください。

女性教育情報センターの運営

収集資料統計(平成29年3月末現在)

項目		和			洋			計		
		27年度受入	28年度受入	累計	27年度受入	28年度受入	累計	27年度受入	28年度受入	累計
図書	図書	2,073	2,883	81,754	591	708	25,056	2,664	3,591	106,810
	地方行政資料	383	353	26,832	—	—	8	383	353	26,840
	計(冊数)	2,456	3,236	108,586	591	708	25,064	3,047	3,944	133,650
逐次 刊行物 (新規受入 タイトル)	雑誌	35	95	3,237	1	1	764	35	96	4,001
	新聞	—	—	74	—	—	1	—	—	75
その他	新聞 切り抜き	23,774	21,964	433,209	—	—	—	23,774	21,964	433,209
	AV資料※	18	26	262	—	4	12	18	30	274
	研修貸出 用資料※	—	—	14	—	—	—	—	—	14

※毎年見直しを実施

利用状況統計：平成27年度・平成28年度（平成29年3月31日現在）

	平成27年度	平成28年度
資料等利用者数	8,138	7,961
貸出資料総数（冊）	9,499	9,519
図書資料	8,157	8,579
地方行政資料	22	84
雑誌類	623	488
新聞記事	302	159
研修貸出（冊数）	98	40
その他	297	169
レファレンスサービス件数	560	821
文献複写サービス（件数）	909	795
情報研修プログラム（件数）	3	6
情報研修プログラム（人数）	13	45
相互貸借貸出件数	267	221
内 パッケージ貸出件数	65	71

女性情報ポータルの整備充実

＜文献情報データベース データ件数＞ （平成 29 年 3 月末現在）

	28 年度増加件数	累計
図書	2,600	107,404
雑誌	96	4,001
地方行政資料	422	27,216
和雑誌記事	2,783	72,473
新聞記事インデックス	21,964	433,209
計	27,865	644,303

＜その他のデータベースのデータ件数＞ （平成 29 年 3 月末現在）

	28 年度増加件数	累計
女性関連施設 DB	537	37,079
女性情報レファレンス事例集	8	295
男女共同参画人材 DB	9	835
女性と男性に関する統計 DB	-53	498
国立女性教育会館リポジトリ ^{*1}	34	6,784
計	535	45,491

※「女性と男性に関する統計 DB」（498 件（表））は、平成 28 年度に
収録データの見直しを行って整理したため減少となっている。

*1「国立女性教育会館リポジトリ」は平成 26 年 4 月公開した。

平成28年度「アーカイブ保存修復研修（基礎コース）＋（実技コース）」開催要項

独立行政法人国立女性教育会館では、女性の歴史を今に生かし、未来につないでいくために、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の保存と活用に取り組んでいます。

その活動の一環として、アーカイブの保存や整理について新しい情報をお求めの方や、これから業務にとりくむ方のために、平成21年度からアーカイブ関連の研修を実施しています。

平成28年度は、アーカイブの作成や保存に関する実践報告と参加者によるディスカッションを行う基礎コースと、資料の保存修復を実習形式で学んでいただく実技コースを開催します。

女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者の方、大学・機関等の図書館職員の方のご参加をお待ちしております。

1. 期 日 平成28年11月30日（水）～12月2日（金）

① 基礎コース：11月30日（水）午後

* オプション（工房見学）：12月1日（木）午前

② 実技コース：12月1日（木）午後～12月2日（金） 1泊2日

- ・基礎コースのみ、実技コースのみ、基礎・実技通しての参加、いずれも可能です。
- ・実技コースは全日参加の方を優先とします。
- ・オプションは実技コース参加の方を優先とします。
- ・実技コース参加の方は国立女性教育会館に1泊1,200円でご宿泊いただけます。

2. 募集人員 女性関連施設職員・図書館の実務担当者・地域女性史編纂関係者

① 基礎コース：30名

② 実技コース：20名

* オプション（工房見学）：20名

3. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館

4. 会 場 ① 基礎コース

東京大学伊藤国際学術研究センター 中教室（3階）

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

URL: <http://www.u-tokyo.ac.jp/ext01/iirc/>

② 実技コース

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

URL: <http://www.nwec.jp/>

* オプション（工房見学）

株式会社資料保存器材

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-27-16 富士前ビル 2F

<http://www.hozon.co.jp/>

5. 日程・内容

11月30日(水)

<基礎コース>

12:45～13:00	受付	
13:00～13:05	開会・挨拶・オリエンテーション	
13:05～13:50	アーカイブ概論 アーカイブの基礎的な知識について学びます。	学習院大学人文科学研究科アーカイブズ学専攻 清原和之
13:50～14:20	実践報告① アーカイブ機関における実践事例について学びます。	フェリス女学院資料室 鈴木慶子
14:20～14:50	実践報告②	オーラル・ヒストリー総合研究会、地域女性史研究会 宮崎黎子
15:00～15:30	実践報告③	ポーラ文化研究所 富澤洋子
15:30～16:00	実践報告④	男女共同参画と災害・復興ネットワーク、国立女性教育会館 青木玲子
16:00～17:00	ディスカッション テーマを決め、講師も交えてグループ別にディスカッションを行います。	

12月1日(木)

<オプション> ※実技コース参加の方を優先とします。

10:00～12:00	(株) 資料保存器材見学 全国から集まるアーカイブ資料の保存修復の作業現場を見学します。	(株) 資料保存器材 蜂谷伊代、安藤早紀
-------------	---	-------------------------

<実技コース 第1日>

14:30～14:50	受付	
14:50～15:00	開会 オリエンテーション	
15:00～17:00	紙資料の修復関連実習① ソフトカバー(小冊子)などの図書資料への館内でもできる処置(綴じ直し、修補)の実習を行います。	(株) 資料保存器材 伊藤美樹、高田かおる
17:15～17:45	女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学(希望者のみ) 国立女性教育会館におけるアーカイブ構築事例を中心にご紹介します。	
19:30～20:30	情報交流会(希望者のみ) 参加者相互の情報交換やネットワークづくりの場を提供します。	

12月2日（金）

<実技コース 第2日>

9:00～12:00	紙資料の修復関連実習② ハードカバー（くるみ製本）などの図書資料への館内でもできる処置（修補、外れた表紙・背表紙の接合）の実習を行います。	（株）資料保存器材 伊藤美樹、高田かおる
12:00～13:00	昼休み	
13:00～15:00	紙資料の修復関連実習③ 午前の実習の続きを行います。	（株）資料保存器材 伊藤美樹、高田かおる
15:00～15:05	閉会	

6. 所要経費

- （1）参加費 ①基礎コース：無料、②実技コース：2000 円（実習用材料費等実費）
（2）宿泊費 1泊1,200 円（前・後泊とも同額）
（3）食費 朝食 バイキング 870 円
昼食 カフェテリア形式 550 円～750 円程度
夕食 バイキング 1,080 円
（4）情報交換会費 1,000 円（希望者のみ。軽い飲食物をご用意します）

7. 申込み手続

- （1）方法 下記①または②のいずれかにてお申し込みください：
①電子メール：ホームページ（<http://www.nwec.jp/jp/archive/archivist2016.html>）
掲載の申込書様式に入力のうえファイル添付にて送信
（必要事項をメール本文に入力のうえ送信しても可）
②FAX： ホームページ掲載の申込書様式に記入の上送信
（様式がなければ必要事項を記入した紙でも可）

- （2）期限 平成28年11月18日（金）
定員を超えた場合は、期限前に締め切ることもあります。

8. 申込み・問い合わせ先

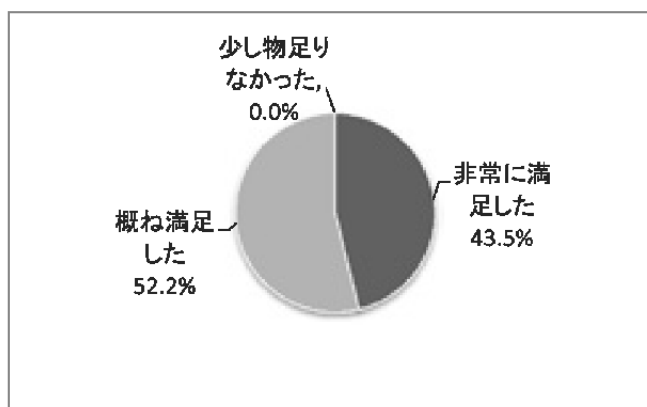
国立女性教育会館情報課 山崎、関森

TEL: 0493-62-6195 FAX: 0493-62-6721 電子メール: infodiv@nwec.jp

平成28年度アーカイブ保存修復研修(基礎コース)アンケート結果

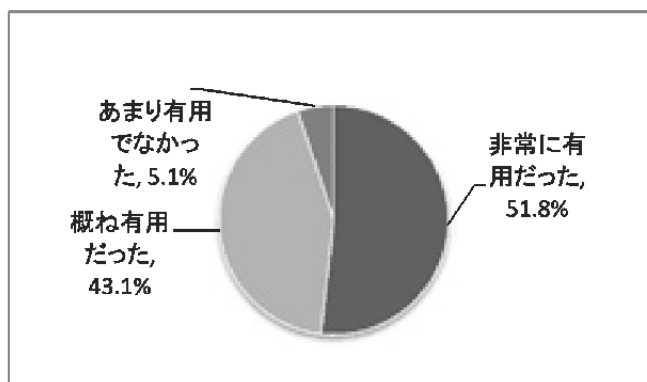
満足度

非常に満足した	46.2%	100.0%
概ね満足した	53.8%	
少し物足りなかった	0.0%	
物足りなかった	0.0%	
計	100.0%	



有用度

非常に有用だった	51.8%	94.9%
概ね有用だった	43.1%	
あまり有用でなかった	5.1%	
有用でなかった	0.0%	
計	100.0%	

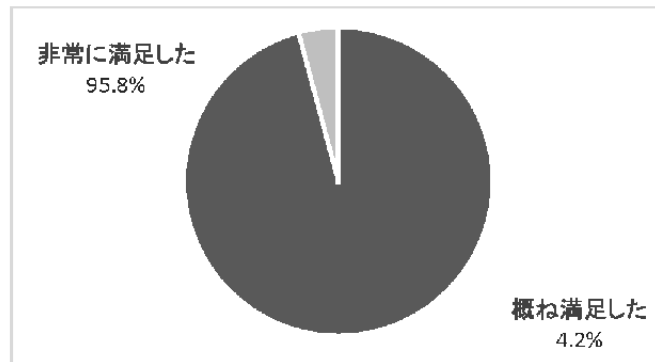


アーカイブ概論	・アーカイブズの基本をご紹介いただき、アーカイブ学に興味を持ちました。 ・ゆっくりとした説明で、つめこまれておらず概論としてわかりやすかったです。 ・後半の資料の整理・収集のお話をもっと伺いたかったです。
実践報告① フェリス女学院資料室	・目録からDB作成までの過程を一から教えていただき参考になりました。 ・とても丁寧なお仕事をなさっているのが伝わってきました。紙目録の必要性はうなずけました。 ・手探りで一から資料室の業務の流れを構築していらっしゃって、そのご苦労がよく分かりました。高い理想をお持ちで刺激を受けました。
実践報告② オーラル・ヒストリー総合研究会	・キーワードのオーラルヒストリーとは何かの説明とご自身の活動の目的が何であったか前述いただきたかった。 ・オーラルヒストリーという分野の話は初めてでした。大変参考になりました。 ・資料を生み出す側の事例や意見を聞くことはあまりないので、興味深かったです。
実践報告③ ポラ文化研究所	・年表をつくる上で、目的がはっきりされていて、今後自館でDB作成する際の参考になりました。 ・年表データベース作成にあたって、工夫した点や見やすい画面、索引のキーワード作成についてのご説明はとても参考になりました。 ・企業での取り組みということで、見せ方、検索のしやすさという点でもとても参考になりました。
実践報告④ 男女共同参画と災害・復興ネットワーク、NWEC	・女性の記録が残りにくいということ、どのように残していくか大変参考になりました。 ・アーカイブの大切さ、そして女性目線を持つことの重要性、改めて気づく点が多かったです。 ・NWECについて詳しく説明いただき、理解が深まりました。
全体	・アーカイブズ初心者として、概論からはじまり、豊富な具体例を聞くことができ、理解を深めるきっかけとなりました。 ・目録、PCのデータベース作成に試行錯誤して完成した話が印象に残りました。また、様々な方面から先生の体験談を聞くことができ良かったです。 ・様々な立場の方々からアーカイブズに関する話題をお聞きできた点、満足しております。

平成28年度アーカイブ保存修復研修(実技コース)アンケート結果

満足度

非常に満足した	95.8%	100.0%
概ね満足した	4.2%	
少し物足りなかった	0.0%	
物足りなかった	0.0%	
計	100.0%	



有用度

非常に有用だった	100.0%	100.0%
概ね有用だった	0.0%	
あまり有用でなかった	0.0%	
有用でなかった	0.0%	
計	100.0%	



紙資料修復の実践	・文献、資料では得られない「生」の技術を実感しました。資料に向き合う姿勢、保存修復に対する考え方も勉強になりました。 ・自分の勤務先に大量にある古い資料で、すぐにでも実践してみたくまりました。 ・細かいところまでご指導していただけてとても満足しています。
女性アーカイブセンターに期待すること	・企画展示(「寄席で演じる」)が大変面白かったです。 ・今後も、同様の講座を継続して行っていいただければ幸いです。 ・現在利用可能なデジタル資料の利用について情報を発信していただければ、もっと利用があるのではないかと思います。

平成28年度アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー開催要項

1. 趣 旨

「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は会館の第四期中期目標・中期計画において、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。平成28年度のリーダーセミナーでは、若年女性のキャリア形成をテーマとして設定し研修を行う。

2. 主 題 若年女性のキャリア形成

3. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館

4. 期 間 平成28年10月3日（月）～10月7日（金） （受入れ期間10月2日（日）～10月8日（土））

5. 募集人員 10名程度

6. 募集対象国 アジア諸国のESCAP加盟国・準加盟国のうちのODA 対象国等（カンボジア、スリランカ、韓国、フィリピン、ミャンマーの予定）

7. 応募資格

以下の12項目を満たす者

(1) 女性

(2) 下記のいずれかに該当する者

- ① 女性に関する行政機関に所属する者
- ② 教育機関等で若年女性のキャリア形成支援
- ③ 女性の地位向上に関するNGOに所属する者
- ④ 女性学関連研究に携わる者

(3) 所属機関の長から推薦が得られる者

(4) 大学卒またはそれと同等の学力及び経験を有する者

(5) 原則として、平成28年4月1日現在で満45歳未満の者

(6) 講義を理解するのに十分な英語の能力を有する者

(7) 原則として、研修の全日程に参加できる者

(8) 男女共同参画及び若年女性のキャリア形成に関わる課題について十分な関心を持ち、課題解決に熱意のある者

(9) 本国の担当部署で女性の能力向上に関わる事業を立ち上げる裁量・権限を持つ者

(10) 研修終了後も、会館及び参加者との持続的情報交換や連携事業について積極的に関わることができる者

(11) 平成28年度の研修テーマに沿った事前課題を提出することが可能な者

- (12) 心身ともに健康である者（なお、妊娠中の女性の参加は、渡航・移動及び研修参加への医者の許可がある場合に限る）

8. 応募方法

申込みは国立女性教育会館研究国際室宛に必要な書類（応募書類・所属長の推薦状）を提出する。提出書類に不備がある申込みは選考の対象外となるので注意すること。

(1) 締切日 平成28年7月22日（金） 日本時間24時必着

(2) 提出書類

- a. 様式1 PART A：応募用紙（貼付する写真は、半年以内に撮影したものであること）
- b. 様式1 PART B：所属長からの推薦状
- c. 様式1 PART C：健康に関する質問票
- d. 様式2 PART D：カントリーレポート（PPTスライド）
- e. 有効なパスポートの顔写真貼付ページのコピー（所持者のみ）
- f. 提出書類チェックリスト
- * 行政機関以外の所属の場合は以下の書類及び資料を併せて提出のこと。
- g. 様式2：NGO団体概要及び所属団体の活動内容の記載されたパンフレット

提出書類は返却しない。応募書類に記載された個人情報には本研修の実施の目的のみに使用する。可否に関する問い合わせには応じない。

9. 選考方法及び決定通知

対象国はアジア諸国のESCAP加盟国・準加盟国のうちODA対象国35カ国等から5カ国程度を選定し、国立女性教育会館の調査研究事業等で関係を深めている国の機関を中心に、女性問題・女性教育に関するナショナルマーシナリー及びフォーカルポイント、女性団体等に研修生の推薦を依頼する。

10. 研修日程

別紙参照

11. 研修内容・方法

- (1) カントリーレポートの発表・討議
- (2) 講義
- (3) 教育機関、女性関連施設等の視察
- (4) 日本人ロールモデルとの意見交換

12. 事前提出課題

研修参加者は、研修開始以前に、出身国における男女平等政策及び若年女性のキャリア形成支援に関する取組みに関するカントリーレポートと小論文を提出する。研修中に

提出したカントリーレポートをもとに討議を行う。

1 3. 使用言語

講義、演習はすべて英語で行う。日本語による講義・演習・施設訪問の場合には英語の通訳を配置する。

1 4. 研修費用

研修のための下記費用は、国立女性教育会館が負担する。それ以外のすべての費用は研修生の負担とする。

- (1) 最寄りの国際空港から成田空港までの往復航空運賃、日本国内のホテル及び国立女性教育会館の宿泊費
- (2) 研修実施にかかる費用
- (3) 自国出国日から入国日までの滞在経費

1 5. 研修成果の普及

国立女性教育会館は、本研修の成果物（紙及び電子媒体の資料、小論文、パワーポイントスライド、カントリーレポート等）を研修終了後、会館のホームページ及び大学・行政機関が運営するレポジトリ等に掲載し報告書を出版する。

1 6. 連絡先、応募書類の提出先

独立行政法人国立女性教育会館研究国際室

「平成28年度アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー担当」宛
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

T e l : +81-493-62-6437

F a x : +81-493-62-9034

E-m a i l : n o r i k o 1 5 @ n w e c . j p

（電子メールでの問い合わせは、件名の頭に「平成28年度リーダーセミナー」と入れる）。

1 7. その他

- (1) 海外から日本への渡航に必要なすべての手続きは、研修生自身の責任において行う。
パスポート及びビザの入手に必要な招へい状等の書類は、国立女性教育会館が送付する。日本までの航空便、到着日時、交通手段等に関する詳細は、決定通知時に併せて知らせる。研修生の意向による航空便の変更は認めない。
- (2) 家族等の同伴は不可。
- (3) 研修期間中は日本国内に留まる。
- (4) 研修終了後は直ちに帰国する。
- (5) 応募用紙の記入方法等、不明の点は、独立行政法人国立女性教育会館研究国際室に照会のこと。

平成28年度「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」日程
テーマ：若年女性のキャリア形成

平成28年10月3日（月）～10月7日（金）（受け入れ期間 10月2日～10月6日）

月日曜日	時間	研修項目	研修内容	講師（敬称略）	開催地	宿泊
10月 日 2日		日本到着				都内
3日 月	10:45-11:00	開会挨拶・職員紹介		内海 房子 NWEC理事長	国立女性教育会館 埼玉県比企郡嵐山町 菅谷728	NWEC
	11:00-12:00	会館概要説明	国立女性教育会館について	渡辺 美穂 NWEC研究国際室研究員		
	14:00-15:00	プログラムオリエンテーション & アイスブレイク	研修のねらい、目的、スケジュール説明	越智 方美 NWEC研究国際室専門職員		
	15:15-16:00	情報提供 女子中高生夏の学校	若年女性のキャリア形成支援に係る会館の事業について	櫻田 今日子 NWEC事業課課長		
	16:15-18:45	視察 女性教育情報センターと女性アーカイブセンター	「女性教育情報センター」と「女性アーカイブセンター」の見学	山崎 裕子 NWEC情報課専門職員		
4日 火		カントリーレポートの発表	研修生による事例の発表と討議	ファシリテーター 越智 方美 NWEC研究国際室専門職員	国立女性教育会館 イルチエロ 埼玉県ときわ町玉川2778-4	NWEC
	9:00-17:00	NWEC調査報告 「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」	企業で就労する若年男女の意識調査に関する報告	島 直子 NWEC研究国際室研究員		
	18:00-19:30	歓迎会		研修生、NWEC職員		
5日 水	10:00-12:00	視察と講義 「埼玉県男女共同参画推進センター With Youさいたまについて」	国内の女性センターが実施している、若年女性を対象とした取組みについて	瀬山 紀子 埼玉県男女共同参画推進センター 事業コーディネーター	埼玉県男女共同参画推進センター さいたま市中央区新都心2-2 セミナー室5	都内
	14:30-16:30	講義 「BONDプロジェクトの取組み」	困難をかかえた若年女性への支援について	竹下 奈都子 中村 恵里菜 NPO法人BONDプロジェクト		
6日 木	10:00-12:00	講義 「日本の男女共同参画施策」	日本政府の女性支援施策について	石橋 英宣 内閣府 男女共同参画推進官	内閣府男女共同参画局 中央合同庁舎8号館5階共用A会議室 千代田区永田町1-8-1	都内
	13:30-16:00	視察と意見交換 「お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所の取組み」	德音塾、グローバルリーダーシップ研究所の取組みについて	塚田 和美、内藤 章江、 大木 直子、小松 翠 お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所	国立大学法人お茶の水女子大学 東京都文京区大塚2-1-1 本館 カンファレンスルーム（135室）	
7日 金	9:00-12:30	視察 「東京都立農芸高等学校におけるキャリア教育について」	職業高校におけるキャリア教育の取組みについて	岡本 利隆 平柳 伸幸 中国 真由美 東京都立農芸高等学校	東京都立農芸高等学校 東京都杉並区今川3-25-1	都内
	13:30-14:30	送別昼食会		研修生、NWEC職員	UN Café 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山B2F	
	14:30-16:00	成果報告書（リーダーセミナーレポート）についての打ち合わせ 評価会・閉講式	アンケート記入・修了書の授与	研修生、NWEC職員	東京ウィメンズプラザ 第1会議室AB 渋谷区神宮前5-53-67	
8日 土		帰国				

「平成 28 年度アジア地域における男女共同参画官リーダーセミナー」 アンケート集計

1. 研修の参加動機 (複数回答)

Why did you apply for this seminar? (Please circle as many as you like.)

1	9 人	男女共同参画の推進に資する知識と技能の向上のため Enhance your knowledge and practical skills for promoting gender equality
2	8 人	男女共同参画の推進に従事する女性リーダーとしての能力向上のため Capacity development as a women's leader for promoting gender equality
3	9 人	研修で得た知識・能力を時刻で活用するため Enhance your ability to implement what you have learned from this seminar in your country
4	9 人	会館職員や研修参加者とのネットワーク構築のため Build a collaborative network with NVEC and the seminar participants
5	4 人	その他 Others (please specify: Get several ideas for policy advocacy)

2. 研修の満足度

How satisfied were you with the program in general? Please provide details.

← Satisfied		Unsatisfied →	
4	3	2	1
8 人	2 人	0 人	0 人
満足度 = 80%	20%	0%	0%

3. 研修の有用度

Will you be able to apply information and knowledge gained through this program at work upon returning to your country? What part of the training program was most beneficial to you?

← Satisfied		Unsatisfied →	
4	3	2	1
8 人	2 人	0 人	0 人
満足度 = 80%	20%	0%	0%
● 埼玉県男女共同参画推進センターで、地域の女性を対象とした研修や就労支援の現場を視察できたこと (フィリピン、カンボジア) ● 内閣府男女共同参画局での日本政府の女性支援施策についての講義 (スリランカ) ● カントリー・レポートの報告は各国の状況を知ることができ、とても有益だった (スリランカ、韓国、カンボジア) ● 都立農芸高等学校の視察は、職業高校がない国が大半であり学びながら実務を身に付けることができる制度が注目された (カンボジア、スリランカ、ミャンマー) ● 時間通りに研修を進める運営手法が参考になった (ミャンマー、フィリピン、スリランカ)			

4. 研修内容等に関する質問

What did you think of the textbooks, training equipment and lecture facilities used for the program?

	←Very Good		Very Poor→	
	4	3	2	1
Textbook	8 人	2 人	0 人	0 人
講義資料 満足度	80%	20%	0%	0%
Training Equipment	9 人	1 人	0 人	0 人
研修機材 満足度	90%	10%	0%	0%
Lecture Facilities	9 人	1 人	0 人	0 人
研修環境 満足度	90%	10%	0%	0%
Accommodation	9 人	0 人	1 人	0 人
宿泊 満足度	90%	0%	10%	0%
Staff	10 人	0 人	0 人	0 人
担当職員 満足度	100%	0%	0%	0%

5. 研修の管理運営方法について

What did you think of the general administration and management of the training program?

Please provide details.

←Very Good		Very Poor→	
4	3	2	1
8 人	2 人	0 人	0 人
満足度 = 80%	20%	0%	0%

6. 追加した方がよい内容

If any topics were to be added to the program, what should they be?

- 地域の取り組みや農村地域での女性団体の視察、困難をかかえた女性たちに直接支援を提供している団体との交流を希望する意見が複数名より出された（スリランカ、ミャンマー、カンボジア）
- 講義の合間に、参加者間の交流を促すアクティビティーや身体を動かしてリフレッシュする時間がとれるとより、効果的ではないか（フィリピン）
- 次年度以降のテーマ案としては、女性の政治参画（スリランカ）、スポーツとジェンダー（韓国）、気候変動・災害とジェンダー（韓国）、科学技術と女性（カンボジア）等が提案された

平成28年度「NWE Cグローバルセミナー」開催要項

1. 趣 旨

女性活躍推進、男女共同参画に関わる研究者、地方公共団体や男女共同参画センター、女性団体の職員等を対象に、女性の人権やエンパワーメントに係る課題について理解を深めることを目的として、海外の専門家を招へいするセミナーを実施する。

2. 主 題

「女性の活躍促進に向けた取組み ヨーロッパの経験から考える」

3. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館

4. 会 場

主婦会館プラザエフ クラルテ
東京都千代田区六番町15

5. 期 日

平成28年12月2日（金）13：30～17：00

6. 使用言語

日本語、英語（同時通訳付き）

7. 募集人員

研究者、男女共同参画の行政担当者、女性関連施設職員、駐日大使館職員、女性団体等のリーダー等 100名程度

8. プログラム

○基調講演「デンマークにおけるジェンダー平等～長く価値のある道のり」

講 師： キーラ・アペル氏

子供・教育・男女共同参画省次長兼大臣付チーフアドバイザー

○パネルディスカッション「女性の活躍促進に向けた取組み EU と日本の課題」

パネリスト：キーラ・アペル氏

パネリスト：モニカ・チェニウイックス氏

神戸女学院大学文学部英文学科客員専任講師

パネリスト：池田心豪氏 労働政策研究・研修機構企業と雇用部門主任研究員

コーディネーター：大崎麻子氏 NPO 法人ジェンダーアクションプラットフォーム理事

9. 申込方法・申込期限

①申込方法

ア. 電子メール

下記の必要事項を入力の上、rese2@nwec.jpまでお申し込みください。

(メールのタイトルを「平成 28 年度 NWEC グローバルセミナー参加希望」としてください。)

イ. ファックスまたはホームページから申込用紙をダウンロードの上、

- 1) お名前・フリガナ、2) 郵便番号・住所、3) 電話番号、4) ファックス番号、
- 5) メールアドレス、6) 所属先を記入し、下記までお送りください。

独立行政法人国立女性教育会館研究国際室 グローバルセミナー担当

FAX 番号 0493-62-9034

②申込期限 平成 28 年 11 月 28 日(月) 必着

③決定通知 参加決定次第、メールもしくはファックスにて参加証をお送りします。
当日ご持参ください。

10. 所要経費 参加費 無料

平成 28 年度「NWECC グローバルセミナー」アンケート集計

「女性の活躍促進に向けた取組み ヨーロッパの経験から考える」

日時：平成 28 年 12 月 2 日(金)

会場：主婦会館プラザエフ 国際会議場クララルテ

申込人数 109 人

当日来場者 89 人 女性 80 人 男性 9 人

アンケート回答 57 人 アンケート回収率 64%

1 シンポジウム全体の満足度

非常に満足 42% (24 名)、満足 53% (30 名)、あまり満足ではない 5% (3 名)

2 有用度

非常に有用 47% (27 名)、有用 49% (28 名)、あまり有用ではない 4% (2 名)

有用だった点

* = 複数の参加者より同一意見

2-b ①基調講演

- ・デンマークの現状がよくわかった。男女共同参画には男性も巻き込んでいくことが課題と再確認できた。
- ・全体的にとっても参考になった。*
- ・ヨーロッパの事例を聞いて励まされた。*
- ・男女共同参画・ジェンダー平等に対する積極的・前向きな姿勢が感じられた。
- ・男女平等を推進する組織や前進するための必要条件の指摘は参考になった。
- ・ジェンダー平等先進国と日本の違いを目の当たりにした。とても刺激的だった。*
- ・デンマークや北欧が長い時間をかけて社会を変えてきたこと、国全体の取組みや今後の具体的な課題を知ることができて学ぶことが多かった。
- ・デンマークの防衛省において一番ジェンダー登用が進んでいるということは驚いた。

2-b ②パネルディスカッション

- ・モニカさんが日本の女子学生に講義を通して意識をくださっていること、またイクメンのご経験者である池田さんのような方が増えることで、確実にこれからの日本の世界が変わっていくことを予感した。
- ・日本との比較や EU の話をしてくださったモニカさんの話が興味深かった。
- ・池田氏の話をうちの人事管理者にも聞かせたい。
- ・日本の現状・問題を理解できた。

- ・池田氏のデータは説得力があった。
- ・大変共鳴できる内容でした。＊
- ・大崎さんの問題提起やまとめが解かりやすく良かった。＊
- ・様々な専門家の忌憚ない意見が聞けてとても良かった。
- ・具体的な内容で日本の問題点、今後の課題を見つめ直し考えることができた。なぜ、日本が変わらないのかということも色々と意見が伺えて良かった。＊
- ・それぞれの視点からジェンダー問題が、どうとらえられているのかがわかった。

3 その他の意見

- ・EUのスライドをもっと見せてほしかった。
- ・もう少し長い時間基調講演でも良かったと思う。
- ・質疑応答が専門的すぎて、時々ついていけなかった。
- ・セクシュアルマイノリティについての質問が出て、回答もとても参考になったのですが、アンケートの性別が女性と男性しかないのはおかしい。
- ・男性の話より、女性の労働問題に詳しい人を人選してほしい。
- ・会場はとても良かった。＊
- ・夜の時間や休日にもあれば若い人が参加しやすい。

4. 回答者の属性

4-1 年齢

- ① 19歳以下 2人 ② 20歳代 5人 ③ 30歳代 7人 ④ 40歳代 12人
⑤ 50歳代 14人 ⑥ 60歳以上 16人 ⑦ 無回答 1人

4-2 性別

- ① 女性 52人 ② 男性 3人 ③セクシュアルマイノリティ 1人 ④無回答 1人

4-3 お住まいの都道府県

- ①東京都 29人 ②神奈川 6人 ③千葉 4人 ④栃木 3人 ⑤兵庫 2人
⑥福岡 2人 ⑦大阪 1人 ⑧茨城 1人 ⑨新潟 1人 ⑩北海道 1人
⑪埼玉 1人 ⑫長崎 1人 ⑬秋田 1人 ⑭ 無回答 4人

4-4 所属

- ① 女性関連施設 7人 ② 行政 6人 ③ NPO/NGO 10人 ④ 企業 9人
⑤ 学生 6人 ⑥ その他 17人（通訳者・開業医・主婦・自営業）⑦ 無回答 2人

以上

平成28年度 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」実施要項

1. 趣 旨

国際協力機構（JICA）がアセアン諸国において実施する、人身取引被害者保護・社会復帰・被害の予防の分野でのプロジェクトのカウンターパートおよびアセアン地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修を実施する。3年計画の第2年次*。

人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が日本を含め、互いの国の人身取引対策に関する取り組みについて相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、参加者間で人身取引対策に取り組む機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として行われる。

2. 主 催 独立行政法人国際協力機構（JICA）

3. 実施機関 独立行政法人国立女性教育会館

4. 協 力 内閣官房、外務省、厚生労働省、警察庁、法務省、国際移住機関（IOM）、東京都、岐阜県、人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）、一般社団法人社会包摂センター他

5. 期 日 平成28年10月24日（月）～11月4日（金）

6. 対 象 13名（男女）

ミャンマー、ベトナム、タイ、カンボジア、フィリピン、マレーシアの人身取引対策の予防と保護の分野に携わっている者（中央・地方政府機関）。

7. 研修項目

- （1）日本政府の人身取引対策および日本の人身取引被害者保護支援策について理解する。
- （2）日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセスおよび関連機関の関係を把握し、グッドプラクティスを学び、課題について検討する。
- （3）日本における在住外国人支援団体の取組について学ぶ。
- （4）アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチを理解し、改善策やネットワーク連携・強化に資する方策を検討し、成果発表を行う。

8. 使用言語 英語

9. 研修日程 別添参照

*平成27年度は、「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」として実施。

**本研修の前身として、「人身取引に関する日タイ合同ワークショップ」（平成21～24年度）、「国別研修ミャンマー」（平成24～25年度）、「国別研修ベトナム」（平成24～25年度）、地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」（平成23年～25年度）が、国立女性教育会館を実施機関として、日本（JICA 東京）で開催されている。

なお、「国別研修タイ」は、平成25年度はJICA 北九州で開催。タイの「メコン地域人身取引被害者支援能力向上プロジェクト」の関係者を対象にした国別研修が、平成27年度から別途、JICA 関西で開催されている。

平成28年度課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」研修日程

	10月	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師	研修場所	宿泊先
集団研修	23日	日			来日、移動 成田国際空港 → 幡ヶ谷(TIC)			TIC
	24日	月	AM	ブリーフィング	JICAブリーフィング	JICA	TIC SR407	TIC
			13:00-13:30	オリエンテーション	オリエンテーション、関係者紹介、プログラム説明	森下 早紀(国際協力機構(JICA)) 渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員(NWEC))		
			13:30-14:30	ビデオ上映	プログラム説明、ビデオ上映			
			14:30-16:30	各国紹介	自己紹介と研修に向けた抱負	研修員		
			16:30-17:30	講義	研修課題に関する基礎講義	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)		
	25日	火	10:30-11:30	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:「人身取引対策行動計画2014に基づく日本の取組み」(内閣官房)	重成 麻利(内閣官房参事官補佐) 小寺 次郎(内閣官房参事官補佐)	内閣府8号館 8階中会議室	TIC
			15:00-17:00	見学・説明	日本政府の人身取引対策 東京入国管理局	吉田 智美(東京入国管理局総務課渉外調整官)	東京入国管理局	
	26日	水	9:00-11:00	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:厚生労働省	折堀 正信(厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課専門官)	TIC SR410	NWEC
			11:00-11:30	ガイダンス	日本の人身取引対策(自治体):施設見学にあたって	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)		
			13:00-15:30	講義・見学・意見交換	日本の人身取引対策(自治体):女性相談所の被害者保護	和田 芳子(東京都女性相談センター所長)		
	27日	木	9:00-9:30	会館説明	会館案内	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)		NWEC
			9:45-10:45	講義・意見交換	日本における男女共同参画の現状と課題 各国における男女共同参画の現状と課題	越智 方美(国立女性教育会館研究国際室専門職員) 研修員	国立女性教育会館 事務局棟2階 会議室・大	
			11:00-11:45	挨拶・職員紹介	理事長挨拶・課室長紹介	理事長、理事、総務課長、情報課長、専門官、研究国際室長		
			13:00-14:00	記念写真撮影				
			14:00-15:00	講義・意見交換	在住外国人支援者の活動紹介	武田ヴィーリン(TNJダイネットワークINジャパン代表)	研修棟1階101室	
			15:30-17:30	講義・意見交換	在住外国人支援者の活動紹介	新倉 久乃(女性の家サラー理事)		
	28日	金		事例説明・講義	日本政府の人身取引対策:岐阜県警察の取組	西脇 克児(岐阜県警察本部刑事部組織犯罪対策課調査官)	研修棟1階101室	TIC
			9:00-12:00		人身取引被害者の支援(日本の事例)	森田カリナ(国際移住機関(IOM)チーフ・ケースワーカー)		
					人身取引被害者の支援(日本の事例)	ビスカルド 篤子(社会活動センター・シナピス事務局課長)		
					人身取引被害者の支援(日本の事例)	吉田 容子(弁護士、立命館大学教授)		
			13:00-14:00	日本の文化体験	茶室見学	NWEC職員	国立女性教育会館 警書院	
			14:00-16:30	事例説明と講義	午前からの続き	同上 4名	研修棟1階101室	
			16:30-17:00	1週間のまとめ振り返り	学習支援者:女性教育・男女共同参画	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)		
	29日	土	AM					TIC
			13:00-15:30	講義・視察・事例検討	民間の取組:伴走型支援 民間の取組:全国的電話相談支援	遠藤 智子(一般社団法人社会的包摂センター事務局長) 和久井みちる(一般社団法人社会的包摂センター全国コーディネーター)	一般社団法人 社会的包摂センター	
			17:00-19:30	スタディーツアー	民間団体の取組:夜の街歩きスタディーツアー	一般社団法人Colebo	都内	
	30日	日	終日		自由研究			TIC
	31日	月	10:00-12:00	講義・見学	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	花崎みさを(社会福祉法人一粒会理事長・統括施設長) 中尾充孝様(社会福祉法人一粒会「野の花の家」施設長)	社会福祉法人 一粒会	TIC
			13:00-16:00	視察・講義・意見交換	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	宇田川政男「ファミリーセンター・ヴィオラ」副施設長・相談員 フランク・オカンボス様「ファミリーセンター・ヴィオラ」 島海 典子「FAHにすもす」センター主任・主任母子指導員		
	11月1日	火	8:00-11:00	講義・意見交換	人身取引問題への取組み(労働搾取と被害者保護)	高井信也(高井・村山法律事務所弁護士)	TIC SR306	TIC
			13:00-17:30	ワークショップ	国境を越える人身取引被害者保護のフローについて	百生 詩緒子(国際協力機構タイ事務所専門家)研修員、NWEC渡辺		
	2日	水	10:30-16:00	発表・意見交換	各国の取組、成果発表と意見交換会	省庁(内閣官房、法務省、警察庁、厚生労働省、東京入国管理局)、 都道府県警察、自治体、大使館、IOM、民間団体(社会的包摂サ ポートセンター・社会福祉法人一粒会)、研究者、依頼スピーカー: マリオ・ロザリオ・パレスカス東洋大学教授、大谷美紀子弁護士	JICA本部113 (控室109)	TIC
	3日	木	8:00-12:00	ワークショップ	成果のとりまとめ	研修員、NWEC渡辺 美穂	TIC SR308	TIC
	4日	金	10:00-11:00	評価	評価会	研修員、JICA・NWEC渡辺 美穂	TIC SR306・410	TIC
			11:00-11:30	閉講式	JICA挨拶、NWEC挨拶、研修員代表挨拶、修了証書授与	研修員、JICA・NWEC渡辺 美穂		
	5日	土		帰国	帰国			

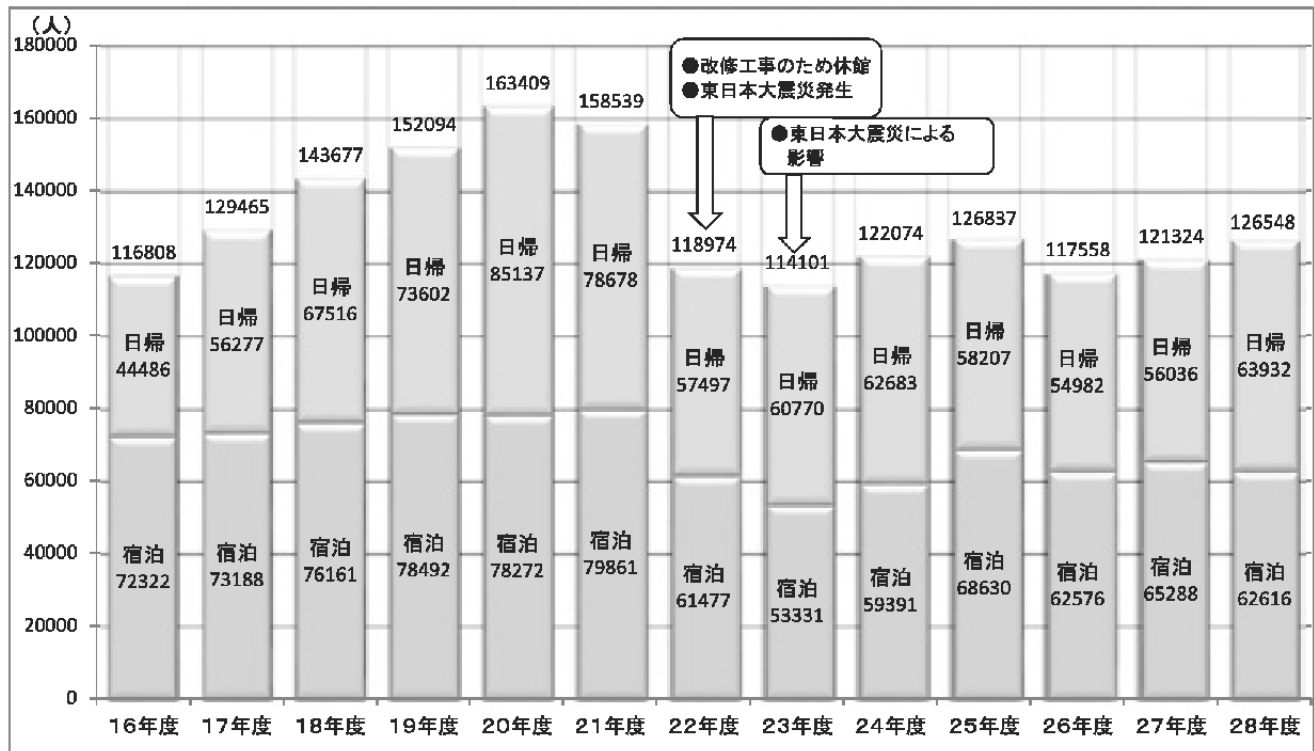
平成28年度課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」アンケート結果

アンケート回答

研修目標について

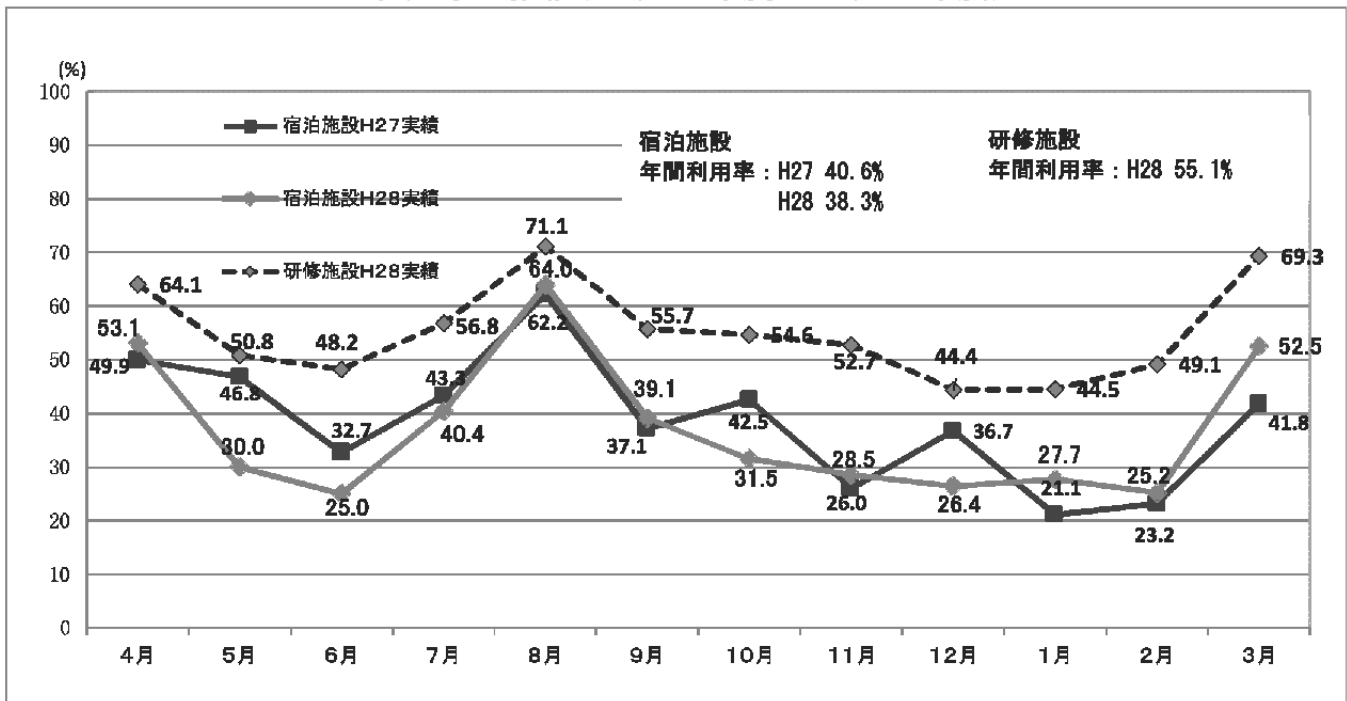
完全に達成	かなり達成	達成	未達成
6名	7名	—	—
46.2%	53.8%	—	—

国立女性教育会館 延利用者数の推移(平成16年度～平成28年度)



(注) 1 22年度11月15日～2月28日まで改修工事のため休館(前年度実績31,119人)
 2 東日本大震災によるキャンセル: 22年度7,218人、23年度14,879人

利用率の推移(平成27年度～平成28年度)



【全体施設利用率】

研修施設利用率 (55.1%) + 宿泊施設利用率 (38.3%) / 2 = 46.7% (平成28年度目標: 47%)